

2018年度

講義要綱 (Syllabus)

〈こども教育学科〉

神戸常盤大学

KOBE TOKIWA UNIVERSITY

こども教育学科

目 次

1. 基盤教育分野科目	1
2. 1年次開設科目	143
3. 2年次開設科目	183
4. 3年次開設科目	307
5. 4年次開設科目	347

索 引

【基盤教育分野】

まなぶる▶ときわびとⅠ	1	英語コミュニケーションⅡ	42	安全学	79	心理臨床学	111
まなぶる▶ときわびとⅡ	6	英語A a (Communicative English Basic)	45	人類と農学	81	人間関係論	114
大学道場 miniゼミA	10	英語A b (Communicative English Intermediate)	51	プログラミング入門	84	教育と人間	117
大学道場 miniゼミB	13	手話コミュニケーション	57	日本国憲法	87	地域との協働A	120
超ときわびと	16	いのちと共生	60	哲学	90	災害とまちづくり	123
情報基礎	20	人類と地球環境	63	生命と倫理	92	コミュニティデザイン	126
情報メディア演習	23	暮らしの中の数学	65	芸術文化論	95	ライフデザイン	129
健康スポーツ科学Ⅰ	26	統計学	67	文学	98	英語B (Presentation)	133
健康スポーツ科学Ⅱ	29	暮らしの中の物理学	69	日本通史	101	英語C (Cultural Studies)	136
健康スポーツ科学Ⅲ	33	現代社会と化学	71	世界の時事	105	地域との協働B	139
アカデミックライティング	36	人体のふしぎ	74	現代社会学	107		
英語コミュニケーションⅠ	39	現代社会と生命科学	76	経済学	109		

【1年次】

保育原理	143
教育原理	146
社会福祉	149
発達心理学Ⅰ	152
基礎研究演習Ⅰ	155
児童家庭福祉	159
保育内容総論	162
保育内容(言葉)	165
音楽Ⅰ	169
音楽Ⅱ	171
図画工作Ⅰ	173
体育Ⅰ	177
体育Ⅱ	180

【2年次】

インターンシップA	183
基礎研究演習Ⅱ	186
教職論	190
教育行政学	193
教育の思想と歴史	196
社会的養護	198
こどもの保健Ⅰ	201
こどもの保健Ⅱ	204
保育の心理学	208
発達心理学Ⅱ	211
幼児理解	214
相談援助	217
保育課程論	220
保育内容(健康)	223
保育内容(環境)	226
保育内容(人間関係)	229
保育内容(造形表現)	232
保育内容(リズム表現)	234
社会的養護内容	237
乳児保育Ⅰ	240
乳児保育Ⅱ	244
障がい児の理解と支援Ⅰ	247
障がい児の理解と支援Ⅱ	251
特別活動の指導法	255
国語	258
社会	261
算数	264
生活	267
理科	271
家庭	274
音楽Ⅲ	278
音楽Ⅳ	281
図画工作Ⅱ	284
教科指導法(生活)	287
教科指導法(音楽)	291
教科指導法(図画工作)	294
英語教育論	296
カウンセリングの技法	299
保育・教育課題研究Ⅰ	302
保育実践演習	304

【3年次】

野外あそび実践	183
海外研修	186
教育心理学	190
こどもの食と栄養Ⅰ	193
こどもの食と栄養Ⅱ	196
こどもの保健Ⅲ	198
教育相談	201
家庭支援論	204
保育相談支援	208
教育課程総論	211
保育指導法	214
教育方法・技術論	217
道德教育の理論と実践	220
音楽Ⅴ	223
教科指導法(国語)	226
教科指導法(社会)	229
教科指導法(算数)	232
教科指導法(理科)	234
教科指導法(家庭)	237
教科指導法(体育)	240
保育実習指導Ⅰ	244
保育実習Ⅰ(保育所)	247
保育実習Ⅰ(社会福祉施設)	251
教育実習指導	255
教育実習	258
玩具と文化	261
こどもの歯と健康	264
こどもの障がいと医療	267
施設運営・防災と危機管理	271
リトミックⅠ	274
教科指導法特論Ⅰ	278
保育・教育課題研究Ⅱ	281
保育・教育課題研究Ⅲ	284
卒業研究Ⅰ	287
卒業研究Ⅱ	291

【4年次】

いのちの理解	307
こころの理解	308
医療と文化	309
生涯学習論	310
国際社会の理解	311
海外研修	312
手話コミュニケーション	314
キャリアプロデュース	315
教育行政学	316
家庭支援論	317
保育相談支援	318
生徒・進路指導論	319
社会的養護内容	320
教職実践演習(幼稚園・小学校)	321
課題別実習	322
保育・教育内容研究F(ピアノ実践奏法)	323
リトミックⅡ	324
保育・教育メソッドの探究	325
現代こども教育論	326
多文化教育論	327
法と教育	328
こどもと病気	330
こどもの歯と健康	331
こどもとレジリエンス	332
児童虐待対応実践	333
医療から見た特別支援	334
卒業研究	335

科目担当者欄の*は客員教授を表す。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
まなぶる▶ときわびと I (F11000)	演習	2	60	1	前期	必修	保育選択必修	光成研一郎	7号館5階 研究室他
学ぶ+ Able → 学ぶ悦び、知る愉しさ								複数担当	
科目担当者	光成研一郎、中田康夫、永島聡、高松邦彦、近藤みづき、澤村暢、溝越祐志、三浦真希子、江口実希、紀ノ岡浩美、牛頭哲宏、國崎大恩、大城亜水、西川潤、尾崎優子、笹尾裕美、松岡真菜、中村美紀、伴仲謙欣								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、論理的思考力、批判的思考力、知欲、探究力、継続力、自己管理能力、省察力、デザイン力、表現力、実行力、責任力、貢献力、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	<p>皆さんはそれぞれ色々な目的・目標、また想いや願いをもってこの大学に入学してこられたと思います。私たち大学教職員は、その想いや願いに応え、それぞれの目的・目標が叶えられるように、あらゆる努力をしなければならないと考えています。そのためには、皆さんが卒業されるまでの数年間、私たちが皆さんも“共に学び続ける”必要があります。皆さんにはこれから本当に色々なことを学んでいただく必要があります。しかしそれは授業で教えられるたくさんの知識を頭に入れていくということだけでなく、授業外の活動(部活動、ボランティア活動、アルバイトなど)も含まれます。さまざまな人と関わっていくなかで色々なことを経験し、彩り豊かで味深い人間になって社会に出てほしいのです。</p> <p>この「まなぶる▶ときわびと」という授業科目では、そもそも「学ぶ」とはどういうことかを仲間と共に考え、実践し、入学から卒業まで毎日がキラキラとした学びの日々となるよう、また卒業後も学び続ける力強さを持ってもらえるよう、それに必要なさまざまな力を身につけてもらうことをねらいとしています。仲間を作る力、仲間と議論する力、自らを見つめ直す力、学びの習慣・環境を整える力、論理的に考える力、批判的に考える力、相手に自分の考えをうまく表現する力、独創性豊かなことを考え出す力などなど、多岐にわたる力を身につけてもらいたいと思っています。</p> <p>この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。その学習方法をTeam Based Learningといいます。これからどのような活動をしていく中においても、またどのような職業に就くとしても、他者との関わりなくして生きていくことは絶対にありえません。仲間と共に考え、実践することは、どの社会においても必須の力となります。自分だけの世界に閉じこもることなく、心を開き、楽しく仲間と学び合うことを願っています。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	グループを作ろう① 共に学ぶ仲間をつくる。	【予習】 シラバスを読んでおく。
第2回	グループを作ろう② グループのメンバーのことを知る。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第3回	チームの絆を深めよう① コンセンサスゲーム「NASA」を実施。	
第4回	チームの絆を深めよう② 「グラフィックジャム」を実施。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第5回	自分を知る 自分が大切にしているものを再認識し、語る。	
第6回	大学での学びに必要なスキルを考える ときわコンピテンシーについて。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第7回	コミュニケーション能力を高めよう① コミュニケーションについて考える。	
第8回	コミュニケーション能力を高めよう② コミュニケーションゲーム「流れ星」を実施。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第9回	プレゼンテーション能力を高めよう① プレゼンテーション能力について考える。	
第10回	プレゼンテーション能力を高めよう② 良いプレゼンテーションについて調査、分析し、グループ発表。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第11回	レポートの書き方① 資料を読み解き、自分の考えをまとめる。	

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第12回	レポートの書き方② テーマについて自分の考えをまとめる。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第13回	レポートの書き方③ 論理的な表現力を身につける。	
第14回	レポートの書き方④ 意見分を書く。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第15回	学びを振り返り、整理する 凝縮ポートフォリオの作成。	
第16回	議論する力を身につける POPOを実施。	【次回までの課題】 中間レポートをマナバ上に提出。
第17回	大学祭を活性化させるために (PBL) ① リサーチプランの作成。	
第18回	大学祭を活性化させるために (PBL) ② リサーチプランの作成。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第19回	大学祭を活性化させるために (PBL) ③ グループワーク。	
第20回	大学祭を活性化させるために (PBL) ④ グループワーク。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第21回	大学祭を活性化させるために (PBL) ⑤ 発表準備。	
第22回	大学祭を活性化させるために (PBL) ⑥ 発表準備。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第23回	大学祭を活性化させるために (PBL) ⑦ 発表。	
第24回	大学祭を活性化させるために (PBL) ⑧ 発表。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第25回	社会貢献について考える① 学生としてできることについて考える。	
第26回	社会貢献について考える② 学生としてできることについて考える。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第27回	社会貢献について考える③ 専門職業人としてできることについて考える。	
第28回	社会貢献について考える④ 専門職業人としてできることについて考える。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出。
第29回	学びを振り返り、整理する① 凝縮ポートフォリオの作成。	
第30回	学びを振り返り、整理する② プレゼントカードの作成。	

学修の到達目標

グループ活動を通して、以下に示す色々な“できる (able)”を身につけることができる。
仲間を作ることができる、仲間と議論することができる、自らを見つめ直すことができる、学びの習慣・環境を整えることができる、論理的に考えることができる、批判的に考えることができる、相手に自分の考えをうまく表現することができる、独創性豊かなことを考え出すことができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①他者と一つの課題について協力して取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
②物事の本質について自ら深く考え抜くことができる。 (探究力)	秀	課題に対して複数の案(意見)を提出し、それらの帰結を見通した上で、課題遂行のためにどの案(意見)が最も妥当であるかを論理的に説明できる。
	優	課題に対して複数の案(意見)を提出し、課題遂行のためにどの案(意見)が有効であるかを論理的に説明できる。
	良	課題に対して多角的に考えた上で一つの案(意見)を提出し、その理由を自分なりに説明することができる。
	可	課題に対して一つの案(意見)を提出することで満足している。
	不可	課題に対して他者から与えられた解答で満足している。
③他者に対して自らの考えを表現することができる。 (表現力)	秀	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる。
	良	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる。
	可	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる(学びを自らの成長と結びつけて振り返る)。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる(学びを総体的に振り返る)。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。
⑤自らの学びに適した習慣・環境を自ら整えることができる。 (自己管理能力)	秀	
	優	
	良	計画的に課題に取り組む、活動に適した環境を整える等、学習習慣と学習環境を自らの学びにあわせて整えることができる。
	可	提出物を期日までに提出し、遅刻・欠席をしない、グループ活動に積極的に取り組む等、学習習慣と学習環境の基礎を整えている。
	不可	提出物を期日までに提出しない、遅刻・欠席をする、グループ活動と関係のないことをする等、学習習慣と学習環境の基礎を整えられない。
⑥独創性豊かな解決策を提示することができる。 (デザイン力)	秀	社会的な尺度で客観的に評価できるような独創性をもった案を課題に対して提出することができる。
	優	課題に対して独創的で他では見られない案を提出することができる。
	良	課題に対して自分なりに一工夫を加えた一般的な案を提出することができる。
	可	課題に対してありふれた案を提出している。
	不可	課題に対して案を提出することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	10	20	15	30	5	100
評価項目	①他者との協働	0	0	5	5	5	5	20
	②自ら深く考え抜く	10	0	0	0	10	0	20
	③他者に対する表現	0	0	15	0	0	0	15
	④自分の学びに対する振り返り	10	0	0	0	15	0	25
	⑤学びの習慣・環境づくり	0	10	0	0	0	0	10
	⑥独創性豊かな提案	0	0	0	10	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
成果発表 (口頭・実技)	①	レポート試験を、最終に行う。	
	②		✓
	③		
	④		✓
	⑤		
	⑥		
提出物	①	次回までに取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているかを評価する。	
	②		
	③		
	④		
	⑤		✓
	⑥		
成果発表 (口頭・実技)	①	6回、10回、14回の授業で行う発表（プレゼンテーション）を評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による評価の2つがある。	
	②		✓
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
作品	①	グループで取り組む作品の作成過程（各々が与えられた役割の遂行の程度など）とその作品の出来栄を評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による評価の2つがある。	
	②		✓
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		✓
ポートフォリオ	①	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら振り返り評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。 ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。 もちろん正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していることは減点の対象となる。	
	②		✓
	③		
	④		✓
	⑤		
	⑥		
その他	①	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。 評価は、学生評価と教員による評価の2つがある。	
	②		✓
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

履修に必要な知識・技能・態度など

この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。まだ見知らぬ人と一緒に半期共に活動をしていくわけですが、特段不安に思うことなく気を楽しんで授業に臨んでほしいと思います。

ただし、学ぶことには常に一生懸命であってほしいため、こちらが提示する課題についてはすべて真剣に取り組むようにしてください。

教科書・参考書

教科書：適宜、教材・資料等は配布する。

参考書：使用しない。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
まなぶる▶ときわびとII (F11010)	演習	1	30	1	後期	必修	保育選択必修	光成研一郎	7号館5階 研究室他
学ぶ+ Able → (学ぶ喜び、知る愉しさ) <small>もっと</small>								複数担当	
科目担当者	光成研一郎、中田康夫、永島聡、高松邦彦、近藤みづき、溝越祐志、三浦真希子、藤原桜、中村由果理、國崎大恩、田村周二、大城亜水、白石奈央、伴仲謙欣								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、論理的思考力、批判的思考力、知欲、探究力、継続力、自己管理力、省察力、デザイン力、表現力、実行力、責任力、貢献力、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	<p>「まなぶる▶ときわびとI」に引き続き、「まなぶる▶ときわびとII」でも、一貫してグループで活動することを基本とし、Team Based Learningを行います。「まなぶる▶ときわびとII」では、「まなぶる▶ときわびとI」での学びを発展させて、論理的に考える力、批判的に考える力、相手に自分の考えをうまく表現する力、独創性豊かなことを考え出す力を特に重視します。</p> <p>これまでの“当たり前”を見つめ直し、これまでなかったものを新たに創り出す。こうした“クリティカル”で“クリエイティブ”な力がいまの社会には求められています。「まなぶる▶ときわびとII」では、こうした社会の要請に応えるためにも、受講者の皆さんには、新しい頭で、面白いアイデアを次々と出してもらうことを期待しています。もちろんそのすべての取り組みでは、「まなぶる▶ときわびとI」と同様、仲間と共に楽しく学び合うことを基本とします。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	グループをつくろう 共に学ぶ仲間をつくる。	【予習】 シラバスに目を通しておく
第2回	グループの絆を深めよう コンセンサスゲームを行う。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第3回	“論理的に考える”ってどういうことか考えよう① 氷山モデルを意識しながら MECE を実践する。	
第4回	“論理的に考える”ってどういうことか考えよう② ロジックツリーを用いて課題の整理、解決法の考案。発表、互いに評価。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第5回	論理的に考えて、ディベートしよう① ディベート準備。	
第6回	論理的に考えて、ディベートしよう② ディベート大会。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第7回	クリエイティブになろう① 創造力がつくゲームを実践する。	
第8回	クリエイティブになろう② 創造力がつくゲームを実践する。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第9回	クリエイティブになろう③ ブレインストーミング、オズボーンの73の質問を実践する。	
第10回	クリエイティブになろう④ JAH法を実践する。発表し、互いに評価する。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第11回	大学オモロ化 mini プロジェクト：学内アンケート調査の実施① アイデア創出のため、アンケート調査を実施する。	
第12回	大学オモロ化 mini プロジェクト：学内アンケート調査の実施② アイデア創出のため、アンケート調査を実施する。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第13回	大学オモロ化 mini プロジェクト：提案① 調査結果を踏まえ、大学を面白くするアイデアの創出。発表準備。	
第14回	大学オモロ化 mini プロジェクト：提案② 調査結果を踏まえ、大学を面白くするアイデアを創出、発表、評価。	【次回までの課題】 リフレクションをマナバ上に提出
第15回	学びを振り返り、整理する① 凝縮ポートフォリオ・プレゼントカードの作成。	

学修の到達目標

グループ活動を通して、以下に示す色々な“できる (able)”を身につけることができる。

仲間を作ることができる、仲間と議論することができる、自らを見つめ直すことができる、学びの習慣・環境を整えることができる、論理的に考えることができる、批判的に考えることができる、相手に自分の考えをうまく表現することができる、独創性豊かなことを考え出すことができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①他者と一つの課題について協力して取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
②物事の本質について自ら深く考え抜くことができる。 (探究力)	秀	課題に対して複数の案(意見)を提出し、それらの帰結を見通した上で、課題遂行のためにどの案(意見)が最も妥当であるかを論理的に説明できる。
	優	課題に対して複数の案(意見)を提出し、課題遂行のためにどの案(意見)が有効であるかを論理的に説明できる。
	良	課題に対して多角的に考えた上で一つの案(意見)を提出し、その理由を自分なりに説明することができる。
	可	課題に対して一つの案(意見)を提出することで満足している。
	不可	課題に対して他者から与えられた解答で満足している。
③他者に対して自らの考えを表現することができる。 (表現力)	秀	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる。
	良	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる。
	可	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる(学びを自らの成長と結びつけて振り返る)。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる(学びを総体的に振り返る)。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。
⑤自らの学びに適した習慣・環境を自ら整えることができる。 (自己管理力)	秀	
	優	
	良	計画的に課題に取り組む、活動に適した環境を整える等、学習習慣と学習環境を自らの学びにあわせて整えることができる。
	可	提出物を期日までに提出し、遅刻・欠席をしない、グループ活動に積極的に取り組む等、学習習慣と学習環境の基礎を整えている。
	不可	提出物を期日までに提出しない、遅刻・欠席をする、グループ活動と関係のないことをする等、学習習慣と学習環境の基礎を整えられない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
⑥独創性豊かな解決策を提示することができる。 (デザイン力)	秀	社会的な尺度で客観的に評価できるような独創性をもった案を課題に対して提出することができる。
	優	課題に対して独創的で他では見られない案を提出することができる。
	良	課題に対して自分なりに一工夫を加えた一般的な案を提出することができる。
	可	課題に対してありふれた案を提出している。
	不可	課題に対して案を提出することができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	10	20	15	30	5	100
評価項目	①他者との協働	0	0	5	5	5	5	20
	②自ら深く考え抜く	10	0	0	0	10	0	20
	③他者に対する表現	0	0	15	0	0	0	15
	④自分の学びに対する振り返り	10	0	0	0	15	0	25
	⑤学びの習慣・環境づくり	0	10	0	0	0	0	10
	⑥独創性豊かな提案	0	0	0	10	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
成果発表 (口頭・実技)	①	レポート試験を実施する。	
	②		✓
	③		
	④		✓
	⑤		
	⑥		
提出物	①	次回までに取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているかを評価する。	
	②		
	③		
	④		
	⑤		✓
	⑥		
成果発表 (口頭・実技)	①	6回、10回、14回の授業で行う発表(プレゼンテーション)を評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による評価の2つがある。	
	②		✓
	④		
	⑤		
	⑥		
	⑥		
作品	①	グループで取り組む作品の作成過程(各々が与えられた役割の遂行の程度など)とその作品の出来栄を評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による評価の2つがある。	
	②		✓
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		✓

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
ポートフォリオ	①	✓	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら振り返り評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。 ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。もちろん正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していることは減点の対象となる。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
	⑥		
その他	①	✓	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。 評価は、学生評価と教員による評価の2つがある。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

履修に必要な知識・技能・態度など

この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。まだ見知らぬ人と一緒に半期共に活動をしていくわけですが、特段不安に思うことなく気を楽しんで授業に臨んでほしいと思います。

ただし、学ぶことには常に一生懸命であってほしいため、こちらが提示する課題についてはすべて真剣に取り組むようにしてください。

教科書・参考書

教科書：適宜、教材・資料等は配布する。

参考書：使用しない。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
大学道場 mini ゼミ A (F11020)	演習	1	15	1	前期	選択	—	鈴木高史	5号館3階 研究室他
入っていきなりゼミ体験!!								複数担当	
科目担当者	鈴木高史、山崎麻由美、林伸英、枋倉匡文、澤田浩秀、新谷路子、布引治、畑吉節未、柳本有二、生島祥江、尾崎雅子、庄司靖枝、谷口由佳、岩切由紀、島内敦子、鶴飼知鶴、永島聡								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、探究力、傾聴力・対話力、省察力
授業の概要	<p>新入生の皆さんは、“学び”というものをどのように捉えていますか？「将来の目標のため」「辛い」「楽しくない」「修行」などでしょうか？しかし本来“学び”とはそのような狭い意味を指すものではなく、例えば「ゴリラって学名ではゴリラ・ゴリラって言うんだ!」という発見をしたり、「言葉を持たないアリの見事な一列を成すのはなぜなんだろう?」と疑問に思ったりと、小さなものから大きなものまで色々な気づきや発見、疑問の数々がそもそも“学び”なんだ!ということにまず気づいていただきたいのです。これから皆さんは卒業までの数年間、この大学での“学び”を通して、そのような気づきや発見、疑問に思うことを日々経験していくものと思います。</p> <p>「大学道場 mini ゼミ」というこの授業科目では、大学の先生たちが日夜研鑽を積んでいる研究活動やその他の活動の一端を学生の皆さんと共有し、そのような気づきや発見などを実際に体験してもらうことをねらいとしています。そのためこの授業科目では、「科目担当者」(上記)の数だけプログラムを用意しています。学生の皆さんは、その中から特に興味・関心をもつゼミの一つを選び、受講していただけたらと思います。</p> <p>各ゼミでは、基本的に5～25名程度の少人数制をとり、先生と学生とが互いに顔が見える近い関係の中で授業を行います。各担当の先生がゼミでどのようなことをするか、どのように授業を進めるかということについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。なおゼミの受講は、履修登録とは別に事前の希望申請を必要とします。その手続きについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」に示します。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	各ゼミ担当教員によるオリエンテーション	【予習】シラバスと大学道場 mini ゼミパンフレットに目を通す
第2回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第3回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第4回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第5回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第6回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第7回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第8回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり

学修の到達目標
狭い意味での学びとは異なる、“学び”本来の喜びや楽しさをその肌で知ることができる。日々の日常生活の中にあっても、あるいはまだ知らない分野の世界にあっても、それまで気づくことのなかった新たな気づきや発見を得ることができる。集団の中で協調性をもちながら議論をする過程で、互いに考えを深めることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①ゼミで取り組むテーマについてさらに学びたいという意欲を持つことができる。 (知欲)	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、現に主体的に学びを進めており、その学びの質が特に優れている。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、現に主体的に学びを進めている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せている。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力すら見られない。
②ゼミで取り組むテーマについて、自ら深く考えることができる。 (探究力)	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確であるだけでなく、優れており、称賛されるべきレベルにまで到達している。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確であるだけでなく、優れている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確である。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力すら見られない。
③ゼミの中で他者の話に積極的に耳を傾け、理解しようとする事ができる。 (傾聴力・対話力)	秀	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができる。
	優	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができる。
	良	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解している。
	可	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとることができる。
	不可	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢すらとれていない。
④ゼミでの学びを通じて得たことについて自らふりかえり、考えることができる。 (省察力)	秀	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができ、その考えが的確であるうえに、秀逸である。
	優	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができ、その考えが的確である。
	良	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができる。
	可	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることができる。
	不可	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	0	0	0	50	100
評価項目	①さらに学びたいという意欲	15	0	0	0	0	15	30
	②自ら深く考える	15	0	0	0	0	15	30
	③他者の話に耳を傾ける	10	0	0	0	0	10	20
	④自らふりかえり、考える	10	0	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レポート試験（課題は担当教員によって異なる）
	②	
	③	
	④	
その他	①	ゼミによって異なる（「提出物」、「成果発表」、「作品」、「ポートフォリオ」を含む）
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など
“ゼミ”がいったいどういうものなのかまったく想像もつかない方が大半かと思いますが、事前に必要な知識・技能はありません。安心してゼミに臨んでください。一つだけ求めるならば、たまたま一緒になったゼミの仲間とも互いに協力・協調しながら学んでいってほしいということです。
教科書・参考書
教科書：各ゼミ担当教員の指示による 参考書：各ゼミ担当教員の指示による

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
大学道場 mini ゼミ B (F11030)	演習	1	15	1	後期	選択	—	鈴木高史	5号館3階 研究室他
入っていきなりゼミ体験!!								複数担当	
科目担当者	鈴木高史、松元英理子、光成研一郎、岩越美恵、栗岡誠司、坊垣美也子、森松伸一、黒野利佐子、中田尚美、橋本好市、山口有美								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、探究力、傾聴力・対話力、省察力
授業の概要	<p>新入生の皆さんは、“学び”というものをどのように捉えていますか？「将来の目標のため」「辛い」「楽しくない」「修行」などでしょうか？しかし本来“学び”とはそのような狭い意味を指すものではなく、例えば「ゴリラって学名ではゴリラ・ゴリラって言うんだ!」という発見をしたり、「言葉を持たないアリが見事な一列を成すのはなぜなんだろう?」と疑問に思ったりと、小さなものから大きなものまで色々な気づきや発見、疑問の数々がそもそも“学び”なんだ!ということにまず気づいていただきたいのです。これから皆さんは卒業までの数年間、この大学での“学び”を通して、そのような気づきや発見、疑問に思うことを日々経験していくものと思います。</p> <p>「大学道場 mini ゼミ」というこの授業科目では、大学の先生たちが日夜研鑽を積んでいる研究活動やその他の活動の一端を学生の皆さんと共有し、そのような気づきや発見などを実際に体験してもらうことをねらいとしています。そのためこの授業科目では、「科目担当者」(上記)の数だけプログラムを用意しています。学生の皆さんは、その中から特に興味・関心をもつゼミの一つを選び、受講していただけたらと思います。</p> <p>各ゼミでは、基本的に5～25名程度の少人数制をとり、先生と学生とが互いに顔が見える近い関係の中で授業を行います。各担当の先生がゼミでどのようなことをするか、どのように授業を進めるかということについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。なおゼミの受講は、履修登録とは別に事前の希望申請を必要とします。その手続きについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」に示します。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	各ゼミ担当教員によるオリエンテーション	【予習】シラバスと大学道場 mini ゼミパンフレットに目を通す
第2回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第3回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第4回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第5回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第6回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第7回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり
第8回	各ゼミ担当教員の指示による(大学道場 mini ゼミパンフレット参照)	【予習】与えられた課題を行う 【復習】ゼミ活動のふりかえり

学修の到達目標
狭い意味での学びとは異なる、“学び”本来の喜びや愉しさをその肌で知ることができる。日々の日常生活の中にあっても、あるいはまだ知らない分野の世界にあっても、それまで気づくことのなかった新たな気づきや発見を得ることができる。集団の中で協調性をもちながら議論をする過程で、互いに考えを深めることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①ゼミで取り組むテーマについてさらに学びたいという意欲を持つことができる。 (知欲)	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、現に主体的に学びを進めており、その学びの質が特に優れている。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、現に主体的に学びを進めている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られるのみならず、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せている。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力が見られる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、先生が話す内容を理解しようという努力すら見られない。
②ゼミで取り組むテーマについて、自ら深く考えることができる。 (探究力)	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確であるだけでなく、優れており、称賛されるべきレベルにまで到達している。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確であるだけでなく、優れている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られ、さらにその述べる内容が的確である。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力が見られる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自らの考えを述べようとする努力すら見られない。
③ゼミの中で他者の話に積極的に耳を傾け、理解しようとする事ができる。 (傾聴力・対話力)	秀	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができる。
	優	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができる。
	良	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解している。
	可	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとることができる。
	不可	ゼミの中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢すらとれていない。
④ゼミでの学びを通じて得たことについて自らふりかえり、考えることができる。 (省察力)	秀	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができ、その考えが的確であるうえに、秀逸である。
	優	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができ、その考えが的確である。
	良	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることに加えて、その学んだことがさらにどのような意味を持っているかということについて考えることができる。
	可	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることができる。
	不可	ゼミでの取り組みを通じて、何を学んだかという事実をふりかえることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	0	0	0	50	100
評価項目	①さらに学びたいという意欲	15	0	0	0	0	15	30
	②自ら深く考える	15	0	0	0	0	15	30
	③他者の話に耳を傾ける	10	0	0	0	0	10	20
	④自らふりかえり、考える	10	0	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓
	②	✓
	③	✓
	④	✓
		レポート試験（課題は担当教員によって異なる）
その他	①	✓
	②	✓
	③	✓
	④	✓
		ゼミによって異なる（「提出物」、「成果発表」、「作品」、「ポートフォリオ」を含む）

履修に必要な知識・技能・態度など	
<p>“ゼミ”がいったいどういうものなのかまったく想像もつかない方が大半かと思いますが、事前に必要な知識・技能はありません。安心してゼミに臨んでください。一つだけ求めるならば、たまたま一緒になったゼミの仲間とも互いに協力・協調しながら学んでいってほしいということです。</p>	
教科書・参考書	
<p>教科書：各ゼミ担当教員の指示による 参考書：各ゼミ担当教員の指示による</p>	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
超ときわびと (F11040)	演習	1	30	1	後期	選択	—	中田康夫	7号館4階 研究室他
「知識基盤社会」を牽引する人財の育成								複数担当	
科目担当者	中田康夫、高松邦彦								

関連ときわ コンピテンシー	責任感、省察力、貢献力、協調性・協働力、傾聴力・対話力、デザイン力、批判的思考力、論理的思考力、自己管理能力、探究力
授業の概要	科学技術と社会の関わりが深化・複雑化している知識基盤社会において、求められる人財の素養・能力は多様である。このような社会では、必要とされる知識や技術のすべてを個人の問題に帰することはできない。高度の専門的な素養・能力を備えたうえで、異なる知識・方法論を持つ多種多様な個人が集い、それぞれの個性を存分に活かしつつ、チームとしての力を最大限発揮することが重要である。したがって本科目では、チームとしての力を最大限発揮する人財の育成を目指す。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション・ガイダンス (担当者：中田・高松)	
第2回	本年度の課題の提示 (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第3回	デザイン思考の第1段階「共感」①：対象者に寄り添い、理解する (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第4回	デザイン思考の第1段階「共感」②：対象者が本当に求めていることを見つけ出す (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第5回	デザイン思考の第2段階「課題定義」①：「共感」の段階で得られた対象者の意見や情報から、潜在的な課題やニーズを抽出する (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第6回	デザイン思考の第2段階「課題定義」②：第5回をもとに、目指すべき方向性・コンセプトを確立する (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第7回	デザイン思考の第3段階「アイデア創造」①：アイデアの「質」よりも「量」を意識してブレインストーミングを行い、チームメンバーが思いついたことをとにかくアウトプットする (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第8回	デザイン思考の第3段階「アイデア創造」②：第7回をもとに、仮説を立て、課題達成のための新たな方法となるアイデアを生み出す (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第9回	デザイン思考の第4段階「試作（プロトタイプ化）」①：「アイデア創造」の段階で出たアイデアで、チームの支持を集めたものをいくつか試作段階へと進める (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第10回	デザイン思考の第4段階「試作（プロトタイプ化）」②：様々な可能性を試し、経費や時間を節約することを念頭に試作する (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第11回	デザイン思考の第5段階「テスト」①：「試作」段階で作成したプロトタイプについて、peerに協力してもらい検証する (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第12回	第11回の検証結果を十全にリフレクトし、プロトタイプの改善を図る (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第13回	第14回のグループプレゼンテーションに向けた準備 (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第14回	グループプレゼンテーション (担当者：中田・高松)	進捗状況をリフレクトし、期限内に課題達成ができるように協働して取り組む
第15回	まとめ (担当：中田・高松)	

学修の到達目標

- ・デザイン思考の基礎を修得する。
- ・チーム力を強化する方法の基礎を修得する。
- ・デザイン思考をもとにチーム力を発揮して、課題の解決ができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①社会の一員としての責任をもって物事に臨むことができる。 (責任感)	秀	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹づもりで物事に臨んでおり、他者からもそのように評価されている。
	優	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹づもりで物事に臨んでいる。
	良	報告・連絡・相談を能動的に行うことができる。
	可	言われれば、報告・連絡・相談ができる。
	不可	報告・連絡・相談ができない、あるいは責任感が全くない。
②自己の思考や行動をリフレクト(省察)することができる。 (省察力)	秀	自己の課題が具体的に明示され、なおかつ実効性を伴った次への行動指針がみられる。
	優	自己の課題と次への行動指針がみられる。
	良	自己の課題はみられるが、次への行動指針が具体的かつ明瞭ではない。
	可	自己の課題はみられるが、抽象レベルに留まっている。
	不可	自己の課題と次への行動指針が明確にされていない。
③誰かの役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができる。 (貢献力)	秀	他者の立場に立った利他的な行動ができ、他者からもそのように評価されている。
	優	他者の立場に立った利他的な行動ができる。
	良	他者の立場に立った行動をしようとしている。
	可	誰かの役に立ちたいという思いはあるが、それが行動には十分に反映されていない。
	不可	他者の立場に立った行動ができない。
④他者と1つの課題について協力して取り組むことができる。 (協調性・協働性)	秀	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができ、他者から評価されている。
	優	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができる。
	良	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができる。
	可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができる。
	不可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができない。
⑤度創性豊かな解決策を提示することができる。 (デザイン力)	秀	正解のない課題に対して、独創性豊かで他では見られない興味深い解決策を提示することができ、他者からもそのように評価されている。
	優	正解のない課題に対して、独創性豊かで他では見られない興味深い解決策を提示することができる。
	良	正解のない課題に対して、興味深い解決策を提示することができる。
	可	正解のない課題に対して、一応まとまった解決策を提示することができる。
	不可	正解のない課題に対して、一応まとまった解決策を提示することができない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
⑥グループ活動の中で他者の話に積極的に耳を傾け、理解しようとすることができる。 (傾聴力・対話力)	秀	グループ活動の中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができ、その質問や意見が秀逸である。
	優	グループ活動の中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解し、さらにその話に対して質問や意見を返すなど、建設的議論に参加することができる。
	良	グループ活動の中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとっており、現にその内容を正しく理解している。
	可	グループ活動の中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとることができている。
	不可	グループ活動の中で他者（先生や他の学生）の話を真摯に聞こうとする姿勢をとることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	0	45	0	0	15	100
評価項目	①責任をもって物事に臨む	0	0	10	0	0	0	10
	②リフレクトする力	40	0	0	0	0	0	40
	③誰かの役に立つことへの喜び	0	0	5	0	0	5	10
	④他者との協働	0	0	15	0	0	5	20
	⑤独創性豊かな提案	0	0	15	0	0	0	15
	⑥他者の話に耳を傾ける	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	最終レポートにて評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
成果発表 (口頭・実技)	①	課題に対する企画提案内容を評価対象とする。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
その他	①	各学修活動に取り組む姿勢・態度
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	

履修に必要な知識・技能・態度など
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的、能動的。主体的に学習しようとする意欲の高い人の履修を希求する。 ・学修効果の観点から、履修上限人数は30人程度とする。希望者多数の場合は抽選とする。
教科書・参考書
<p>教科書：なし</p> <p>参考書：適宜紹介する</p>

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
情報基礎 (F12000)	演習	1	30	1	前期	選択	保育選択必修 幼教免必修 小教免必修	大城亜水	7号館4階 研究室
情報化社会を生きる道しるべ								単独担当	
科目担当者	大城亜水								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、情報力、知欲、表現力、協調性・協働力
授業の概要	この授業は、大学生活や就職活動において必要となるコンピューターやインターネットスキル習得のために、Windows や Microsoft Office のアプリケーションの基本的な操作方法を学習します。具体的には、インターネットの活用や Word での文章作成、PowerPoint を使ったプレゼンテーションなどを行います。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス Windows の基本操作	【予習】 シラバスに目を通す
第2回	インターネット・情報検索 サーチエンジンやインターネット種々の Web サイトから必要な情報を収集・分析	【復習】 各自で Windows の基本操作や情報検索がマスターできるようにしておく
第3回	Word の基本操作：「チラシの作成」① Word の様々な機能を使ってチラシを作成、相互評価。	【復習】 チラシを各自で作成
第4回	Word の基本操作：「ポスターの作成」② Word の様々な機能を使ってポスターを作成、相互評価。	【復習】 ポスターを各自で作成
第5回	Word の基本操作：「自由課題」③ Word の様々な機能を使って各自で選んだ課題を作成、相互評価。	【復習】 自由課題を各自で作成
第6回	Word の基本操作：「レポート」④ レポートに必要な Word 機能の情報収集・整理・分析	【復習】 ミニレポートを各自で作成
第7回	PowerPoint でプレゼンテーション：「商品紹介」① グループで商品紹介の題材を選び、情報の収集・整理・分析を行う。	【復習】 報告書を各グループで作成
第8回	PowerPoint でプレゼンテーション：「商品紹介」② グループで報告資料の作成。	【復習】 報告資料を各グループで作成
第9回	PowerPoint でプレゼンテーション：「商品紹介」③ 商品紹介の発表、相互評価。	【復習】 振り返り票を各自で作成
第10回	PowerPoint でプレゼンテーション：「商品紹介」④ 商品紹介の発表、相互評価。	【復習】 振り返り票を各自で作成
第11回	PowerPoint でプレゼンテーション：「セキュリティと情報モラル」① 「セキュリティと情報モラル」をテーマにグループで情報の収集・整理・分析。	【復習】 報告書を各グループで作成
第12回	PowerPoint でプレゼンテーション：「セキュリティと情報モラル」② 「セキュリティと情報モラル」をテーマにグループで報告資料を作成。	【復習】 報告資料を各グループで作成
第13回	PowerPoint でプレゼンテーション：「セキュリティと情報モラル」③ 「セキュリティと情報モラル」をテーマに発表、相互評価。	【復習】 振り返り票を各自で作成
第14回	PowerPoint でプレゼンテーション：「セキュリティと情報モラル」④ 「セキュリティと情報モラル」をテーマに発表、相互評価。	【復習】 振り返り票を各自で作成
第15回	まとめ—学修の振り返りと共有	

学修の到達目標

以下の3点を到達目標とします。

- ① Windowsの基本操作がマスターできていること。
- ② Wordの基本操作を習得した上で、様々な文章が作成できること。
- ③ PowerPointの基本操作を習得した上で、プレゼンテーションの基礎的技術をマスターしていること。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①情報に関して知っておくべき知識・振る舞いを身につけている。 (常識力)	秀	授業で学んだ情報技術を活用するだけでなく、情報モラルを理解したうえで、さらに情報の正確性が判断できる。
	優	授業で学んだ情報技術を活用するだけでなく、情報モラルを理解したうえで活用できる。
	良	授業で学んだ情報技術を活用できる。
	可	授業で学んだ情報技術を活用しようとする努力の姿勢がみられる。
	不可	授業で学んだ情報技術を活用しようとする努力の姿勢がみられない。
②情報を収集・整理・分析し、活用することができる。 (情報力)	秀	情報の収集・整理・分析ができるだけでなく、自ら考えて活用し、他者にその活用法を伝えることができる。
	優	情報の収集・整理・分析ができるだけでなく、自ら考えて活用することができる。
	良	情報の収集・整理・分析ができる。
	可	情報の収集・整理・分析を行う努力の姿勢がみられる。
	不可	情報の収集・整理・分析を行う努力の姿勢がみられない。
③情報を学ぶこと・知ることの楽しさと悦びを覚えることができる。 (知欲)	秀	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや悦びを見出すだけでなく、授業外の情報技術にも目を向けて知識を吸収し、かつ他者へその知識を還元することができる。
	優	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや悦びを見出すだけでなく、授業外の情報技術にも目を向けて知識を吸収することができる。
	良	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや悦びを見出すことができる。
	可	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや悦びを見出そうとする努力の姿勢がみられる。
	不可	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや悦びを見出そうとする努力の姿勢がみられない。
④作品を通して、自分の思いや考えを表現し、他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現することに様々な工夫がみられるだけでなく、他者にその思いや考えを正確に伝えることができる。
	優	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現することに様々な工夫がみられる。
	良	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現することができる。
	可	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現する努力の姿勢がみられる。
	不可	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現する努力の姿勢がみられない。
⑤作品の作成過程で、協働して取り組むことができる。 (協調性・協働性)	秀	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たしており、さらにその役割を超えて主体的に取り組んでいる姿をみることができ、他者からもそのように評価されている。
	優	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たしており、さらにその役割を超えて主体的に取り組んでいる姿をみることができる。
	良	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たしていることが認められる。
	可	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たそうとする努力の姿勢がみられる。
	不可	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たそうとする努力の姿勢がみられない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		15	20	20	40	0	5	100
評価項目	①常識力	5	5	0	0	0	0	10
	②情報力	0	15	0	25	0	0	40
	③知欲	0	0	0	0	0	5	5
	④表現力	10	0	10	0	0	0	20
	⑤協調性・協働性	0	0	10	15	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	15回の学修を踏まえ、レポート課題の提出を課す(15点)。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	第3回～第6回のチラシ、ポスター、自由課題、ミニレポート(10点)、第9・10回の振り返り票(5点)、第13・14回の振り返り票(5点)のそれぞれについて評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	第9・10回に行うプレゼンテーション(10点)、第13・14回に行うプレゼンテーション(10点)のそれぞれについて行う。 なお、評価については、教員が行うものと学生が行うものがある。具体的には、教員は各グループが作成した報告書や報告資料を踏まえた総合的な評価を行い、学生は各グループの成果発表について相互に評価を行う。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
作品	①	第3回～第5回のチラシ、ポスター、自由課題(10点)、第6回のミニレポート(5点)、第7回～第10回で作成した作品(10点)、第11回～第14回で作成した作品(15点)のそれぞれについて評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
その他	①	知欲については15回の学修を踏まえ、総合的に判断する(5点)。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など

USBメモリを必ず持参してください(演習で作成したファイルを保管するため)。
演習を中心とする授業なので、できる限り欠席が無いように心がけてください(欠席の場合は、自己責任でフォローしておくこと)。

教科書・参考書

教科書：『学生のためのOffice2016 &情報モラル』nao出版

参考書：使用しません。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科 目 責 任 者 名	研究室
サブタイトル								担 当 形 態	
情報メディア演習 (F12010)	演 習	1	30	1	後 期	選 択	保 育 選 択 必 修 幼 教 免 必 修 小 教 免 必 修	大 城 亜 水	7 号 館 4 階 研 究 室
高度情報化社会への招待								単 独 担 当	
科目担当者	大城亜水								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、情報力、知欲、表現力、協調性・協働力
授業の概要	この授業は「情報基礎」に引き続き、大学生活や就職活動において必要となるコンピューターやインターネットスキル習得のために、Windows や Microsoft Office のアプリケーションの基本的な操作方法を学習します。具体的には、「情報基礎」で習得した知識をさらに発展させる形で、プレゼンスキル向上のための「図解思考力」や Excel の操作方法について取り上げます。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス：「情報基礎」のおさらい	【予習】 シラバスに目を通す
第2回	図で考え表現する：図の考え方・見せ方・語り方 「桃太郎のあらすじ」を図で考え、Microsoft Office のアプリケーションで表現。	【予習】 次回までに各自で自己紹介の文章を考えておく
第3回	図解思考力を使ったプレゼンテーション：自己紹介 自己紹介を図で考えた報告資料を作成し PowerPoint で発表、相互評価を行う。	【復習】 振り返り票の作成
第4回	図解思考力を使ったプレゼンテーション：SNS のサービス比較① グループで代表的な SNS (LINE, Facebook, Twitter, Instagram) の立ち位置を比較・分析する。	【復習】 報告書を各グループで作成
第5回	図解思考力を使ったプレゼンテーション：SNS のサービス比較② グループで PowerPoint を活用し、報告資料の作成。	【復習】 報告資料を各グループで作成
第6回	図解思考力を使ったプレゼンテーション：SNS のサービス比較③ グループで PowerPoint によるプレゼン発表、相互評価を行う。	【復習】 振り返り票の作成
第7回	図解思考力を使ったプレゼンテーション：未来予想図① グループで「アマゾンの次なる一手を予想」する。	【復習】 報告書を各グループで作成
第8回	図解思考力を使ったプレゼンテーション：未来予想図② グループで PowerPoint を活用し、報告資料の作成。	【復習】 報告資料を各グループで作成
第9回	図解思考力を使ったプレゼンテーション：未来予想図③ グループで PowerPoint によるプレゼン発表、相互評価を行う。	【復習】 振り返り票の作成
第10回	Excel の基本操作 表の作成、見出しの入力、数値データの入力、計算式の設定など。	【復習】 各自で Excel の基本操作がマスターできるようにしておく
第11回	Excel でアンケート① アンケート調査表の作成。	【復習】 アンケート調査表を各グループで作成
第12回	Excel でアンケート② アンケート調査の実施。数値データの入力・分析。	【復習】 データ入力・分析を各グループで行う
第13回	Excel でアンケート③ アンケート調査の分析結果をもとに、報告資料の作成。	【復習】 報告資料を各グループで作成
第14回	Excel でアンケート④ アンケート調査の分析結果をプレゼンテーション、相互評価。	【復習】 振り返り票の作成
第15回	まとめ—学修の振り返りと共有	【復習】 学習内容を振り返っておく

学修の到達目標

以下の3点を到達目標とします。

- ①自分の思いや考えを文章にするだけでなく、図で表現することができ、他者に伝えることができる。
- ②PowerPointを用いて、効果的なプレゼンテーションコンテンツが作成できる。
- ③Excelの基本操作がマスターできている。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①情報に関して知っておくべき知識・振る舞いを身につけている。 (常識力)	秀	授業で学んだ情報技術を活用するだけでなく、情報モラルを理解したうえで、さらに情報の正確性が判断できる。
	優	授業で学んだ情報技術を活用するだけでなく、情報モラルを理解したうえで活用できる。
	良	授業で学んだ情報技術を活用できる。
	可	授業で学んだ情報技術を活用しようとする努力の姿勢がみられる。
	不可	授業で学んだ情報技術を活用しようとする努力の姿勢がみられない。
②情報を収集・整理・分析し、活用することができる。 (情報力)	秀	情報の収集・整理・分析ができるだけでなく、自ら考えて活用し、他者にその活用法を伝えることができる。
	優	情報の収集・整理・分析ができるだけでなく、自ら考えて活用することができる。
	良	情報の収集・整理・分析ができる。
	可	情報の収集・整理・分析を行う努力の姿勢がみられる。
	不可	情報の収集・整理・分析を行う努力の姿勢がみられない。
③情報を学ぶこと・知ることの楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや喜びを見出すだけでなく、授業外の情報技術にも目を向けて知識を吸収し、かつ他者へその知識を還元することができる。
	優	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや喜びを見出すだけでなく、授業外の情報技術にも目を向けて知識を吸収することができる。
	良	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや喜びを見出すことができる。
	可	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや喜びを見出そうとする努力の姿勢がみられる。
	不可	授業で扱う情報技術を学ぶことや知ることの楽しさや喜びを見出そうとする努力の姿勢がみられない。
④作品を通して、自分の思いや考えを表現し、他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現することに様々な工夫がみられるだけでなく、他者にその思いや考えを正確に伝えることができる。
	優	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現することに様々な工夫がみられる。
	良	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現することができる。
	可	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現する努力の姿勢がみられる。
	不可	授業で学んだ情報技術を活用して作品を完成させ、自分の思いや考えを表現する努力の姿勢がみられない。
⑤作品の作成過程で、協働して取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たしており、さらにその役割を超えて主体的に取り組んでいる姿をみることができ、他者からもそのように評価されている。
	優	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たしており、さらにその役割を超えて主体的に取り組んでいる姿をみることができる。
	良	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たしていることが認められる。
	可	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たそうとする努力の姿勢がみられる。
	不可	作品の作成過程で、自らに与えられた役割を十分に果たそうとする努力の姿勢がみられない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	10	20	45	0	5	100
評価項目	①常識力	5	0	0	0	0	0	5
	②情報力	0	10	0	30	0	0	40
	③知欲	0	0	0	0	0	5	5
	④表現力	15	0	10	0	0	0	25
	⑤協調性・協働性	0	0	10	15	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	15回の学修を踏まえ、レポート課題の提出を課す(20点)。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	第3・6・9・14回の振り返り票(10点)のそれぞれについて評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	第3・6・9・14回に行うプレゼンテーション(20点)のそれぞれについて行う。 なお、評価については、教員が行うものと学生が行うものがある。具体的には、教員は各グループが作成した報告書、プレゼン資料を踏まえた総合的な評価を行い、学生は各グループの成果発表について相互に評価を行う。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
作品	①	第3回で作成した作品(10点)、第4回～第6回で作成した作品(10点)、第7回～第9回で作成した作品(10点)、第11回～第14回で作成した作品(15点)のそれぞれについて評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
その他	①	知欲については15回の学修を踏まえ、総合的に判断する(5点)。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など

USBメモリを必ず持参してください(演習で作成したファイルを保管するため)。
演習を中心とする授業なので、できる限り欠席が無いように心がけてください(欠席の場合は、自己責任でフォローしておくこと)。

教科書・参考書

教科書：『学生のためのOffice2016 & 情報モラル』nao出版(情報基礎：F12003と同じ)

参考書：適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
健康スポーツ科学 I (F12020)	講義	1	15	1	前期	必修	保育選択必修 幼教免必修 小教免必修	近藤みづき	7号館2階 研究室他
健康について考える								複数担当	
科目担当者	近藤みづき、柳本有二、吉田幸恵、岩越美恵、足立了平、中村晶子								

関連ときわ コンピテンシー	教養、実行力、表現力、省察力、協調性・協働力
授業の概要	この講義の目標は、健康について幅広い分野から考究するものです。普段当たり前にある健康を医学、生理学、保健学、口腔保健学、栄養学、体育学等の分野から解き明かしていきます。各自のライフ・スタイルを見直し、変革のきっかけになることを期待します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション (担当者：近藤)	【予習】 シラバスを読む 【復習】 ふりかえり票の作成
第2回	運動とからだの変化について (担当者：柳本)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえり票の作成
第3回	睡眠のメカニズムについて (担当者：岩越)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえり票の作成
第4回	口の健康について (担当者：足立)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえり票の作成
第5回	ヘルスプロモーションについて (担当者：中村)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえり票の作成
第6回	栄養について (担当者：吉田)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえり票の作成
第7回	ウェルネスについて (担当者：柳本)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえり票の作成
第8回	まとめ (担当者：近藤)	【復習】 ふりかえり票の作成

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する基本的な知識を修得できる。 健康に関する知識を自分の生活に引き付けて考えることができる。 自らの健康を維持増進するよう日々の行動に移すことができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①健康に関する基本的な知識を修得することができる (教養)	秀	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準を超えて、周囲の知識と併せて理解を深め、健康について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで超えて、周囲の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで修得しておらず、努力の過程も認められない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②健康を自らの生活に即して考えることができる。 (実行力)	秀	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、自身の健康の増進のために行動でき、他者にも良い影響を及ぼすことができる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、自身の健康の増進のために行動できる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、若干であるが自身の健康の増進のために行動できる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができない。
③健康に関する事象について他者に説明することができる。 (表現力)	秀	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現することができ、他者が興味深く聞けるようにその表現方法の工夫が十分にできる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現することができ、他者が興味深く聞けるようにその表現方法の工夫が認められる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現することができる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現しようとする努力が認められる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識を正確に表現しようとする努力が認められない。
④健康に関する学習を自ら振り返ることができる。 (省察力)	秀	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができ、さらに自らの考えを反省的に述べるすることができる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができ、さらに自らの考えを反省的に述べようとする努力が認められる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準を超えてまとめることができる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができていない。
⑤仲間と協調・協働して動くことができる。 (協調性・協働力)	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がり、結果としてチームを課題達成に導くことができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働できる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば協調・協働に作業することが認められる。
	不可	周囲と協調・協働する意志が認められない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	35	25	0	0	0	100
評価項目	①基本的知識の修得	20	0	5	0	0	0	25
	②論理的思考力	20	0	0	0	0	0	20
	③他者への説明	0	15	10	0	0	0	25
	④学修の振り返り	0	20	0	0	0	0	20
	⑤仲間との協調、協働	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施する。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
提出物	①		毎回のふりかえりシート
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	グループワーク等
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

毎回担当者が変わるので、履修者は全ての回に出席することが望ましい。

教科書・参考書

教科書：使用しません

参考書：担当教員より適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
健康スポーツ科学Ⅱ (F12030)	演習	1	15	1	前期	選択	—	柳本有二	7号館4階 研究室他
スポーツで生き抜くからだになろう								複数担当	
科目担当者	柳本有二、柳敏晴*								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、自己管理能力
授業の概要	生涯に亘り健康を保持増進し、クオリティ・オブ・ライフを追求するためには、健康に関する知識の修得だけでなく、身体活動を実践し継続する力が求められる。「健康スポーツ科学Ⅰ」と結びつけた知識と共に、各自の体力を把握し、身体活動を実施することで起こるからだの変化を理解する。自主的に健康管理を行い、積極的に身体活動を継続して行う実践能力や、チームで行う活動を通し、協力や協働の意義と楽しさを知る。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	・1回オリエンテーション(合同)体力測定	【復習】授業の実施内容を把握しておく
第2回	・球技の基本練習(サッカー型) (担当者:柳) ・ニュースポーツの理解, 実技:ユニホック (担当者:柳本)	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第3回	・球技の応用練習(サッカー型) (担当者:柳) ・実技:インディアカ (担当者:柳本)	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第4回	・サッカー型試合 (担当者:柳) ・実技:ゴールボール、アルティメット (担当者:柳本)	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第5回	・球技の基本練習(野球型) (担当者:柳) ・実技:ノルディック・ウォーク (担当者:柳本)	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第6回	・球技の応用練習(野球型) (担当者:柳) ・実技:ブラインドサッカー、フットサル (担当者:柳本)	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第7回	・ソフトボール試合1 (担当者:柳) ・ブローライフル、ノルディックラン (担当者:柳本)	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る
第8回	・ソフトボール試合2 (担当者:柳) ・実技:ウエルネスダーツ(脳波測定), これまでのまとめ (担当者:柳本)	【予習】適切な体調管理をしておく 【復習】実施した種目などの歴史を知る

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・各スポーツ種目の身体活動量や運動強度などを把握する。 ・屋外スポーツの総合的な応用技術を習得する。 ・ニュースポーツの特性を理解する。 ・障がい者のスポーツを学ぶ。

ループリック		
評価項目	評点	評価基準
①自己管理能力 自ら、心身の健康を適切に管理することができる。 (自己管理能力)	秀	身体と心が健全で、欠席もなく、意欲的で積極的な姿勢が認められる。
	優	身体と心が健全で、積極的な姿勢が認められる。
	良	身体と心が健全で、意欲を持つための姿勢が認められる。
	可	身体と心が健全になるように努めることができる。
	不可	自己の身体と心の管理ができていない。
②探究力 物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとすることができる。 (探究力)	秀	意欲的で積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを完成できる。
	優	積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	良	意欲的に授業に参加し、授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	可	意欲的に授業に参加し、課題レポートを書くことができる。
	不可	探究力のある授業参加および授業ノートや課題レポートを書くことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	25	25	0	50	0	100
評価項目	①自己管理能力	0	0	25	0	25	0	50
	②探究力	0	25	0	0	25	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
提出物	①	実技レポートとして、本授業で学んだ運動生理学的な実践および実技に関するルールや歴史などをまとめる。あるいは、それらに関連した健康情報などをまとめる。評価においては、自分の意見や主張表現の有無が関係する。さらに、障がい者のスポーツ活動の在り方について把握しておくことが評価につながる。
	②	
成果発表 (口頭・実技)	①	授業内の実技において、基本的な技術について、達成度を評価する。
	②	
ポートフォリオ	①	毎授業で書く授業感想ノートに、当時の身体と心の環境（歩数計による運動量など）や当該授業種目の経験からの感想などをまとめる（例：障がい者の気持ちなどの理解）。
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など
・出席は、重視する。また、授業に適した服装をする。集合などでは、積極的に行動する。
教科書・参考書
教科書：使用しない 参考書：基礎から学ぶスポーツリテラシー

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態
健康スポーツ科学Ⅱ (F12030)	演習	1	15	1	前期	選択	—	柳本有二	7号館4階 研究室他
身体が心がうれしくなる授業を目指して!									
科目担当者	柳本有二、小野昌二								

関連ときわ コンピテンシー	自己管理能力、探究力
授業の概要	健康スポーツ科学Ⅰでは、身体と心のトータルヘルスの視点から、運動・スポーツに関連する応用理論を学習した。Ⅱでは、それぞれのスポーツ種目での活動量を歩数計で、運動強度を心拍数などで測定することにより、運動中の生理的反応を学習する。さらに、脳機能活性度を知るための脳波測定を行う。また障害者のスポーツ実践をとおして、その基礎的技能や活動の意義を理解する。体力や健康の保持増進ができる能力をより身につけるとともに、日常生活にスポーツ活動が習慣化するための態度を育成する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	1回オリエンテーション(合同) 体力測定 (担当者:柳本・小野)	【復習】 授業の実施内容を把握しておく
第2回	球技の基本練習(サッカー型) (担当者:小野) ニュースポーツの理解。実技:ユニホック (担当者:柳本)	【予習】 適切な体調管理をしておく 【復習】 実施した種目などの歴史を知る
第3回	球技の応用練習(サッカー型) (担当者:小野) 実技:インディアカ (担当者:柳本)	【予習】 適切な体調管理をしておく 【復習】 実施した種目などの歴史を知る
第4回	サッカー型試合 (担当者:小野) 実技:ゴールボール、アルティメット (担当者:柳本)	【予習】 適切な体調管理をしておく 【復習】 実施した種目などの歴史を知る
第5回	球技の基本練習(野球型) (担当者:小野) 実技:ノルディック・ウォーク (担当者:柳本)	【予習】 適切な体調管理をしておく 【復習】 実施した種目などの歴史を知る
第6回	球技の応用練習(野球型) (担当者:小野) 実技:ブラインドサッカー、フットサル (担当者:柳本)	【予習】 適切な体調管理をしておく 【復習】 実施した種目などの歴史を知る
第7回	ソフトボール試合1 (担当者:小野) ブローライフル、ノルディックラン (担当者:柳本)	【予習】 適切な体調管理をしておく 【復習】 実施した種目などの歴史を知る
第8回	ソフトボール試合2 (担当者:小野) 実技:ウエルネスダーツ(脳波測定)。(担当者:柳本) これまでのまとめ	【予習】 適切な体調管理をしておく 【復習】 実施した種目などの歴史を知る

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 各スポーツ種目の身体活動量や運動強度などを把握する。 屋外スポーツの総合的な応用技術を習得する。 ニュースポーツの特性を理解する。 障がい者のスポーツを学ぶ。

ループリック		
評価項目	評点	評価基準
①自己管理能力 自ら、心身の健康を適切に管理することができる。 (自己管理能力)	秀	身体と心が健全で、欠席もなく、意欲的で積極的な姿勢が認められる。
	優	身体と心が健全で、積極的な姿勢が認められる。
	良	身体と心が健全で、意欲を持つための姿勢が認められる。
	可	身体と心が健全になるように努めることができる。
	不可	自己の身体と心の管理ができていない。
②探究力 物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする事ができる。 (探究力)	秀	意欲的で積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを完成できる。
	優	積極的な探究心で、授業に参加し、さらに授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	良	意欲的に授業に参加し、授業ノートや課題レポートを書くことができる。
	可	意欲的に授業に参加し、課題レポートを書くことができる。
	不可	探究力のある授業参加および授業ノートや課題レポートを書くことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	25	25	0	50	0	100
評価項目	①自己管理能力	0	0	25	0	25	0	50
	②探究力	0	25	0	0	25	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
提出物	①	実技レポートとして、本授業で学んだ運動生理学的な実践および実技に関するルールや歴史などをまとめる。あるいは、それらに関連した健康情報などをまとめる。評価においては、自分の意見や主張表現の有無が関係する。さらに、障がい者のスポーツ活動の在り方について把握しておくことが評価につながる。
	②	
成果発表 (口頭・実技)	①	授業内の実技において、基本的な技術について、達成度を評価する。
	②	
ポートフォリオ	①	毎授業で書く授業感想ノートに、当時の身体と心の環境（歩数計による運動量など）や当該授業種目の経験からの感想などをまとめる（例：障がい者の気持ちなどの理解）。
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など
・出席は、重視する。また、授業に適した服装をする。集合などでは、積極的に行動する。
教科書・参考書
教科書：使用しない 参考書：基礎から学ぶスポーツリテラシー

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
健康スポーツ科学Ⅲ (F12040)	実技	1	30	1	後期	選択	保育必修 幼教免必修 小教免必修	近藤みづき	7号館2階 研究室他
身体を動かす楽しさを体感する							複数担当		
科目担当者	近藤みづき、柳本有二								

関連ときわ コンピテンシー	表現力、教養、協調性・協働性、自己管理能力、責任感
授業の概要	健康の保持増進に運動が不可欠であるにもかかわらず、利便性の進んだ現代社会において、私たちは慢性的な運動不足に陥りがちである。授業では、実際に身体を動かすことで運動、スポーツの楽しさや爽快感を体感する。また、運動・スポーツの実践を通し、コミュニケーション能力を高めるとともに、基本的な技能や知識を修得し、ルール・マナーを尊重する態度を育成する。また、新しい動きかたを修得する過程を通じて、生涯にわたって主体的に運動・スポーツに取り組むことの重要性を理解する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーションとグループ分け (担当者：近藤・柳本)	【予習】 シラバスを読む 【復習】 体調管理をする
第2回	第1グループ：テニス①ラケットティング (担当者：近藤) 第2グループ：バドミントン①基本技能・ニュースポーツ (担当者：柳本)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第3回	第1グループ：テニス②基本のストローク (担当者：近藤) 第2グループ：バドミントン②ゲーム (担当者：柳本)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第4回	第1グループ：テニス③クロスラリー (担当者：近藤) 第2グループ：バスケットボール①基本技能、ニュースポーツ (担当者：柳本)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第5回	第1グループ：テニス④サービスレシーブ (担当者：近藤) 第2グループ：バスケットボール②ゲーム (担当者：柳本)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第6回	第1グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方 (担当者：近藤) 第2グループ：フットサル①基本技能、ニュースポーツ (担当者：柳本)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第7回	第1グループ：テニス⑥戦術を含んだダブルスゲーム (担当者：近藤) 第2グループ：フットサル②ゲーム (担当者：柳本)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第8回	第1グループ：テニス⑦ダブルスゲーム (担当者：近藤) 第2グループ：全競技の復習とまとめ (担当者：柳本)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第9回	第1グループ：バドミントン①基本技能、ニュースポーツ (担当者：柳本) 第2グループ：テニス①ラケットティング (担当者：近藤)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第10回	第1グループ：バドミントン②ゲーム (担当者：柳本) 第2グループ：テニス②基本のストローク (担当者：近藤)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第11回	第1グループ：バスケットボール①基本技能、ニュースポーツ (担当者：柳本) 第2グループ：テニス③クロスラリー (担当者：近藤)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第12回	第1グループ：バスケットボール②リーグ戦 (担当者：柳本) 第2グループ：テニス④サービスレシーブ (担当者：近藤)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第13回	第1グループ：フットサル①基本技能、ニュースポーツ (担当者：柳本) 第2グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方 (担当者：近藤)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第14回	第1グループ：フットサル②ゲーム (担当者：柳本) 第2グループ：テニス⑥戦術を含んだダブルスゲーム (担当者：近藤)	【予習】 体調管理をする 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第15回	第1グループ：全競技の復習とまとめ (担当者：柳本) 第2グループ：テニス⑦ダブルスゲーム (担当者：近藤)	【復習】 ふりかえりシート作成・提出

学修の到達目標

履修者は、各種運動・スポーツの基本的な技能や知識(特性、ルール、マナー等)の修得を通じて運動・スポーツを楽しむことができる。履修者は、各種の運動・スポーツを通じて他者とコミュニケーションをとり、協力し課題を達成することができる。履修者は、健康の保持増進に対して自己の心身や生活態度などを管理し、運動・スポーツに主体的に取り組むことができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①各種スポーツを楽しむための基本的な技能を身につけることができる。 (表現力)	秀	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、何ら心身の束縛も障害もなく、状況に応じて自分の身体を自在に動かすことができる。
	優	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、状況に応じて自分の身体を動かすことができる。
	良	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
②各種スポーツの基本的な知識を修得することができる。 (教養)	秀	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していて、行動に移すことができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していて、さらに行動に移すことができる。
	良	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
③仲間と協調・協働して動くことができる。 (協調性・協働力)	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がり、結果としてチームを課題達成に導くことができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働できる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば協調・協働に作業することが認められる。
	不可	周囲と協調・協働する意志が認められない。
④健康の保持増進に向けて、自分の心身を適切に管理することができる。 (自己管理能力)	秀	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。さらに、その自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	良	健康の保持増進に向けて、ある程度自発的に心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	可	健康の保持増進に向けて、他者の助言や指導のもと、心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	不可	健康の保持増進に向けて、心身や生活態度などの自己管理ができていない。
⑤授業に対する積極性 (責任感)	秀	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与え、良い結果をもたらすことができる。
	優	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与えている。
	良	運動への関心や自ら運動する意欲が認められ、ある程度積極的に授業への参加が認められる。
	可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。
	不可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	35	35	0	0	30	100
評価項目	①基本的な技能の修得	0	5	20	0	0	0	25
	②基本的な知識の修得	0	15	0	0	0	0	15
	③仲間との協調・協働	0	15	15	0	0	0	30
	④自己管理能力	0	0	0	0	0	10	10
	⑤授業への積極性	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	学修ふりかえりシート
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	実技・試合結果
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
その他	①		授業への積極性、活動量
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・学校指定のポロシャツ着用
- ・運動に適した服装と靴（室内用・屋外用）の準備を準備すること。アクセサリ等は認めない。

教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
アカデミックライティング (F12050)	演 習	1	30	1	後 期	選 択	—	山下敦子	7号館5階 研究室他
論理的な表現力を身につけよう								複数担当	
科目担当者	山下敦子、牛頭哲宏								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、判断力、表現力、情報力、論理的思考力
授業の概要	<p>文章を書くことが苦手な人は多い。しかし、論理的な考え方・書き方を習得することで、効果的な文章を作成することができる。本授業では、専門書・論文等の読解やレポート・論文作成に関する技能の習得をめざす。論理的な思考を行い、判断し、表現することについて演習を通じて表現力を培う。2回目以降は、受講者をAグループ、Bグループに分け、同じ時間帯に別教室にて、山下・牛頭がそれぞれ授業を行う。一週ごとに山下コースと牛頭コースの授業を交互に受講することとなる。</p>

授業回	授業内容		授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション (担当者：山下、牛頭)		【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 学びの確認
	担当者：山下	担当者：牛頭	
第2回	言語技術の基礎① 箇条書き、キーワード法 A：2回目 B：3回目	縮約文の書き方 基礎 A：3回目 B：2回目	【予習】 既習事項の確認 【復習】 学びの確認
第3回	言語技術の基礎② パラグラフ、センテンス A：4回目 B：5回目	縮約文の書き方 実践 A：5回目 B：4回目	【予習】 既習事項の確認 【復習】 学びの確認
第4回	言語技術の応用① 説明・報告文 A：6回目 B：7回目	縮約文の書き方 修正とフィードバック A：7回目 B：6回目	【予習】 既習事項の確認 【復習】 学びの確認
第5回	言語技術の応用② 分析・解釈・批判 A：8回目 B：9回目	文章表現の実践 基礎 A：9回目 B：8回目	【予習】 既習事項の確認 【復習】 学びの確認
第6回	言語技術の応用③ 資料・情報整理 A：10回目 B：11回目	文章表現の実践 応用 A：11回目 B：10回目	【予習】 既習事項の確認 【復習】 学びの確認
第7回	言語技術の応用④ 小論文の実際 A：12回目 B：13回目	文章表現の実践 修正とフィードバック A：13回目 B：12回目	【予習】 既習事項の確認 【復習】 学びの確認
第8回	まとめ A：14回目 B：15回目	まとめ A：15回目 B：14回目	【予習】 既習事項の確認 【復習】 学びの確認

学修の到達目標	
基礎的な文章表現力や言語技術を習得し、大学生活に必要な論理的文章を「読む力」「書く力」を身につけることができる。	

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。
②情報や思考に基づき、 状況に対して適切な判 断をすることができる。 (判断力)	秀	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等、高いレベルで目的に応じて、短時間で正確に活用することができる。またそれゆえ、その判断を踏まえた次の新たな創作的作業を実行しやすい。
	優	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を目的に応じて、自力で十分適切に活用することができる。
	良	既に持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に活用することができる。
	可	他者の助言・指導を基に、その場に即した活用が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な活用ができない。
③想いや考えを表現し、 他者に伝えることがで きる。 (表現力)	秀	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも目的や場に応じて対応することができる。
	優	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	適切かつ効果的に他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	適切かつ効果的に他者になんらかの方法で伝えることができる。
	不可	適切かつ効果的に他者に伝えることができない。
④思考や判断に必要な情 報を収集・整理・分析 し、活用することがで きる。 (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用することができる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
⑤根拠に基づき論理的に 考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、反論を予想し、議論や技術を駆使して論理を再構築することができる。
	優	客観的な根拠に基づき、十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くともある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	20	20	0	30	0	100
評価項目	①知欲	0	4	4	0	30	0	38
	②判断力	5	4	4	0	0	0	13
	③表現力	10	4	4	0	0	0	18
	④情報力	5	4	4	0	0	0	13
	⑤論理的思考力	10	4	4	0	0	0	18

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		筆記試験を行う。授業を通して学んだこと読解力や言語技術、あるいは表現方法等の知識・技能などを活用して、論理的な文章を書くことが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	各授業で、テーマに応じた文章を記述する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	各授業で、テーマに応じてグループディスカッションなどを行ったり、記述した文章を発表したりする。学修した言語技術や表現方法を活用することが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業で振り返りを行う。また、授業で記述したものについて自己評価や添削されたものについて見直しを行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

日常生活の言葉に敏感になること。また語彙力や言語技術を高めていくために、読解、記述、推敲を反復して行うことに真摯に取り組むことが求められる。

教科書・参考書

教科書：必要に応じて資料を配布する

参考書：授業中に指示する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
英語コミュニケーション I (F12060)	演習	1	30	1	前期	選択	保育選択必修 幼教免必修 小教免必修	C.K.Dallos	7号館2階 非常勤講師 控室
Acquisition of basic communication skills and multicultural understanding								単独担当	
科目担当者	C.K.Dallos								

関連ときわ コンピテンシー	Information literacy (情報力)、Logical thinking (論理的思考力)、Critical thinking (批判的思考力)、Intelligence (知欲)、Expressiveness (表現力)
授業の概要	The purpose of this course is to provide students with basic English communication skills. This course is also focused on acquiring four skills through integrated methods and understanding diverse cultures and nations in order to participate actively in international communities.

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Pronunciation exercise; Introduction presentations	Review vocabulary
第2回	Unit 1 A Hi there!; Unit 1 B Where do you work?	Do homework Review vocabulary
第3回	Unit 2 A I never get up late.; Unit 2 B I do karaoke on Wednesday.	Do homework Review vocabulary
第4回	Unit 3 A Can you use a computer?; Unit 2 B I can play basketball.	Do homework Review vocabulary
第5回	Review 1; Unit 4 A I like Italian food.	Do homework Review vocabulary
第6回	Unit 4 B My perfect date likes music	Do homework Review vocabulary
第7回	Unit 5 A Can I call you back later?	Do homework Review vocabulary
第8回	Unit 5 B It's snowing	Do homework Review vocabulary
第9回	Unit 6 A How do I get to the bank?	Do homework Review vocabulary
第10回	Unit 6 B Where can I buy a ticket?	Do homework Review vocabulary
第11回	Review 2; Picture puzzle listening exercises	Do homework Review vocabulary
第12回	Quiz; Unit 7 A Would you like to go to the movies?	Do homework Review vocabulary
第13回	Unit 7 B I'm babysitting on Thursday.	Do homework Review vocabulary
第14回	Music listening exercises	Do homework Review vocabulary
第15回	Comprehension check; Look at and discuss teacher's photos	Do homework Review vocabulary

学修の到達目標
Students will improve four essential skills through a variety of activities. They will also learn about history, and social diversity around the world to gain global perspectives on people from different cultures.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Listening (Information literacy)	秀	Can understand correctly
	優	Makes some mistakes in understanding but needs no help from others
	良	Makes some mistakes in understanding and sometimes needs help from others
	可	Makes some mistakes in understanding and often needs help from others
	不可	Cannot understand at all
②Speaking (Expressiveness)	秀	Always communicates with correct grammar, vocabulary and pronunciation
	優	Always communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	良	Often communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	可	Sometimes communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	不可	Rarely attempts to speak during classroom activities
③Reading (Critical thinking)	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
④Writing (Logical thinking)	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures, but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure, and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure, and does not have grammatical competence
⑤Multicultural understanding (Intelligence)	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	25	5	0	0	30	100
評価項目	①Listening	10	5	0	0	0	6	21
	②Speaking	0	0	5	0	0	6	11
	③Reading	10	5	0	0	0	6	21
	④Writing	15	10	0	0	0	6	31
	⑤Multicultural understanding	5	5	0	0	0	6	16

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	Writing Listening
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	Quizzes
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①		Oral introduction
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
その他	①	✓	Class participation Completion of homework
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

1. Class participation 2. Preparation and review 3. Completion of assignments

教科書・参考書

教科書：『Get Real!』 Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson MACMILLAN

参考書：Not Applicable

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
英語コミュニケーションⅡ (F12070)	演習	1	30	1	後期	選択	保育選択必修 幼教免必修 小教免必修	脇本聡美	7号館5階 研究室
Develop English proficiency								単独担当	
科目担当者	脇本聡美								

関連ときわ コンピテンシー	Information literacy (情報力)、Logical thinking (論理的思考力) Critical thinking (批判的思考力)、Intelligence (知欲)、Expressiveness (表現力)
授業の概要	The purpose of this course is to improve English proficiency through a variety of practical activities. The emphasis is also laid on motivating students to play an active role in international communities.

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Orientation Self-introduction	【復習】 Writing self-introduction
第2回	Unit 1 Spain	【予習】 Work sheet Unit 1 【復習】 Unit 1
第3回	Group discussion based on the work sheet / Unit 1 Travel Adventures: At the Airport	【予習】 Listening assignment 1 【復習】 Unit 1
第4回	Unit 3 Peru / Presentation: The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Work sheet Unit 3 【復習】 Unit 3
第5回	Group discussion based on the work sheet / Unit 3 Travel Adventures: At the Hotel / The city I'd like to visit (2 students)	【復習】 Preparing for the quiz (Unit 1 & 3)
第6回	Quiz / Unit 5 New York / The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Work sheet Unit 5 【復習】 Unit 5
第7回	Group discussion based on the work sheet / Unit 5 Travel Adventures: Getting Directions / The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Listening assignment 2 【復習】 Unit 5
第8回	Unit 7 India / The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Work sheet Unit 7 【復習】 Unit 7
第9回	Group discussion based on the work sheet / Unit 7 Travel Adventures: Shopping / The city I'd like to visit (2 students)	【復習】 Preparing for the quiz (Unit 5 & 7)
第10回	Quiz / Unit10 Cambodia / The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Work sheet Unit 10 【復習】 Unit 10
第11回	Group discussion based on the work sheet / Unit 10 Travel Adventures / Bargaining / The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Listening assignment 3 【復習】 Unit 10
第12回	Unit 11 Egypt / The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Work sheet Unit 11 【復習】 Unit 11
第13回	Group discussion based on the work sheet / Unit 11 Travel Adventures: Home Visit / The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Listening assignment 4 【復習】 Unit 11
第14回	Unit 12 Italy / The city I'd like to visit (2 students)	【予習】 Work sheet Unit 12 【復習】 Unit 12
第15回	Unit 12 Travel Adventures: At a Restaurant / The city I'd like to visit (2 students) / Review	【復習】 Preparing for the exam

学修の到達目標

1. Students will increase proficiency in English.
2. Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Listening (Information literacy)	秀	Can understand correctly
	優	Makes some mistakes in understanding but needs no help from others
	良	Makes some mistakes in understanding and sometimes needs help from others
	可	Makes some mistakes in understanding and often needs help from others
	不可	Cannot understand at all
②Speaking (Expressiveness)	秀	Always communicates with correct grammar, vocabulary and pronunciation
	優	Always communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	良	Often communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	可	Sometimes communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	不可	Rarely attempts to speak during classroom activities
③Reading (Critical thinking)	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
④Writing (Logical thinking)	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures, but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure, and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure, and does not have grammatical competence
⑤Multicultural understanding (Intelligence)	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	20	0	0	20	100
評価項目	①Listening	10	0	0	0	0	5	15
	②Speaking	0	0	18	0	0	0	18
	③Reading	10	10	0	0	0	0	20
	④Writing	15	10	0	0	0	12	37
	⑤Multicultural understanding	5	0	2	0	0	3	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	A Written Examination
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①		Reading report
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		Presentation
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
その他	①	✓	Quizzes
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

1. Class participation 2. Preparation and review 3. Completion of assignments

教科書・参考書

教科書：Globe Trotters: Practical English with Video / Carmella Lieske センゲージラーニング

参考書：Introduced as needed

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
英語A a (Communicative English Basic) (F12080)	演習	1	30	1 2	前期	選択	—	小西千鶴	7号館2階 非常勤講師 控室
実践に役立つ英語の基礎力をつける								単独担当	
科目担当者	小西千鶴								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、表現力、傾聴力・対話力
授業の概要	英語でのコミュニケーションに必要な日常的な表現を身につけるように多様な演習を行う。さらに自分の意見を分かりやすい英語表現で伝えることができるようにする。また英語圏を始めとするさまざまな文化圏に対する理解を促し、コミュニケーションに必要なマナーを学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Unit 1 The Royal Family イギリスの王位継承は誰に？	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第2回	Unit 2 The Beatles 空で歌えるビートルズの曲	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第3回	Unit 3 Very Cold ヨーロッパで楽しむ休暇	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第4回	Unit 4 Euro Money ユーロではなく独自通貨の国	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第5回	Unit 5 To Your Health 入院して健康な体に	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第6回	Unit 6 Recycling リサイクルの問題点は？	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第7回	Unit 7 The UK 住みやすいイギリス	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第8回	Unit 8 A Quiet Life 静かなホテル vs. 宿泊客の希望	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第9回	Unit 9 My Company 少し高いが高品質の食器類	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第10回	Unit 10 Advertising 宣伝費を削減して製品開発	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第11回	Unit 11 Business Trips 混雑しない地方空港	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第12回	Unit 12 Get It Cleaned 商談もホテルもダメな一日	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第13回	Unit 13 A Storm 甚大な被害を与える冬の嵐	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第14回	Unit 14 The Media 良くも悪くもメディアの功罪	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第15回	Unit 15 Sightseeing イギリスのおすすめ観光スポット	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙

学修の到達目標
1. 英語でのコミュニケーションの基本的な力をつける。 2. 様々な国の文化・歴史・習慣の違いを理解する。 3. 英語でのコミュニケーションを楽しむ。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Fluency (表現力)	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation, but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
②Accuracy (表現力)	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
③Interaction (傾聴力・対話力)	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate, but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
⑤Multicultural understanding (知欲)	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①Fluency	0	10	10	0	0	0	20
	②Accuracy	30	10	0	0	0	0	40
	③Interaction	0	10	10	0	0	0	20
	④Multicultural understanding	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	筆記試験（リスニング含む）を行う。 定期試験では、授業及びテキストから学んだ語句を用いて、状況に応じた自然な英会話の流れを意識した表現が求められる。	
	②		✓
	③		
	④		✓
提出物	①	毎回の授業で筆記もしくは口頭による単語の小テストを行う。 小テストでは、単語の意味のほか、つづり、発音、品詞、成句や用例など、実践的な情報を把握しているか、辞書の有益な使い方が求められる。	
	②		✓
	③		✓
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。 対話では、テキストに基づく表現を応用し、自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的な発言が求められる。	
	②		
	③		✓
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

各ユニットの重要表現など反復練習には積極的に取り組むこと。

教科書・参考書

教科書：English Indicator I Essential (総合英語インディケーター 初級) Terry O'Brien、三原京 他著、南雲堂
参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
英語Aa(Communicative English Basic) (F12080)	演習	1	30	1 2	前期	選択	—	千石真理	7号館2階 非常勤講師 控室
実践に役立つ英語の基礎力をつける								単独担当	
科目担当者	千石真理								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、表現力、傾聴力・対話力
授業の概要	英語でのコミュニケーションに必要な日常的な表現を身につけるように多様な演習を行う。さらに自分の意見を分かりやすい英語表現で伝えることができるようにする。また英語圏を始めとするさまざまな文化圏に対する理解を促し、コミュニケーションに必要なマナーを学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Unit 1 The Royal Family イギリスの王位継承は誰に？	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第2回	Unit 2 The Beatles 空で歌えるビートルズの曲	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第3回	Unit 3 Very Cold ヨーロッパで楽しむ休暇	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第4回	Unit 4 Euro Money ユーロではなく独自通貨の国	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第5回	Unit 5 To Your Health 入院して健康な体に	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第6回	Unit 6 Recycling リサイクルの問題点は？	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第7回	Unit 7 The UK 住みやすいイギリス	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第8回	Unit 8 A Quiet Life 静かなホテル vs. 宿泊客の希望	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第9回	Unit 9 My Company 少し高いが高品質の食器類	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第10回	Unit 10 Advertising 宣伝費を削減して製品開発	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第11回	Unit 11 Business Trips 混雑しない地方空港	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第12回	Unit 12 Get It Cleaned 商談もホテルもダメな一日	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第13回	Unit 13 A Storm 甚大な被害を与える冬の嵐	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第14回	Unit 14 The Media 良くも悪くもメディアの功罪	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙
第15回	Unit 15 Sightseeing イギリスのおすすめ観光スポット	【予習】 テキストの読解 【復習】 課題・語彙

学修の到達目標
1. 英語でのコミュニケーションの基本的な力をつける。 2. 様々な国の文化・歴史・習慣の違いを理解する。 3. 英語でのコミュニケーションを楽しむ。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Fluency (表現力)	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation, but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
②Accuracy (表現力)	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
③Interaction (傾聴力・対話力)	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate, but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
④Multicultural understanding (知欲)	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①Fluency	0	10	10	0	0	0	20
	②Accuracy	30	10	0	0	0	0	40
	③Interaction	0	10	10	0	0	0	20
	④Multicultural understanding	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	筆記試験（リスニング含む）を行う。 定期試験では、授業及びテキストから学んだ語句を用いて、状況に応じた自然な英会話の流れを意識した表現が求められる。
	②	
	③	
	④	
提出物	①	毎回の授業で筆記もしくは口頭による単語の小テストを行う。 小テストでは、単語の意味のほか、つづり、発音、品詞、成句や用例など、実践的な情報を把握しているか、辞書の有益な使い方が求められる。
	②	
	③	
	④	
成果発表 (口頭・実技)	①	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。 対話では、テキストに基づく表現を応用し、自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的な発言が求められる。
	②	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能・態度など
各ユニットの重要表現など反復練習には積極的に取り組むこと。
教科書・参考書
教科書：English Indicator I Essential (総合英語インディケーター 初級) Terry O'Brien、三原京 他著、南雲堂 参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
英語A b (Communicative English Intermediate) (F 1 2 0 9 0)	演習	1	30	1 \ 2	後期	選択	—	小西千鶴	7号館2階 非常勤講師 控室
Enhance your communication skills.								単独担当	
科目担当者	小西千鶴								

関連ときわ コンピテンシー	Intelligence (知欲)、Expressiveness (表現力)、Interactivity (傾聴力・対話力)
授業の概要	This course will provide students with a variety of activities to help them acquire practical skills in communication. Learning communication manners in multiple cultures is also focused.

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Syllabus and Class Rules Explanation / Short Presentation Explanation / Personal Introductions / Pronunciation Exercise	Review vocabulary
第2回	Following Directions	Do homework Review vocabulary
第3回	More work on Following Directions	Do homework Review vocabulary
第4回	Following Directions Quiz	Do homework Review vocabulary
第5回	Numbers	Do homework Review vocabulary
第6回	More Work on Numbers	Do homework Review vocabulary
第7回	Additional More Work on Numbers	Do homework Review vocabulary
第8回	Numbers Quiz	Do homework Review vocabulary
第9回	Picture Puzzle Listening exercise, Listening to Music Exercise	Do homework Review vocabulary
第10回	Family	Do homework Review vocabulary
第11回	More Work on Family	Do homework Review vocabulary
第12回	Family Quiz	Do homework Review vocabulary
第13回	Short Presentations	Do homework Review vocabulary
第14回	Look and Discuss Teacher's Photos or Teacher's Show and Tell	Do homework Review vocabulary
第15回	Review for Final Exam	Do homework Review vocabulary

学修の到達目標
1. Students will improve communicative skills. 2. Students will understand cultural diversities. 3. Students will enjoy communicating in English.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Fluency (表現力)	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation, but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
②Accuracy (表現力)	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
③Interaction (傾聴力・対話力)	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate, but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
④Multicultural understanding (知欲)	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	30	0	0	10	100
評価項目	①Fluency	0	0	10	0	0	0	10
	②Accuracy	20	20	10	0	0	0	50
	③Interaction	0	0	5	0	0	10	15
	④Multicultural understanding	20	0	5	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	Writing and listening	
	②		✓
	③		
	④		✓
提出物	①	Quizzes	
	②		✓
	③		
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①	Short speech	
	②		✓
	③		✓
	④		✓
その他	①	Participation Completion of homework	
	②		
	③		✓
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

1. Class participation 2. Preparation and review 3. Completion of assignments

教科書・参考書

教科書：Materials will be provided by the instructor.

参考書：Not Applicable

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
英語Ab (Communicative English Intermediate) (F 1 2 0 9 0)	演習	1	30	1 \ 2	後期	選択	—	C.K.Dallos	7号館2階 非常勤講師 控室
Enhance your communication skills.								単独担当	
科目担当者	C.K.Dallos								

関連ときわ コンピテンシー	Intelligence (知欲)、Expressiveness (表現力)、Interactivity (傾聴力・対話力)
授業の概要	This course will provide students with a variety of activities to help them acquire practical skills in communication. Learning communication manners in multiple cultures is also focused.

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Syllabus and Class Rules Explanation / Short Presentation Explanation / Personal Introductions / Pronunciation Exercise	Review vocabulary
第2回	Following Directions	Do homework Review vocabulary
第3回	More work on Following Directions	Do homework Review vocabulary
第4回	Following Directions Quiz	Do homework Review vocabulary
第5回	Numbers	Do homework Review vocabulary
第6回	More Work on Numbers	Do homework Review vocabulary
第7回	Additional More Work on Numbers	Do homework Review vocabulary
第8回	Numbers Quiz	Do homework Review vocabulary
第9回	Picture Puzzle Listening exercise, Listening to Music Exercise	Do homework Review vocabulary
第10回	Family	Do homework Review vocabulary
第11回	More Work on Family	Do homework Review vocabulary
第12回	Family Quiz	Do homework Review vocabulary
第13回	Short Presentations	Do homework Review vocabulary
第14回	Look and Discuss Teacher's Photos or Teacher's Show and Tell	Do homework Review vocabulary
第15回	Review for Final Exam	Do homework Review vocabulary

学修の到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. Students will improve communicative skills. 2. Students will understand cultural diversities. 3. Students will enjoy communicating in English.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Fluency (表現力)	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation, but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
②Accuracy (表現力)	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
③Interaction (傾聴力・対話力)	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate, but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
④Multicultural understanding (知欲)	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	10	0	0	30	100
評価項目	①Fluency	0	0	10	0	0	0	10
	②Accuracy	20	20	10	0	0	0	50
	③Interaction	0	0	5	0	0	10	15
	④Multicultural understanding	20	0	5	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		Writing and listening
	②	✓	
	③		
	④	✓	
提出物	①		Quizzes
	②	✓	
	③		
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	Short speech
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①		Participation Completion of homework
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

1. Class participation 2. Preparation and review 3. Completion of assignments

教科書・参考書

教科書：Materials will be provided by the instructor.

参考書：Not Applicable

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
手話コミュニケーション (F12130)	演 習	1	30	1 \2	前 期	選 択	—	浅野京子	7号館2階 非常勤講師 控室
聴覚障害者への理解								単 独 担 当	
科目担当者	浅野京子								

関連ときわ コンピテンシー	教養、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	聴覚の障害は、健聴者（耳の聞こえる人）には理解しにくい障害です。手話を学ぶとともに聴覚障害者への援助や配慮を学習していきます。手話は、毎回、演習します。（定員30名まで）。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	聴覚の障害とは。	【復習】本日の講義と手話の実技
第2回	様々な聴覚障害について。	【復習】本日の講義と手話の実技
第3回	聴覚障害者のコミュニケーション手段。	【復習】本日の講義と手話の実技
第4回	「手話」について。	【復習】本日の講義と手話の実技
第5回	聴覚障害者についてのグループ討議。	【復習】本日の講義と手話の実技
第6回	聴覚障害者と社会①聴覚障害者の昔。	【復習】本日の講義と手話の実技
第7回	聴覚障害者と社会②聴覚障害者と学校教育。	【復習】本日の講義と手話の実技
第8回	聴覚障害者と社会③ろう教育について。	【復習】本日の講義と手話の実技
第9回	聴覚障害者と社会④手話の発展と広がり。	【復習】本日の講義と手話の実技
第10回	聴覚障害者の社会生活についてグループ討議。	【復習】本日の講義と手話の実技
第11回	聴覚障害者と情報保障について。	【復習】本日の講義と手話の実技
第12回	生活場面での配慮（病院など）。	【復習】本日の講義と手話の実技
第13回	手話と手話通訳	【予習】次回の発表の準備 【復習】本日の講義と手話の実技
第14回	手話による発表（個々による）。	【復習】本日の講義と手話の実技
第15回	まとめ。	【復習】15回の講義と実技の振り返り

学修の到達目標	
聴覚障害者に対する理解ができて、職業人・市民として聴覚障害の人たちへの配慮ができるようになる。手話を中心とする聴覚障害者の人たちとのコミュニケーション方法を習得する。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①聴覚障害者に対する理解をしている。 (教養)	秀	聴覚障害に関して授業で習った以上に自ら学習して理解を深めている。
	優	聴覚障害に関して授業で学んだことはすべて理解している。
	良	聴覚障害に関してかなり理解している。
	可	聴覚障害に関して必要最低限理解している。
	不可	聴覚障害に関して全く理解していない。
②手話を使ったコミュニケーションができる。 (傾聴力・対話力)	秀	手話を用いてコミュニケーションがスムーズにできる。
	優	手話を用いてコミュニケーションがかなりできる。
	良	手話を用いてコミュニケーションがまずまずできる。
	可	手話を用いてコミュニケーションが少ししかできない。
	不可	手話を用いてコミュニケーションが全くできない。
③クラス・グループでの討論ができる。 (協調性・協働力)	秀	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活性を高め、内容も優秀であった。
	優	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活性を高めていた。
	良	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活動ができた。
	可	クラス・グループ討論に協調・協働することは少なく、グループのモチベーションを下げている。
	不可	クラス・グループ討論に協調・協働せず、グループが全体として機能しなかった。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	0	50	0	0	10	100
評価項目	①聴覚障害者に対する理解力	40	0	0	0	0	0	40
	②手話を使ったコミュニケーション力	0	0	50	0	0	0	50
	③クラス・グループでの協調性・協働力	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末筆記試験（手話や聴覚障害者に関すること）。
	②		
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①		手話による個別発表。
	②	✓	
	③		
その他	①		授業・グループ討論での態度・発言内容。
	②		
	③	✓	

※評価方法や授業内容などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

履修に必要な知識・技能・態度など

手話は聴覚障害者、特に「ろうあ者」にとっての「第1言語（母語）」です。生活していく上でなくてはならない大切なことばです。真摯な気持ちで学んでください。覚えた手話を忘れないように、しっかりと復讐して授業に臨んでください。

教科書・参考書

教科書：特定の教科書はありません。随時プリントを配布します。

参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
いのちと共生 (F12140)	講義	1	15	1	後期	選択必修	—	長尾厚子	7号館4階 研究室他
ヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるためのいのちを考える								複数担当	
科目担当者	長尾厚子、濱田道夫、中田康夫、千石真理、畑中道代*、森正敬*、江上芳子*								

関連ときわ コンピテンシー	教養、専門力、探究力、情報力、批判的思考力
授業の概要	保健科学部と教育学部を持つ本学のキャリア教育の共通テーマである「いのち」について、あらゆる方面からとらえ、さらにヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるためには、自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について考える必要がある。それぞれの専門からとらえる「いのち」についての講義に学び、その後グループディスカッションをとおして理解を確実なものとし、命の共生(ヒトの健康)について考える。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	いのちの共生と持続可能な社会 (担当者: 濱田)	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 授業内容の振り返り
第2回	内観療法で目覚めるいのちの共生 (担当者: 千石)	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第3回	細胞と個体による自他の識別 (担当者: 畑中)	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第4回	生体シグナルに対する細胞の応答 (担当者: 森)	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第5回	母子の独立性と共生 (担当者: 江上)	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第6回	共生社会の意味とその実現に向けて (担当者: 中田)	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第7回	トータルヒューマンケアにおける心と体といのち (担当者: 長尾)	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第8回	命の共生(ヒトの健康)について考える (担当者: 長尾)	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り

学修の到達目標
履修者は、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識を得、「いのち」について、あらゆる方面からとらえることができる。さらにヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるためには、自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について理解を深めることができる。また、「いのち」に関する様々な見解をとおして、命の共生(ヒトの健康)について考え、他者と議論することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識を修得することができる。 (教養)	秀	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識の習得について、満足できる水準を超えて、周辺の知識と合わせて理解を深め、自分の考えを述べることができる。
	優	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識の習得について、満足できる水準を超えて、周辺の知識と合わせて理解を深めることができている。
	良	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで修得できていることが認められる。
	可	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで到達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで到達しておらず、その努力の過程も認められない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
②「いのちと共生」に関する知識の広がりから各専門職としての自覚に繋げて考えることができる。 (専門力)	秀	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えを深め、自分の意見として述べるができる。
	優	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えることができる。
	可	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められない。
③「いのち」に関する様々な見解からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深め、自己の見解を述べるができる。 (探究力)	秀	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深め、自己の見解を述べるができる。
	優	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えることができる。
	可	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ中からヒトが健康(幸せ)に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えようとする努力の過程が認められない。
④自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生についての情報から「いのち」について理解を深めることができる。 (情報力)	秀	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について理解を深めることにより自分の見解を述べるができる。
	優	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について理解を深めることができる。
	良	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について考えることができる。
	可	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえることもなく、「いのち」について考えようとする努力の過程が認められない。
⑤あらゆる方面からの「いのちと共生」に関する捉え方から自分の考えを明らかにできる。 (批判的思考力)	秀	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、他の人の意見も受け止めながら、自分の考えを深めることができる。
	優	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、他の人の意見も受け止めながら、自分の考えを明らかにすることができる。
	良	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、他の人の意見も受け止めながら、自分なりに考えられる。
	可	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、他の人の意見も受け止めながら、自分の考えを明らかにする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ内容から「いのちと共生」について、自分の考えを明らかにする努力の過程が認められない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①「いのち」についての知識	20	0	0	0	0	0	20
	②各専門職としての自覚	0	5	0	0	0	0	5
	③いのちとの共生についての探求	30	10	0	0	0	0	40
	④あらゆる情報からの理解	20	5	0	0	0	0	25
	⑤いのちと共生に関する自分の意見	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓
	②	
	③	✓
	④	✓
	⑤	
その他	①	
	②	
	③	✓
	④	✓
	⑤	✓
毎回の授業での学ぶべき知識の内容を、再生・再認方式で確認し、評価の対象とする。		
8回の授業後にレポート課題を課す。 毎回の授業の内容から得た知識や、さらに自ら調べた内容や、グループワークから得られた他人の意見を参考に「いのちと共生」に関する自分の見解を述べるのが評価の対象となる。		

※評価方法や授業内容などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

履修に必要な知識・技能・態度など
毎回担当者が変わり、担当者の専門とする内容から「いのちと共生」に関するテーマが展開されるため、履修者は全回出席が前提となる。さらに、テーマに関する内容を自分なりに予習しておくことが学修を深めることに繋がる。
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
人類と地球環境 (F12150)	講義	1	15	1	前期	選択必修	—	笹井隆邦	7号館5階 研究室
自然について知識を深めよう								単独担当	
科目担当者	笹井隆邦								

関連ときわ コンピテンシー	教養、貢献力
授業の概要	現在、地球を取り巻く環境が深刻な状況になってきている。例えば地球温暖化、森林破壊、砂漠化などである。それらについて、現状、原因、影響、対策等を紹介し、環境問題について理解を深めたい。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス 生物を分類してみよう	
第2回	共生 あなたは100兆個の微生物と共生している	【予習】共生について調べる 【復習】manaba 小テスト
第3回	地球温暖化による生態系への影響 地球の温暖化により多くの生物に影響が及んでいる	【予習】温暖化について調べる 【復習】manaba 小テスト
第4回	森林の減少と砂漠化 毎年兵庫県の面積の6倍の森林が消失している	【予習】砂漠化について調べる 【復習】manaba 小テスト
第5回	酸性雨 トマトジュースくらいの酸性の雨が降っている	【予習】酸性雨について調べる 【復習】manaba 小テスト
第6回	里山・里海・ピオトープ 里山ってどんなイメージ？	【予習】里山について調べる 【復習】manaba 小テスト
第7回	外来生物・種の絶滅と生物多様性 1970年以降、陸、海、淡水の自然の豊かさは58%減少	【予習】生物多様性について調べる 【復習】manaba 小テスト
第8回	発光生物 光る生物は何のために光っているのだろう？	

学修の到達目標	
さまざまな環境問題について理解を深め、諸問題についてどのように対処していくかを考え行動する。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①生態系の仕組みを理解している (教養)	秀	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	生物相互の関係についての知見のみにとどまっている。
	不可	生物相互の関係についての知見が不十分である。
②環境問題に関する基本的な知識を習得している (教養)	秀	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	様々な環境問題についての知見のみにとどまっている。
	不可	様々な環境問題についての知見が不十分である。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③環境問題を改善するために考え行動することができる (貢献力)	秀	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続し、行動している。
	優	環境問題を改善するために、何らかの形で学修を継続している。
	良	環境問題を改善するために、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	環境問題を改善するための知見のみにとどまっている。
	不可	環境問題を改善するための知見が不十分である。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①生態系に関する基本的知識の習得	30	15	0	0	0	0	45
	②環境問題に関する基本的知識の習得	30	15	0	0	0	0	45
	③自然環境を改善するための行動	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験を実施する。持ち込み不可。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	基礎知識の復習を目的とした manaba 小テスト
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など	
“自然”に興味を持つ	
教科書・参考書	
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
暮らしの中の数学 (F12160)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	高松邦彦	7号館2階 研究室
理系大学初年次程度の数学を知ろう								単独担当	
科目担当者	高松邦彦								

関連ときわ コンピテンシー	論理的思考力
授業の概要	<p>数学は、歴史的経緯により科学的な思考全般の基本となっている。現代の高度化された情報社会においては、高校で学習した数学だけでは、多くの学問を十分に学ぶことができない。この授業は、様々な学問を十分理解するために、その背景にある、理系学部の初年次で学ぶ「数学」の概略を理解することを目的とする。また、数学の「学び方」についても習得する。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	導入	【予習】数I・II・IIIの復習 【復習】一枚まとめと宿題
第2回	微分積分学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題
第3回	解析学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題【予習】
第4回	線形代数学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題
第5回	幾何学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題【予習】
第6回	基礎数学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題
第7回	数理統計学とは	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題
第8回	まとめ	【予習】教科書を読み理解する 【復習】一枚まとめと宿題【予習】

学修の到達目標
<p>数学は、最終的には自分で理解しなくてはならない学問であり、教員はその手助けをするだけである。大学で学ぶ数学を8回で出来る限り概略するが、全てを学ぶことはできない。そのため、学修の到達目標は、「数学を学び続ける力」を身につけることとする。最先端の科学には、高度な数学が用いられていることが多く、数学が必要になった際に、その準備が出来ていれば将来役に立つ可能性が高い。授業が終わった後も、準正課や正課外で数学を学びたい希望者に対しては、継続してその学びの手助けをするので、是非継続して続けてほしい。</p>

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①自分で物事を論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができる。
	可	論理的に記述されたものを理解することができる。
	不可	論理的に記述されたものを理解できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	60	0	0	0	10	100
評価項目	①論理的思考力	30	60	0	0	0	10	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	✓	試験、もしくは、レポート試験を、最終に行う。
提出物	①	✓	授業毎に、A 4 用紙 1 枚に授業のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。授業の最後に、8 回分のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能・態度など	
各回の授業について、高等学校で学習した関連する内容を復習しておくこと。シラバスをよく読み、使用する教科書をシラバスの内容に従い、前もって熟読しておくこと。前回は学習したことを復習し、練習問題などを解いておくこと。	
教科書・参考書	
教科書：『数学』川 純一 参考書：適宜紹介する。	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
統計学 (F12170)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	高松邦彦	7号館2階 研究室他
統計ってなに?								複数担当	
科目担当者	高松邦彦、中田康夫								

関連ときわ コンピテンシー	情報力、論理的思考力
授業の概要	近代統計学は、ライフサイエンス分野をはじめ、経済分野など様々な分野で利用されている。最近の、エビデンスベースの研究においては、得られた実験データを、適切な方法で統計処理しなければならない。そのために、高校までに習得した確率・統計をもとに、統計学の基本的な概念を理解する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	導入 (担当者：高松、中田)	【予習】 数学I・Aなどの復習 【復習】 一枚まとめを作成と宿題。
第2回	Σ を使った表現方法 (担当者：高松、中田)	【予習】 教科書を読んで理解する 【復習】 一枚まとめを作成と宿題
第3回	度数分布とヒストグラム (担当者：高松、中田)	【予習】 教科書を読んで理解する 【復習】 一枚まとめを作成と宿題
第4回	様々な統計量その1 (平均・分散・標準偏差) (担当者：高松、中田)	【予習】 教科書を読んで理解する 【復習】 一枚まとめを作成と宿題
第5回	様々な統計量その2 (CV・相関係数) (担当者：高松、中田)	【予習】 教科書を読んで理解する 【復習】 一枚まとめを作成と宿題
第6回	離散的と連続的な違いとは (担当者：高松、中田)	【予習】 教科書を読んで理解する 【復習】 一枚まとめを作成と宿題
第7回	確率と確率密度関数とは (担当者：高松、中田)	【予習】 教科書を読んで理解する 【復習】 一枚まとめを作成と宿題
第8回	まとめ (担当者：高松、中田)	【予習】 教科書を読んで理解する 【復習】 一枚まとめを作成と宿題

学修の到達目標
統計量とは何かを理解し、平均や標準偏差など授業で習った統計量を算出できるようになること。離散的な統計と、連続量の統計の違いを理解すること。確率の定義及び、確率密度関数がどのようなものかを理解すること。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①情報を収集・整理・分析して活用することができる (情報力)	秀	情報を分析できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	情報を分析できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	情報を分析できるのみならず、他者へ説明することができる。
	可	情報を分析できる。
	不可	情報を分析できない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
②自分で物事を論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	論理的に記述されたものを理解するのみならず、他者へ説明することができる。
	可	論理的に記述されたものを理解することができる。
	不可	論理的に記述されたものを理解できない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	60	0	0	0	0	100
評価項目	①情報分析	20	30	0	0	0	0	50
	②論理的思考力	20	30	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	試験、もしくは、レポート試験を、最終に行う。
	②	✓	
提出物	①	✓	授業毎に、A 4 用紙 1 枚に授業のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。授業の最後に、8 回分のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。
	②	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

各回の授業について、高等学校で学習した関連する内容を復習しておくこと。シラバスをよく読み、使用する教科書をシラバスの内容に従い、前もって熟読しておくこと。前回に学習したことを復習し、練習問題などを解いておくこと。

教科書・参考書

教科書：『基礎統計学（改訂版）』 川純一

参考書：適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
暮らしの中の物理学 (F12180)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	関雅幸	7号館4階 研究室
「ちょっと考える」を重ねていこう!								単独担当	
科目担当者	関雅幸								

関連ときわ コンピテンシー	教養、論理的思考力、情報力
授業の概要	日常生活は、物理現象の連続である。これらについて理解すると共にその背景にある物理の理論と知識をも理解する。日常生活に潜む物理現象を見つけ出すとともに、高度科学技術社会における市民のあり方を考える。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	単位について	【予習】 シラバスの内容の熟読 【復習】 学習内容の振り返り
第2回	力学とは	【復習】 学習内容の振り返り
第3回	力学の応用	【復習】 学習内容の振り返り
第4回	電磁気	【復習】 学習内容の振り返り
第5回	熱	【復習】 学習内容の振り返り
第6回	音	【復習】 学習内容の振り返り
第7回	光	【復習】 学習内容の振り返り
第8回	光について取り組んだことのグループワーク・まとめ	【予習】 前回作成したデータの検討 【復習】 作成したデータの整理

学修の到達目標	
暮らしの中に現れる物理学に関わる事柄に取り組める。数式の意味を理解し、それを利用する。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①現代社会や日常生活関 わる物理学に関する知 識を身につけている (教養)	秀	学んだ知識を満足できる水準を超えて理解し、身につけている。
	優	学んだ知識を十分満足できる水準まで理解し、身につけている。
	良	学んだ知識を理解し、身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、最小限の知識は理解し、身につけている。
	不可	知識を全く身につけていない。得ようとする姿勢も見られない。
②根拠に基づき、論理的 に考えることができる (論理的思考力)	秀	学んだ知識に基づき、論理的に思考でき、満足できる水準を超えている
	優	学んだ知識に基づき、論理的に思考でき、満足できる水準に達している。
	良	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができる。
	可	学んだ知識に基づき、論理的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③学んだことを理解しやすい形にまとめる力 (情報力)	秀	学んだこと十分にまとめることができ、他者が参考にできるレベルにある。
	優	学んだことを十分にまとめることができる。
	良	学んだことをまとめることができる。
	可	学んだことを不十分ではあるが、まとめることができる。
	不可	学んだことをまとめることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		35	65	0	0	0	0	100
評価項目	①教養	15	15	0	0	0	0	30
	②論理的思考力	20	15	0	0	0	0	35
	③情報力	0	35	0	0	0	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験
	②	✓	
	③		
提出物	①	✓	レポート、1枚まとめ
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
ものの仕組みに興味・関心を持つ。数式を受け入れる。自律的に授業に参加する態度。
教科書・参考書
教科書：『日常の「なぜ」に答える物理学』 真貝寿明 著 森北出版 参考書：『新・単位がわかると物理がわかる』 和田純夫他 著 ベレ出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
現代社会と化学 (F12190)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	栗岡誠司	7号館4階 研究室
日常生活や社会との関わりの中で、 化学は存在する								単独担当	
科目担当者	栗岡誠司								

関連ときわ コンピテンシー	教養、論理的思考力、表現力、貢献力
授業の概要	社会や日常生活に目を向け、高度科学技術社会に生きる市民として、また、医療や教育に携わる専門家として、必要な化学と知識の習得と、科学的な思考法を学ぶ。社会や日常生活の中にある化学を素材として、その背景にある知識や理論を学んでいく。単に知識を覚えるだけではなく、その知識を基にして考える力を養う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	総論として) 新聞記事や報道、及び日常生活の中から、新たな化学技術、医療事故、一般事故報道など、化学に関わる事項を取り上げ、いかに私たちが化学と関わっているかを認識する。	【復習】 紙ベース、もしくは manaba での記述
第2回	無機化学分野と現代社会や日常生活についての関わりを学ぶ(1) (キーワード; 元素、単体、非金属、典型元素)	【予習】 第2回の内容について調査 【復習】 紙ベース、もしくは manaba での記述
第3回	無機化学分野と現代社会や日常生活についての関わりを学ぶ(2) (キーワード; 金属、遷移元素、セラミック)	【予習】 第3回の内容について調査 【復習】 紙ベース、もしくは manaba での記述
第4回	有機化学分野と現代社会や日常生活についての関わりを学ぶ(キーワード; 炭素化合物、高分子化合物、天然高分子化合物)	【予習】 第4回の内容について調査 【復習】 紙ベース、もしくは manaba での記述
第5回	物理化学分野と現代社会や日常生活についての関わりを学ぶ(キーワード; 浸透圧、酸化還元、酸塩基、反応熱)	【予習】 第5回の内容について調査 【復習】 紙ベース、もしくは manaba での記述
第6回	グループワークについての説明とテーマ設定とグループワーク	【復習】 紙ベース、もしくは manaba での記述
第7回	グループワーク: グループ討議と課題作成、manaba への提出	【課題】 manaba への提出
第8回	プレゼンテーションと総括	【復習】 総括

学修の到達目標
1) 社会や日常生活の中に関わる化学に関わることを見いだせること。 2) 化学の基本的な知識を知り、理論を理解すること。 3) 得た知識や理解した理論に基として、社会や日常生活の中に関わる化学に関わることについて考え説明でき、場合によっては社会に対しての何らかの意思表示ができるようになること。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①現代社会や日常生活に関わる事象を理解するために知識を得ようとする姿勢と得た知識の量 (教養)	秀	必要な知識を十分身につけ、更に知識を拡げようとする姿勢がある。
	優	必要な知識だけは十分身につけている。
	良	必要な知識は身につけているが、不十分である。
	可	必要な知識の最低限を身につけている。
	不可	必要な知識は全く身につけていないし、得ようという姿勢がみられない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②得た知識を基として、現代社会や日常生活に関わる事象についての論理的思考力や判断力（論理的思考力）	秀	化学的知識に基づき、論理的に思考し、判断・批判することができる。
	優	化学的知識に基づき、論理的に思考することはできる。
	良	化学的知識に基づき、不十分であるが論理的に思考することができる。
	可	化学的知識が不十分ながらも、思考しようとしている。
	不可	化学的知識も不十分で、思考することができない。
③自分の思考や判断を他者とのグループワークの中で表現する力と活動を通して新たな視点を獲得する姿勢（表現力）	秀	グループ活動の中で、自分の意見・判断を分かり易く表現し、他者の意見と照らし合わせて新たな視点で考え・判断を構築できる。
	優	グループ活動の中で、自分の意見・判断を分かり易く表現することができるが、他者の意見・判断を十分には取り入れることができるが十分ではない。
	良	グループ活動の中で、自分の意見・判断を分かり易く表現することができるが、他者の意見・判断を十分には取り入れることが全くできない。
	可	グループ活動の中で表現できる自分の意見や判断はあるが、表現できない。
	不可	グループ活動の中で表現できる自分の意見や判断がない。
④グループワークにおいて役割を遂行する力（貢献力）	秀	グループ活動の中で、自発的に貢献し、リーダーシップを発揮できる。
	優	グループ活動の中で、自発的に貢献できるがリーダーシップを発揮するに至らない。
	良	グループ活動に、自発的にグループワークに貢献できるが不十分である。
	可	グループワークに、与えられた事柄については貢献できる。
	不可	グループワークに貢献できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	15	40	0	0	5	100
評価項目	①教養	30	5	20	0	0	2	57
	②論理的思考力	10	0	10	0	0	1	21
	③表現力	0	10	5	0	0	1	16
	④貢献力	0	0	5	0	0	1	6

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末試験（レポート）
	②		
	③	✓	
	④		
提出物	①	✓	マナバでの小テストや課題提出
	②		
	③	✓	
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	グループ・プレゼンテーション発表の内容・発表時の態度
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	✓	授業参加への能動的な姿勢
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・能動的な学習態度
- ・高校での化学基礎の知識
- ・復習と課題提出
- ・報道や日常生活から化学に関することを探す姿勢

教科書・参考書

教科書：指定しない。
参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
人体のふしぎ (F12200)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	岩越美恵	7号館3階 研究室他
人体ってホントに不思議								複数担当	
科目担当者	岩越美恵、井本しおん、森松伸一、足立了平、新谷路子、杉山育代、田村周二								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、情報力、貢献力
授業の概要	人体の構造と機能に関する解剖学や生理学といった学問への体系導入前に、人体のしくみとはたらしの合目的な「からだの不思議」を知る。授業は、コンピューターグラフィック (CG) を利用した視覚教材を用いて、生命活動を営む神秘に触れる。また、不思議を自ら探り、そのテーマについてグループで学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	脳と心 グループでの振り返り (担当者：岩越)	【予習】 シラバスを読んでおく 【復習】 学習の振り返りと資料収集
第2回	体をめぐる酸素と栄養の運搬人～血液～ グループでの振り返り (担当者：井本)	【予習】 テーマに関する資料収集 【復習】 学習の振り返りと資料収集
第3回	からだを守るしくみ グループでの振り返り (担当者：森松)	【予習】 テーマに関する資料収集 【復習】 学習の振り返りと資料収集
第4回	尿からわかる体のあれこれ グループでの振り返り (担当者：新谷)	【予習】 テーマに関する資料収集 【復習】 学習の振り返りと資料収集
第5回	口腔のふしぎ グループでの振り返り (担当者：足立)	【予習】 テーマに関する資料収集 【復習】 学習の振り返りと資料収集
第6回	食物の消化吸収と壮大な化学工場～胃・腸・肝臓～ グループでの振り返りと発表テーマの決定 (担当者：杉山)	【予習】 テーマに関する資料収集 【復習】 学習の振り返りと資料収集
第7回	体のしなやかなポンプとホース～心臓・血管～ グループでの振り返り (担当者：田村)	【予習】 テーマに関する資料収集 【復習】 学習の振り返りと資料収集
第8回	7つのテーマ別グループ発表 (担当者：岩越他)	【予習】 グループ発表の準備 【復習】 学習の振り返り

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・医療、教育職の基礎である、人体のしくみと働きのふしぎに興味を持って知ろうとする。 ・授業で得た知見を基に自分でさらに関心のある情報を収集し、整理、分析、活用できる。 ・各授業の終わりに、今日の知見をグループで一つにまとめる作業に貢献できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ることに、 楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
②思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果をたしやと共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析・活用できない。
③グループの仲間の役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができる (貢献力)	秀	かなり自発的に仲間に貢献できる。それにより仲間のモチベーションを高めることもできる。また自分の公権力を社会に還元することもできる。
	優	かなり自発的に仲間に貢献できる。それにより仲間のモチベーションを高めることもできる。
	良	ある程度自発的に仲間に貢献できる。
	可	他者から指示されれば、仲間に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		35	20	20	0	25	0	100
評価項目	①知欲	35	10	0	0	10	0	55
	②情報力	0	0	10	0	15	0	25
	③貢献力	0	10	10	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓
	②	
	③	
提出物	①	✓
	②	
	③	✓
成果発表 (口頭・実技)	①	
	②	✓
	③	✓
ポートフォリオ	①	✓
	②	✓
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・真理探究、人間探究への好奇心
- ・個性ある学びを仲間のために活かしあう社会性

教科書・参考書

教科書：特に指定しない

参考書：『人体のふしぎ 講談社の動く図鑑 WONDER MOVE』

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
現代社会と生命科学 (F12210)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	松元英理子	2号館3階 研究室
生命科学の時代をいきる知恵								単独担当	
科目担当者	松元英理子								

関連ときわ コンピテンシー	教養、論理的思考力、批判的思考力、表現力、貢献力
授業の概要	21世紀は生命科学の時代と言われ、生命現象の謎が次々と解明され、新しい技術が開発されています。そしてそれらの技術は科学者だけのものではなく、社会と深く関わりを持ち、私たちの生活にも影響を与えています。私たちは、生命科学の技術を楽しむかどうか、一人一人が判断を迫られる時代に生きているのです。この科目では、現在話題となっている生命科学のニュースを取り上げ、まずそれらを理解するための生命科学の基礎知識を学び、次に正しい知識を基に自分自身に関わりのある問題として考えることを目的とします。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス、生命科学のニュース 生命科学の基礎の基礎：ヒト～細胞～遺伝子	
第2回	テーマ①消費者直結型遺伝子検査（ネットで気軽に遺伝子検査？） 遺伝子と疾患のかかわり、遺伝子でわかること	【復習】manaba 小テスト
第3回	テーマ②新型出生前遺伝子診断（お母さんの血液で出生前診断？） 遺伝子と染色体、染色体異常	【復習】manaba 小テスト
第4回	テーマ③遺伝子組み換え食品（あなたは食べている？） 遺伝子を書き換える	【復習】manaba 小テスト
第5回	テーマ④再生医療（iPS細胞って？） 細胞の運命～増殖・分化・死・再生	【復習】manaba 小テスト
第6回	グループワーク： テーマ選択とグループ討議	【予習】グループワーク情報収集
第7回	グループワーク： グループ討議と発表準備（ポスター作成）	【予習】グループワーク情報収集
第8回	グループ発表・質疑応答 ふりかえり	【予習】発表準備

学修の到達目標	
1) 現在、話題となっている生命科学のニュースおよびその問題点について	①ニュースを理解するための基礎的な生命科学の知識を理解し身につける。 ②論理的・批判的に考察できる。 ③グループワークを通して自己と他者の考えを対比させ・まとめ・表現できる。
2) グループワークに貢献できる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①生命科学のニュースを理解するための基礎知識を理解しに見つける力。 (教養)	秀	必要な知識を満足できる水準を超えて理解し身につけている。さらに自主的な学修で知識を拡げることができる。
	優	必要な知識を十分満足できる水準にまで理解し身につけている。
	良	必要な知識を理解し身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、必要最低限の知識は理解し身につけてはいる。
	不可	必要な知識を理解し身につけることができていない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
②生命科学のニュースに対し、論理的に思考する力 (論理的思考力)	秀	学んだ知識に基づき、独自の視点をもって論理的に思考することができる。
	優	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができ、満足できる水準に達している。
	良	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができる。
	可	学んだ知識に基づき、論理的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができない。
③生命科学のニュースに対し、批判的に思考する力 (批判的思考力)	秀	物事を十分多角的にとらえ、独自の視点をもって批判的に思考することができる。
	優	物事を多角的にとらえ、批判的に思考することができ、満足できる水準に達している。
	良	物事を多角的にとらえ、批判的に思考することができる。
	可	物事を多角的にとらえ、批判的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	物事を多角的にとらえたり、批判的に思考することができない。
④グループワークを通して自己と他者の意見を対比させ、まとめ・表現する力 (表現力)	秀	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・独自の視点をもってわかりやすく表現できる。
	優	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・表現でき、満足できる水準に達している。
	良	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・表現できる。
	可	自己と他者の意見を対比させることはできるが、それをまとめ・表現することは努力を要する。
	不可	自己と他者の意見を対比させて思考することができない。
⑤グループワークに貢献する力 (貢献力)	秀	自発的にグループワークに貢献し、周囲のモチベーションを高め、リーダーシップを発揮できる。
	優	自発的にグループワークに貢献し、周囲のモチベーションを高めることができる。
	良	自発的にグループワークに貢献できる。
	可	他者から指示されれば、グループワークに貢献することができる。
	不可	グループワークに貢献することができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		45	45	5	0	0	5	100
評価項目	①知識を理解し身につける力	20	20	0	0	0	0	40
	②論理的思考力	15	5	0	0	0	0	20
	③批判的思考力	10	5	0	0	0	0	15
	④意見をまとめ表現する力	0	15	5	0	0	0	20
	⑤グループワークに貢献する力	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験を実施します。ノート・講義資料の持ち込み可。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
提出物	①	✓	1) 基礎知識の復習を目的とした manaba 小テスト。講義資料やノートなどを見ながら答えてください。 2) グループワーク課題：提示する生命科学のニュースから一つ選択し、グループの意見をまとめる。(ニュースに対する意見のまとめなど)
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		グループワーク課題のプレゼンテーション
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤		
その他	①		グループワークへの参加度・積極性 ふりかえり
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- 1) 生命科学の基礎は、高等学校の「生物基礎」の復習レベルから始めますが、高等学校で生物学を十分に学んでこなかった方は、新しい知識を取り込む意欲をもって臨んでください。
- 2) メディアに取り上げられる生命科学のニュースに興味を持ってください。

教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
安全学 (F12220)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	伴仲謙欣	5号館 学術推進課 他
いのちを支える専門職を目指す								複数担当	
科目担当者	伴仲謙欣、金千秋、西岡伸紀*、鍵本敦、伴俊作、柴山慶太、本田英理								

関連ときわ コンピテンシー	情報力、判断力、責任感
授業の概要	現代社会に生きる私達は、「いつでも」「どこでも」「誰でも」災害に遭う可能性があります。天災(地震、火山爆発、台風、大雨、洪水等)ばかりでなく、人災(テロ、事故等)に備えることが求められます。いのちを支える専門職を目指すためには、幅広い視点から「安全」について学び、その実践的な教養を身に付けておくことが大切でしょう。一人ひとりが「自分のいのちは自分で守る」ための知識、技術、価値観を持たなければなりません。本講義は、地域の講師陣によるオムニバス形式で実施します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション・安全についての基礎理解 (担当者：伴仲)	【予習】 シラバスの確認 【復習】 本時の振り返り
第2回	1.17 から考えるいのちと安全：阪神・淡路大震災は、大きな課題と教訓を残した。コミュニティでのいのちと安全を専門家から学びます。(担当者：金)	【予習】 シラバスの確認 【復習】 本時の振り返り
第3回	人間から考える安全：学校における安全教育を通し、環境整備(教材、養成、研修、体制等)について、教育の専門家より学びます。(担当者：西岡)	【予習】 シラバスの確認 【復習】 本時の振り返り
第4回	地域・歴史から考える安全：私達は、いつでも、どこでも、誰でも災害に遭う可能性がある。災害からの安全を、専門家より学びます。(担当者：鍵本)	【予習】 シラバスの確認 【復習】 本時の振り返り
第5回	産業・企業における安全：組織(企業・経営・CSR)、システム(マネジメント・保守管理・安全活動)の安全を学びます。(担当者：伴)	【予習】 シラバスの確認 【復習】 本時の振り返り
第6回	社会制度(法律)から考える安全：私達が、社会制度(保険・裁判・刑法・試験)により守られている安全を、専門家より学びます。(担当者：柴山)	【予習】 シラバスの確認 【復習】 本時の振り返り
第7回	社会から考える安全：社会には無数の危険がある。生きる上で必要な情報についての危機管理と安全について、専門家より学びます。(担当者：本田)	【予習】 シラバスの確認 【復習】 本時の振り返り
第8回	まとめと発展：これまで学んできた内容について、の振り返り(担当者：伴仲)	【予習】 シラバスの確認 【復習】 本時の振り返り

学修の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のいのちは自分で守る(自助)、地域のいのちは地域で守る(共助)、さらに、多様な価値を互いに認め合い、支え合う(公助) ことについて自分事として捉えることができる。 ・幅広い視点から「安全」を考え、主体的に行動できる専門職業人を目指す。 ・自分や他者の「いのち」が、かけがいのない大切なものだと実感できるようになる。 	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①情報力 (情報力)	秀	安全に必要な情報を自主的に収集・整理・分析・活用し、他者に伝えることができる。
	優	安全に必要な情報を自主的に収集・整理・分析し、活用することができる。
	良	安全に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。
	可	安全に必要な情報を収集・整理・分析し、最低限活用することができる。
	不可	安全に必要な情報を自主的に収集・整理・分析できるが、活用することができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②判断力 (判断力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。
③責任感 (責任感)	秀	常に安全に留意し、職業人としての責任を持ち物事に臨み、他者にも伝えられる。
	優	常に安全に留意し、職業人としての責任を持ち物事に臨むことができる。
	良	安全に留意し、職業人としての責任を持ち物事に臨むことができる。
	可	安全に留意し、責任を持ち物事に臨むことができる。
	不可	安全に留意し、責任を持ち物事に臨むことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		45	45	0	0	0	10	100
評価項目	①情報力	15	15	0	0	0	0	30
	②判断力	15	15	0	0	0	0	30
	③責任感	15	15	0	0	0	10	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓
	②	✓
	③	✓
提出物	①	✓
	②	✓
	③	✓
その他	①	
	②	
	③	✓

履修に必要な知識・技能・態度など
・大学生としての自覚と学問に対する興味・関心を持ち、地域の講師陣に対して積極的に学ぶ姿勢で臨むこと
教科書・参考書
教科書：指定なし 参考書：適宜紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
人類と農学 (F12230)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	大菅誠司	7号館2階 非常勤講師 控室
私たちの周りは農学でいっぱい!								単独担当	
科目担当者	大菅誠司								

関連ときわ コンピテンシー	教養、常識力、批判的思考力、知欲、探究力、表現力、責任感、貢献力
授業の概要	私たち人類は外部から栄養をとらなければなりません。そのためには植物や動物、微生物のことを知っておく必要があります。それらを利用・応用しているのが農業です。さらに農業における環境も重要です。農学にはいのちに大事なことがいっぱい詰まっています。一緒に詳しく見ていきましょう。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 農学とはどのような領域の学問か、全体像を理解する。	【予習】 シラバスの熟読 【復習】 農業についてのクイズ
第2回	農業はいつから始まったか。現在の農業について。 人間と農業とのかかわり。植物について。	【予習】 農業の歴史、現在の農業 【復習】 農業についてのクイズ
第3回	作物について。作物の種類・栽培について。	【予習】 作物の種類 【復習】 農業についてのクイズ
第4回	花卉について。花の種類・栽培、繁殖方法について。	【予習】 花の増殖、栽培法 【復習】 農業についてのクイズ
第5回	野菜について。野菜の種類・栽培について。	【予習】 野菜の種類 【復習】 農業についてのクイズ
第6回	植物バイオについて。植物組織培養とは。	【予習】 植物バイオと農業 【復習】 農業についてのクイズ
第7回	今までの補足。 これまでの講義内容について自分なりに考えたことの学生による発表。	【予習】 講義を受けての発表 【復習】 農業についてのクイズ
第8回	これまでの講義内容について自分なりに考えたことの学生による発表。 まとめ。	【予習】 講義を受けての発表 【復習】 課題研究提出

学修の到達目標	
履修者は、自分が生きていく上で必要な栄養が周りの植物に由来していることがわかる。さらに、人間と農業の関わりもわかる。 将来いのちを預かる職業に就いたとき、それに必要な教養・常識力・探求力・責任感を修得できる。	

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①農学に関する基本的知識を修得することができる。 (常識力)	秀	授業内で説明する農学分野についての基本的知識の修得について満足できる水準を超えて理解し、異分野との知識も併せて理解を深め、さらにこれからの農学についても自分で考えることができる。
	優	授業内で説明する農学分野についての基本的知識の修得について満足できる水準を超えて理解し、異分野との知識も併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で説明する農学分野についての基本的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で説明する農学分野についての基本的知識を満足できる水準までほぼ修得していることが認められる。その理解を深める過程での努力は認められる。
	不可	授業内で説明する農学分野についての基本的知識を満足できる水準まで修得しておらず、その理解を深める過程での努力も認められない。
②人間と農業のかかわりあい理解できる。 (教養)	秀	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解することができる。さらにこれからの農業の課題を発見し、自分の考えを提案・発表できる。
	優	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解することができる。さらにこれからの農業の課題を発見でき、問題点を考えられる。
	良	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解することができる。さらにこれからの農業の課題を発見でき、いくらかは問題点を考えられる。
	可	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解することができる。
	不可	授業内で学んだ農業の知識を自分たち人間とのかかわりあいの中で具体的に理解できていない。
③花や野菜の栽培法が理解できる。 (探究力)	秀	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の種類についても興味を示し、自発的に調べ理解している。実際に栽培できる知識を得ている。
	優	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の種類についても興味を示し、自発的に調べ理解している。
	良	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の種類についても興味を示している。
	可	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準まで理解している。
	不可	授業内で学んだ花や野菜の一般的栽培法を満足できる水準まで理解していない。
④バイオと農業とのかかわりが理解できる。 (探究力)	秀	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の具体例についても興味を示し、自発的に調べ理解している。また課題を発見し、自分の考えを提案・発表できる。
	優	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の具体例についても興味を示し、自発的に調べ理解している。
	良	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準を超えて理解し、さらに個別の具体例についても興味を示し、自発的に調べている。
	可	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準まで理解している。
	不可	授業内で学んだ農業分野のバイオの一般的知識を満足できる水準まで理解していない。
⑤自分の考えをまとめて発表できる。 (表現力)	秀	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準を超えて理解し、異分野の知識と併せてまた自分で調べたことも踏まえ将来への農学・農業について提案・発表できる。
	優	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準を超えて理解し、自分で調べたことも踏まえ将来への農学・農業について提案・発表できる。
	良	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準を超えて理解し、自分でまとめて農学・農業について発表できる。
	可	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準まで理解し、自分でまとめて農学・農業について発表できる。
	不可	授業内で学んだ農学・農業について満足できる水準まで理解できておらず、自分でまとめて農学・農業について発表できない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	20	0	10	0	100
評価項目	①農学に関する基本的知識の修得	15	5	0	0	0	0	20
	②農業を身近なものとして考える	15	0	0	0	5	0	20
	③花や野菜の栽培法がわかる	15	5	0	0	0	0	20
	④バイオを生活に即して考える	15	0	0	0	5	0	20
	⑤学習のまとめ・発表力	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験では、授業で学んだことがよく理解できているかを見る。 試験では、単に覚えたのではなく、自分たちの問題としてとらえられているか判断する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業で農業に関する小テストを行う。 これにより、出席点にも連動する。 予習、復習、授業内容などのノートを提出する。 今回の授業で学んだこと、考えたこと、なども記述し提出する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		最後の授業で、自分なりのまとめをパワーポイントで発表する。 全員による質疑応答の時間も設ける。 (履修者人数により発表時間・日程を変更することがある)
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①		予習、復習、授業内容などのノートを提出する。 今回の授業で学んだこと、考えたこと、なども記述し提出する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

植物、農業、食品、環境などに興味を持っていれば理解が深まる。不必要な私語は慎むこと。

教科書・参考書

教科書：必要性が出てきたときに随時紹介する。

参考書：必要性が出てきたときに随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
プログラミング入門 (F12240)	演習	1	15	1 2	後期	選択必修	—	関雅幸	7号館4階 研究室
コンピュータが行う手順を考えよう!								単独担当	
科目担当者	関雅幸								

関連ときわ コンピテンシー	論理的思考力、デザイン力、情報力、貢献力
授業の概要	<p>「プログラミング」技術の基礎を習得する。 プログラミングとはプログラミング言語を使って、コンピュータに行わせたい仕事の手順を記述することである。 今後、人工知能が著しく進化して、仕事のやり方が変わることが予測される社会において、コンピュータに何をやらせるかを考えることができる思考を持つことが重要となる。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Scratch を使う準備、Scratch の基本	【予習】 シラバスの内容の熟読 【復習】 疑問点を確認する
第2回	プログラムの流れを知る	【予習】 ここで学ぶ事柄を資料で確認する 【復習】 うまくできないところを再考する
第3回	変数・配列について	【予習】 ここで学ぶ事柄を資料で確認する 【復習】 うまくできないところを再考する
第4回	構造化プログラミングについて	【予習】 ここで学ぶ事柄を資料で確認する 【復習】 うまくできないところを再考する
第5回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅰ：概要を決め、コードを書く	【予習】 どんなものを作るか考える 【復習】 終わらない部分を作る
第6回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅱ：問題点の抽出、改善	【予習】 問題点を考える 【復習】 不十分な点がないか考える
第7回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅲ：テストそして改善	【予習】 テストする項目を考える 【復習】 不十分な点がないか考える
第8回	プログラムのチェック・まとめ	【予習】 改善のために策を考える 【復習】 不十分な点がないか考える

学修の到達目標
<p>プログラム作成を通じてコンピュータに自分が実行させたいことを表現する方法を身につける。 グループワークに貢献する。</p>

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①コンピュータに行わせたいことを論理的に考える力 (論理的思考力)	秀	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えることができ、満足できる水準を超えている。
	優	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えることができ、満足できる水準に達している。
	良	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えることができる。
	可	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えようとする努力が認められる。
	不可	コンピュータに行わせたいことを、コンピュータが実行できる手順に置き換えることができない。
②様々な考えや知識を統合して課題の解決策をデザインすることができる (デザイン力)	秀	様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、満足できるレベルを超えている。
	優	様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分満足できるレベルである。
	良	ある程度様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインしようとする努力が認められる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
③誰かの役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができる (貢献力)	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。
	優	十分に自発的に周囲に貢献できる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	周囲に対して何らかの貢献をしようとする努力が認められる。
	不可	貢献への積極性がない。
④授業で学び、感じたことをまとめることができる (情報力)	秀	学んだこと・感じたことを十分にまとめることができ、他者が参考にできるレベルにある。
	優	学んだこと・感じたことを十分にまとめることができる。
	良	学んだこと・感じたことをまとめることができる。
	可	学んだこと・感じたことを不十分ではあるが、まとめることができる。
	不可	学んだこと・感じたことをまとめることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	30	0	40	0	0	100
評価項目	①論理的思考力	0	0	0	20	0	0	20
	②デザイン力	15	0	0	20	0	0	35
	③貢献力	15	0	0	0	0	0	15
	④情報力	0	30	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		レポート試験
	②	✓	
	③	✓	
	④		
提出物	①		1枚まとめ
	②		
	③		
	④	✓	
作品	①	✓	プログラム
	②	✓	
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

コンピュータに関する基本的な知識があり、コンピュータに行わせたい課題に対して興味・関心がある。

教科書・参考書

教科書：『Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本』 中植正剛他 著 日経BP社

参考書：『楽しく学ぶ アルゴリズムとプログラミングの図鑑』 森巧尚 著 まつむらまきお（イラスト） マイナビ出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
日本国憲法 (F12250)	講義	2	30	1 2	前期	選択	保育選択必修 幼教免必修 小教免必修	柴山慶太	7号館2階 非常勤講師 控室
権利と自由を守るために								単独担当	
科目担当者	柴山慶太								

関連ときわ コンピテンシー	情報力、表現力、論理的思考力、批判的思考力、判断力
授業の概要	<p>憲法の役割を考察した上で、日本国憲法の人権規定の部分を中心に概説する。</p> <p>公共の福祉の意義、精神的自由と経済的自由の違い、違憲審査基準を学習した後、判例を分析しながら各人権規定を確認していく。統治、平和主義、憲法改正などについても触れる予定である。</p> <p>グループワークは、講義の予習とその発表という形で取り入れる予定ではあるが、毎回ではなく、基本は講義形式となる。とはいえ、講義の中ではできるだけ皆で考える機会を作り、対話形式の授業にしたいと考えている。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	【オリエンテーション、グループ分け、憲法とは何か】 提示された判例を元に、共通点を考える。社会契約論についても触れる。	【復習】教科書の読解
第2回	【公共の福祉】 人権制約の必要性とその根拠について、具体例を元に考える。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第3回	【憲法の構造】 個人の尊厳を中心とする人権規定と、これを支える統治機構について概観する。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第4回	【精神的自由概要】 精神的自由と呼ばれる人権にはどのようなものがあるか、概観する。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第5回	【経済的自由概要】 経済的自由と呼ばれる人権にはどのようなものがあるか、概観する。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第6回	【二重の基準】 精神的自由と経済的自由で、なぜ違憲審査基準を異にすべきであるのか考える。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解
第7回	【これまでの復習】	【復習】教科書の読解
第8回	【精神的自由各論】 19条、21条について、判例を元に検討する。	【復習】教科書の読解
第9回	【経済的自由各論】 22条、29条について、判例を元に検討する。	【復習】教科書の読解
第10回	【平等権】 14条の平等の意味、違憲審査基準を考える。	【復習】教科書の読解
第11回	【その他の人権】 生存権など、その他の人権について概観する。	【復習】教科書の読解
第12回	【司法権の役割、憲法訴訟のルール】 司法権の役割を知り、なぜ合憲限定解釈などのルールがあるのかを考える。	【復習】教科書の読解
第13回	【統治（立法権、行政権）】 国会、内閣の役割と権力分立構造を見る。なぜ代表民主制が必要か検討する。	【復習】教科書の読解
第14回	【平和主義】 平和主義について、政府見解・判例分析などを通じて検討する。	【復習】教科書の読解
第15回	【憲法改正、まとめ】 政府の憲法改正案について、これまでの知識を使って、その是非を議論する。	【予習】グループ作業 【復習】教科書の読解

学修の到達目標

憲法が保障する自由、権利がどのようなものであるかを理解し、これを保持するために何をしなければならないかを知る。
 憲法の各規定を、実際の生活でどう活用できるかを考えることができるようになる。
 憲法改正について、その内容の是非を判断できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①基本的知識の修得 (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
②修得して知識の表現力 (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる十分な能力を持っている。ある程度理解しやすい。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
③表現の中での論理的思考力 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④反対意見に配慮した批判的思考力 (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
⑤自分の考えを述べる判断力 (判断力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①基本的知識の修得	30	20	0	0	0	0	50
	②修得した知識の表現力	10	0	0	0	0	0	10
	③表現の中での論理的思考力	10	10	0	0	0	0	20
	④反対意見に配慮した批判的思考力	10	0	0	0	0	0	10
	⑤自分の考えを述べる判断力	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	ノート・講義資料持ち込み可の定期試験と持ち込み不可の小試験
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	レポートや小論文課題
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

前知識なしで理解できるように平易に解説をするつもりであるが、論理は基礎から積みあがっていくものであるため、復習（授業で終わった部分について教科書を読む）を中心に学習して欲しい。

教科書・参考書

教科書：憲法の条文を用意（インターネットのe-Govサイトや図書館の六法など）して、授業に持ってきてください。

参考書：『憲法』 芦部信義、岩波書店（現在、第6版ですが、旧版でも構いません。）

『プレップ憲法』 戸松秀典、弘文堂（現在、第4版ですが、旧版でも構いません。）

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
哲学 (F12260)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	中野康次郎	7号館2階 非常勤講師 控室
「哲学する」ことを学ぶ								単独担当	
科目担当者	中野康次郎								

関連ときわ コンピテンシー	論理的思考力、批判的思考力、表現力
授業の概要	「人は哲学を学ぶことはできない……ただ哲学することを学ぶだけである。」(カント) 哲学すること、それは先人たちが考えてきたこと(=知識)を頭のなかに詰め込む作業ではない。授業で取り扱う予定の様々な問題の検討を通じて、自分の頭で考えること、すなわち哲学することを、受講者の皆さんと共に学んでいきたい。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「哲学」とは	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 授業中に配布した資料の熟読
第2回	「愛」に理由はあるか	【予習】 次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】 授業中に配布した資料の熟読
第3回	「美」は事実か趣味か	【予習】 次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】 授業中に配布した資料の熟読
第4回	万引きが「悪い」行為なのはなぜか	【予習】 次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】 授業中に配布した資料の熟読
第5回	嘘をつくことはいつも悪いことか	【予習】 次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】 授業中に配布した資料の熟読
第6回	動機と結果のどちらを重視すべきか	【予習】 次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】 授業中に配布した資料の熟読
第7回	どんな考え方も尊重しなければいけないのか	【予習】 次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】 授業中に配布した資料の熟読
第8回	まとめ	【予習】 次回のテーマに関する資料の熟読 【復習】 授業中に配布した資料の熟読

学修の到達目標	
受講者は、正解が無いかもしれないような問題について、自分の頭で考えることができるようになる。また、その考えた内容を、わかりやすく表現することができるようになる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 様々なテーマについて、問題点を論理的に考察する事が出来る。 (論理的思考力)	秀	与えられた資料を十分論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、問題点を整理して考察することができる。
	優	与えられた資料を論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、問題点を考察することができる。
	良	与えられた資料をある程度は論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、何が問題になっているのかを理解することができる。
	可	与えられた資料をある程度は論理的に読解することができる。
	不可	論理的に考えることができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②自分とは異なる立場の考え方を理解し、自分の考え方を批判的に反省することが出来る。 (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③自分の考えを、立場が異なる相手に対して、説得力のある仕方で論理的に表現できる。 (表現力)	秀	自分の考えを論理的に表現することができ、また他者を納得させるようその表現方法の工夫が十分に認められる。
	優	自分の考えを論理的に表現することができ、また他者を納得させるようその表現方法の工夫が認められる。
	良	自分の考えを論理的に表現することができる。
	可	自分の考えを論理的に表現しようとする努力が認められる。
	不可	自分の考えを論理的に表現しようとする努力が認められない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	40	0	0	0	0	100
評価項目	①論理的に思考する	15	10	0	0	0	0	25
	②自分の考えを批判的に反省する	30	20	0	0	0	0	50
	③他者に対する表現	15	10	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓ 期末試験を実施します。
	②	✓ 授業で学んだ様々な考え方などを活用しながら、期末試験のテーマ(未定)についての資料を読み込み、問題点を整理し、説得力のある仕方で自分の考えを書くことが求められます。
	③	✓
提出物	①	✓ 毎回の授業で、与えられたテーマについて自分の考えを書いて提出してもらいます。これは期末試験へ向けてのトレーニングでもあります。
	②	✓ この課題(毎回自分の考えを書くこと)の目的は、問題点を整理し、自分とは異なる考え方も十分理解した上で、論理的に自分の考えを文章にまとめる力をつけていくことです。このことを踏まえた上で、毎回の授業に真剣に参加しているかどうかの評価のポイントとなります。
	③	✓

履修に必要な知識・技能・態度など

この講義は、これまで考えたことが無いであろう様々な問題を受講者に考えてもらうことを目的としています。それゆえ特別な予備知識は要求しませんが、「考える」ことは要求します。
 考えたり文章を書いたりする事が苦手な方にとっては、この講義はかなりの「苦行」になると思われます。そのことを踏まえた上で受講して下さい。
 なお、受講希望者が多い場合、抽選になることがあります。

教科書・参考書

教科書：資料を授業中に配布します。
 参考書：必要に応じ、適宜授業中に紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
生命と倫理 (F12270)	講義	2	30	1 2	後期	選択必修	—	上田國寛	7号館2階 研究室他
生命の支援に必要な厳しさと優しさ								複数担当	
科目担当者	上田國寛、児玉正幸								

関連ときわ コンピテンシー	人間力、批判的思考力、表現力
授業の概要	近年の生命科学と医療技術の目覚ましい発展により、「いのちのサポーター」である医療従事者や教育者に倫理的決断を求められる状況が現実のものとなってきた。生殖補助医療や臓器移植などの先進医療から障害者支援や社会保障など日常的な社会活動にまで深く関わる生命倫理的配慮の重要性について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	医学と倫理…いのちの尊厳、死生観、科学と宗教 <小論文課題> (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第2回	新生命倫理学入門…定義、研究対象、方法 (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第3回	生命倫理学入門…定義、研究対象、誕生略史、方法 (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第4回	医事法学入門…生命の終わりとの判明、ヒトの生命の発生、ヒトと胎児の始まりの定義、選択的人工妊娠中絶、選別出産 (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第5回	生殖補助医療…人工授精、体外受精、代理母 (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第6回	性と倫理…性的少数者(LGBTQ)の現状と課題 (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第7回	終末期医療(1)と倫理…終末期医療の現状と課題(担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第8回	日本医学と倫理…(第1段階)原始時代の経験的医療、(第2段階)古代の呪術的魔術的医療、(第3段階)中国伝統医療、(第4段階)南蛮・紅毛医療、(第5段階):19C以降の自然科学的医療 (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第9回	終末期医療(2)と倫理…終末期医療改善策の検討(担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第10回	終末期医療(3)と倫理…平穏死の権利、平穏死を支える看護 (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第11回	東洋医学(代替医療)と倫理…漢方薬(薬物療法)、鍼灸、薬膳、按摩、気功 (担当者：児玉)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第12回	再生医療…細胞移植、組織移植、ES細胞、iPS細胞、“STAP細胞” (担当者：上田)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第13回	遺伝子診断…出生前診断、遺伝カウンセリング・3省指針 (担当者：上田)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第14回	薬害と臨床試験…薬効と副作用、サリドマイド禍、エイズ禍、臨床試験(治験) (担当者：上田)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ
第15回	公害と労働災害…企業と行政の責任。環境破壊、石綿禍、災害障害 (担当者：上田)	【予習】前(々)日の新聞を通覧 【復習】講義資料のまとめ

学修の到達目標

倫理的に問題のある種々の事態を速やかに感知し、自分のとるべき適切な対応を決定できるようになること。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①個人として、また社会の構成員として高い倫理観を身につける力 (人間力)	秀	高い倫理観の下に何らかの是正策を構想・提言する。
	優	問題の内容や原因を調べて自分の考えを確立する。
	良	問題に対する自分の立ち位置を決めることができる。
	可	問題の存在には気付くが、何をすべきか自分の考えがまとまらない。
	不可	問題の存在に気付かない。
②種々のニュースに内在する倫理的問題点に対し、批判的に思考する力 (批判的思考力)	秀	日常的な社会活動の中に多くの倫理的課題の存在を感じる。
	優	複雑な物事の倫理判断ができる。
	良	単純な物事の倫理判断ができる。
	可	物事の適否は大体分かるが、倫理的配慮ができない。
	不可	物事の状況判断が全くできない。
③個人およびグループの考えを正しくかつ簡潔な表現で伝える力 (表現力)	秀	正確で分かりやすい言葉で表現できる。
	優	正しい表現はできるが、やや冗長である。
	良	断片的な言葉遣いであるが、意味は通じる。
	可	語彙が貧困で適切な表現ができない。
	不可	考えが言葉としてまとまらない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	15	15	0	0	0	100
評価項目	①高い倫理観	50	5	5	0	0	0	60
	②批判的思考力	10	5	5	0	0	0	20
	③適切な表現力	10	5	5	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	ノート・講義資料持ち込み可の定期試験と持ち込み不可の小試験
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	レポートや小論文課題
	②	✓	
	③	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	コメント・シートの積極的活用
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

初回授業の前日と前々日の新聞（朝日、毎日、読売、産経、神戸のどれでもよい）に目を通しておくこと。日常目にするマスコミ情報の中から生命倫理に関するものを集め（新聞の切り抜き、インターネット情報など）、レポートや小論文課題の資料とすること。

教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：『医療倫理学の方法：原則・手順・ナラティブ』宮坂道夫著 医学書院

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
芸術文化論 (F12280)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	高松邦彦	7号館2階 研究室他
スペシャルプレゼントセミナー ～本当の教養人になろう!～								複数担当	
科目担当者	高松邦彦、富士莊貴、久元喜造、真弓明信、佐竹隆幸、善竹隆司、桂かい枝、三代澤康司								

関連ときわ コンピテンシー	教養、知欲、省察力
授業の概要	<p>最近、グローバル化 (globalization) という言葉をよく耳にします。これは、さまざまなものが国家間を超えて行き来することを意味しています。これに象徴されるように、世界は急速に身近なものになりつつあります。身近な例では、日本への外国人観光客が増え、また在留外国人も増加傾向にあることがあげられます。今後私たちは外国の方々と触れ合う機会がますます増えていくことが予想されます。そのような中で私たち日本人に求められるのは、改めて「日本とはどういう国か?」と問い直されることです。あなたは一体この国のことをどのくらい外国の方に話すことができますか? 「日本の伝統文化とは何か?」「古来日本人が感じる美とは何か?」こういった問いに答えることができはじめて“教養がある”と言えるのでしょうか。このような教養は、特に海外の人たちの中で話す際には重要です。</p> <p>そこで神戸常盤大学は、普段聴くことのできないその分野の第一線で活躍されている方をお招きし、オムニバス形式で皆さんへ「スペシャルプレゼントセミナー」として提供することになりました。秀逸な方々の素晴らしいお話を聞いたり、実際に自分で体験したりすることで、教養を身につけてほしいと思います。</p> <p>なお、8回の授業のうちいくつかについては公開講座の形をとりますので、学外の方も受講することがあります。その点、ご了解ください。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「座禅」【富士莊貴 (明泉寺住職)】 6月6日(水) 4限目 ~ 禅の文化を肌で感じる ※座禅体験料 500円	【予習】 シラバスに目を通しておくこと 【復習】 ワークシートを用いて振り返り
第2回	「神戸の魅力を知る」【久元喜造 (神戸市長)】 6月13日(水) 4限目 (予定)	【復習】 ワークシートを用いて振り返り
第3回	「日本の野球 (スポーツ) 文化」【真弓明信 (プロ野球解説者)】 6月20日(水) 4限目 (予定)	【復習】 ワークシートを用いて振り返り
第4回	「(仮) 地域経済を知る」【佐竹隆幸氏 (兵庫県立大学名誉教授)】 6月27日(水) 4限目 (予定)	【復習】 ワークシートを用いて振り返り
第5回	「伝統芸能を知る①」【善竹隆司 (狂言師)】 7月4日(水) 4限目 (予定)	【復習】 ワークシートを用いて振り返り
第6回	「伝統芸能を知る②」【桂かい枝 (落語家)】 7月11日(水) 4限目 (予定)	【復習】 ワークシートを用いて振り返り
第7回	「日本の放送文化を知る」【三代澤康司 (朝日放送株式会社)】 7月18日(水) 4限目 (予定)	【復習】 ワークシートを用いて振り返り
第8回	まとめ 7月25日(水) 4限目 (予定)	【予習】 1～7回の授業を通して感じたこと・考えたことを1枚で表現する

学修の到達目標
授業でさまざまな話を聞き、また体験を通して、日本の伝統・歴史・文化により関心を持つことができるようになり、またそれらについて他者に対して自信を持って語るができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①日本の芸術文化についてより深く知ることができる。 (教養)	秀	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得しているだけでなく、自ら探究する中で日本の芸術文化について理解を深め、その内容が秀逸である。
	優	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得しているだけでなく、自ら探究する中で日本の芸術文化について理解を深めようとしている。
	良	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得している。
	可	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を修得しようと努力している。
	不可	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を得ようという努力が見られない。
②日本の芸術文化に対して関心を持って向き合うことができる。 (知欲)	秀	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができ、また授業で学んだことを超えて幅広く日本の芸術文化に対して認識を持ち、その認識が秀逸である。
	優	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができ、また授業で学んだことを超えて幅広く日本の芸術文化に対して認識を持つようになっている。
	良	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができている。
	可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えようとする姿勢が見て取れる。
	不可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えようとする姿勢が見られない。
③日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができる。 (省察力)	秀	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができ、さらに今後の自らの可能な関わりについて深く考えることができている。
	優	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができ、さらに今後の自らの可能な関わりについて若干ながら考えることができている。
	良	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができている。
	可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直す努力の過程が見て取れる。
	不可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直す努力の過程が見られない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	15	0	35	0	100
評価項目	①芸術文化に関する理解	20	0	5	0	10	0	35
	②芸術文化に対する関心	30	0	0	0	10	0	40
	③芸術文化に対する認識の反省	0	0	10	0	15	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	8回の授業の後にレポート試験を課します。 8回の授業を通して学んだことを踏まえ、自らの考えを述べてもらいます。
	②	✓	
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	8回目の授業で、1～7回の授業を通して感じたこと・考えたことを1枚で表したものを各自で作成してもらい、それをグループ内で発表し、共有する取り組みをしてもらいます。 各自で作成した作品の質について、教員及び学生相互で評価します。
	②		
	③	✓	
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業の後に振り返り票を作成し、次の授業に提出してもらいます。 授業を通して学んだこと、感じたこと、考えたことについて書いてもらいます。 ポートフォリオ評価では、その内容をループリックにしたがって公平に評価します。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

事前に必要な知識・技能はありません。

ただし、学外からゲストスピーカーの方々にはわざわざお越しいただきますので、真摯な態度で受講することを求めます。

教科書・参考書

教科書：なし

参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
文学 (F12290)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	藪葉子	7号館2階 非常勤講師 控室
生と死について考える文学								単独担当	
科目担当者	藪葉子								

関連ときわ コンピテンシー	教養、責任感、傾聴力・対話力、論理的思考力、表現力
授業の概要	日本の古典文学作品を通して、人間の生や死に対する考え方に触れる。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	『源氏物語』の登場人物の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】『源氏物語』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第2回	『源氏物語』の登場人物の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】『源氏物語』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第3回	『枕草子』に見える人間の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】『枕草子』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第4回	『枕草子』に見える人間の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】『枕草子』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第5回	日記文学に見える人間の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】古典の日記文学についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第6回	日記文学に見える人間の生死にまつわる場面に注目する。	【予習】古典の日記文学についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第7回	『徒然草』に書かれる人間の生死にまつわる作者の意見に注目する。	【予習】『徒然草』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出
第8回	『徒然草』に書かれる人間の生死にまつわる作者の意見に注目する。	【予習】『徒然草』についての基礎知識を持つ。 【復習】振り返り票の作成・提出

学修の到達目標	
文学作品の読解を通して、人間の生死について深く考えるきっかけを持つことができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①文学作品に関する基本的知識を習得することができる。 (教養)	秀	文学作品に関する知識について、自身でも積極的に調べ高い知識を修得できている。
	優	文学作品に関する知識について、自身でも積極的に調べ標準的な知識を修得できている。
	良	文学作品に関する知識について、自身でも調べ基礎的な知識を修得できている。
	可	文学作品に関する知識について、授業内容を理解している。
	不可	文学作品に関する知識について、授業内容を理解できていない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
②自らの生活に引き付けて文学作品を読むことができる。 (責任感)	秀	文学作品を自らの生活に引き付けて積極的に考え、論理的に思考をまとめることができる。
	優	文学作品を自らの生活に引き付けて積極的に考え、思考をまとめることができる。
	良	文学作品を自らの生活に引き付けて考え、自分の意見を持つことができる。
	可	文学作品を自らの生活に引き付けて考えている。
	不可	文学作品を自らの生活に引き付けて考えることができていない。
③文学作品の内容について、他者と議論することができる。 (傾聴力・対話力)	秀	文学作品の内容について他者と積極的に議論し、共に理解を深めることができる。
	優	文学作品の内容について他者と積極的に議論し、自分の理解を深めることができる。
	良	文学作品の内容について他者と議論し、自分の理解を持つことができる。
	可	文学作品の内容について他者と議論できている。
	不可	文学作品の内容について他者と議論できていない。
④文学作品のテキスト読解を行うことができる。 (論理的思考力)	秀	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を深く理解できている。
	優	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を理解できている。
	良	文学作品を注意深く読んでいる。
	可	文学作品の内容を理解している。
	不可	文学作品の内容を理解できていない。
⑤文学作品の内容について、他者に対して表現することができる。 (表現力)	秀	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現し、自分の考えをさらに深めることができる。
	優	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現することができる。
	良	文学作品の内容について、他者に対して表現することができる。
	可	文学作品について、他者に対して自分の意見を持つことができる。
	不可	文学作品について、他者に対して自分の意見を持つことができていない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	20	20	0	10	0	100
評価項目	①作品に関する基礎知識の修得	10	0	0	0	0	0	10
	②自らの生活に引き付けての考察	0	10	0	0	0	0	10
	③作品について他者と議論	0	0	10	0	0	0	10
	④文学作品の読解	20	0	0	0	5	0	25
	⑤他者に対する表現	20	10	10	0	5	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓
	②	
	③	
	④	✓
	⑤	✓
提出物	①	
	②	✓
	③	
	④	
	⑤	✓
成果発表 (口頭・実技)	①	
	②	
	③	✓
	④	
	⑤	✓
ポートフォリオ	①	
	②	
	③	
	④	✓
	⑤	✓

履修に必要な知識・技能・態度など

積極的に文学作品を読み、そこから学ぶ意識を持つことが求められる。

教科書・参考書

教科書：使用しない。

参考書：授業中に紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
日本通史 (F12300)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	片山正彦	7号館2階 非常勤講師 控室
畿内近国の中近世史								単独担当	
科目担当者	片山正彦								

関連ときわ コンピテンシー	教養、専門力、論理的思考力、批判的思考力、表現力
授業の概要	<p>鎌倉幕府の生まれた鎌倉時代、南北朝の対立のあった南北朝時代、室町幕府が確立した室町時代、各地に戦国大名が支配権を握った戦国時代を経て、織田信長と豊臣秀吉の統一政権によって権力の分立は克服され、荘園公領制も最終的には終焉を迎えることになる。中世社会は常に在地からの動きによって新たな社会の変動が生まれており、その在地の担い手は武士から村落の百姓に変化してゆき、そこを布教の対象とした宗教が重要な役割を果たした。古代から続く未開的な要素を基調としつつ、新たに生成した価値とが混交して日本列島の社会の今日の原型をつくりあげた時代と評価され、近世に至る。そしてこのころの社会・経済・文化の中心は、畿内近国（おおむね現在の近畿地方）である。</p> <p>本講義では、畿内近国の中近世の日本史を学ぶことによって、現在の日本の社会・経済・文化とどのようなつながりがあるのか、それを踏まえて今後どのように反映させていくのか、受講者自身が主体的に考えられるような授業を目指す。また、大学の所在する兵庫県や京阪神の歴史など、地域に関連した授業内容にしたい。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	・オリエンテーション ・授業内容について共通理解を図る。	【予習】 シラバスの内容の熟読 【復習】 授業内容に関わるアンケート記入
第2回	・おんな城主井伊直虎とその周囲	【予習】 配布レジュメの熟読 【復習】 小テストによる習熟度の確認
第3回	・丹波の戦国大名波多野氏の成長	【予習】 配布レジュメの熟読 【復習】 小テストによる習熟度の確認
第4回	・三田城主山崎片家の生涯	【予習】 配布レジュメの熟読 【復習】 小テストによる習熟度の確認
第5回	・篠山藩主松平康重の生涯	【予習】 配布レジュメの熟読 【復習】 小テストによる習熟度の確認
第6回	・江戸時代の淀川舟運と高槻・枚方	【予習】 配布レジュメの熟読 【復習】 小テストによる習熟度の確認
第7回	・淀川の洪水と河内平野	【予習】 配布レジュメの熟読 【復習】 小テストによる習熟度の確認
第8回	・北河内に残る引き札	【予習】 配布レジュメの熟読 【復習】 小テストによる習熟度の確認

学修の到達目標
<p>畿内近国の中近世の日本史に関する基本的・専門的知識の習得、歴史を論理的に捉え、かつ批判的で独創的な思考を持って、それを他者に伝える。結果、現在の日本の社会・経済・文化・自身の住んでいる地域とどのようなつながりがあるのか、それを踏まえて今後どのように反映させていくのか、受講者自身が主体的に考えられるようになる。</p>

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①歴史に関する基本的知識を修得することができる。 (教養)	秀	授業内で提示した基本的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深め、さらに歴史のあるべき姿について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示した基本的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示した基本的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示した基本的知識の修得が満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示した基本的知識の修得が満足できる水準まで修得しておらず、その努力の過程も認められない。
②歴史に関する専門的知識を習得することができる。 (専門力)	秀	授業内で提示した専門的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深め、さらに歴史のあるべき姿について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示した専門的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示した専門的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示した専門的知識の修得が満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示した専門的知識の修得が満足できる水準まで修得しておらず、その努力の過程も認められない。
③歴史に関する事象について、根拠に基づき論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められ、さらに読解で得た知識や考えを他者と共有し、そこで自らの考えを述べるができる。
	優	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められ、さらに読解で得た知識や考えを他者と共有することができる。
	良	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められる。
	可	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準まで根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められる。
	不可	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準まで根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められない。
④歴史の通説に対し、批判的に捉えることができる。 (批判的思考力)	秀	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたことと認められ、さらにその考えを他者と共有し、そこで自らの考えを述べることができる。
	優	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたことと認められ、さらにその考えを他者と共有することができる。
	良	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたことと認められる。
	可	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準まで批判的に思考することができたことと認められる。
	不可	定期試験や提出物において、歴史の通説に対し、満足できる水準まで批判的に思考することができたことと認められない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
⑤歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現し、説得力のある見解を他者に伝えることができた認められる。
	優	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができた認められる。
	良	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現することができた認められる。
	可	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準まで歴史に関する自身の想いや考えを表現することができた認められる。
	不可	定期試験や提出物・ポートフォリオにおいて、満足できる水準まで歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができなかった認められない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	10	0	0	40	0	100
評価項目	①歴史に関する基本的知識の修得	10	0	0	0	10	0	20
	②歴史に関する専門的知識の修得	10	0	0	0	10	0	20
	③歴史に関する事象について、 根拠に基づき論理的に考える	10	0	0	0	10	0	20
	④歴史の通説に対する批判的思 考の習得	10	5	0	0	0	0	15
	⑤自身の想いや考えを表現できる	10	5	0	0	10	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	期末に定期試験を実施し、各評価項目に基づいて、その習熟度をはかる。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	講義最終日にレポート課題を課す。そこでは、授業で学んだ基本的知識、テキストから得た知識や考え方などを活用しながら、独自性のある考え・主張を展開することが求められる。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
ポートフォリオ	①	毎回の授業後に小テストを実施し、各評価項目に基づいて、その習熟度をはかる。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など

毎回配布するレジュメに基づいて講義を進めていくので、その読解の作業を継続して行うことのできる真摯な態度を持つことが求められる。

教科書・参考書

教科書：特定の教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。

参考書：天野忠幸・片山正彦・古野貢・渡邊大門編『戦国織豊期の西国社会』（日本史史料研究会、2012年）

渡邊大門編『真実の戦国時代』（柏書房、2015年）

歴史と文化の研究所編『井伊一族のすべて』（洋泉社、2017年）

片山正彦『豊臣政権の東国政策と徳川氏』（思文閣出版、2017年）

渡邊忠司監修『近世地域史文化史の研究』（名著出版、2018年）

*ただし必ずしも購入する必要はありません。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
世界の時事 (F12310)	講義	1	15	1 2	後期	選択必修	—	山田勝久	7号館2階 非常勤講師 控室
東洋と西洋の文化交流の歴史を学ぶ								単独担当	
科目担当者	山田勝久*								

関連ときわ コンピテンシー	教養、知欲、探究力、デザイン力
授業の概要	私は今まで、シルクロードの24カ国63回の海外調査を実施してきた。まず、世界の時事を学習し、文明がなぜ興隆し、なぜ滅亡したかの要因を考察、そこから未来への指針を導く。現地で撮影したビデオも使い、中央アジアと東南アジアを中心に、古代から現代までの文明の変遷を学習する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	世界の時事を編年的に学ぶ。邪馬台国の卑弥呼とシルクロードの大月氏国のつながりを考える。	【予習】徐福伝説の紹介。 【復習】正倉院の文物と大陸文化について。
第2回	遣隋使と遣唐使と朝鮮通信使は日本に何をもちたか。倭国(日本)から長安・洛陽の都までのルートを考える。	【予習】小野妹子と仲麻呂の伝記を学ぶ。 【復習】飛鳥と藤原京と平安京の光芒。
第3回	前漢の武帝(劉徹)による敦煌郡の設置の意義。仏教の伝来と莫高窟千仏洞の芸術についての考察。	【予習】なぜ漢の武帝は西域を拓いたか。 【復習】中国への仏教伝来はいつ頃か。
第4回	仏教がインドから中国へ、朝鮮や日本にも伝わる中での変化について。中国への仏教伝来に貢献した鳩摩羅什と玄奘の生涯を学ぶ。	【予習】儒教と仏教と道教の相違。 【復習】大乘仏教と小乗仏教の相違。
第5回	パルミラ王国の今と昔の姿を比較する。IS(イスラム教過激派組織)侵攻前のパルミラ遺跡調査結果について。	【予習】長安からローマまでのルート。 【復習】イランの歴史と文化を学ぶ。
第6回	アレクサンダー大王の出生地マケドニアの特色について。アレクサンダー大王のインド遠征までのルートを考える。	【予習】仏像とギリシア彫刻の関係を探る。 【復習】ペルシア王国の滅亡の要因を学ぶ。
第7回	世界仏教三大遺跡の光芒を学ぶ。スリランカ、インドネシア、カンボジア、タイ、ブータン、ネパールの魅力を探る。	【予習】仏塔とは何かについて学ぶ。 【復習】ヒマラヤ山麓の王国の歴史を学ぶ。
第8回	3度にわたる楼蘭王国の遺跡調査から得た出土文献を分析する。チベット人とウイグル人の歴史と文化を考える。	【予習】タクラマカン砂漠周辺の文化とは。 【復習】少数民族の興亡の歴史を学ぶ。

学修の到達目標	
世界各地の時事を学ぶ。また、東洋と西洋は2000年も前から文化交流があったこと、ガラスや黄金、音楽や宗教が中国に流入、さらに中国のシルクが西方に伝わった事実をふまえて、国際的な交易の姿と文化交流の意義を学ぶ。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①過去の歴史の変遷を学び、人間としての教養を身につけている。 (教養)	秀	人類の英知の変遷を理解し、国際感覚も豊かになった。
	優	文明の盛衰の要因を理解し、自らの知識として肉化している。
	良	世界の文化をある程度理解し、学習した成果がまざまざ見られる。
	可	画一的な知見にのみとどまっているが、一応の知識を身につけている。
	不可	大学生としての、歴史的視点や知見が不十分である。
②日本文化と大陸文化の交流を学び、異文化尊重の精神を身につける。 (知欲)	秀	史書を正しく解説し、過去の歴史から未来への指針を学び取る力を身につけた。
	優	民族や国境や言語を超えた文化交流の重みを知悉している。
	良	今の自分があるのは、過去の文化の積み重ねがあったからこそと理解している。
	可	多少の知識はあるものの、浅薄である。
	不可	日本や大陸の歴史が全く身につけていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
③中央アジアの興亡の要因を考え、その根底に流れる思想を見極めようとする。 (探究力)	秀	時代の流れの根底の思想が、平和や発展と連結していることを学び得た。
	優	戦争が起きる原因と、平和構築のための分析方法を身につけた。
	良	授業で学んだことを、さらに深めるための努力、探求をしている。
	可	知的な探求心が薄く、思考が浅薄である。
	不可	自らの専門領域についての探求心に欠け、歴史観が身につけていない。
④過去の歴史的な事実を学び、自らの現実の解決策をデザインすることができる。 (デザイン力)	秀	文明や文化の流れを学び、その中から自らの歴史観や社会観を確立するための視座を身につけた。
	優	歴史文献をもとに、十分論理的に考える知恵を身につけた。
	良	各方面の知識を学び、ある程度、自ら情報を収集し整理して活用できるようになった。
	可	総合的な思考力に欠けているものの、ある程度の企画力はある。
	不可	歴史に関する知識をもとに、問題解決策をデザインすることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	50	20	0	0	0	100
評価項目	①教養	10	20	5	0	0	0	35
	②知欲	10	10	5	0	0	0	25
	③探究力	5	10	5	0	0	0	20
	④デザイン力	5	10	5	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	8回にわたる授業をふまえて、世界の時事や歴史の変遷についてどれだけ理解し、学び得た知識や考え方などをどこまで活用できるかの試験を実施する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	毎回の授業後に、レポート課題を課す。授業で学んだ基本的な知識をもとに、「独自の視点があるか否か」について論述させる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	できるだけ指名して、課題(宿題)に対する回答を全員にさせる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
東洋史と日本史の基本的な知識が必要である。
教科書・参考書
教科書：『シルクロードの光彩』山田勝久著、笠間書院 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
現代社会学 (F12320)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	伴仲謙欣	5号館 学術推進課
世の中を見る目を変えよう。								単独担当	
科目担当者	伴仲謙欣								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、論理的思考力、批判的思考力、教養
授業の概要	<p>普段何気なく暮らしている社会をクリティカル（批評的）な虫めがねで覗いてみると、全く違った景色が見える・・・。</p> <p>できるだけ身近な事例を取り上げていきながら、そんな”気づき”を経験することが、この授業の目的です。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	社会学とは？ ～オリエンテーション～	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第2回	暮らしの中の社会学 ～身近な事例で社会学～	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第3回	少子化と社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第4回	メディアと社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第5回	地域と社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第6回	家族と社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第7回	伝統と社会学	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り
第8回	まとめ	【予習】シラバスの確認、新聞を読む 【復習】資料等による授業の振り返り

学修の到達目標	
<p>今後、ますます多様化・複雑化する未来を生き抜くために必要な「自分の頭で考える」という行動様式を、様々な社会学的事例やキーワードを参照しながら身につける。</p>	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に 楽しさと喜びを覚える ことができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、十分に達成感を得ることができる。そしてその達成感をもとに、他者に自らの学びを伝えることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、十分に達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者の促しで学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	不可	学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②社会事象を多面的に捉える方法を学ぶことを通して、論理的思考力を身につけることができる。 (論理的思考力)	秀	論理的思考力の修得が満足できる水準を超え、自らの見解を展開できる。
	優	論理的思考力の修得が満足できる水準を超えている。
	良	論理的思考力の修得が満足できる水準にある。
	可	論理的思考力の修得が最低限の水準に留まっている。
	不可	論理的思考力の修得が最低限の水準以下になっている。
③社会事象を批判的に分析することを通じて、批判的思考力を身につけることができる。 (批判的思考力)	秀	現代社会に対する批判的思考力が満足できる水準を超え、自らの見解を提示できる。
	優	現代社会に対する批判的思考力が満足できる水準を超えている。
	良	現代社会に対する批判的思考力が満足できる水準にある。
	可	現代社会に対する批判的思考力が最低限の水準に留まっている。
	不可	現代社会に対する批判的思考力が最低限の水準以下になっている

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	①知欲	0	10	0	0	0	10	20
	②論理的思考力	25	10	0	0	0	0	35
	③批判的思考力	25	20	0	0	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	定期試験として筆記または、レポート試験を実施する。	
	②		✓
	③		✓
提出物	①	毎回の授業で、A 4一枚程度のワークシートにその日のまとめを作成し、提出する。	
	②		✓
	③		✓
その他	①	授業への積極的参加姿勢を評価する。	
	②		
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席最低条件として、日常的にできるだけ新聞を読んでもください（新聞名、内容は特に指定しない） ・受け売りの知識のひけらかしではなく、自らの頭で“考える”態度を求めます
教科書・参考書
教科書：指定なし 参考書：必要に応じて適宜紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
経済学 (F12330)	講義	1	15	1 2	前期	選択必修	—	濱田道夫	本館3階 学長室
経済のグローバル化、その歴史と現在								単独担当	
科目担当者	濱田道夫								

関連ときわ コンピテンシー	教養、論理的思考力、表現力
授業の概要	私たちはいまだどのような社会に生きているのかを、経済の領域から考えてみる。経済のグローバル化は私たちの生活のさまざまな場面に影響を与えているが、授業ではこのグローバル化の歴史と現状をわかりやすく解説する。日本経済、とりわけ地域経済への影響なども含め、グローバル化を身近なものとしてとらえたい。経済学の入門的な授業であり、履修者の生活体験・実感からの意見なども授業に反映できればと思う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 受講生と相談しながら、この授業の進め方を決める。	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 授業内容の振り返り
第2回	経済成長の歴史：ヨーロッパにおける近代資本主義の形成とその発展を景気変動、とくに価格の長期変動をとらえて概観する。	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り、質問票の提出
第3回	工業化と経済成長：産業革命とともに経済成長が顕著になったこと、その歴史的な意味について考える。	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り、質問票の提出
第4回	経済のグローバル化：1990年代以降、経済のグローバル化が急速に進行した背景。また市場の働き、市場と国家との関係について。	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り、質問票の提出
第5回	格差と貧困：急速なグローバル化によってもたらされた経済的格差と貧困について考える。	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り、質問票の提出
第6回	人口と経済：少子化、高齢化の進行は経済にどのような影響をおよぼしたのか。その対応策としての福祉政策など。	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り、質問票の提出
第7回	経済成長と環境保護：19世紀後半以降の急速な経済成長と地球環境の変化、また科学技術の発展と社会のあり方について考える。	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り、質問票の提出
第8回	「持続可能な開発目標」とは：持続可能な社会を実現するために国連が提起した諸条件について考える。	【予習】 授業のテーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り、質問票の提出

学修の到達目標
履修者は経済学の基本的知識にもとづいて、グローバル化の歴史を系統的に把握できるとともに、現代経済がかかえるさまざまな問題を概観することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①経済学に関する基本的知識を身につけている。 (教養)	秀	授業で学んだ経済学に関する基本的知識を十分修得し、さらに系統的に深く理解している。
	優	授業で学んだ経済学に関する基本的知識を十分修得している。
	良	授業で学んだ経済学に関する基本的知識を修得している。
	可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識をある程度修得している。
	不可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識を修得していない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
②経済的事象について論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、十分論理的に考えることができる。さらに新たな視点を示すなど豊かな構想力をもつ。
	優	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづいて論理的に思考することができない。
③経済的事象を他者に説明することができる。 (表現力)	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができ、さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者にある程度説得的に伝えることができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	①経済学の基本的知識の修得	40	20	0	0	0	0	60
	②経済的事象に関する論理的思考	20	0	0	0	0	0	20
	③他者への説明	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	8回の授業後に、レポートの提出を課す。授業で学んだ基礎知識や基本的概念をもとに、自らの意見がどれくらい明快にまた説得的に提示されるかが試される。
	②	
	③	
提出物	①	授業内容の理解度を高めるため、毎回の授業で意見・質問票の提出を求める。
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

経済学の入門的な授業です。授業で学ぶ基本的知識をもとに、少子化や高齢化、科学技術の発展など社会の変化について考える機会となればよいと思う。

教科書・参考書

教科書：使用しない。

参考書：随時紹介する。たとえば、橋本俊詔『新しい幸福論』、暉峻淑子『豊かさとは何か』（ともに岩波新書）など。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
心理臨床学 (F12340)	講義	2	30	1 2	後期	選択必修	—	永島聡	7号館4階 研究室
こころの問題を少しでも理解しよう！								単独担当	
科目担当者	永島聡								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、批判的思考力、傾聴力・対話力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	医療、教育、保育、福祉等の現場での専門職を目指す学生にとって必要な心理臨床学の基本を学修する。特にフロイト、アドラー、フランクルの理論と技法をベースに考える。さらに具体的にいくつかの現代心理臨床的トピックを取り上げ、理解を深める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「こころって何なのか？」 私たちは本当にこころを持っているのか？	【予習】 受講への意志を強く持つ 【復習】 内容を日々思い出す
第2回	『『本能』とどう付き合っていくのか？』 自我と超自我とイドについて。フロイトの理論より。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第3回	「こころはどのように発達するのか？」 赤ちゃんのこころの中と大人同士の付き合い方。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第4回	「人間は過去に縛られているのか？」 過去の体験が現在のしんどさにどう影響してくるか。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第5回	『『私』とは何か？』 アイデンティティについて考える。エリクソンの理論より。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第6回	「青年期の課題とは？」 アイデンティティ確立とサブカルチャー・カウンターカルチャー。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第7回	「人間は優越感を持ちたいものなのか？」 劣等感はどうように生じるのか。アドラーの理論より。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第8回	「人間は本能的欲求を満たしたいのか？力が欲しいのか？」 人生の意味について考えてみる。フランクルの思想より。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第9回	「どうすれば幸せになれるのか？」 人間は自分の人生に何を期待できるのか。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第10回	「精神疾患について」 神経症、うつ病、統合失調症等々について考える。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第11回	「コミュニケーションの障がいについて」 自閉症スペクトラムを中心に考える。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第12回	「LDとは？ADHDとは？障がいとは何なのか？個性とは？能力とは？」 発達障がいについて考える。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第13回	「LGBTとは？」 セクシュアリティの多様性について考える。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第14回	「医療者・教育者に何が出来るのか？」 対人援助職の新人が、こころがしんどくなった人に対して何が出来るか。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第15回	「結局、人間のこころとは何なのか？」 授業全体と試験についてのまとめ。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す

学修の到達目標	
被支援者の内面について、今後ともずっと興味を持ち続けていく姿勢を身につける。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性 (専門力)	秀	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナルリズムも持ち合わせている。
	優	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナルリズムも伴っている。
	良	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②多面的な思考 (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性 (傾聴力・対話力)	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手を感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現 (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
⑤グループでの協働 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	16	0	0	0	4	100
評価項目	①対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	②多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④自己表現	20	4	0	0	0	0	24
	⑤グループでの協働	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	論述試験を期末に実施。ある具体的な事例をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。試験についてのルーブリックは別途提示する。ノート・プリント持ち込み可。80点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。4点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。
- ・社会情勢に興味を持ち続ける。
- ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・参考書

教科書：使用しません。
参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科 目 責 任 者 名	研 究 室
サブタイトル								担当形態	
人間関係論 (F12350)	講義	1	15	1 \2	前期	選択必修	—	永島聡	7号館4階 研究室
ひとの気持ちなんて本当にわかるのか?								単独担当	
科目担当者	永島聡								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、批判的思考力、傾聴力・対話力、表現力、協調性・協働力
授業の概要	人間関係を保つには、まず相手を知らなければならないであろうし、そのためには自分を知らなければならないだろう。しかしそもそも相手を知る、自分を知るとはどのようなことなのか？この授業では、心理学的な他者理解および自己理解について、主に来談者中心療法や精神分析の観点から、受講者とともに考えてゆく。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	「こころって何なのか？」 私たちは本当にこころを持っているのか？	【予習】 受講への意志を強く持つ 【復習】 内容を日々思い出す
第2回	「こころの構造はどうなっているのか？」 意識と無意識について。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第3回	「自分のこころを表現してみる」 カラーージュ作成を体験する。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第4回	「他者のこころを支えるには？」 話をじっくり傾聴することの大切さについて。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第5回	「実際に他者の話を傾聴してみる」 グループワークでカウンセリングを疑似体験する。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第6回	「受容することと共感すること」 他者を尊重し受け入れることについて。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第7回	「受容することと共感すること」 他者を共感するとはどのようなことなのか？	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す
第8回	「結局、自己や他者を理解できたのか？そもそも理解できるのか？」 授業全体と試験についてのまとめ。	【予習】 プリント熟読 【復習】 内容を日々思い出す

学修の到達目標	
自己や他者の存在について「わかったつもりにならない」ことの大切さを理解すること。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性 (専門力)	秀	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	臨床検査・看護・教育等、自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②多面的な思考 (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性 (傾聴力・対話力)	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手を感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現 (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
⑤ループでの協働 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		75	16	0	4	0	5	100
評価項目	①対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	②多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④自己表現	15	4	0	4	0	0	23
	⑤グループでの協働	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	論述試験を期末に実施。ある具体的な事例をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。試験についてのルーブリックは別途提示する。ノート・プリント持ち込み可。75点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①	✓	毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16点。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
作品	①		コラージュ等制作物への評価。4点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
その他	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。5点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。
- ・社会情勢に興味を持ち続ける。
- ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・参考書

教科書：使用しません。
参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育と人間 (F12360)	講 義	1	15	1 \2	前 期	選 択 必 修	—	光成研一郎	7号館5階 研究室他
いのちの大切さを伝えるために								複数担当	
科目担当者	光成研一郎、國崎大恩								

関連ときわ コンピテンシー	教養、傾聴力・対話力、表現力
授業の概要	教育活動には人間存在の中に潜在的に隠れているものを引き出し、発展させるという目的がある。同様に医療活動にも患者の中に存在するものを引き出し、心身ともに健康な状態に導いていくという目的がある。それゆえに医療の現場で実践を行う上で、教育の理論と方法について学ぶ意義は大きい。本講義では「いのちの大切さを伝える」という具体的事例を通して、教育に関する基礎知識や教育方法について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション —生と死について— (担当者：光成)	【予習】 シラバスの熟読 【復習】 振り返り票の作成・提出
第2回	病児保育と子どものいのち (担当者：光成、ゲストスピーカー)	【復習】 振り返り票の作成・提出
第3回	戦争地域のこどものいのち (担当者：光成)	【復習】 振り返り票の作成・提出
第4回	死、あるいは不可能なものを伝える試み —「鶏を育て、殺し、食べる授業」を通して— (担当者：國崎)	【予習】 配付資料に対する自分の考えをもつ 【復習】 振り返り票の作成・提出
第5回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために —教育内容の検討グループワーク— (担当者：光成・國崎)	【予習】 教育内容について考える (個人) 【復習】 教育内容について考える (グループ)
第6回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために —教育方法の検討グループワーク— (担当者：光成・國崎)	【予習】 教育方法について考える (個人) 【復習】 教育方法について考える (グループ)
第7回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために —教育実践の検討グループワーク— (担当者：光成・國崎)	【予習】 教育実践について考える (個人) 【復習】 教育実践について考える (グループ)
第8回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために —発表と評価— (担当者：光成・國崎)	【予習】 発表に向けての準備 【復習】 第5回～第8回の授業を通じたレポートの作成・提出

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する理論や方法といった知識を修得する ・教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さを伝えることができる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①教育に関する知識を修得し、説明することができる。 (教養)	秀	教育に関する知識を修得し、学修成果を説明することができる。
	優	教育に関する知識を修得し、学修成果を伝えることができる。
	良	教育に関する知識を修得し、学修成果をある程度伝えることができる。
	可	教育に関する知識を修得している。
	不可	教育に関する知識を修得していない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
②教育について他者と議論することができる。 (傾聴力・対話力)	秀	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのちの大切さ」について他者と議論し、共に理解を深めることができ、その内容について共に提案することができる。
	優	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのちの大切さ」について他者と議論し、共に理解を深めることができる。
	良	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのちの大切さ」について他者と議論することができる。
	可	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができる。
	不可	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができない。
③教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者に伝えることができる。
	優	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、ある程度他者に伝えることができる。
	良	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現することができる。
	可	教育学的見地から「いのち」について理解している。
	不可	教育学的見地から「いのち」について理解していない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	30	20	0	0	20	100
評価項目	①教育に関する知識の修得、説明	30	30	0	0	0	0	60
	②教育に関する議論	0	0	0	0	0	20	20
	③「いのち」についての理解、表現	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施する。
	②		
	③		
提出物	①	✓	第1回～第4回の振り返り票(各5点満点×4)。第5回～第8回の授業を通したレポート提出(10点)。
	②		
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①		成果発表について、学生同士による評価と教員評価によって、「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者に伝えることができるか評価する。
	②		
	③	✓	
その他	①		グループ内のピア評価および教員評価に基づいて、他者と適切に議論できていたかどうか、傾聴力と対話力の評価を行う。
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

ほぼ毎時間、課題を出すので、学修に対して意欲的な学生が受講するようにしてください。また授業の後半はグループワークが主となるので、他者と協力し、自分の責任を全うできる態度が求められます。

教科書・参考書

教科書：使用しません。随時紹介します。

参考書：使用しません。随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地域との協働A (F13000)	演習	1	30	1 2	通年	選択	—	大城亜水	7号館4階 研究室他
地域づくりへの参画と市民性の獲得								複数担当	
科目担当者	大城亜水、伴仲謙欣								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、省察力、実行力、協調性・協働力、責任感
授業の概要	1人ひとりが地域社会の一員として、どのように生活し、さまざまな課題にどう向き合い、協力し合っどう解決し、より暮らしやすく活力のある地域づくりに取り組めるかについて考えます。具体的には、本学が取り組んでいるさまざまな地域活動（地域交流活動、ボランティア活動）に実際に参加し、その体験をリフレクトすることにより、地域社会の一員としてのあり方を自問自答し、そのことを通して市民性を身につけることを目指します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション・ガイダンス	
第2回	地域活動の要点	【復習】実際の活動に支障をきたさないように、地域活動の要点をまとめておく。
第3回	地域活動 * 事前指導（フィールドワークを行うにあたっての心構え） * フィールドワーク（実施：各自2～3回程度） * 事後指導（事前指導・活動内容・事後指導を集約し、地域活動のポートフォリオを作成。）	【復習】事前指導の要点をまとめておく。 【活動後】その日のうちに活動を通した学びを整理し、リフレクトしておく。
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回	地域活動内容の発表	【復習】凝縮ポートフォリオの作成が円滑に進むように整理・まとめをする。
第15回	まとめ	

学修の到達目標

本科目は以下の2点を到達目標とします。

- ①「大人」として客観的な判断力を身につけ精神的に成熟する。
- ②社会の成員としての権利と義務を行使することができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①社員の一員として知っておくべき知識・振る舞いを身につけている。 (常識力)	秀	他者をempowerできる知識・振る舞いを身につけている。
	優	他者との関わりに謙虚さがみられる。
	良	知識・振る舞いを身につけているが、他者への配慮が十分でない。
	可	必要最低限の知識・振る舞いを身につけている。
	不可	必要最低限の知識・振る舞いを身につけていない。
②自己の思考や行動をリフレクト(省察)することができる。 (省察力)	秀	自己の課題が具体的に明示され、なおかつ実効性を伴った次への行動指針がみられる。
	優	自己の課題と次への行動指針がみられる。
	良	自己の課題はみられるが、次への行動指針が具体的かつ明瞭ではない。
	可	自己の課題はみられるが、抽象レベルに留まっている。
	不可	自己の課題と次への行動指針が明確にされていない。
③失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる。 (実行力)	秀	失敗を恐れず、熟慮の末に具体的行動にすることができ、他者からもそのように評価されている。
	優	失敗を恐れず、熟慮の末に想いや考えを具体的行動にすることができる。
	良	失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる。
	可	失敗を恐れる部分は残っているが、想いや考えを具体的行動にしようとしている。
	不可	失敗を恐れて、想いや考えを具体的行動にすることができない。
④他者と1つの課題について協力して取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができ、他者から評価されている。
	優	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができる。
	良	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができる。
	可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができる。
	不可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することすらできていない。
⑤社会の一員としての責任をもって物事に臨むことができる。 (責任感)	秀	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹積もりで物事に臨んでおり、他者からもそのように評価されている。
	優	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹積もりで物事に臨んでいる。
	良	報告・連絡・相談を能動的に行うことができる。
	可	言われれば、報告・連絡・相談ができる。
	不可	報告・連絡・相談ができない、あるいは責任感が全くない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	0	25	0	0	35	100
評価項目	①常識力	0	0	0	0	0	10	10
	②省察力	35	0	20	0	0	0	55
	③実行力	0	0	0	0	0	15	15
	④協調性・協働力	0	0	0	0	0	5	5
	⑤責任感	5	0	5	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	各活動で作成したポートフォリオをもとに凝縮ポートフォリオを作成し、それを最終レポートという形で提出されたものを評価対象とする。	
	②		✓
	③		
	④		
	⑤		✓
成果発表 (口頭・実技)	①	地域活動の発表内容を評価対象とする。	
	②		✓
	③		
	④		
	⑤		✓
その他	①	各活動に取り組む姿勢・態度	
	②		
	③		✓
	④		✓
	⑤		✓

履修に必要な知識・技能・態度など

学修効果の観点から、履修上限人数は60（各学科15）人程度とします。希望者が多い場合は抽選の可能性もあります。

教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
災害とまちづくり (F13020)	講義	1	15	1 2	後期	選択	—	足立了平	5号館3階 研究室他
災害に強い街づくりをシミュレーション								複数担当	
科目担当者	足立了平、金千秋、宮田英和*、長谷部治								

関連ときわ コンピテンシー	探究力、継続力、貢献力、プレゼンテーション力
授業の概要	私たちは、地震や豪雨などの自然現象を止めることはできないが、それらによる被害（災害の規模）を少なくすることはできる。減災という考え方である。減災には防災が不可欠であり、その取り組みは地域やその住民の多様性を理解することから始まる。「ひとにやさしいまちづくり」は、災害時にはどのような意味があるのだろうか。災害を“知る・理解する・考える”ことを通し、その意味について学びを進める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	災害を知る①【災害とは】 (担当者：足立)	【予習】過去の災害を調べる 【復習】本日の授業の整理
第2回	災害を知る②【災害と地域コミュニティ】 (担当者：金、足立)	【予習】災害とコミュニティについて調べる 【復習】本日の授業の整理
第3回	災害を知る③【災害とメディア】 (担当者：宮田、足立)	【予習】災害と情報について調べる 【復習】本日の授業の整理
第4回	災害を理解する①【阪神・淡路大震災の経験を聞く・まとめる】 (担当者：足立)	【予習】阪神・淡路大震災を経験した人へインタビュー、発表 【復習】本日の授業の整理
第5回	災害を理解する②【災害時要援護者】 (担当者：足立)	【予習】災害時要援護者について調べる 【復習】本日の授業の整理
第6回	災害を理解する③【街づくりに関わる人からの提言】 (担当者：長谷部、足立)	【予習】自助・共助・公助について調べる 【復習】本日の授業の整理
第7回	減災を考える①【災害に強いまちづくりについて考える】 (担当者：足立、ゲストスピーカー)	【予習】災害に強いまちづくりには何が必要か考える 【復習】本日の授業を整理
第8回	減災を考える②【災害に強いまちづくりについて発表する】 (担当者：足立)	【予習】発表の準備 【復習】本日の授業の整理

学修の到達目標
災害および減災について学修したことを街づくりや自分の環境改善に活かすことができる力を養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①災害を知ることができる。 (探究力)	秀	災害を説明することができ、災害の種類によってどのような被害が発生するか想像することができ、過去の災害からその事例をあげることができる。
	優	災害を説明することができ、災害の種類によってどのような被害が発生するか想像することができる。
	良	災害を説明することができ、その被害について知っている。
	可	災害を説明することができる。
	不可	災害を説明できない。
②防災・減殺を理解することができる。 (継続力)	秀	防災・減殺の意味を理解し、説明でき、実践し、かつ啓発することができる。
	優	防災・減殺の意味を理解し、説明でき、実践することができる。
	良	防災・減殺の意味を理解し、説明でき、実践することができる。
	可	防災・減殺の意味を理解している。
	不可	防災・減殺の意味を理解できない。
③災害に強いまちづくりを考えることができる。 (貢献力)	秀	災害に強いまちづくりを考え、プランを立て、その取り組みを具体的に提案(説明)でき、将来に向けて実行しようと考えている。
	優	災害に強いまちづくりを考え、プランを立て、その取り組みを具体的に提案(説明)できる。
	良	災害に強いまちづくりを考え、プランを立てることができる。
	可	災害に強いまちづくりを考えることができる。
	不可	災害に強いまちづくりを考えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	40	0	0	0	100
評価項目	①災害を知ることができる	10	5	10	0	0	0	25
	②減殺を理解することができる	10	5	10	0	0	0	25
	③災害に強いまちづくりを考えることができる	10	5	10	0	0	0	25
	④プレゼンテーション能力	10	5	10	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓
	②	✓
	③	✓
	④	✓
	⑤	✓
提出物	①	✓
	②	✓
	③	✓
	④	✓
	⑤	✓
成果発表 (口頭・実技)	①	✓
	②	✓
	③	✓
	④	✓
	⑤	✓

履修に必要な知識・技能・態度など

災害・防災を自分事として“自ら”「知る・理解する・考える」という態度

教科書・参考書

教科書：『「被災者のニーズ」と「居住の権利」』市川英恵 著 クリエイツかもがわ

参考書：『繋ぐ 被災歯科保健医療対応への執念』佐藤保、足立了平 著 クインテッセンス
『巨大災害と医療・社会保守王を考える』兵庫県保険医協会 編 クリエイツかもがわ
『地震は貧困に襲いかかる』いのうえせつこ 著 花伝社
『震災復興の政治経済学』齋藤誠 著 日本評論社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
コミュニティデザイン (F13030)	講義	1	15	1 2	後期	選択	—	中田康夫	7号館4階 研究室他
人と人の繋がりをデザインし、 地域の課題を解決する								複数担当	
科目担当者	中田康夫、高松邦彦、室崎友輔、天野稔也、西修								

関連ときわ コンピテンシー	情報力、論理的思考力、批判的思考力、探究力、デザイン力、表現力
授業の概要	“シャッター通り”化した商店街、少子高齢化の影響などで活力を失いつつある地域組織、隣人とも挨拶をしないマンションコミュニティ、現代の地域は、これまでになかった多くの課題を抱えている。そんな今、人と人の繋がりをデザインし、地域の課題を解決していける人材が求められている。本授業では、具体的な事例からコミュニティデザインの基本を学ぶとともに、課題を通してデザインシンキングの方法を学修する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション コミュニティデザインとは？ (担当者：室崎、中田、高松)	【予習】 シラバスの確認
第2回	コミュニティデザインの基本 社会的課題とデザインシンキング (担当者：室崎)	【復習】 感想文の作成・提出
第3回	コミュニティデザインの事例 ～デザイン都市・神戸①～ (担当者：天野、中田、高松)	【復習】 感想文の作成・提出
第4回	コミュニティデザインの事例 ～デザイン都市・神戸②～ (担当者：西、中田、高松)	【復習】 感想文の作成・提出
第5回	コミュニティデザインの実践1 フィールドワークとリサーチについて(担当者：室崎、中田、高松)	【復習】 フィールドワークシート・リサーチシートの作成
第6回	コミュニティデザインの実践2 グループワーク・中間発表 (担当者：室崎、中田、高松)	【復習】 アイデアシートの作成
第7回	コミュニティデザインの実践3 グループワーク (担当者：室崎、中田、高松)	【復習】 プレゼンの準備
第8回	コミュニティデザインの実践3 成果発表・レポート課題発表 (担当者：室崎、中田、高松)	【予習】 プレゼンの準備・確認 【復習】 レポートの作成・提出

学修の到達目標
履修者は、具体的な事例を通してコミュニティデザインの基本（現代における地域の課題、課題の解決方法、地域の関わり方など）となる知識を修得する。また課題を通じて、デザインシンキングやワークショップの手法を実践的に修得する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。 (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
②リサーチに基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっている。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くともある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる。 (批判的思考力)	秀	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
④物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとすることができる。 (探究力)	秀	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてさらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
⑤様々な考えや知識を統合して課題の解決策をデザインすることができる。 (デザイン力)	秀	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。さらにその解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。
	良	ある程度自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができない。
⑥想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	30	30	0	0	0	100
評価項目	①情報力	5	5	5	0	0	0	15
	②論理的思考力	5	5	5	0	0	0	15
	③批判的思考力	5	5	5	0	0	0	15
	④探究力	10	5	5	0	0	0	20
	⑤デザイン力	10	5	5	0	0	0	20
	⑥表現力	5	5	5	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験はレポート試験とする。 課題に対するリサーチ結果と課題解決方法および授業全体の振り返りをレポートとしてまとめる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥	✓	
提出物	①	✓	事例紹介（3回）の感想文を課す。話を聞いて感じたこと、気づいたことを記載する。 グループワークの進行に合わせて、フィールドワークシート・リサーチシート・アイデアシートの作成を課す。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	ワークショップを通じて考えた内容をプレゼンする機会を設ける。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
ワークショップでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
ライフデザイン (F13040)	演習	1	30	1 2	後期	選択	—	室崎友輔	7号館2階 非常勤講師 控室
デザインシンキングで子ども向けの社会教育プログラムを企画し、実践する。								単独担当	
科目担当者	室崎友輔								

関連ときわ コンピテンシー	情報力、論理的思考力、知欲、探究力、デザイン力、表現力
授業の概要	人口減少、高齢化、地方の過疎化など、日本は今まさに様々な課題に直面しています。私たちの社会を取り巻く複雑化した課題を解決する手法として、デザインシンキングによる創造的な解決方法を産み出す力が求められています。本授業では演習（グループワーク）を通じて、デザイン思考による課題の解決方法を産み出す手法を実践的に学びます。授業で考えた社会教育プログラムをイベントで実施することを最終目標とします。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 課題発表、防災ゲーム体験	【予習】 シラバスの確認 【復習】 課題に対するリサーチ
第2回	デザインシンキングとは？ リサーチ方法、事例紹介、防災ゲーム体験	【復習】 課題に対するリサーチ
第3回	課外授業 防災体験ミュージアムの視察	【復習】 感想文の作成・提出
第4回	< STEP 1 > テーマ決定 防災ゲーム体験、グループ分け	【復習】 グループの進捗に合わせたリサーチ
第5回	< STEP 2 > リサーチ・企画 グループワーク	【復習】 グループの進捗に合わせたリサーチ
第6回	< STEP 2 > リサーチ・企画 グループワーク、グループ発表	【復習】 グループの進捗に合わせたリサーチ
第7回	< STEP 3 > プロトタイピング グループワーク	【復習】 グループの進捗に合わせた準備・制作
第8回	< STEP 3 > プロトタイピング グループワーク、グループ発表	【復習】 グループの進捗に合わせた準備・制作
第9回	< STEP 4 > ブラッシュアップ グループワーク、グループ発表	【復習】 グループの進捗に合わせた準備・制作
第10回	< STEP 5 > アウトプット グループワーク	【復習】 グループの進捗に合わせた準備・制作
第11回	< STEP 5 > アウトプット グループワーク	【復習】 グループの進捗に合わせた準備・制作
第12回	< STEP 5 > アウトプット グループワーク、最終発表	【予習】 最終発表の準備 【復習】 イベントの準備
第13回 第14回 第15回	下記イベントでプログラムを実施（神戸常盤大学としてブース出展） 「イザ！美かえる大キャラバン！」 日時：1月27日（日）13時～16時 *活動時間は10時～16時 場所：JICA 関西 / 人と防災未来センター	【予習】 イベントの準備・確認 【復習】 レポートの作成・提出

学修の到達目標

履修者は、実践的な演習（グループワーク）を通じて、デザインシンキング（リサーチ・課題抽出・アイデア創出・プロトタイピング・検証）を理解し、身につけることができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。 (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他社と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
②リサーチに基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界も分かっている。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらに新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。
④物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとするすることができる。 (探究力)	秀	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてさらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある提訴突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
⑤様々な考えや知識を統合して課題の解決策をデザインすることができる。 (デザイン力)	秀	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。さらにその解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。
	良	ある程度自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
⑥想いや考えを表現し、他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	10	30	20	0	20	100
評価項目	①情報力	5	5	5	0	0	0	15
	②論理的思考力	5	0	5	0	0	0	10
	③知欲	0	0	5	5	0	5	15
	④探究力	0	0	5	5	0	5	15
	⑤デザイン力	5	0	5	10	0	0	20
	⑥表現力	5	5	5	0	0	10	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業の最後にレポートを課す。 イベントでプログラムを実施して感じたことや授業全体の振り返りをレポートとしてまとめる。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤	✓	
	⑥	✓	
提出物	①	✓	課外授業後、感想文を課す。 施設を見学して感じたこと、気づいたことなどを記述する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	グループでプレゼンテーションを行う機会を数回設ける。 また、毎グループワーク後にはグループ毎に簡単な進捗発表を行う。 最終回はイベントで成果発表（プログラムの実施）を行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥	✓	
作品	①		グループワークを通じて、プログラムを企画・制作する。 プログラムを企画・制作する過程も含めて評価する。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
	⑥		
その他	①		イベントでプログラム実施を行う。 プログラム実施時の態度、対応能力などを評価する。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
	⑥	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

最終回（第13～15回 | 1月27日（日））は、やむを得ない理由がない限り、全員出席すること。
グループワークでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。

教科書・参考書

教科書：使用しません

参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科 目 責 任 者 名	研究室
サブタイトル								担 当 形 態	
英語B (Presentation) (F12100)	演 習	1	30	2	前 期	選 択	—	山崎麻由美	4号館3階 研究室
基礎から学ぶ英語のプレゼンテーション								単 独 担 当	
科目担当者	山崎麻由美								

関連ときわ コンピテンシー	表現力、論理的思考力、知欲、協調性・協働力
授業の概要	英語でのプレゼンテーションの構造や技法を基本から学び、習得することを目指す。仕事や研究等でプレゼンをする時に必要な技法やマナーを身につける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Step 1 Thinking Critically, Working Together!	【予習】 シラバスを読む 【復習】 本日のまとめ
第2回	Step 2 Learning How You Learn	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第3回	Step 3 Finding a Research Topic	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第4回	Step 4 Finding the Best Keywords	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第5回	Step 5 Evaluating Your Materials	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第6回	Step 6 Extracting the Necessary Information	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第7回	Step 7 Describing Your Data	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第8回	Step 8 Structuring Your Presentation	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第9回	Step 9 Arranging and Effectively Presenting Your Messages	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第10回	Step 10 Preparing Your Presentation Draft	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第11回	Step 11 Giving Your Report Presentation	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第12回	Step 12 Clarifying Problems and Discussing Your Proposal	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第13回	Step 13 Proposing Feasible Countermeasures	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第14回	Step 14 Preparing Your Final Presentation	【予習】 “Homework for the Next Step!”を仕上げる 【復習】 本日のまとめ
第15回	Step 15 Giving Your Proposal Presentation	【予習】 プレゼン準備 【復習】 本日のまとめ

学修の到達目標
1. プレゼンの基本構造を知る。 2. プレゼンの基本的な技法を身につける。 3. プレゼンを行う時、聞く時のマナーを身につける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①英語の的確な表現力 (表現力)	秀	様々な英文構造を理解し的確に使うことができる。正確に発音できる。
	優	様々な英文構造を理解しほぼ的確に使うことができる。発音もほぼ正確である。
	良	様々な英文構造を理解しているが、時々不適切な表現を使う。発音も時々不正確である。
	可	適切な英文の構造をある程度理解している。発音はしばしば不正確である。
	不可	適切な英文の構造を理解できず、発音も不正確である。
②プレゼンテーションの 構成力 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的にプレゼンを構成することができる。
	優	客観的な根拠に基づき概ね論理的にプレゼンを構成することができる。
	良	概ね論理的にプレゼンを構成するが、時々客観的な根拠を提示できない場合がある。
	可	根拠は薄いがある程度論理的にプレゼンを構成することができる。
	不可	英語のプレゼンの構成に関して、根拠に基づき論理的に考えることができない。
③国際社会での多様な文 化・習慣への理解力 (知欲)	秀	文化・習慣の多様性や国際問題について深い理解力と洞察力を持っている。
	優	文化・習慣の多様性や国際問題について、分析し評価することができる。
	良	文化・習慣の多様性や様々な国際問題を認識している。
	可	文化・習慣の多様性や国際問題があることに気づいている。
	不可	文化・習慣の多様性や国際問題について、全く理解しない。
④他者と協力して課題に 取り組む力 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いがあるが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	20	30	0	0	20	100
評価項目	①英語の的確な表現力	15	5	10	0	0	5	35
	②プレゼンテーションの構成力	10	5	15	0	0	5	35
	③多様な文化・習慣への理解力	5	0	5	0	0	5	15
	④他者と協力して課題に取り組む力	0	10	0	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	定期試験では授業内容が修得できているかどうかを測る。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
提出物	①	✓	授業中のレポートや宿題課題の提出を個人、またはグループ（ペア）で提出する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	英語でのプレゼンテーションを行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
その他	①	✓	授業に対する積極性、与えられた課題に対する取り組み、テキスト内容に対する理解などを授業中に評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

積極的に課題に取り組むこと。

教科書・参考書

教科書：『アクティブ・ラーニングで学ぶプレゼンテーション』 森田彰 他著 金星堂

参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
英語C (Cultural Studies) (F12110)	演習	1	30	2	後期	選択	—	小西千鶴	7号館2階 非常勤講師 控室
時事から学ぶ異文化								単独担当	
科目担当者	小西千鶴								

関連ときわ コンピテンシー	表現力、実行力、批判的思考力、知欲
授業の概要	主にアメリカでの関心事や社会問題をテーマに取り上げる。新聞記事や関連資料から事例や人々の反応を読み解き視覚教材も用いて理解を深める。そこから日本の常識が必ずしも世界の常識ではないことを学び、テーマに対する各自の意見や考えを率直に述べるができるようにする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	Beauty Is in the Mind of the Beholder 花より団子	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第2回	Street people ホームレスとチャリティ	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第3回	Attached to Crime 銃犯罪	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第4回	Family Business 家族ビジネス	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第5回	Genetically Modified Food 遺伝子組み換え食品	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第6回	The Environment 環境問題	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第7回	Economic Might VS Ecologic Right 経済の権力 対 生態の権利	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第8回	Do the Right Thing! 正義とは	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第9回	When Does Life Begin? 命の始まりはいつ?	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第10回	Healthcare System I アメリカ健康保険事情①	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第11回	Healthcare System II アメリカ健康保険事情②	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第12回	Digital Youth: The Connected Generation ネット世代の若者考察	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第13回	Advertisements Are Never Innocent 広告のわな	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第14回	Student Power: The New Youth Movement 18歳選挙権の意義	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙
第15回	Review for Final Exam 総復習	【予習】 テーマの理解 【復習】 語彙

学修の到達目標
1. 異なる習慣やシステムを理解することで見聞を広める。 2. 時事問題を多面的に捉え批判的に考えることができる。 3. テーマごとに用いられる英語の頻出用語が使える。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①自分の考えを形成し他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	自分の意見を論理的に組み立て、一貫性をもって英語で他者に伝えることができる。
	優	自分の意見を論理的にまとめて適切な英語で他者に伝える能力を持っている。
	良	自分の意見を導き出し適切な英語を使って他者に伝えることができる。
	可	自分の意見を簡単な英語もしくは日本語で伝えることができる。
	不可	自分の意見を形成することができない。
②失敗を恐れず自分の考えを英語で伝えることができる。 (実行力)	秀	すでに持っている知識に授業で学ぶ知識を加えて英語で論理的に話すことができる。
	優	すでに持っている知識に授業で学ぶ知識を加えて流暢な英語で話すことができる。
	良	すでに持っている知識に授業で学ぶ知識を加えて適切な英語で話すことができる。
	可	すでに持っている知識に授業で学ぶ知識を加えて簡単な英語で話すことができる。
	不可	与えられた場面において何をしたいのかわからない。
③物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる。 (批判的思考力)	秀	物事を多面的に捉え考察することができて肯定面および否定面の両方を導き出すことができる。
	優	物事を多面的に捉え考察しその内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事を多面的に捉え考察することができる。
	可	物事を適切に捉え考察することができる。
	不可	物事を批判的に考えることができない。
④学ぶことの愉しさを覚える。 (知欲)	秀	授業で取り上げるテーマを探求し自発的に発表することができる。
	優	授業で取り上げるテーマを自発的に調べ他者と共有することができる。
	良	授業で取り上げるテーマを他者とともに探求することができる。
	可	授業で取り上げるテーマにおいて自発的に学習する。
	不可	授業で取り上げるテーマにおいて自分の意見を肯定的にも否定的にも持たない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①表現力	30	10	10	0	0	0	50
	②実行力	0	10	10	0	0	0	20
	③批判的思考力	10	10	0	0	0	0	20
	④知欲	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を行う。 定期試験では、授業で取り上げたテーマにおける読解と新たに習得した英単語の意味の理解が求められる。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	毎月一回授業で筆記もしくは口頭による小テスト（リスニングを含む）を行う。 小テストでは、英単語のスペルや意味において正確な理解が求められる。 リスニングにおいては、全体的な要点の把握が求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。 対話では、一人の意見に迎合するのではなく、自らの考えを率直に述べる積極的な態度が求められる。必要に応じてプレゼンテーションを行う。
	②	✓	
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

テーマに応じて自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的に取り組むこと。

教科書・参考書

教科書：プリントを随時配布する。

参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地域との協働 B (F13010)	演習	1	30	2	通 年	選 択	—	澁谷雪子	2号館3階 研究室他
地域に飛びだし、学ぼう！								複数担当	
科目担当者	澁谷雪子、國崎大恩								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、表現力、責任感、貢献力、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	学生が主体となり、小豆島やその他の地域活性化のために、地域の方々と協力して活動を行う。その活動を通し学生同士で助け合い、支えあうチームビルディングの力を育成する。また地域の方々と協力し、一定の目的に向けて何かを成し遂げる社会性と実践力を養う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション この授業の概要、進め方について説明する。 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 集団生活に必要なことについて考える。 【復習】 意見をまとめ、考える資料にする。 (まとめプリント)
第2回	グループワーク① グループで小豆島合宿の目標を話し合い、全体での目標を決定する。 またその目標を達成するために必要な事項を話し合う。 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 小豆島合宿での各自または団体の目標について考える。(予習プリント) 【復習】 意見をまとめ、考える資料にする。 (まとめプリント)
第3回	グループワーク② 小豆島合宿の日程、活動を把握し、それぞれの場面での注意事項、必要事項について話し合う。 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 集団生活、合宿における注意事項について考える。(予習プリント) 【復習】 意見をまとめ、考える資料にする。 (まとめプリント)
第4回	グループワーク③ 学年、学科を超えて共同生活をするために必要なことについて話し合い、協力しあうグループを作る方法を考える。 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 協力しあうグループを作る方法を考える。(予習プリント) 【復習】 意見をまとめ、考える資料にする。 (まとめプリント)
第5回	計画 グループワーク①、②、③での意見をまとめ、合宿のしおりを作成する。また参加者募集に向けて計画をたてる。 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 合宿に必要な事項を再度考える。(予習プリント) 【復習】 合宿のしおり、参加者募集資料を作成する。
第6回	合宿① 日程、活動、役割の最終確認 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 各自で合宿に向けて最終確認をする。 【復習】 変更事項等の確認
第7回	合宿② 実習に向けての準備 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 各自、実習に向けて必要な事項を考える。(予習プリント) 【復習】 各自、最終確認をする。
第8回	合宿③ 施設での実習(病院、こどもセンター、保育園) (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 各施設、専門の職業について学んでおく。 【復習】 実習記録を提出
第9回	合宿④ 施設での実習(病院、こどもセンター、保育園) (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 各施設、専門の職業について学んでおく。 【復習】 実習記録を提出
第10回	合宿⑤ 施設での実習(病院、こどもセンター、保育園) (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 各施設、専門の職業について学んでおく。 【復習】 実習記録を提出
第11回	合宿⑥ 施設での実習(病院、こどもセンター、保育園) (担当者：澁谷・國崎)	【予習】 各施設、専門の職業について学んでおく。 【復習】 実習記録を提出

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第12回	合宿⑦ 地域貢献活動 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】各自、地域貢献活動での役割について考える。 【復習】活動記録を提出
第13回	合宿⑧ 地域貢献活動 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】各自、地域貢献活動での役割について考える。 【復習】活動記録を提出
第14回	振り返り、発表会準備 合宿の目標設定、その目標の到達度、活動報告についてまとめる。 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】合宿の計画、活動報告をまとめる。 【復習】発表会資料を作成する。
第15回	発表会 活動報告も含め、この授業で学んだこと、その学びをどのように役立てていくかについて発表する。 (担当者：澁谷・國崎)	【予習】各自、発表会の準備をする。 【復習】質問事項などをまとめ、活動報告書を作成

学修の到達目標

履修者は地域の方々との関わり、共同生活において、協力して活動するために必要な事項を下記の評価項目も含めて、自ら考え、まとめ、周囲に伝えることにより、社会性について自発的に考える。また考えた事項を合宿で実践し、社会性を身につける。履修期間をとおして考え、身につけた事項をどのように各専門分野に役立てていくかを考える。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
① 想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現力のいずれにおいても十分な能力を持っている。また他者の立場を考えながら、伝えることができ、あらゆる人にとっても理解しやすい。
	優	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現力のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることができる。
	可	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることに向け努力している。
	不可	自分の思い、考えをまとめ、他者に伝えることができない。
② 社会の一員としての責任をもって物事に臨むことができる (責任感)	秀	自分のすべきことを十分理解し、グループの目標を成し遂げるために努力を惜しまない。自らの行動、考えを反省、振り返ることができ、他者への見返りを求めない。
	優	自分のすべきことを十分理解し、グループの目標を成し遂げるために努力を惜しまない。
	良	自分のすべきことを認識し、物事に臨むことができる。
	可	他者の助言・指導のもと、自分のすべきことを認識し、物事に臨むことができる。
	不可	自分のすべきことが理解でない。
③ 誰かの役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができる (貢献力)	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。あらゆる場面において周囲に貢献する姿勢ができていいる。
	優	かなり自発的に周囲に貢献できる。
	良	自発的に周囲に貢献できる。
	可	他者の助言・指導のもと、周囲に貢献できる。
	不可	周囲に貢献できない。
④ 他者の声に耳を傾け、創造的な対話することができる (傾聴力・対話力)	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、自分の考えも他者の立場を考えながら、伝えることができる。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解することができ、自分の考えも伝えることができる。
	良	他者の意見を聴くことができ、自分の考えを伝えることができる。
	可	他者と会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールはできない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
⑤自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる (協調性・協働力)	秀	自発的に周囲と協調・協働することができる。その際に自ら周囲の様子を察知し、グループの目標を成し遂げるために取り組むことができる。
	優	自発的に周囲と協調・協働し、グループの目標を成し遂げるために取り組むことができる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	他者の助言・指導のもと、周囲と協調・協働することができる。
	不可	周囲と協調・協働することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	50	20	0	0	30	100
評価項目	①伝える力	0	20	10	0	0	4	34
	②社会の一員としての責任感	0	20	0	0	0	5	25
	③自発的な貢献	0	0	0	0	0	7	7
	④他者との対話	0	0	0	0	0	7	7
	⑤自発的な周囲との協調・協働	0	10	10	0	0	7	27

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓
	②	✓
	③	
	④	
	⑤	✓
成果発表 (口頭・実技)	①	✓
	②	
	③	
	④	
	⑤	✓
その他	①	✓
	②	✓
	③	✓
	④	✓
	⑤	✓

履修に必要な知識・技能・態度など
地域の方々、先輩、同級生、教職員との関わりから、何かを学ぼうとする姿勢を持って履修すること。
教科書・参考書
教科書：定めず、必要時は資料配布 参考書：定めず、必要時は資料配布

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

MEMO

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育原理 (E22000)	講義	2	30	1	前期	必修	保育必修	中田尚美	7号館5階 研究室
保育についての理解を深める								単独担当	
科目担当者	中田尚美								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、表現力
授業の概要	保育の理念、役割、制度、実践について全般的な理解を深める。保育の目標、方法、計画、評価について学ぶとともに、諸外国および日本における保育の現状と課題について理解を深め、より広い視野で俯瞰的に保育について考える。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション この授業の進め方について共通理解を深める	【復習】 学びの確認
第2回	子どもの育ちと絵本、文化財について	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第3回	日本の保育制度— 幼稚園、保育所、認定こども園	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第4回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第5回	欧米の保育の歴史	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第6回	日本の保育の歴史	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第7回	子どもの世界を理解する —DVD鑑賞—	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第8回	保育の特性と保育実践	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第9回	保育の方法	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第10回	保育の計画と評価	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第11回	保護者支援	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第12回	諸外国の保育の現状と課題	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第13回	日本の保育の現状と課題	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第14回	保育者の専門性	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第15回	まとめ	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認

学修の到達目標

保育の理念、役割、制度、方法、計画、評価について説明できる。国内外の保育に実際に興味を持ち、より広い視野で保育の意義や課題を考えることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①保育に関する基本的知識・技術の修得 (専門力)	秀	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで持ち合わせている。なおかつ幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで持ち合わせ、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②保育について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	授業で学んだ基本的知識・概念に基づき、十分論理的に考えることができ、さらに新たな視点を示すことができる。
	優	授業で学んだ基本的知識・概念に基づき、十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ基本的知識・概念に基づき、論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ基本的知識・概念に基づき、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ基本的知識・概念に基づいて論理的に考えることができない。
③思いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者に十分説得的に伝えることができ、さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者に説得的に伝えることができる。
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えをある程度他者に伝えることができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	10	0	0	0	100
評価項目	①保育に関する基本的知識の修得	30	20	0	0	0	0	50
	②保育に関する論理的思考	20	20	0	0	0	0	40
	③他者への説明	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業後に筆記試験を行う。持ち込み不可。
	②	✓	
	③		
提出物	①	✓	授業時に意見、質問票の提出を求める。
	②	✓	
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①		グループディスカッションおよびグループ発表の機会を設ける。
	②		
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
授業時に求められる課題に真摯に取り組む。
教科書・参考書
教科書：『保育原理』戸江茂博編 あいり出版、『最新保育資料集 2018』 ミネルヴァ書房 参考書：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育原理 (E22010)	講義	2	30	1	後期	必修	保育必修 幼教免必修 小教免必修	光成研一郎	7号館5階 研究室
教育を理論的、批判的に考える。								単独担当	
科目担当者	光成研一郎								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力
授業の概要	従来の教育観が大きく揺らぎ、信頼を失いつつある一方で、今日ほど教育の必要性が叫ばれている時代もない。それゆえに今教育が根本的、原理的に問われなければならない。この教育原理においては、教育の基本原理とは何か、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	教育の語義と概念	【予習】 シラバスの熟読
第2回	教育の必要性と可能性	【予習】 課題の解答
第3回	教育の理念・目的	【予習】 課題の解答 【復習】 ブリーフレポートの作成
第4回	教育の歴史・思想	【予習】 課題の解答
第5回	教育の基礎的概念と諸理論	【予習】 課題の解答
第6回	近代教育制度の成立と展開	【予習】 課題の解答 【復習】 ブリーフレポートの作成
第7回	教育を成り立たせる要素	【予習】 課題の解答
第8回	家庭教育の特質と機能（中間テストを実施）	【予習】 課題の解答
第9回	現代家庭教育の抱える課題	【予習】 課題の解答 【復習】 ブリーフレポートの作成
第10回	学校教育の特質と機能	【予習】 課題の解答
第11回	現代学校教育の抱える課題	【予習】 課題の解答
第12回	社会教育と生涯学習	【予習】 課題の解答 【復習】 ブリーフレポートの作成
第13回	生涯学習時代における学びの在り方	【予習】 課題の解答
第14回	インストラクショナルデザイン（教育目標と指導と評価の一体化）	【予習】 課題の解答
第15回	幼稚園教育要領と小学校学習指導要領について 補足とまとめ	【予習】 課題の解答 【復習】 ブリーフレポートの作成

学修の到達目標

- ・教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
- ・教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
- ・教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。
- ・家庭、学校、社会のそれぞれの教育的役割および連携の重要性について理解する。
- ・生涯学習時代における学びの在り方について理解する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①教育の基本的概念・歴史・思想について理解している。 (専門力①)	秀	教育の基本的概念・歴史・思想について深く理解している。
	優	教育の基本的概念・歴史・思想について理解している。
	良	教育の基本的概念・歴史・思想についてある程度理解している。
	可	教育の基本的概念・歴史・思想の中で2点については、ある程度理解している。
	不可	教育の基本的概念・歴史・思想について理解していない。
②家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について理解している。 (専門力②)	秀	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について深く理解している。
	優	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について理解している。
	良	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性についてある程度理解している。
	可	家庭・学校・社会の教育的役割もしくは、連携の重要性のどちらかについては、理解している。
	不可	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について理解していない。
③生涯学習時代における学びの在り方について理解している。 (専門力③)	秀	生涯学習時代における学びの在り方について深く理解し、実践できている。
	優	生涯学習時代における学びの在り方について深く理解している。
	良	生涯学習時代における学びの在り方について理解している。
	可	生涯学習時代における学びの在り方についてある程度理解している。
	不可	生涯学習時代における学びの在り方について理解していない。
④上記3つの専門力を論理的・批判的に思考できる。 (論理的・批判的思考力)	秀	3つの専門力を論理的・批判的観点から思考し、説明することができる。
	優	3つの専門力を論理的・批判的観点から思考し、伝えることができる。
	良	3つの専門力を概して論理的・批判的観点から思考し、伝えることができる。
	可	3つの専門力を論理的もしくは、批判的観点から思考し、伝えることができる。
	不可	3つの専門力を論理的、批判的観点の両面において、思考することができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	29	0	0	0	21	100
評価項目	①教育の基本的概念・歴史・思想についての理解	10	19	0	0	0	21	50
	②家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性についての理解。	10	0	0	0	0	0	10
	③生涯学習時代における学びの在り方についての理解。	10	0	0	0	0	0	10
	④上記3つの専門力を論理的・批判的に思考できる。	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	期末試験を実施する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	ブリーフレポート（3×5）と課題への取り組み（1×14）を評価する。計29点
	②		
	③		
	④	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	中間試験を実施する。
	②		
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

知識の修得が問われる科目なので、ほぼ毎回課せられる課題とブリーフレポートの提出を怠らないこと。

教科書・参考書

教科書：『教育のアイデア』（光成研一郎編 昭和堂）

参考書：小学校学習指導要領、幼稚園教育要領

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
社会福祉 (E22020)	講義	2	30	1	前期	必修	保育必修	橋本好市	7号館5階 研究室
社会福祉と保育の関係性を知る								単独担当	
科目担当者	橋本好市								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力
授業の概要	現代社会における社会福祉の意義について、自らの生活に即した視点で考えとらえることを大切にする。社会全体の幸福と個人の幸福に関するマクロ・ミクロの視野から、理念や制度について法体系を踏まえつつ、各領域の具体的な制度について理解を促す。社会福祉の究極的な目標は「すべて国民の幸せの達成」である。しかし、幸せの価値観は多様であり、共通理解は難しい。自らの幸せを軸に据えながら社会や児童（対象者）の幸せについて深い洞察ができるようにする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	現代社会と社会福祉の意義	【予習】生存権の条文等を確認 【復習】講義時にみた条文を整理
第2回	社会福祉の理念と概念	【予習】社会福祉の定義等を確認 【復習】講義時にみた定義を整理
第3回	社会福祉サービスの概要と専門職	【予習】生存権の条文等を確認 【復習】講義時にみた資料等を整理
第4回	社会福祉専門職の専門性と倫理	【予習】倫理綱領の条文を確認 【復習】講義時にみた倫理綱領を整理
第5回	社会福祉の法体系	【予習】社会福祉関係法規を確認 【復習】講義時にみた条文等を整理
第6回	保育士と社会福祉の関係性～法制度上から見た立ち位置	【予習】児童福祉法の条文等を確認 【復習】保育士の法的根拠を整理
第7回	社会福祉と保育士の関連性	【予習】児童福祉職域を確認 【復習】児童福祉専門職を整理
第8回	児童福祉施設設置基準を踏まえた福祉専門職としての保育士	【予習】児童福祉施設類型を確認 【復習】児童福祉施設の定義を整理
第9回	社会保障としての社会保険制度	【予習】社会保険制度を確認 【復習】各種社会保険類型と制度を整理
第10回	社会保障としての生活困窮者支援制度	【予習】生活困窮者について確認 【復習】セーフティネットの意義・制度を整理
第11回	生活保護制度の原理原則	【予習】生存権・生保法等を確認 【復習】生保対象と原理原則等を整理
第12回	生活保護制度の扶助類型	【予習】扶助類型等の条文を確認 【復習】扶助類型・定義・条文等整理
第13回	生活保護制度の具体的扶助金額	【予習】扶助に伴う金額を想定 【復習】扶助体系と扶助額の整理
第14回	生活保護制度と保育サービス	【予習】生存権からみた保育士の役割等を確認 【復習】倫理綱領・資料等から整理
第15回	社会福祉の今後の動向～補足とまとめ、理解度の確認	【予習】法体系・範囲・対象等を確認 【復習】全ての条文・資料等を整理

学修の到達目標	
社会福祉全体の理念とその概要についての知識を得る。 また、社会福祉の各領域についての概念や制度について理解をする。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①専門職としての資質と職務遂行に必要な知識を習得している。 (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。かつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②社会福祉関係法律を根拠に基づく論理的思考ができる。 (論理的思考力)	秀	客観的に社会福祉関係法的根拠に基づき十分論理的に考えることができる。かつ、法的根拠の限界も理解しており、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的に社会福祉関係法的根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的に社会福祉関係法的根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	客観的に社会福祉関係法的根拠が多少は薄い、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	客観的に社会福祉関係法的根拠に基づき論理的に考えることができない。
③物事を客観的・多角的・批判的に捉え、考えることができる。 (批判的思考力)	秀	物事を客観的・多面的に検討し、実証的・批判的判断に基づきその内容を統合し結論づけることができる。かつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を客観的・多面的に検討し、実証的・批判的判断に基づきその内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、かつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることをある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りていると判断している。かつ、一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	①専門職としての資質と知識	50	10	0	0	0	0	60
	②法的根拠に基づく思考性	20	5	0	0	0	0	25
	③客観的・多角的・実証的思考性	10	5	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を実施。なお、再試験は実施しない。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	中間レポートを実施する。
	②	✓	
	③	✓	
その他	①		講義への出席は当然のことであるため、出席回数等を評価対象とはしない。欠席多者は、自ずと試験等の評価に反映するであろう。
	②		
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

子どもに関わる上で、基礎となる講義である。子ども関連の法制について基礎的な理解を促し、社会との関わりの中でとらえていく。したがって、子ども・障害・貧困・病気・年金・保健等のキーワードで社会の事象について興味関心を持って講義へ臨むこと。

教科書・参考書

教科書：①『ワイド版社会福祉小六法 資料付』ミネルヴァ書房
②『保育と社会福祉』橋本好市・宮田徹 編、みらい出版

参考書：『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田旬哉 編、萌文書林
その他、その都度適宜紹介

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
発達心理学 I (E22030)	講義	2	30	1	後期	必修	保育必修	柳原利佳子	7号館5階 研究室
自分の発達を思い出してみよう								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力・知欲・自己管理能力
授業の概要	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では胎児期・乳児期・幼児期・児童期を扱う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	発達とは	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 学びの確認
第2回	胎児期の発達	【予習】 胎児期の発達について調べる 【復習】 学びの確認
第3回	乳児の知覚発達	【予習】 乳児の知覚発達について調べる 【復習】 学びの確認
第4回	発達の一般的傾向	【予習】 発達の一般的傾向について調べる 【復習】 学びの確認
第5回	発達初期におけるヒトの特殊性 (小テスト1：第1回～第4回まで)	【予習】 小テスト対策と発達初期におけるヒトの特殊性について調べる 【復習】 学びの確認
第6回	野生児の記録	【予習】 野生児の記録について調べる 【復習】 学びの確認
第7回	発達環境の重要性と愛着理論	【予習】 発達環境の重要性と愛着理論について調べる 【復習】 学びの確認
第8回	愛着行動と測定	【予習】 愛着行動と測定について調べる 【復習】 学びの確認
第9回	心の理論	【予習】 心の理論について調べる 【復習】 学びの確認
第10回	感情の発達 (小テスト2：第5回～第9回まで)	【予習】 小テスト対策と感情の発達について調べる 【復習】 学びの確認
第11回	思考の発達	【予習】 思考の発達について調べる 【復習】 学びの確認
第12回	発達観・子ども観	【予習】 発達観・子ども観について調べる 【復習】 学びの確認
第13回	発達段階	【予習】 発達段階について調べる 【復習】 学びの確認
第14回	発達課題	【予習】 発達課題について調べる 【復習】 学びの確認
第15回	補足とまとめ (小テスト3：第10回～第14回まで)	【予習】 小テスト対策をする 【復習】 学びの確認と期末試験対策をする

学修の到達目標

効果的な教育や保育を展開するための子どもの発達について、各発達段階の特徴を理解できる。また、個体の発達の变化のイメージを描き、各発達段階における理論を自分自身の経験に当てはめて考えることにより、人間発達に関する一層の理解を深めることができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
① 児童期以前の発達について、基本的な必要な知識を身につけている。 (専門力)	秀	児童期以前の子どもの発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめて子どもの理解に活用できる。
	優	児童期以前の子どもの発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめることができる。
	良	児童期以前の子どもの発達について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	児童期以前の子どもの発達について基本的な知識を身につけている。
	不可	児童期以前の子どもの発達についての知識を身につけていない。
② 学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができない。
③ 自ら、心身の健康を適切に管理することができる。 (自己管理能力)	秀	教員・保育士等の職に就くために学修する者としての責任感のもと、発達について学んだことをふまえて心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	教員・保育士等の職に就くために学修する者としての責任感のもと、発達について学んだことをふまえて心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	良	ある程度自発的に、発達について学んだことをふまえて心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	可	他者からの助言や指導のもと、発達について学んだことをふまえて心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	不可	心身や生活態度等の自己管理ができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		55	15	0	0	0	30	100
評価項目	① 基本的な知識の習得	55	0	0	0	0	20	75
	② 学ぶことの楽しさ	0	0	0	0	0	10	10
	③ 心身の健康管理	0	15	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験において、子どもの発達についての知識や心理学用語などの理解ができていたかどうかを評価する。
	②		
	③		
提出物	①		授業内に行う復習チェックに対して、主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。
	②		
	③	✓	
その他	①	✓	小テストにおいて知識が習得できていたかどうか、また、授業内において発言するなど積極的に授業参加していたかどうかを評価する。
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

私語厳禁。積極的な授業参加を期待します。

教科書・参考書

教科書：『子どもとかかわる人のための心理学』 沼山博・三浦主博編著 萌文書林

参考書：適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
基礎研究演習 I (E22200)	演習	2	60	1	通年	必修	—	山下敦子	7号館5階 研究室他
保育・教育職に必要な基礎力を高める								複数担当	
科目担当者	山下敦子、笹井隆邦、柳原利佳子、大城亜水、牛頭哲宏、多田琴子、橋本好市、松尾寛子								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、情報力、論理的思考力、批判的思考力、探究力、自己管理力、省察力、表現力、判断力、協調性・協働力
授業の概要	昨今の保育・教育現場では、豊かな人間性と高い倫理観、専門的な知識・技能、変化する社会に 応えられる実践的教育力が求められています。そのために、自ら課題を見出し研究する態度、能力 が必要です。私たち担当教員は、このような知識・技能・態度の養成を行い、みなさんが将来、希 望する教育専門職に就くことをめざしています。大学での学びは「教わる」という受け身のものでは なく、「自ら考え、修得する」という主体的な学びとなります。本授業では、コース別、ゼミ別 など目的に応じた形態で主体的、協働的に学んでいきます。また、適時、ポートフォリオを作成し たり振り返ったりすることで、自己の適性を把握し、将来に向けての目標を明確にすることもねら っています。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション <合同> ～将来の進路決定に向けた大学での学びについて～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 自己目標の設定
第2回	学科における専門的学びの意義を理解する <クラス別> ～保育・教育の仕事に就くために～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 専門職について知識の整理 【復習】 学びの確認
第3回	保育・教育職に就くための計画と専門分野の研究手法 <コース別> (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 専門職についての知識の理解 【復習】 学びの確認
第4回	図書館の利用と文献検索の方法、論文の書き方の基礎 <クラス別> (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 文献活用について知識の整理 【復習】 学びの確認
第5回	自己・他者理解、研究的態度の理解① <ゼミ別> ～大学での学びについて考える～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 自己の目標を整理 【復習】 目標の設定と実行
第6回	自己・他者理解、研究的態度の理解② <ゼミ別> ～保育・教育者の適性や資質について考える～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 自己の特徴の把握 【復習】 自己分析を整理
第7回	自己・他者理解、研究的態度の理解③ <ゼミ別> ～教育課題について考える～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 教育時事問題を収集 【復習】 学びの確認
第8回	自己・他者理解、研究的態度の理解④ <ゼミ別> ～論理的思考、批判的思考の基礎～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 教育時事問題を収集 【復習】 学びの確認
第9回	観察実習の事前指導① <コース別> ～保育所、小学校の観察実習にむけて～ (担当者：松尾、山下)	【予習】 実習目標の設定 【復習】 実習準備
第10回	観察実習の事前指導② <合同> ～幼稚園の観察実習にむけて～ (担当者：多田)	【予習】 実習目標の設定 【復習】 実習準備
第11回	観察実習の事前指導③ <合同> ～児童養護施設の観察実習にむけて～ (担当者：橋本)	【予習】 実習目標の設定 【復習】 実習準備
第12回	観察実習 保育者養成コース：保育所、幼保連携型認定こども園 教員養成コース：小学校 (担当者：松尾、多田、山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 実習目標、留意事項の確認 【復習】 観察記録の作成
第13回	観察実習 保育者養成コース：保育所、幼保連携型認定こども園 教員養成コース：小学校 (担当者：松尾、多田、山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 実習目標、留意事項の確認 【復習】 観察記録の作成

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第14回	観察実習 保育者養成コース：幼稚園、認定こども園、 教員養成コース：幼稚園、認定こども園 (担当者：多田、牛頭、山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 実習目標、留意事項の確認 【復習】 観察記録の作成
第15回	観察実習 保育者養成コース：幼稚園、認定こども園、 教員養成コース：幼稚園、認定こども園 (担当者：多田、牛頭、山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 実習目標、留意事項の確認 【復習】 観察記録の作成
第16回	観察実習保育者養成コース：児童養護施設、教員養成コース：児童 養護施設 (担当者：橋本、山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 実習目標、留意事項の確認 【復習】 観察記録の作成
第17回	観察実習保育者養成コース：児童養護施設、教員養成コース：児童 養護施設 (担当者：橋本、山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 実習目標、留意事項の確認 【復習】 観察記録の作成
第18回	観察実習の事後指導①<コース別> ～保育所、小学校の観察実習のまとめ～ (担当者：松尾、山下)	【予習】 実習での学びを確認 【復習】 今後の自己の課題を整理
第19回	観察実習の事後指導②<合同> ～幼稚園の観察実習のまとめ～ (担当者：多田)	【予習】 実習での学びを確認 【復習】 今後の自己の課題を整理
第20回	観察実習の事後指導③<合同> ～児童養護施設の観察実習のまとめ～ (担当者：橋本)	【予習】 実習での学びを確認 【復習】 今後の自己の課題を整理
第21回	自己・他者理解、研究的態度の理解⑤<合同> ～学びの中間振り返りと履修カルテの作成～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 授業における学びの整理 【復習】 振り返り、履修カルテの作成
第22回	自己・他者理解、研究的態度の理解⑥<ゼミ別> ～研究テーマの設定～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 教育課題を概観 【復習】 自己の研究テーマの確定
第23回	自己・他者理解、研究的態度の理解⑦<ゼミ別> ～文献購読、資料の整理～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 資料、文献収集 【復習】 学びの確認、まとめ
第24回	自己・他者理解、研究的態度の理解⑧<ゼミ別> ～研究テーマをまとめる～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 資料、文献収集 【復習】 学びの確認、まとめ
第25回	自己・他者理解、研究的態度の理解⑨<ゼミ別> ～研究発表の準備～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 研究内容のまとめ 【復習】 発表準備
第26回	自己・他者理解、研究的態度の理解 10 <ゼミ別> ～研究発表～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 発表準備 【復習】 研究発表の振り返り
第27回	自己・他者理解、研究的態度の理解 11 <ゼミ別> ～保育者、教育者としての適性と自己の成長～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 学びの確認 【復習】 ポートフォリオの整理
第28回	自己・他者理解、研究的態度の理解 12 <ゼミ別> ～自己の課題と今後の目標設定～(担当者:山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 ポートフォリオの確認 【復習】 ポートフォリオの整理
第29回	自己・他者理解、研究的態度の理解 13 <ゼミ別> ～学びの振り返りとまとめ～ (担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 ポートフォリオの確認 【復習】 ポートフォリオの整理
第30回	将来の進路決定にむけて～2年生におけるコース説明とコース希望 確定調査～<コース別> (担当者：橋本、牛頭、山下、笹井、柳原、大城)	【予習】 学びの振り返り 【復習】 コース、進路決定

学修の到達目標

- ①大学での学びや研究を行う上で必要となる研究スキル（文献の扱い方、レジュメやレポート作成法、プレゼンテーションの方法等）の基礎を身につける。
- ②保育・教育現場の職務内容を知り、自己の適性を判断する。
- ③将来の進路について考えを深め、自己の目標を明確にする。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①保育・教育のあり方について深く思考し、その本質を見極めようとすることができる。 (探究力)	秀	自発的に課題を見つけ、真摯に考えることができる。課題解決にあたっては実践的に思考し、保育・教育現場に応用しようとする態度で臨むことができる。
	優	自発的に思考し、課題解決を行うことができる。
	良	ある程度自発的に思考し、課題解決を行うことができる。
	可	他者から促されれば、課題について思考することができる。
	不可	課題について思考し、解決することができない。
②自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる。 (省察力)	秀	保育・教育者の資質について、自己の適性を的確に把握し、自らの思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、具体的な改善策を持ち、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげることができる。
	優	保育・教育者の資質について、自己の適性を把握し、自己の課題について反省し、改善することができる。
	良	保育・教育者の資質について、自己の適性をある程度まで把握し、自己の課題について反省し次につなげることができる。
	可	保育・教育者の資質について、他者からの助言をもとに自己の適性を俯瞰することができる。
	不可	保育・教育者の資質について、自らの適性を俯瞰することができない。
③思いや考えを表現し、他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	自己の思考を目的や相手に応じて効果的に他者にわかりやすく伝えることができる。
	優	自己の思考を他者にわかりやすく伝えることができる。
	良	自己の思考を他者に伝えることができる。
	可	自己の思考を助言や補助を得ながら他者に伝えることができる。
	不可	自己の思考を他者に伝えることができない。
④情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる。 (判断力)	秀	既習の知識やその場での情報を効果的に統合し、目的に応じて正確に判断することができる。かつ、その判断をもとに新たな創造的思考を生み出すことができる。
	優	既習の知識やその場での情報を効果的に統合し、目的に応じて正確に判断することができる。
	良	既習の知識やその場での情報を統合し、主体的に判断することができる。
	可	他者の助言や指導をもとに既習の知識やその場での情報から判断することができる。
	不可	適切な情報の統合や判断を行うことができない。
⑤自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って、自発的に周囲と協調・協働することができる。また、創意工夫を積極的に行い、保育・教育現場に即した実践や思考を行うことができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って、自発的に周囲と協調・協働することができる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	他者に促されることによって周囲と協調・協働することができる。
	不可	協調・協働しようとする意志をもって考えたり行動したりすることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	30	30	0	20	20	100
評価項目	①探究力	0	10	0	0	10	0	20
	②省察力	0	10	0	0	10	0	20
	③表現力	0	10	10	0	0	0	20
	④判断力	0	0	10	0	0	10	20
	⑤協調性・協働性	0	0	10	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	授業で指示した課題について適切に取り組み、提出したかどうかについて評価する。 ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが適切にできているかについて評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		授業内に行う発表やプレゼンテーションについて、評価する。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	
ポートフォリオ	①	✓	授業で取り組むワークシートや自己評価票などを学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。そのポートフォリオに対して、内容の充実度や実行性について評価する。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
その他	①		授業内における発言やグループディスカッション、グループでの協働作業について、主体的・能動的に取り組んでいたかどうかを評価する。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

この授業では教育専門職に就くための基礎的な知識・技能を身につけ、大学での研究の基礎力を養います。そのために常に保育・教育等に関する見聞を広げようとする意欲をもってください。また、教育専門職とは子どもに対して「教え、育む」職業です。常に強い責任感と真摯な態度が求められる職業であることを自覚し、受講においても真摯な態度で臨むことが求められます。特に観察実習に際しては、保育者・教育者としての自覚をもって参加し、事前指導の欠席者については見学実習への参加を認めません。

教科書・参考書

教科書：使用しません
参考書：適時、紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
児童家庭福祉 (E23030)	講義	2	30	1	後期	選択	保育必修	橋本好市	7号館5階 研究室
児童と保護者への児童福祉支援施策								単独担当	
科目担当者	橋本好市								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力
授業の概要	少子超高齢社会にある日本において、生活上の課題を抱える家庭と子どもへの社会的対応が山積している。社会全体で子どもを育てるという認識のもと、未来の財産である子どものより良い発達と成長のために児童家庭福祉の取り組みがある。児童家庭福祉の理念・制度・実践について、法体系をからその制度等について学んでいく。保育士は児童福祉法に定められた専門職であり、国家資格保有者としてふさわしい知識・技術の共通基盤の習得を期待する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	児童家庭福祉の現状と枠組み	【予習】生存権と児童福祉法を確認 【復習】講義時にみたデータ等を整理
第2回	児童家庭福祉の歴史	【予習】児童福祉の成り立ちを確認 【復習】児童福祉の歴史の変遷を整理
第3回	子どもの人権・権利の法的解釈～児童の権利に関する条約から	【予習】子どもの定義を確認 【復習】講義時にみた条文から整理
第4回	子どもの人権・権利の法的解釈～民法・児童福祉法から	【予習】条約と法の体系を確認 【復習】講義時にみた条約・法を整理
第5回	児童家庭福祉制度と関係機関	【予習】児童福祉法6条関係を確認 【復習】講義時にみた条文等を整理
第6回	児童家庭福祉制度にみる専門職	【予習】児童福祉関係職種を確認 【復習】各職種の法的根拠を整理
第7回	子ども子育て支援制度から捉える保育サービス	【予習】子育て支援法の目的を確認 【復習】児童福祉法との関係性を整理
第8回	児童福祉施設類型と定義	【予習】児童福祉施設の定義を確認 【復習】児童福祉施設類型を整理
第9回	児童福祉施設の設置（設備）運営基準	【予習】各児童福祉施設の特性を確認 【復習】各施設設置の運営基準を整理
第10回	要保護児童に対する法的支援	【予習】要保護児童の定義を確認 【復習】要保護児童対応制度を整理
第11回	児童虐待防止等に関する被虐待児童に関する福祉施策	【予習】児童虐待類型・法規を確認 【復習】虐待データと定義・法規を整理
第12回	児童虐待防止等に関する福祉支援サービス	【予習】児童相談所等の役割を確認 【復習】被虐待児対応と福祉制度を整理
第13回	児童虐待としつけとの相違から考える保育士としての視点	【予習】しつけと虐待の相違を検討 【復習】しつけの範囲と親権等を整理
第14回	子育て支援としての経済的支援	【予習】保護者に経済的手当等を確認する 【復習】児童手当等の経済支援類型を整理
第15回	児童福祉専門職者としての保育士のあり方～まとめに変えて	【予習】法体系・範囲・対象等を確認 【復習】全ての条文・資料等を整理

学修の到達目標

児童福祉についての基本的な理念・事項の理解ができる。現代社会における児童家庭福祉についての事象に興味・関心を持ち、自分なりの見解を持つことができるようになる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①専門職としての資質と職務遂行に必要な知識を習得している。 (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。かつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②社会福祉関係法律を根拠に基づく論理的思考ができる。 (論理的思考力)	秀	客観的に児童福祉関係法的根拠に基づき十分論理的に考えることができる。かつ、法的根拠の限界も理解しており、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的に児童福祉関係法的根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的に児童福祉関係法的根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	客観的に児童福祉関係法的根拠が多少は薄い、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	客観的に児童福祉関係法的根拠に基づき論理的に考えることができない。
③物事を客観的・多角的・批判的・実証的に捉え、考えることができる。 (批判的思考力)	秀	物事を客観的・多面的に検討し、実証的・批判的判断に基づきその内容を統合し結論づけることができる。かつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を客観的・多面的に検討し、実証的・批判的判断に基づきその内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、かつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることをある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りていると判断している。かつ、一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	①専門職としての資質と知識	50	10	0	0	0	0	60
	②法的根拠に基づく思考性	20	5	0	0	0	0	25
	③客観的・多角的・実証的思考性	10	5	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を実施。なお、再試験は実施しない。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	中間レポートを実施する。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

子どもに関わる基礎となる講義である。子ども関連法制度の理解を促し、社会との関わりの中でとらえていく。したがって、子ども・障害・貧困・病気・年金・保健等のキーワードで社会の事象について興味関心を持ち講義へ臨むこと。
講義への出席は当然のことであるため、出席回数等を評価対象とはしない。欠席多者は、自ずと試験等の評価に反映するであろう。

教科書・参考書

教科書：前期科目「社会福祉」に同じ

- ①『ワイド版社会福祉小六法 資料付』ミネルヴァ書房
- ②『保育と社会福祉』橋本好市・宮田徹 編、みらい出版

参考書：『図解で学ぶ保育 児童家庭福祉』直島正樹・原田句哉 編、萌文書林
その他、その都度適宜紹介

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育内容総論 (E23320)	演習	1	30	1	後期	選択	保育必修 幼教免必修	中田尚美	7号館5階 研究室
保育内容の学び								単独担当	
科目担当者	中田尚美								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、教養、知欲
授業の概要	保育の全体的な構造を知り、保育内容の歴史の変遷を学ぶ。子どもの発達特性を踏まえた保育内容の在り方、保育の多様な展開について理解を深める。保育内容の各論および具体的な保育実践を展開する基盤を培う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション この授業の進め方について共通理解を深める	【復習】 学びの確認
第2回	保育内容を学ぶ必要性	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第3回	子ども理解と保育内容	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第4回	保育内容の基準としての保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第5回	環境を通して行う保育	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第6回	乳児の生活と保育内容	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第7回	幼児の生活と保育内容	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第8回	保育内容の実践的理解 1 自然と環境	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第9回	保育内容の実践的理解 2 季節と行事	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第10回	保育内容の実践的理解 3 児童文化財	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第11回	遊びと生活	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第12回	保育の多様な展開と保育内容	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第13回	保育内容の変遷	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第14回	現代社会と保育内容	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認
第15回	まとめ	【予習】 教科書内容の読解 【復習】 学びの確認

学修の到達目標
幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における保育の基本と、保育内容の全般的な構造を説明できる。保育内容の各論および具体的な保育実践を展開する作業に取り組む。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①専門職の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている。 (専門力)	秀	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで持ち合わせている。なおかつ幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②生活・遊び・伝承文化等に関する基礎的な知識を身につけている。 (教養)	秀	必要な知識を満足できる水準を超えて理解し、身につけている。
	優	必要な知識を満足できる水準にまで身につけている。
	良	必要な知識を身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、必要最低限の知識は身につけている。
	不可	必要な知識を身につけていない。
③学ぶこと、知ることに楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出すことができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出すことができる。
	良	ある程度、自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと、知ることができ、他者から指摘されて、楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと、知ることに楽しさと喜びを見出すことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	20	10	20	0	0	100
評価項目	①専門力	40	10	5	10	0	0	65
	②教養	10	10	0	5	0	0	25
	③知欲	0	0	5	5	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業後に筆記試験を行う。持ち込み不可。
	②	✓	
	③		
提出物	①	✓	毎回の授業時に小テストを行う。
	②	✓	
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	授業時にグループディスカッションを行い、そこで発表する機会を設ける。
	②		
	③	✓	
作品	①	✓	「絵本ノート」を作成する。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

生活、遊び、伝承文化、自然などに日頃から関心を持つ。保育の現代的課題に関する新聞記事や書物を読む。

教科書・参考書

教科書：『保育内容総論』大沢裕也他編 一藝社

参考書：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育内容(言葉) (E23350)	演 習	2	30	1	後 期	選 択	保 育 必 修 幼 教 免 必 修	高橋司	7号館2階 非常勤講師 控室
乳幼児のことばの世界								単 独 担 当	
科目担当者	高橋司								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、専門力、傾聴力・対話力、省察力、表現力
授業の概要	ヒトは、出生後わずか1年という歳月を経て、「ことば」を発することにより相手と交流できるようになる。授業では、この人と人を結びつけるコミュニケーション手段としての、ことばの発達過程を探り、保育実習や保育現場で役立つ、ことばを伸ばす保育内容を創造していく。担当者による講義と、受講者によるグループワークを設け、言葉の機能(講義形式)と言葉を促す保育内容(演習形式)を探る。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	幼稚園教育におけることばの教育の歴史	【予習】 シラバスに目を通しておくこと 【復習】 テキストの該当箇所を読んでおくこと
第2回	領域「言葉」のねらいと内容	【予習】 要領・指針の領域「言葉」を読んでおくこと 【復習】 要領・指針の領域「言葉」を読んでおくこと
第3回	ことばの発達過程① 0、1、2、3歳児	【予習】 乳幼児のことばに耳を傾けよう 【復習】 乳幼児のことばに耳を傾けよう
第4回	ことばの発達過程② 4、5歳児	【予習】 乳幼児のことばに耳を傾けよう 【復習】 乳幼児のことばに耳を傾けよう
第5回	聞くこと、話すことの指導	【予習】 乳幼児のことばに耳を傾けよう 【復習】 乳幼児のことばに耳を傾けよう
第6回	読むこと、書くことの指導	【予習】 乳幼児のことばに耳を傾けよう 【復習】 乳幼児のことばに耳を傾けよう
第7回	ことばを育むあそび① ～呼びかけ、劇あそび、ごっこ～	【予習】 子ども頃遊んだ「ごっこ」を蘇らせてください 【復習】 子ども頃遊んだ「ごっこ」を蘇らせてください
第8回	ことばを育むあそび② ～手あそび、指あそび、ことばあそび～	【予習】 手あそび、うたあそび、絵描き歌を調べておいてください 【復習】 手あそび、うたあそび、絵描き歌を調べておいてください
第9回	ことばを育む視聴覚文化財① (おはなし)	【予習】 日頃から児童文化財に触れておいてください 【復習】 日頃から児童文化財に触れておいてください
第10回	ことばを育む視聴覚文化財② (ペープサート)	【予習】 日頃から児童文化財に触れておいてください 【復習】 日頃から児童文化財に触れておいてください
第11回	ことばを育む視聴覚文化財③ (紙芝居)	【予習】 日頃から児童文化財に触れておいてください 【復習】 日頃から児童文化財に触れておいてください

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第12回	ことばを育む視聴覚文化財④（エプロンシアター）	【予習】日頃から児童文化財に触れておいてください 【復習】日頃から児童文化財に触れておいてください
第13回	ことばを育む視聴覚文化財⑤（絵本）	【予習】日頃から児童文化財に触れておいてください 【復習】日頃から児童文化財に触れておいてください
第14回	ことばを育む視聴覚文化財⑥（パネルシアター）	【予習】日頃から児童文化財に触れておいてください 【復習】日頃から児童文化財に触れておいてください
第15回	ことばを育む視聴覚文化財（パネルシアターを創る）	【予習】日頃から児童文化財に触れておいてください 【復習】日頃から児童文化財に触れておいてください

学修の到達目標

こどもの保育に携わる者として必要な豊かな人間性と専門性の習得。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。
②各専門職の実務遂行に 必要な知識・技能を身 につけている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
③他者の声に耳を傾け、 創造的な対話をするこ とができる (傾聴力・対話力)	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
④自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。
⑤想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	10	20	0	0	0	100
評価項目	①専門力	50	0	5	0	0	0	55
	②省察力	10	5	0	0	0	0	15
	③知欲	10	5	0	0	0	0	15
	④表現力	0	0	10	0	0	0	10
	⑤傾聴力・対話力	0	0	5	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	定期試験中に実施する筆記試験
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	不定期に講義の省察、課題の考察の小レポートを求める
	②	
	③	
	④	
	⑤	

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
成果発表 (口頭・実技)	①	✓
	②	
	③	
	④	✓
	⑤	✓
パネルシアターの制作・発表(模擬保育) グループ活動を通して実施		

履修に必要な知識・技能・態度など

実習、就職等の保育現場で、乳幼児に直接関わる大切な領域であるということから、真摯で積極的な受講態度を望みます。

教科書・参考書

教科書：『新装改訂版 乳幼児のことばの世界～聞くこと・話すことを育む知恵～』宮帯出版 高橋司 2014年

参考書：『保育における子ども文化』高橋司他 2015年

『パネルシアター保育 12ヶ月』高橋司 ミヤオビパブリッシング 2015年

『食で楽しむ年中行事 12か月』あいり出版 高橋司 2018年

『パネルシアター保育実践講座』高橋司 1996年

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
音楽 I (E24060)	演習	1	30	1	前期	選択	保育必修 幼教免必修 小教免必修	瀬川和子	7号館5階 研究室他
音楽的な表現力を身に付ける(導入編)								複数担当	
科目担当者	瀬川和子、戸川晃子、榎原契保、山崎祥代、藤内恭子								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、省察力、教養
授業の概要	幼児教育、および小学校における音楽指導で必要となる音楽指導上の技能を学ぶ。基礎的な音楽理論や楽典を理解し、読譜の力を身につけるとともに、鍵盤楽器の基礎的な奏法を習得し、各自のレベルにあった楽曲に取り組むことで、童謡・唱歌の伴奏等への応用力をつけるための導入編

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	進度調査 ピアノの構造について演奏に適した姿勢と指の形 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第2回	バイエル 基礎の楽典(音符と休符) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第3回	バイエル 基礎の楽典(発想記号と速度記号) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第4回	バイエル 基礎の楽典(音階) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第5回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 童謡・唱歌の伴奏 ハ長調の主要三和音の習得 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第6回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 ハ長調の主要三和音による伴奏付け (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第7回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 童謡・唱歌の伴奏 ト長調の主要三和音の習得 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第8回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 ト長調の主要三和音による伴奏付け (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第9回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 童謡・唱歌の伴奏 ニ長調の主要三和音の習得 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第10回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 ニ長調の主要三和音による伴奏付け (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第11回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 童謡・唱歌の伴奏 イ長調の主要三和音の習得 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第12回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 イ長調の主要三和音による伴奏付け (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第13回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 童謡・唱歌の伴奏 ヘ長調の主要三和音の習得 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第14回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 ヘ長調の主要三和音による伴奏付け (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第15回	音楽理論・楽典理解の確認とまとめ (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 音楽に関する基礎的な音楽理論・楽典等の理解 各調性および各調の主要三和音の理解 童謡・唱歌の歌唱と伴奏技術の習得 ※別途配布する進度別目標を目指すこと

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを見出すことができない。
②自らの学びに対して正 しく振り返ることがで きる。 (省察力)	秀	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えるだけでなく、大局的観点からも考えることができる。
	優	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
	良	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自ら考えることができる。
	可	自分が何を学んだかという事実を述べるができる。
	不可	自分が何を学んだかという事実を述べることすらできない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	10	0	20	0	100
評価項目	①知欲	20	5	5	0	10	0	40
	②省察力	40	5	5	0	10	0	60

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓ 実技試験を行う。
	②	✓ 授業を通して学んだ音楽理論・楽典、あるいは表現方法を活用して演奏発表することが求められる。
提出物	①	✓ 音楽理論・楽典に関する課題
	②	✓
成果発表 (口頭・実技)	①	✓ 演奏実技。
	②	✓ 演奏発表の機会に相互評価する。
ポートフォリオ	①	✓ 毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」、「習得したことと課題」などについて記述する。
	②	✓

履修に必要な知識・技能・態度など

前回授業の復習および予習として授業回の課題練習をして、積極的に授業に取り組むこと。

教科書・参考書

教科書：『標準バイエル教則本』 全音出版社
『ブルグミュラー 25 の練習曲』 全音出版社
『こどものうた 200』 小林美実編 チャイルド本社
『やさしい弾き歌い 75』 植田光子編著 音楽之友社
『最もわかりやすい楽典入門』 橋内良枝・坪野春枝共著 kmp
参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
音楽Ⅱ (E24070)	演習	1	30	1	後期	選択	保育必修 幼教免必修 小教免必修	瀬川和子	7号館5階 研究室他
音楽的な表現力を身に付ける(基礎編)								複数担当	
科目担当者	瀬川和子、戸川晃子、榎原契保、山崎祥代、藤内恭子								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、省察力、教養
授業の概要	「音楽Ⅰ」の学習を踏まえ、幼児教育、および小学校における音楽指導で必要となる技能を学ぶ。基礎的な音楽理論や楽典を理解し、読譜の力を身につけるとともに、鍵盤楽器の基礎的な奏法を習得し、各自のレベルにあった楽曲に取り組むことで、童謡・唱歌の伴奏等への応用力をつける基礎編

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	各自の進度に応じた課題 童謡・唱歌の弾き歌い移調と伴奏付け (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第2回	各自の進度に応じた課題 ホ長調の主要三和音の習得 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第3回	各自の進度に応じた課題 ホ長調の主要三和音による伴奏付け (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第4回	マーチの速度 イ短調の主要和音の習得 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第5回	駆け足の速度 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第6回	スキップのリズムと速度 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第7回	ギャロップのリズムと速度 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第8回	マーチ・スキップ・ギャロップのリズムと速度の確認 (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第9回	各自の進度に応じた課題 童謡・唱歌の弾き歌(物語) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第10回	各自の進度に応じた課題 童謡・唱歌の弾き歌(春) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第11回	各自の進度に応じた課題 童謡・唱歌の弾き歌(夏) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第12回	各自の進度に応じた課題 童謡・唱歌の弾き歌(秋) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第13回	各自の進度に応じた課題 童謡・唱歌の弾き歌(冬) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第14回	各自の進度に応じた課題 童謡・唱歌の弾き歌(動物) (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題
第15回	童謡・唱歌の弾き歌いのまとめ (担当者：全員)	【予習】 各自の課題曲 【復習】 本授業の課題

学修の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> 音楽に関する基礎的な知識の理解 保育者・教員として、こどもの気持ちや動きに合わせて表現できるピアノ演奏 技術の習得 各調性および各調の主要三和音の理解 童謡・唱歌の歌唱と伴奏技術の習得 	※別途配布する進度別の到達目標を目指すこと

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを見出すことができない。
②自らの学びに対して正 しく振り返ることがで きる。 (省察力)	秀	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えるだけでなく、大局的観点からも考えることができる。
	優	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
	良	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自ら考えることができる。
	可	自分が何を学んだかという事実を述べるができる。
	不可	自分が何を学んだかという事実を述べることすらできない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	10	0	20	0	100
評価項目	①知欲	20	5	5	0	10	0	40
	②省察力	40	5	5	0	10	0	60

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓ 実技試験を行う。
	②	✓ 授業を通して学んだ音楽理論・楽典、あるいは表現方法を活用して演奏発表することが求められる。
提出物	①	✓ 音楽理論・楽典に関する課題
	②	✓
成果発表 (口頭・実技)	①	✓ 演奏実技。
	②	✓ 演奏発表の機会に相互評価する。
ポートフォリオ	①	✓ 毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」、「習得したことと課題」などについて記述する。
	②	✓

履修に必要な知識・技能・態度など

毎回の授業の復習、および予習として授業回の課題練習をして積極的に授業に取り組むこと。

教科書・参考書

教科書：『標準バイエル教則本』全音出版社
『ブルグミュラー 25 の練習曲』全音出版社
『こどものうた 200』小林美実編 チャイルド本社
『やさしい弾き歌い 75』植田光子編著 音楽之友社
『最もわかりやすい楽典入門』橋内良枝・坪野春枝共著 kmp
参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
図画工作 I (E24110)	演習	2	60	1	通 年	選 択	保育必修 幼教免必修 小教免必修	藤本由佳利	7号館5階 研究室他
造形的表現力を培う(基礎)								複数担当	
科目担当者	藤本由佳利、池田圭								

関連ときわ コンピテンシー	表現力、探求力、自己管理能力
授業の概要	「芸術は答えを用いなくて人間を教育する唯一の手段である。」これはバーナード・ショーの言葉である。子どもにとっての造形表現は、知性と感情の調和と発育に必要であり、人格形成に欠くことのできないものである。本授業では、創造のための表現材料の特性を会得し、基礎的な造形表現の技術を教授する。また、自然やもの、文化財などに親しむ経験を重ね、造形表現と言語表現を結びつける活動の展開を考えながら、子どもの生活環境を整えることについて概説する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 授業の目標と計画について (担当者：藤本)	【予習】 シラバスの確認
第2回	デッサン① 素直に観る (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第3回	デッサン② 素直に観る (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第4回	デッサン③ かたちを捉える (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第5回	デッサン④ かたちを捉える (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第6回	デッサン⑤ 立体を捉える (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第7回	デッサン⑥ 立体を捉える (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第8回	デッサン⑦ 動きを捉える (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第9回	ドローイング① 線を楽しむ (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第10回	ドローイング② 線を楽しむ (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第11回	コラージュによる画面構成① (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第12回	コラージュによる画面構成② (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第13回	クロッキー① 動きを捉える (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第14回	クロッキー② 動きを捉える (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第15回	鑑賞とまとめ (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第16回	水彩画① 静物写生 I-1 無彩色を使わずに描画する (担当者：藤本)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第17回	水彩画② 静物写生 I-2 無彩色を使わずに描画する (担当者：藤本)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第18回	水彩画③ 静物写生 II-1 混色に慣れる (担当者：藤本)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第19回	水彩画④ 静物写生 II-2 混色に慣れる (担当者：藤本)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第20回	水彩画⑤ 静物写生 III-1 無彩色も使って描く (担当者：藤本)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第21回	水彩画⑥ 静物写生 III-2 無彩色も使って描く (担当者：藤本)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第22回	風景写生 (担当者：藤本)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第23回	木版画① 下絵デザイン・ラフスケッチ (担当者：池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第24回	木版画② ラフスケッチに彩色・トレース (担当者：池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第25回	木版画③ 彫り 版木の扱いなど (担当者：池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第26回	木版画④ 彫り 彫刻刀の使い方ほか (担当者：池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第27回	木版画⑤ 彫り 彫り進む (担当者：池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第28回	木版画⑥ 刷り 1版1色刷り (担当者：池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第29回	木版画⑦ 刷り 1版または2版多色刷り、手彩色など (担当者：池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 パーソナルポートフォリオの作成
第30回	パフォーマンスアート・グラフィティアート まとめ (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認

第16回から29回までは受講者が半分に分かれ、藤本（第16回～22回）と池田（第23回～29回）を交互に受講する。

学修の到達目標

- ①固定観念を打ち破り、素直にものを観察する目と、描画力および豊かな色彩感覚を養い、保育・教育に必要な技術を習得する。
②自ら作り出す喜びを味わうとともに豊かな情操を養う。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①制作を通して、自らを表現することができる (表現力)	秀	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現が豊かにできる。
	優	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現ができる。
	良	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝わるよう表現する。
	可	自分の内面を他者に伝わる表現をしようと努力する。
	不可	自分の内面を他者に伝えようとする努力が認められない。
②物の本質について考え抜くことができる (探求力)	秀	答えのない課題について、徹底的に追求しようとし、真摯に取り組む努力が見られる。
	優	答えのない課題について、徹底的に追求しようとし、取り組む努力が見られる。
	良	答えのない課題について、徹底的に取り組む努力が見られる。
	可	答えのない課題について、取り組む努力が見られる。
	不可	答えのない課題について、取り組む努力が見られない。
③制作において集中したり自らを客観視したりできる。 (自己管理能力)	秀	自らを統制しながら、自在にまた粘り強く制作に取り組むことができる。
	優	自らを統制しながら、集中して粘り強く制作に取り組むことができる。
	良	自らを統制しながら、制作に取り組むことができる。
	可	自らを統制しながら、制作へ取り組もうとしている姿がみとめられる。
	不可	自らを統制することができず、制作への取り組みが認められない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	45	45	10	0	100
評価項目	①表現力	0	0	15	15	0	0	30
	②探求力	0	0	15	15	5	0	35
	③自己管理能力	0	0	15	15	5	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
成果発表 (口頭・実技)	①	制作への取り組みを重視する。
	②	
	③	
作品	①	制作した作品を評価する。
	②	
	③	
ポートフォリオ	①	パーソナルポートフォリオへの取り組みを評価する。
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

毎回の制作について、パーソナルポートフォリオに記載し、自らの軌跡を明らかにすることによって自己肯定感を高める。展覧会、映画、コンサート、演劇等を積極的に鑑賞する。

教科書・参考書

教科書：使用しません

参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
体育 I (E24130)	演習	1	30	1	前期	選択	保育必修 幼教免必修 小教免必修	近藤みづき	7号館2階 研究室他
運動を学ぶ								複数担当	
科目担当者	近藤みづき、三木伸吾								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、表現力、責任感
授業の概要	<p>幼児期から児童期は、様々な運動パターンとそのバリエーションを経験することによって、運動を調整する能力を最も容易に高めることができる敏感期であると言われている。幼児期、児童期に獲得した動きかたは、子どもが生涯にわたって身につける動きかたの基礎となる。本演習では子どもの運動発達をふまえた上で、幼児期、児童期における各運動領域の内容や多様な運動、身体表現の意義を理解し、それらの考え方や基本的な技能を身につける。さらに、これらの学習を効果的に進めていく指導方法や支援方法を学ぶ。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション (担当者：近藤・三木)	【予習】 シラバスを熟読する。 【復習】 次回の内容について調べる
第2回	体づくり運動(体ほぐしの運動) 走・跳の運動遊び①かけっこ (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第3回	多様な動きを作る運動遊び①バランスをとる運動遊び 走・跳の運動遊び②折り返し走 (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第4回	多様な動きを作る運動遊び②移動する運動遊び・力試しの運動遊び 走・跳の運動遊び③障害走・跳び遊び (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第5回	多様な動きを作る運動遊び③用具を操作する運動遊び 器械・器具を使った運動遊び①マット (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第6回	ゲーム①鬼ごっこ 器械・器具を使った運動遊び②鉄棒 (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第7回	ゲーム②ボールゲーム 器械・器具を使った運動遊び③跳び箱 (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第8回	身体表現遊び・ふりかえり ふりかえり (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第9回	体づくり運動(体ほぐしの運動) 走・跳の運動遊び①かけっこ (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第10回	多様な動きを作る運動遊び①バランスをとる運動遊び 走・跳の運動遊び②折り返し走 (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第11回	多様な動きを作る運動遊び②移動する運動遊び・力試しの運動遊び 走・跳の運動遊び③障害走・跳び遊び (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第12回	多様な動きを作る運動遊び③用具を操作する運動遊び 器械・器具を使った運動遊び①マット (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第13回	ゲーム①鬼ごっこ 器械・器具を使った運動遊び②鉄棒 (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第14回	ゲーム②ボールゲーム 器械・器具を使った運動遊び②跳び箱 (担当者：近藤) (担当者：三木)	【予習】 次回の内容について調べる 【復習】 ふりかえりシートの提出
第15回	身体表現遊び・ふりかえり ふりかえり (担当者：近藤) (担当者：三木)	【復習】 ふりかえりシートの提出

学修の到達目標

- ・各運動領域の内容や多様な運動、運動遊び、身体表現の内容を理解する。
- ・各運動領域の内容や多様な運動、運動遊び、身体表現の基本的な技能を身につける。
- ・教育現場、保育現場で展開できるよう指導方法、援助方法を修得する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①各種運動領域や多運動遊び等の特性や基本的な知識や内容を修得することができる。 (専門力)	秀	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していて、その内容を行動に移すことができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していて、さらにその内容を行動に移すことができる。
	良	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
②各種運動領域や運動遊び等に関する基本的な技能を修得することができる。 (専門力)	秀	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、何ら心身の束縛も障害もなく、状況に応じて自分の身体を自在に動かすことができる。
	優	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、状況に応じて自分の身体を動かすことができる。
	良	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していることが認められる。
	可	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
③自分の動きの感じを言語等で表現することができる。 (表現力)	秀	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを的確に捉えることができ、満足のいく水準を超えて言語等で表現できていることが認められ、他者に伝えることができる。
	優	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを的確に捉えることができ、満足のいく水準まで言語等で表現できていることが認められる。
	良	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを捉えることができ、言語等で表現できていることが認められる。
	可	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを捉えることができるが、言語等で表現できておらず、その努力の過程も認められない。
	不可	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを捉えることができずいていない。
④主体的に授業に取り組むことができる。 (責任感)	秀	授業で扱う運動への関心や意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与え、良い結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱う運動への関心や意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与えている。
	良	授業で扱う運動への関心や意欲が認められ、積極的に授業へ参加している。
	可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。
	不可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	50	20	0	0	30	100
評価項目	①運動に関する基本的知識の修得	0	20	0	0	0	0	20
	②運動に関する基本的技術の修得	0	0	20	0	0	0	20
	③動きの感じの言語化	0	30	0	0	0	0	30
	④主体的な取り組み	0	0	0	0	0	30	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	レポート課題 各回の振り返りシート
	②		
	③	✓	
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①		実技
	②	✓	
	③		
	④		
その他	①		授業への積極性
	②		
	③		
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・実際の指導場面を想定すること。
- ・体調管理をすること。
- ・学校指定のポロシャツを着用し、運動に適した服装と靴（室内用・屋外用）を用意すること。アクセサリ等の着用は認めない。

教科書・参考書

教科書：使用しない。
参考書：適宜配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
体育Ⅱ (E24140)	演習	1	30	1	後期	選択	保育選択必修 幼教免選択必修 小教免選択必修	近藤みづき 複数担当	7号館2階 研究室他
運動を学ぶ									
科目担当者	近藤みづき、三木伸吾								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、表現力、責任感
授業の概要	<p>幼児期、児童期の子どもは新しい動きを実現する機会が多く、様々な動きを身につける過程を通じて心身一体となって成長していく。子どもの発達段階には個人差があり、教育者、保育者は子ども一人ひとりがもつ動きの感じに寄り添い、指導や援助する能力が求められる。本演習では子どもの運動発達をふまえた上で「体育Ⅰ」で身につけた基本的な技能を発展、応用できる力を養成する。そして、教育者、保育者として実践現場での確かな指導や援助ができるようになるための指導方法や支援方法を修得する。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション (担当者：近藤・三木)	【予習】 シラバスを読む
第2回	体づくり運動：体力を高める運動 (担当者：三木)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第3回	陸上運動①ハードル走・リレー (担当者：三木)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第4回	陸上運動②走り幅跳び・走り高跳び (担当者：三木)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第5回	器械運動①跳び箱運動 (担当者：三木)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第6回	器械運動②マット運動・鉄棒運動 (担当者：三木)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第7回	ボール運動①ゴール型 (担当者：三木)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第8回	ボール運動①ネット型・ベースボール型 (担当者：三木)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第9回	伝承遊び (担当者：近藤)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第10回	体のバランスをとる運動遊び (担当者：近藤)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第11回	体を移動する運動遊び (担当者：近藤)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第12回	用具などを操作する運動遊び (短縄・長縄) (担当者：近藤)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第13回	親子体操、リズム表現 (担当者：近藤)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第14回	身体表現遊び (担当者：近藤)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出
第15回	まとめとふりかえり (担当者：近藤・三木)	【予習】 次回の授業内容を調べる 【復習】 ふりかえりシート作成・提出

学修の到達目標

- ・各運動領域の内容や多様な運動、運動遊び、身体表現の特性を理解でき、応用できる。
- ・各運動領域の内容や多様な運動、運動遊び、身体表現の基本的な技能を発展させることができる。
- ・保育、教育現場で応用できる指導方法、援助方法を修得する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①各種運動領域や多様な運動等の基本的な知識や内容を修得することができる。 (専門力)	秀	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準を超えて修得しており、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準を超えていることが認められる。
	良	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
②各種運動領域や多様な運動等に関する基本的な技能を修得することができる。 (表現力)	秀	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、何ら心身の束縛も障害もなく、状況に応じて自分の身体を自在に動かすことができる。
	優	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、状況に応じて自分の身体を動かすことができる。
	良	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していることが認められる。
	可	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
③各種運動領域や多様な運動等に関する内容を指導方法や援助方法と結びつけて考えることができる。 (専門力)	秀	授業で扱う運動に関する知識や内容を指導方法や援助方法と結びつけて考えることができ、さらに自らの考えを発展、応用させることができる。
	優	授業で扱う運動に関する知識や内容を指導方法や援助方法に結びつけて考えることができ、さらに自らの考えを他者に述べるができる。
	良	授業で扱う運動に関する知識や内容を、指導方法や援助方法に結びつけて考えることができる。
	可	授業で扱う運動に関する知識や内容を指導方法や援助方法に結びつけて考えることができているが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動に関する知識や内容を、指導方法や援助方法に結びつけて考えることができていない。
④主体的に授業に取り組むことができる。 (責任感)	秀	授業で扱う運動への関心や意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与え、良い結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱う運動への関心や意欲が高く、積極的に授業へ参加している。それにより周囲にも良い影響を与えている。
	良	授業で扱う運動への関心や意欲が認められ、積極的に授業に参加している。
	可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。
	不可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	50	20	0	0	30	100
評価項目	①知識の修得	0	20	0	0	0	0	20
	②技能の修得	0	0	20	0	0	0	20
	③指導、援助方法の修得	0	30	0	0	0	0	30
	④主体的な取り組み	0	0	0	0	0	30	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	レポート課題 振り返りシート
	②		
	③	✓	
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①		実技
	②	✓	
	③		
	④		
その他	①		受講態度
	②		
	③		
	④	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・実際の指導場面を想定しながら受講すること。
- ・体調管理すること。
- ・学校指定のポロシャツを着用し、運動に適した服装と靴(室内用・屋外用)を用意すること。アクセサリ等の着用は認めない。

教科書・参考書

教科書：使用しない
参考書：適宜配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
インターンシップA (E22100)	実習	1	30	2	通年	選択	小教免選択	山下敦子	7号館5階 研究室
実践的教育力の向上								単独担当	
科目担当者	山下敦子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、責任感、実行力、協調性・協働力
授業の概要	<p>小学校での学習活動、生活の様子などを指導者の立場で体験することにより、教師としての必要な資質・能力について考察する。具体的には、神戸市教育委員会が実施するスクールサポーターとして登録を行い、毎週1回小学校に行き、学習指導などの教育活動に参加する。このような活動を通して、今、教育現場では何が行われ、どのような課題があり、何が求められているのかなどを実践的に学ぶ。そして、小学校教育に対する正しい認識を持ち、児童の生活の様子、教師の指導の在り方など、基礎的な活動を理解することを目的とする。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス(1) 小学校基礎実習のねらい、意義	【復習】学修内容の確認
第2回	ガイダンス(2) 学生スクールサポーターの登録について	【予習】教職への熱意をまとめる 【復習】登録書類の準備
第3回	ガイダンス(3) 小学校生活の把握	【復習】学修内容の確認
第4回	ガイダンス(4) 実習に向けての諸注意、活動報告書などの記入方法	【復習】学修内容の確認
第5回	中間の振り返り、グループディスカッションで課題を共有する	【復習】活動の振り返りと改善
第6回	<p>9月～12月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校に行き実習を行う。各回 3時間×11回 〈活動方法〉 2人ないし3人で一組になり、担当された小学校で活動を行う。 〈活動内容〉 学級での学習の補助、特別支援学級での支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、学習時間はもとより休み時間にも児童と行動を共にすることで、必要な教員の資質や能力について考察する。</p>	<p>【予習】活動に必要な事前準備 【復習】活動の振り返りと改善</p>
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第15回	活動の振り返りと自己の目標設定	【予習】活動の振り返り 【復習】課題改善にむけた実践

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・将来、教育に携わる者として小学校における教育活動の実際や児童の生活の仕方を理解することができる。 ・小学校教諭にふさわしい資質や能力について考察し、目指す姿を把握することができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①教員の実務に必要な基礎的な知識、技能を身につけている。 (専門力)	秀	教員に必要となる基本的な知識・技能を身につけており、実践の場で主体的に活用できている。
	優	教員に必要となる基本的な知識・技能を身につけており、実践の場で活用できている。
	良	教員に必要となる基本的な知識・技能を身につけている。
	可	教員に必要となる基本的な知識・技能をある程度、身につけている。
	不可	教員に必要となる基本的な知識・技能を身につけていない。
②社会の一員としての責任をもって物事に臨むことができる。 (責任感)	秀	教員として職責の遂行について、責任感を持ち、常に的確な判断に基づいて実践することができる。
	優	教員として職責の遂行について、責任を持ち、的確な判断に基づいて実践することができる。
	良	教員として職責の遂行について、責任を持ち、実践することができる。
	可	教員として職責の遂行について、責任を持ち、ある程度実践することができる。
	不可	教員として職責の遂行について、責任をもっていない。
③失敗を恐れず、想いや考えを具体的に行動にうつすことができる。 (実行力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、教育実践を行うことができる。また、失敗に対して修正能力が高く、創意工夫ができる。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等をバランスよく駆使し、教育実践を行うことができる。失敗に対して自力で修正ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、教育実践を行うことができる。
	可	他者の助言・指導を得ながらその場に応じた教育実践を行うことができる。
	不可	与えられた場面において、何をしたいのかわからない。
④協力して物事に取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。その結果、新しい取り組みや質の高い取り組みを行うことができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	他者に促されることによって協調・協働を行うことができる。
	不可	協調・協働する意思が見られない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	40	0	0	40	20	100
評価項目	①専門力	0	10	0	0	10	0	20
	②責任感	0	10	0	0	10	10	30
	③実行力	0	10	0	0	10	10	30
	④協調性・協働力	0	10	0	0	10	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	毎回の授業でミニレポートや書類を作成し、提出する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
ポートフォリオ	①	✓	実習期間中は毎回「活動状況報告書」を記入し、小学校に提出する。小学校の担当教諭より適宜、コメントを記入したものが返却されるので、それをもとに自己の活動について振り返りと改善を行う。第15回目の授業で振り返りを提出し、評価を行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①		活動場所への教員の巡回指導、受け入れ機関からの聞き取りなどを行い、実際の活動の様子について評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・教育現場での実践であるので、教職員、児童に対して真摯な姿勢で取り組むこと。
- ・原則として、遅刻・欠席は認めない。やむを得ない場合は必ず連絡を入れること。
- ・ガイダンス(1)～(4)、まとめの授業を必ず受講すること。

教科書・参考書

教科書：適時プリントを配布する。

参考書：適時、紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
基礎研究演習Ⅱ (E 2 2 2 1 0)	演習	2	60	2	通年	必修	—	多田琴子	7号館5階 研究室他
理論と実践の融合をめざして								複数担当	
科目担当者	多田琴子、藤本由佳利、戸川晃子、國崎大恩、牛頭哲宏、橋本好市、松尾寛子								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、自己管理能力、表現力、責任感、協調性・協働力
授業の概要	<p>1年次開講科目・基礎研究演習Ⅰの上に、基礎的人間力と学力（表現力を含む）を積み上げるべく、理論と実践の融合を目指し演習を行う。</p> <p>卒後の進路に応じた保育・教育に関する文献講読や実技により幅広い知識と技術を修得し、卒業研究に向けて各自のテーマを探る。</p> <p>また、3年生で行う保育・教育実習へと繋げるために、進路選択を念頭においた実習を行う。志望する職種施設一箇所に複数日の観察実習を行い、保育・教育現場の日常の流れを体験することを通して職業イメージを作る。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション（本授業の目的理解・経験する内容把握・ポートフォリオ理解）／履修カルテ（学生生及びの自己課題設定）記入／実習希望施設確認 （担当者：多田、藤本、國崎、戸川）	【予習】 シラバス内容の通読 【復習】 授業目的・内容の理解
第2回	進路選択における自己課題析出① 保育・教育方法の基礎 （担当者：多田、藤本、國崎、戸川）	【予習】 自己課題析出 【復習】 学びの確認
第3回	進路選択における自己課題析出② 保育・教育方法の実践 （担当者：多田、藤本、國崎、戸川）	【予習】 自己課題析出 【復習】 学びの確認
第4回	進路選択における自己課題析出③ 保育・教育方法の評価 （担当者：多田、藤本、國崎、戸川）	【予習】 自己課題析出 【復習】 学びの確認
第5回	実習事前指導 （担当者：多田、牛頭、橋本、松尾）	【予習】 実習施設先情報収集
第6回	進路選択における自己課題析出④ 保育・教育方法の基礎（グループワーク） （担当者：多田、藤本、國崎、戸川）	【予習】 自己課題析出 【復習】 学びの確認
第7回	進路選択における自己課題析出⑤ 保育・教育方法の実践（グループワーク） （担当者：多田、藤本、國崎、戸川）	【予習】 自己課題析出 【復習】 学びの確認
第8回	進路選択における自己課題析出⑥ 保育・教育方法の評価（グループワーク） （担当者：多田、藤本、國崎、戸川）	【予習】 自己課題析出 【復習】 学びの確認
第9回 ～ 第20回	観察実習（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設のうち、いずれか1箇所実習機関を選択して、12コマ分の実習を行う） （担当者：多田、藤本、戸川、國崎、牛頭、橋本、松尾）	【予習】 実習目標設定 【復習】 日誌作成
第21回	実習事後指導 （担当者：多田、牛頭、橋本、松尾）	【予習】 日誌より実習自己評価 【復習】 自己課題析出
第22回	教育実習のイメージ形成（先輩の話聞く） （担当者：多田、藤本、戸川、國崎、牛頭、橋本、松尾）	【予習】 自己課題析出 【復習】 学びの確認
第23回	教育実習の心構え （担当者：多田、藤本、戸川、國崎、牛頭、橋本、松尾）	【予習】 学びの整理・自己課題明確化 【復習】 学びの確認
第24回	ディスカッション：3年次実習に向けての課題抽出 （担当者：多田・藤本・國崎・戸川）	【予習】 実習前自己課題析出 【復習】 自己課題達成計画立案
第25回	文献講読①保育・教育基礎理論の理解文献を読み取る （担当者：多田・藤本・國崎・戸川）	【復習】 学びの確認

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第26回	文献講読②保育・教育基礎理論の理解学びを共有する (担当者：多田、藤本、國崎、戸川)	【予習】 自己の学びの整理 【復習】 学びの確認
第27回	文献講読③保育・教育基礎理論の理解理論と実践の融合 (担当者：多田、藤本、國崎、戸川)	【予習】 自己の学びの整理 【復習】 学びの確認
第28回	保育・教育に関するニュース（授業時間外学習）のまとめ (担当者：多田、藤本、國崎、戸川)	【予習】 自己の学びの整理 【復習】 学びの確認
第29回	保育・教育に関するニュース（授業時間外学習）の発表 (担当者：多田、藤本、國崎、戸川)	【予習】 自己の学びの整理 【復習】 学びの確認
第30回	専門的研究課題への探究・進路に向けて／1年間の振り返り（ポートフォリオ提出） (担当者：多田、藤本、國崎、戸川)	【予習】 専門的研究課題析出 【復習】 専門的研究課題再確認

学修の到達目標

- 1) 日頃から注目している保育・教育に関するニュース及び、その問題点について
 - ・ニュースを理解するための基礎的な読解力を身につける。
 - ・論理的に考察し、それを他者にわかるように伝える。
- 2) グループワークを通して
 - ・自己と他者の思いや考え、表現の違いに気づき、比べ・まとめ・表現する。
- 3) 学びの成果としてのポートフォリオを通して
 - ・自己表現力・論理的思考力を意識し、レポート・成果物をファイルし、専門的研究課題析出に活かす。
 - ・ニュース（30枚/A4一枚程度）をカテゴリー分けし、専門的研究課題析出に活かす。
- 4) 観察実習・授業を通して
 - ・実習を受ける者としての振る舞いを身につける。
 - ・学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、自ら心身の健康を管理する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①実習生としての自覚を持って実習に臨む事ができる。 (常識力)	秀	実習生としての自覚を持ち、実習を受ける者としての振る舞いが十分にでき、他者へのモデルとなり得る。
	優	実習生としての自覚を持ち、実習を受ける者としての振る舞いが十分にできる。
	良	実習生としての自覚を持ち、実習を受ける者としての振る舞いができる。
	可	実習生としての自覚を持ち、実習を受ける者としての振る舞いをしようとしている。
	不可	実習生としての自覚がなく、実習を受ける者としての振る舞いができない。
②学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、自ら心身の健康を管理する。 (自己管理能力)	秀	学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、自ら心身の健康を十二分に管理している。
	優	学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、自ら心身の健康を十分に管理している。
	良	学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、自ら心身の健康を管理している。
	可	学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、自ら心身の健康管をしようとしている。
	不可	学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識がなく、自らの心身健康管理ができない。
③発表・討論、実技演習等を通して、自らの考えを、他者に伝えるよう表現する。 (表現力)	秀	発表・討論、実技演習等を通して、自らの考えで他者を納得(感動)させる表現が豊かにできる。
	優	発表・討論、実技演習等を通して、自らの考えで他者を納得(感動)させる表現ができる。
	良	発表・討論、実技演習等を通して、自らの考えを他者に伝えるよう表現する。
	可	発表・討論、実技演習等を通して、自らの考えを他者に伝えるよう表現しようとする努力する。
	不可	発表・討論、実技演習等を通して、自らの考えを他者に伝えようとする努力が認められない。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
④自己課題に対する論理的思考を行う。 (論理的思考力)	秀	授業(講読・演習・実習)において常に論理的思考を行い、専門的研究課題につながる自己課題を析出する。
	優	授業(講読・演習・実習)において常に論理的思考を行い、専門的研究課題につながる自己課題を析出しようとする。
	良	授業(講読・演習・実習)において常に論理的思考を行い、自己課題につなげる。
	可	授業(講読・演習・実習)において自分なりに論理的思考を行い、自己課題を見いだそうとする。
	不可	授業(講読・演習・実習)において論理的思考ができず、自己課題につながらない。
⑤グループワークでは積極的に役割取得を行い、グループワークに貢献する。 (協調性・協働性)	秀	授業(講読・演習・実習)において、求められている役割に気づき、積極的に役割取得を行い、グループに貢献できる。
	優	授業(講読・演習・実習)において、求められている役割に気づき、積極的に役割取得を行う。
	良	授業(講読・演習・実習)において、多様な役割に気づき、自分にできる役割を担う。
	可	授業(講読・演習・実習)において、役割に気づき、自分にできる役割を担おうとする。
	不可	授業(講読・演習・実習)において、消極的で、役割を担おうとしない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	15	40	5	20	20	100
評価項目	①実習生としての自覚(常識力)	0	0	0	0	0	5	5
	②能動的・計画的生活の自己管理	0	5	0	0	10	0	15
	③発表・討論・実技演習の表現力	0	5	20	5	0	0	30
	④自己課題に対する論理的思考力	0	5	10	0	10	5	30
	⑤グループに貢献(協調性・協働性)	0	0	10	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
提出物	①	実習日誌内容が、表層的・考察的・論理的であるか、また、レイアウト等が読みやすく記述しているかも考慮する。 レポート課題の記述内容(表層的・考察的・論理的)と着目観点の具体性により判断する。 提出期限厳守のみ評価対象とする。	
	②		✓
	③		✓
	④		✓
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	グループワーク課題のプレゼンテーションは、見やすいか、要点がまとまっているか、他者にわかりやすく、論理的語りができているか等を評価する。 グループワークの役割分担が適材適所で行われているか、協調性・協働性を発揮しているかどうかを評価の対象とする。	
	②		
	③		✓
	④		✓
	⑤		✓

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
作品	①	プレゼンテーション技術（構成・できばえ・見せ方等）を評価する。	
	②		
	③		✓
	④		
	⑤		
ポートフォリオ	①	常に自身の健康管理に留意し、積極的に授業が受けられる心身作りをすると同時に、提出物など期日が守れるように取り組む態度を評価する。 着々とポートフォリオにニュースをファイルする。最終的にそれを分類考察し、自身の学びを論理的に振り返り、明確な自己課題を析出できたか否かを評価する。	
	②		✓
	③		
	④		✓
	⑤		
その他	①	保育・教職を目指す学生として能動的且つ計画的に課題や実習に取り組む意識を持って、自ら心身の健康を管理し、授業や実習に積極的に臨めたか否かを評価する。 グループワークの際、新規なアイデアを出す、意見を調整するなど、貢献度や積極性を評価する。	
	②		
	③		
	④		✓
	⑤		✓

履修に必要な知識・技能・態度など

実習生としての態度、常識をもつ。
 課題としている「日頃から注目している保育・教育に関するニュース」を意識して収集し、保育・教育への関心を高める。
 子どもの前に立つ人となる意識をもって、積極的役割取得を行い、論理的思考と技術の向上に向けて努力する。

教科書・参考書

教科書：使用しません。
 参考書：随時紹介、配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教職論 (E23000)	講義	2	30	2	前期	必修	保育必修 幼教免必修 小教免必修	多田琴子	7号館5階 研究室他
教職を目指し職能を向上させよう －教職についての理解－								複数担当	
科目担当者	多田琴子、山下敦子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力、探究力、判断力
授業の概要	教わる立場から教える立場に視点を移行し、現在の教育が抱える課題を明らかにするとともに、それを改善するために必要な力量の形成を図る。 教育・保育という人間に固有の営みについて、とりわけ小学校教師・幼児教育者という存在に焦点を当て、その意義・役割等を様々な視点から考察し、各人が教職についての理解を深めることを目指す。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション (多田・山下)	【予習】 シラバス通読 【復習】 教育基本法の目通し
第2回	教育のめざすものとはなにか (担当者：山下)	【予習】 教育要領(小・幼)の目通し 【復習】 学習内容の確認
第3回	今、求められる保育・教育者像 (担当者：山下)	【予習】 求められる教師構成要因把握 【復習】 学習内容の振り返り
第4回	教職の意義・役割と教員養成制度 (担当者：山下)	【復習】 教職の意義・役割の確認
第5回	教師の身分と服務 (担当者：山下)	【復習】 教師の身分と服務の確認
第6回	教師の職務 (担当者：山下)	【復習】 教師の職務の確認
第7回	教職の現代的課題①地域・保護者との連携 (担当者：山下)	【復習】 学校・地域・保護者連携まとめ
第8回	教職の現代的課題②いじめ・不登校等に関する指導(担当者：山下)	【復習】 学校側初期対応確認
第9回	教職の現代的課題③子どもの安全を守る (担当者：山下)	【復習】 安全教育リスク & ハザード
第10回	保育者・教師の日常生活とセルフマネジメント (担当者：山下)	【復習】 教職員としての倫理観確認
第11回	保育者・教師のライフコースと成長 (担当者：山下)	【復習】 成長する教師像確認
第12回	保育者の専門的職能形成 (担当者：多田)	【復習】 学習内容の振り返り
第13回	保育を支える基盤(環境と文化を捉えたカリキュラムマネジメント)について (担当者：多田)	【復習】 学習内容の振り返り
第14回	保育者・教師に求められる基本的資質や人間性 (担当者：多田)	【復習】 学習内容の振り返り
第15回	学びの確認・振り返り (担当者：多田・山下)	【復習】 学習内容の自覚化

学修の到達目標
教職の意義とその職務内容についての理解をする。また、教員の職務の特質や役割について理解する。 教職の特質と使命及び社会的地位などを理解し、自らの教師像を探究するための基礎的な知識と情報、さらに教職としての倫理観の習得を目指す。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①教職の意義と職務内容について理解し、その職務の特質や役割についても理解する。 (専門力)	秀	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割について十分理解し、他者に語る事ができる。
	優	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割について十分理解している。
	良	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割について理解している。
	可	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割について理解しようとしている。
	不可	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割についての理解が不十分である。
②目指す教師像の具現化に向け、基礎的な知識と情報を論理的に思考する。 (論理的思考力)	秀	目指す教師像の具現化に向け、基礎的な知識と情報を論理的に思考し、的確に要点をレポートにまとめたり、他者にわかるように語ったりできる。
	優	目指す教師像の具現化に向け、基礎的な知識と情報を論理的に思考し、レポートにまとめたり他者に語ったりできる。
	良	目指す教師像の具現化に向け、基礎的な知識と情報を論理的に思考する。
	可	目指す教師像の具現化に向け、基礎的な知識と情報を論理的に思考しようとする。
	不可	目指す教師像の具現化に向け、基礎的な知識と情報を論理的に思考できない。
③課題解決に向けて、グループ内で協調的・協働的に行動する。 (協調性・協働性)	秀	課題解決に向けて、グループ内で役割を調整し、自他の協調的・協働的行動を統括する。
	優	課題解決に向けて、グループ内で積極的に役割を取得し、協調的・協働的に行動する。
	良	課題解決に向けて、グループ内で協調的・協働的に行動する。
	可	課題解決に向けて、役割を振られると協調的・協働的に行動する。
	不可	グループ内で課題解決に向けた協調的・協働的行動がとれない。
④目指す教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探求する態度がある。 (探究力)	秀	目指す教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探求し、態度として十分に身につけている。
	優	目指す教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探求し、態度として身につけている。
	良	目指す教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探求する態度がある。
	可	目指す教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探求しようとする。
	不可	目指す教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探求する態度が見られない。
⑤提示された教職の現代的課題を整理分析し、解決に向けた方策を見いだす。 (判断力)	秀	提示された教職の現代的課題を整理分析し、解決に向けた方策を見だし、的確に要点をまとめ、レポートに記述したり他者に語ったりできる。
	優	提示された教職の現代的課題を整理分析し、解決に向けた方策を見だし、レポートにまとめたり他者に語ったりできる。
	良	提示された教職の現代的課題を整理分析し、解決に向けた方策を見いだす。
	可	提示された教職の現代的課題を整理分析し、解決に向けた方策を見いだそうとする。
	不可	提示された教職の現代的課題を整理分析できず、解決に向けた方策を見いだせない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	40	0	0	0	20	100
評価項目	①教職としての専門性理解	10	10	0	0	0	0	20
	②基礎的な知識と情報の論理的思考	10	10	0	0	0	0	20
	③協調的・協働的な行動	0	0	0	0	0	20	20
	④教職としての倫理観形成の探求	10	10	0	0	0	0	20
	⑤現代的課題の分析と解決策	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	教職としての専門性の理解、基礎的な知識と情報の論理的思考、教職としての倫理観形成の探究、現代的課題の分析と解決策など、学習内容の理解度により評価する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
提出物	①	✓	提出物内容が、教職としての専門性理解（表層的・考察的・論理的）につながっているか否かを評価する。また、着目観点や具体性も評価する。 さらに、レイアウト等が読みやすい記述か否かも考慮し、引用文献や参考資料等の適切な明記も評価の対象とする。 提出期限厳守のみ評価対象とする。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
その他	①		基礎的な知識や情報を活用し、提示された現代的課題解決に向けた、グループ内での協調的・協働的な行動を評価する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・ 随時指示する予習復習課題について情報収集し、授業に臨むこと。
- ・ 授業中に行う質問に対応できるようにしておくとともに、授業内容に係る質問も考えられるように、日常的に情報をキャッチしておくこと。

教科書・参考書

参考書：必要に応じて資料配付する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育行政学 (E23010)	講義	2	30	2	後期	選択	幼教免必修 小教免必修	西川潤	7号館2階 非常勤講師 控室
日本の教育を支える仕組みを知る								単独担当	
科目担当者	西川潤								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力、知欲、探究力、デザイン力
授業の概要	<p>教育について考える時、学校あるいは教室の中での取り組みに目が行きがちですが、そこには何らかの制度的根拠が存在しており、さらには、「ヒト・モノ・カネ」等の適切な条件整備がなければ、日々の教育実践は成り立たなくなります。</p> <p>本授業では、そうした教育の「土台づくり」を行う教育行政の基本原則、組織、役割、課題、関連する法規・財政の基礎的な事項について、説明・考察を行います。</p> <p>また、変化の激しい時代における教育政策の動向や、学校と地域の連携、学校における危機管理・防災といった現代的な課題についても検討します。</p>

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション —現代日本の教育を取り巻く課題—	【予習】 シラバスの読了 【復習】 授業資料の見直し
第2回	教育行政の基本原則 —「教育行政」とはどのような理念で、どのような特徴を持っているか?—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第3回	教育法規 —教育を支える法制度のあり方と重要法規の内容—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第4回	中央の教育行政組織 —文部科学省とはどのような機関なのか?—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第5回	地方の教育行政組織 —教育委員会の役割と近年の改革動向—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第6回	教育財政 —教育とお金の問題について考える—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第7回	就学前教育行政 —幼稚園、保育所、認定こども園の違い—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第8回	教育課程行政 —学校が教える内容はどのように決められているのか?—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第9回	私学行政 —学校教育における「私学」の存在意義について考える—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第10回	多様な教育機会の確保 —多様性と質保証：行政はどこまで介入すべきか?—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第11回	教育行政と教育政策① —教育政策ができあがるまで：理論編—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第12回	教育行政と教育政策② —教育政策ができあがるまで：事例分析編—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第13回	学校と地域の連携 —コミュニティ・スクールの現状と課題—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第14回	学校安全への対応 —学校の安全管理と防災—	【予習】 事前配布資料を読んてくる 【復習】 「振り返りシート」の作成
第15回	全体のまとめ	【予習】 過去の配布資料の見直し 【復習】 授業資料の見直し

学修の到達目標

- (1) 日本の教育行政に関する基礎的な事項について、説明することができる。
 (2) 複雑化する学校教育の課題を認識し、それに対応する教育政策の動向について、自らの見解を述べることができる。
 (3) 自らの経験だけにとらわれず、授業の内容をもとに、教育問題について主体的に考えることができる。
 (4) 学校と地域の連携、学校における安全管理と防災の現状と課題について、身近な例をもとに説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①教育行政に関する知識を身につけている (専門力)	秀	教育行政に関する知識を高いレベルで身につけ、さらに発展的な学習をする準備ができている。
	優	教育を専攻する者として十分満足できるレベルで、教育行政に関する知識を身につけている。
	良	教育を専攻する者として十分とまでは言えないが、おおよそ満足のいくレベルで、教育行政に関する知識を身につけている。
	可	教育を専攻する者として最低限必要な教育行政に関する知識を身につけている。
	不可	教育を専攻する者として最低限必要な教育行政に関する知識が身につけていない。
②教育のあり方について、行政・法規・財政の観点から考え、本質を見極めようとする ことができる (探求力)	秀	教育に関する問題について、行政・法規・財政の観点を十分に取り入れて、情報をまとめるだけに留まらず、自らの関心に沿ってさらなる情報を収集し、高度なレベルで論じることができる。
	優	教育に関する問題について、行政・法規・財政の観点を十分に取り入れて、情報をまとめるだけに留まらず、それについて論じることができる。
	良	教育に関する問題について、行政・法規・財政の観点を十分に取り入れて、情報をまとめることができる。
	可	教育に関する問題について、行政・法規・財政の観点をある程度取り入れて、情報をまとめることができる。
	不可	教育に関する問題について、行政・法規・財政の観点を取り入れて考えることができない。
③様々な考えや知識を統合して、教育政策に対する自らの見解を示す ことができる (デザイン力)	秀	教育政策に対して、その背景を十分に理解した上で、知識や考えを十分に統合して、賛成か反対かだけに留まらず、実現性にも考慮した改善案を自ら提示することができる。
	優	教育政策に対して、その背景を十分に理解した上で、知識や考えを十分に統合して、賛成か反対かだけに留まらず、改善策についても考えることができる。
	良	教育政策に対して、その背景をある程度理解した上で、知識や考えを統合して、賛成か反対かを理由付きで示すことができる。
	可	教育政策に対して、知識や考えをある程度統合して、賛成か反対かを示すことができる。
	不可	教育政策に関する自らの見解を示すことができない。
④教育問題について、多角的・批判的に捉え、考えることができる (批判的思考力)	秀	意見が分かれやすい教育に関する問題について、様々な立場の主張に耳を傾け、それらを十分に統合して自分なりの結論を出すことができる。
	優	教育に関する問題について、複数の立場の主張に耳を傾け、それらを統合して自分なりの結論を出すことができる。
	良	教育に関する問題について、1つの主張だけでなく、複数の立場の主張に耳を傾けようとする。
	可	教育に関する問題について、他者の主張をそのまま受け入れる前に、その根拠について考えることができる。
	不可	教育に関する問題について、他者の主張に疑問を持たず、そのまま受け入れてしまう。
⑤根拠に基づき、論理的に教育問題について考えることができる (論理的思考力)	秀	教育に関する問題について、客観的と思われる根拠が本当の意味で客観的かどうかを自ら考え直した上で、十分論理的に考えることができる。
	優	教育に関する問題について、客観的と思われる根拠に基づき、十分論理的に考えることができる。
	良	教育に関する問題について、客観的と思われる根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	可	教育に関する問題について、多少根拠は薄くても、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	教育に関する問題について、根拠に基づいて論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	40	0	0	0	0	100
評価項目	①教育行政に関する専門知識	35	0	0	0	0	0	35
	②教育の本質の探究	0	10	0	0	0	0	10
	③教育政策に対する自らの見解	5	15	0	0	0	0	20
	④教育問題に対する批判的思考力	5	10	0	0	0	0	15
	⑤教育問題に対する論理的思考力	15	5	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	15回の授業終了後に、定期試験を実施する。 試験は100点満点で実施し、成績評価時には60点に換算する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	2回目から14回目にかけては、授業後に「振り返りシート」を作成してもらい、次の回で提出する(3点×13回=39点)。 第15回目は、授業中に個人によるコメントシートを作成し、提出する(1点)。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など

事前に必要な知識・技能は特にありませんが、教員からの発問やディスカッションなどに対して前向きに参加する姿勢を求めます。

教科書・参考書

教科書：特定の教科書は使用しません。毎回の授業で資料を配布します。

参考書：より深い学習を希望する方には、以下の図書を推薦します。

高見茂・服部憲児(編)『教育行政提要(平成版)』協同出版、2017年

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育の思想と歴史 (E23020)	講 義	2	30	2	前 期	選 択	幼 教 免 選 択 必 修 小 教 免 選 択	國崎大恩	7号館5階 研究室
教育を相対的に考察する視点								単 独 担 当	
科目担当者	國崎大恩								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、探究力
授業の概要	教育とはその背後で「人間とは何か」を常に問いかける行為である。すなわち、私たちは何らかの人間像を暗黙の内に前提としながら教育という営みを行い、その結果として前提としていた人間像を明るみに出しているのである。本授業では人間なるものと教育なるものの関係性について、西洋教育思想とその社会的背景に着目しながら考察をしていく。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	イントロダクション—教育思想史というアプローチ	【予習】 シラバスの熟読 【復習】 小レポートの作成・提出
第2回	レトリック・哲学・教育—古代ギリシアとパイデア	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第3回	キリスト教と教育—中世ヨーロッパ	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第4回	ルネッサンスとヒューマンイズム —「フマニタス」の思想をめぐって—	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第5回	コメニウスと30年戦争—近代学校の構想—	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第6回	ロック—経験論と教育的しかけ—	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第7回	ルソー—市民教育論と『エミール』—	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第8回	ペスタロッチ—「メトデー」という発想—	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第9回	フレーベルと幼稚園教育—「恩物」をめぐる思想—	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第10回	ヘルバルトから新教育へ—学校教育をめぐって—	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第11回	多様な新教育運動	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第12回	近代教育に対するフーコーのまなざし	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第13回	「ポストモダン」と教育	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第14回	中世・近世における日本教育思想	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出
第15回	日本近代教育思想と学校教育	【予習】 内容に関する文献チェック 【復習】 小レポートの作成・提出

学修の到達目標

人間と教育の関係性について理解を深め、教育という営みを客観的に捉える視点をもつことが本授業の目標である。具体的な到達目標は次の通りである。

- (1) 時代ごとの教育思想や社会的背景から、その背後にある人間観を説明することができる。
- (2) 教育実践の背後にある思想を捉え、その実践の社会的意義や課題について考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①時代ごとの教育思想や社会的背景から、その背後にある人間観を説明することができる。 (専門力)	秀	教育の思想と歴史をその背景を含めて人間観の変遷という観点から説明することができる。
	優	教育の思想と歴史をその背景を含めて説明することができる。
	良	教育の思想と歴史をその関係性に留意しながら説明することができる。
	可	教育の思想と歴史を箇条的に説明することができる。
	不可	教育の思想と歴史を説明することができない。
②教育実践の背後にある思想を捉え、その実践の社会的意義や課題について考えることができる。 (探究力)	秀	教育実践の背後にある思想の観点から、その実践の改善及び思想の課題を説明することができる。
	優	教育実践の背後にある思想の観点から、その実践の改善を説明することができる。
	良	教育実践の背後にある思想の観点から、その実践の意義や課題を説明することができる。
	可	教育実践の背後にある思想が何かを説明することができる。
	不可	教育実践の背後にある思想を捉えることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	0	0	0	40	0	100
評価項目	①教育の思想と歴史の理解	30	0	0	0	20	0	50
	②教育の思想と歴史への考察	30	0	0	0	20	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓ 教育の思想と歴史に関する総合的な理解を定期試験により評価する。
	②	
ポートフォリオ	①	✓ 授業終了後1週間以内に、与えられたテーマに沿って授業のまとめを小レポートとしてmanabaで提出すること。未提出は理由にかかわらず「-5点」とする。
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など

本授業は教員採用試験等における教職教養の内容に相当する。したがって、公立の保育園・幼稚園・認定こども園、小学校教員を志望する学生は必ず受講すること。

教科書・参考書

教科書：使用しません。プリントを配布します。

参考書：『教育思想史』今井康雄編、有斐閣、2009年。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
社会的養護 (E23040)	講義	2	30	2	前期	選択	保育必修	杉山宗尚	7号館2階 非常勤講師 控室
社会的養護とは何かを学ぶ								単独担当	
科目担当者	杉山宗尚								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、探求力、論理的思考力
授業の概要	この授業では、現代社会における家庭養育の状況や社会的養護の歴史の変遷、体系等について説明する。また、家庭養護や施設養護の特質、施設養護の実際を具体的に説明し、施設養護の内容を理解できるようにする。そして、この学びを通して、施設での実習に活かすことができる力を身に付けられるようにしたい。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 子どもの育ちに与える影響について考える。	【予習】 シラバスを熟読する 【復習】 授業内容を振り返る
第2回	社会的養護とは何か：児童養護施設の実践から社会的養護とは何かを学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第3回	社会的養護の歴史：社会的養護の歴史において貢献した人物と施設概要について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第4回	子どもの権利：子どもの権利について、「児童の権利に関する条約」等をふまえて学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第5回	社会的養護の法制度：児童福祉法をはじめとする社会的養護における法制度について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第6回	社会的養護の仕組みと実施機関：社会的養護における仕組みと児童相談所等の実施機関について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第7回	家庭養護について①：里親制度やファミリーホームの概要について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第8回	家庭養護について②：里親の実践について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第9回	施設養護①：児童養護施設について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第10回	施設養護②：乳児院、児童自立支援施設について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第11回	施設養護③：児童心理治療施設、母子生活支援施設、障害児施設について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第12回	施設養護の実際：施設養護の流れをふまえ、実際の支援について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る
第13回	施設養護における現場実践：主に治療的支援が行われている施設現場での実践について学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】 授業内容を振り返る

	授業内容	授業時間外の学習
第14回	被措置児童等虐待について：被措置児童等虐待の概要と現状について学ぶ。	【予習】テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】授業内容を振り返る
第15回	施設運営管理について：措置費や苦情解決等について学ぶ。 授業全体の振り返り	【予習】テキストの該当する箇所に目を通しておく。 【復習】授業内容を振り返る

学修の到達目標
①社会的養護の意義を理解できる。 ②社会的養護の歴史的背景について理解できる。 ③社会的養護の仕組みについて説明できる。 ④社会的養護の施設における役割や機能、保育者の援助・支援について理解できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①社会的養護に関して必要な知識を身につけている (専門力)	秀	社会的養護に関して必要な知識を非常に十分なレベルで身につけている。
	優	社会的養護に関して必要な知識を十分なレベルで身につけている。
	良	社会的養護に関して必要な知識を身につけている。
	可	社会的養護に関して必要な知識をやや身につけている。
	不可	社会的養護に関して必要な知識を身につけることが不十分である。
②物事の本質について深く考えることができる (探求力)	秀	社会的養護の事項について、非常に十分なレベルで深く考えることができる。
	優	社会的養護の事項について、十分なレベルで深く考えることができる。
	良	社会的養護の事項について、深く考えることができる。
	可	社会的養護の事項について、深くまではいかないが考えることができる。
	不可	社会的養護の事項について、考えることが不十分である。
③根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	法令等の根拠に基づき、非常に十分なレベルで論理的に考え、それを示すことができる。
	優	法令等の根拠に基づき、非常に十分なレベルで論理的に考えることができる。
	良	法令等の根拠に基づき、十分なレベルで論理的に考えることができる。
	可	法令等の根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	不可	法令等の根拠に基づき、論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	①専門的知識の修得	70	10	0	0	0	0	80
	②深く考える	0	10	0	0	0	0	10
	③根拠に基づく思考力	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	期末定期試験を実施し、各回のテーマ内容についての知識や思考力を問う問題により評価する。
	②		
	③	✓	
提出物	①	✓	授業内で課すレポートの提出状況と授業内容に沿った課題に対するその内容で評価する。
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

施設実習に大きく関わる授業のため、意欲的に受講してください。また、社会福祉、児童家庭福祉、社会的養護内容等との関連が大きい科目です。しっかりと福祉の心を養ってください。

教科書・参考書

教科書：『図解で学ぶ保育 社会的養護』原田句哉・杉山宗尚 編著，萌文書林。

参考書：『明日の子供たち』有川浩著，幻冬舎。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもの保健Ⅰ (E23130)	講義	2	30	2	前期	選択	保育必修	唐木美喜子	7号館2階 非常勤講師 控室
こどもはどのように生まれどう育つのか								単独担当	
科目担当者	唐木美喜子								

関連ときわ コンピテンシー	教養、専門力、論理的思考力、知欲、自己管理能力、判断力、傾聴力・対話力
授業の概要	子どもが健康な身体と健全な心をもって発育するためには、子どもの身体と心の問題だけでなく、子どもをめぐる人や自然、社会、環境等の変遷を理解し、統合できる力を身につける必要性が求められる。本講義では発育・発達途上にある子どもの保健に関する基礎的知識を学ぶと共に、子どもを多角的に見、子どもの生きていく力を最大限に発揮できるよう支援するために必要な知識と技能を学ぶ。また、子どもの持つ力を育て上げることのできる保育者を目指すために必要な保健と安全教育について理解し、広い視野で子どもの保健全般について学ぶ。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	子どもの健康と保健① 子どもの保健の意義・目的 子どもの健康と保健② 健康概念と健康指標、法律から見た保健	【予習】 シラバスに目を通しておく 【復習】 資料の空欄を完成させる
第2回	子どもの発育・発達の概念 発育・発達の経過、発育測定の方法	【予習】 発育・発達の経過を調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第3回	子どもの身体発育と保健 それぞれの時期における身体発育の特徴	【予習】 身体発育の特徴を調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第4回	子どもの発育・発達① 生理機能の発達（呼吸機能、循環機能）	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 1～4の資料を読み返す
第5回	子どもの発育・発達② 生理機能の発達（免疫機能、消化機能、排泄機能）、到達度確認テスト	【予習】 テストに備え、疑問を解決 【復習】 資料の空欄を完成させる
第6回	子どもの発育・発達③ 生理機能の発達（代謝、内分泌機能、睡眠、心身相関）	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 資料の空欄を完成させる
第7回	子どもの発育・発達④ 運動機能・感覚機能・神経機能の発達	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 資料の空欄を完成させる
第8回	子どもの発育・発達⑤ 精神機能の発達、子どもの人となり、行動発達	【予習】 行動発達の順序を調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第9回	子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴 健康観察の方法、健康状態の把握の仕方、小児の病気の特徴	【予習】 子どもの疾病について調べる 【復習】 5～9の資料を読み返す
第10回	子どもの主な病気と予防① 子どもに多い感染症、到達度確認テスト	【予習】 テストに備え、疑問を解決 【復習】 資料の空欄を完成させる
第11回	子どもの主な病気と予防② その他の感染症、先天異常	【予習】 感染症の予防について調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第12回	子どもの主な病気と予防③ アレルギー性疾患	【予習】 アナフィラキシーの対応 【復習】 資料の空欄を完成させる
第13回	子どもの主な病気と予防④ 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 資料の空欄を完成させる
第14回	子どもの主な病気と予防⑤ 悪性腫瘍、神経系疾患、泌尿器・生殖器の疾患	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 資料の空欄を完成させる
第15回	子どもの主な病気と予防⑥ 整形外科疾患、その他の疾患 補足とまとめ	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 全資料の点検とまとめ

学修の到達目標

こどもの発育・発達、健康についての基礎的知識を得、子どもの保健の意義・目的を理解することができる。
 こどもの疾病の特徴を知り、その予防や対応方法・援助について理解することができる。
 こどもの保育・教育に携わる者に必要な専門知識と技能を身につけることができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①多様な人と関わることのできる人間性の基盤として教養を身につけている (教養)	秀	こどもの保育・教育に携わる者に必要な自らの専門領域に加えて、子どもに関わる社会全体に興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	こどもの保育・教育に携わる者に必要な自らの専門領域に加えて、子どもに関わる社会全体に興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続している。
	良	こどもの保育・教育に携わる者に必要な自らの専門領域に加えて、子どもに関わる社会全体に興味関心を抱き、何らかの形で学修したことがある
	可	こどもの保育・教育に携わる者に必要な自らの専門領域についての知見のみにとどまっている。
	不可	こどもの保育・教育に携わる者に必要な自らの専門領域についての知見が不十分である。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっている、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くともある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的・計画的に学修することができ、日々の学びに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的・計画的に学修することができ、日々の学びに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的・計画的に学修することができ、日々の学びに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。
④自ら、心身の健康を適切に管理することができる (自己管理能力)	秀	こどもの保育・教育に携わる者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	こどもの保育・教育に携わる者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。提出物を期日までに提出し、遅刻・欠席をしない。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自己管理が可能である。提出物を期日までに提出し、遅刻・欠席をしない。
	可	他者からの助言や指導のもと、心身や生活態度等の自己管理が可能である。提出物を期日までに提出し、遅刻・欠席をしない。
	不可	提出物を期日までに提出しない。遅刻・欠席が多い。心身や生活態度等の自己管理ができない。
⑤情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	0	0	10	10	100
評価項目	①基盤としての教養	30	10	0	0	0	0	40
	②論理的な思考力	30	0	0	0	0	0	30
	③学びの楽しさと喜びを知る	0	0	0	0	5	5	10
	④心身の健康管理	0	5	0	0	0	5	10
	⑤状況の適切な判断	0	5	0	0	5	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓
	②	✓
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	✓
	②	
	③	
	④	✓
	⑤	✓
ポートフォリオ	①	
	②	
	③	✓
	④	
	⑤	✓
その他	①	
	②	
	③	✓
	④	✓
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など

この授業では、原則として座席は自由で、毎回皆さんの生活に関連した3つの質問に答えてもらい、その回答をもって出席の確認とします。自分の生活や、こどもの頃の自分を振り返るためです。自分を知る事からスタートです。
授業には多くのスライドと資料を用意していますので、頑張ってください。こどものことに常に興味を持って、一生懸命学び、積極的に授業に参加してほしいと思います。

教科書・参考書

教科書：『子どもの保健Ⅰ』佐藤益子 編著 ななみ書房

参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもの保健Ⅱ (E23140)	講義	2	30	2	後期	選択	保育必修	唐木美喜子	7号館2階 非常勤講師 控室
こどもの心と身体の健康を護るために								単独担当	
科目担当者	唐木美喜子								

関連ときわ コンピテンシー	教養、専門力、論理的思考力、知欲、自己管理能力、判断力、傾聴力・対話力
授業の概要	「こどもの保健Ⅰ」の学習を前提に、本講義では子どもの発達段階における特徴・課題を理解した上で、心の健康とその課題や精神保健の基礎的な知識を習得する。子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために必要な保健的環境や安全の確保と安全管理・安全教育についての基礎的な理論を学び、求められる保健活動のあり方を理解する。さらに、職員間の連携と組織のあり方を学び、家庭・専門機関・地域との連携について理解を深める。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	子どもの疾病と適切な対応 子どもに多い症状の観察、薬の取り扱い	【予習】 シラバスに目を通しておく 【復習】 資料の空欄を完成させる
第2回	子どもの精神保健① 生活環境・ライフサイクルからみた課題、乳幼児期の精神保健	【予習】 乳幼児期の特徴を調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第3回	子どもの精神保健② 学齢期の精神保健、思春期の精神保健	【予習】 学齢期以降の特徴を調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第4回	子どもの心の健康とその課題① 心身症、記憶・PTSDとその周辺	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 1～4の資料を読み返す
第5回	子どもの心の健康とその課題② ストレス関連障害、適応障害、虐待、到達度確認テスト	【予習】 テストに備え、疑問を解決 【復習】 資料の空欄を完成させる
第6回	子どもの心の健康とその課題③ 不登校、発達障害	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 資料の空欄を完成させる
第7回	子どもの心の健康とその課題④ 食行動異常と摂食障害、その他の精神疾患	【予習】 食行動の経過を調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第8回	環境整備と保健 保育における保健的環境の整備	【予習】 保育環境について調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第9回	事故防止と安全教育 子どもに多い事故と安全対策	【予習】 子どもの事故について調べる 【復習】 5～9の資料を読み返す
第10回	子どもの事故と応急処置 到達度確認テスト	【予習】 テストに備え、疑問を解決 【復習】 資料の空欄を完成させる
第11回	保育現場における危機管理 子どもの発達と事故の特徴、事故防止と危機管理	【予習】 発達と事故の関連を調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第12回	職員間の連携と組織的取組 組織におけるより良い連携	【予習】 保育現場の職員を知る 【復習】 資料の空欄を完成させる
第13回	母子保健対策と保育 母子保健対策の現状と課題、医療対策	【予習】 関連法規について調べる 【復習】 資料の空欄を完成させる
第14回	家庭・専門機関・地域との連携 子ども・子育て支援	【予習】 教科書に目を通しておく 【復習】 資料の空欄を完成させる
第15回	補足とまとめ	【予習】 全資料を順番にまとめて持参 【復習】 全資料の点検とまとめ

学修の到達目標

こどもの精神保健とその課題について理解することができる。
 こどもの発達段階における特徴を理解した上で、こどもの生命の保持・情緒の安定が図れるよう安全の確保、安全管理・事故防止について理解することができる。
 こどもの保育・教育に携わる者に必要な専門知識と技能を身につけることができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①教育専門職の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	こどもの保育・教育に携わる者に必要な、自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	こどもの保育・教育に携わる者に必要な知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	こどもの保育・教育に携わる者に必要な知識・技術を身につけている。
	不可	こどもの保育・教育に携わる者に必要な自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的・計画的に学修することができ、日々の学びに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的・計画的に学修することができ、日々の学びに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的・計画的に学修することができ、日々の学びに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。
④自ら、心身の健康を適切に管理することができる (自己管理能力)	秀	こどもの保育・教育に携わる者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	こどもの保育・教育に携わる者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。提出物を期日までに提出し、遅刻・欠席をしない。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自己管理が可能である。提出物を期日までに提出し、遅刻・欠席をしない。
	可	他者からの助言や指導のもと、心身や生活態度等の自己管理が可能である。提出物を期日までに提出し、遅刻・欠席をしない。
	不可	提出物を期日までに提出しない。遅刻・欠席が多い。心身や生活態度等の自己管理ができない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
⑤情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	0	0	10	10	100
評価項目	①専門職に必要な知識・技能	30	10	0	0	0	0	40
	②論理的な思考力	30	0	0	0	0	0	30
	③学びの楽しさと喜びを知る	0	0	0	0	5	5	10
	④心身の健康管理	0	5	0	0	0	5	10
	⑤状況の適切な判断	0	5	0	0	5	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	持ち込みなしの筆記試験を行う。 試験範囲は後期の講義内容すべて。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
提出物	①	講義の第5回目と第10回目の開始直後に到達度確認テストを行う。 長期休暇中に取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
ポートフォリオ	①	各自が授業で取り組む資料をそれぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。 ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。 正当な理由なく、資料が欠落している場合は、減点の対象とする。
	②	
	③	
	④	
	⑤	
その他	①	授業に対する姿勢を出席状況・態度や積極的な発表で評価し、加点・減点の対象とする。
	②	
	③	
	④	
	⑤	

履修に必要な知識・技能・態度など

この授業では、原則として座席は自由で、毎回皆さんの生活に関連した3つの質問に答えてもらい、その回答をもって出席の確認とします。自分の生活や、こどもの頃の自分を振り返るためです。自分を知る事からスタートです。

授業には多くのスライドと資料を用意していますので、頑張ってついてきてください。こどものことに常に関心を持って、一生懸命学び、積極的に授業に参加してほしいと思います。

教科書・参考書

教科書：『子どもの保健Ⅰ』佐藤益子 編著 ななみ書房

参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育の心理学 (E23160)	演習	1	30	2	後期	選択	保育必修	柳原利佳子	7号館5階 研究室
子どもの発達と保育者の役割を学ぶ								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力・知欲・継続力
授業の概要	発達心理学 I で学んだことを踏まえて、より実践的に子どもの発達と保育者の役割について理解を深める。子ども同士の関わりの広がり、学びの過程で遊びが果たす役割、発達援助について、実践的な課題を通して理解を深める。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	自己認知の発達	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 学びの確認
第2回	ことばの発達過程と保育者の役割	【予習】 ことばの発達過程と保育者の役割について調べる 【復習】 学びの確認
第3回	自己主張と自己抑制	【予習】 自己主張と自己抑制について調べる 【復習】 学びの確認
第4回	子ども相互のかかわりと関係作り	【予習】 子ども相互のかかわりと関係作りについて調べる 【復習】 学びの確認
第5回	子ども集団と保育の環境	【予習】 子ども集団と保育の環境について調べる 【復習】 学びの確認
第6回	発達過程と個人差 (小テスト1: 第1回～第5回まで)	【予習】 小テスト対策と発達過程と個人差について調べる 【復習】 学びの確認
第7回	基本的な生活習慣の獲得と発達援助	【予習】 基本的な生活習慣の獲得と発達援助について調べる 【復習】 学びの確認
第8回	自己の主体性の形成と発達援助	【予習】 自己の主体性の形成と発達援助について調べる 【復習】 学びの確認
第9回	発達の連続性と就学への支援	【予習】 発達の連続性と就学への支援について調べる 【復習】 学びの確認
第10回	環境としての保育者と子どもの発達	【予習】 環境としての保育者と子どもの発達について調べる 【復習】 学びの確認
第11回	子ども理解における発達の把握 (小テスト2: 第6回～第10回まで)	【予習】 小テスト対策と子ども理解における発達の把握について調べる 【復習】 学びの確認
第12回	生活や遊びを通じた学びの過程	【予習】 生活や遊びを通じた学びの過程について調べる 【復習】 学びの確認
第13回	保護者理解	【予習】 保護者理解について調べる 【復習】 学びの確認

	授業内容	授業時間外の学習
第14回	現代社会における子どもの発達と保育の課題	【予習】 現代社会における子どもの発達と保育の課題について調べる 【復習】 学びの確認
第15回	補足とまとめ（小テスト3：第11回～第14回まで）	【予習】 小テスト対策と全体の振り返りをしておく 【復習】 学びの確認と期末試験対策をする

学修の到達目標

子どもの心身の発達理論と学びの過程について、保育実践を関連付けながら理解することができる。また、保育における子どもの援助という専門性を重視し、一人ひとりの個性を見つめ、発達援助について、自分なりの考えを持つことができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①子どもの発達と保育者の役割について、基本的な必要な知識を身につけている。 (専門力)	秀	子どもの発達と保育者の役割について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめて子どもの理解に活用できる。
	優	子どもの発達と保育者の役割について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめることができる。
	良	子どもの発達と保育者の役割について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	子どもの発達と保育者の役割について基本的な知識を身につけている。
	不可	子どもの発達と保育者の役割についての知識を身につけていない。
②学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができない。
③自らが目指す保育について、考え、学ぶ姿勢とその努力を持続することができる。 (継続力)	秀	内発的動機づけのもと、自らが目指す保育についての考えがあり、楽しみながら学びを深め探究し続けることができる。
	優	自らが目指す保育についての考えがあり、継続的に考え、学びを深め探究し続けることができる。
	良	自らが目指す保育についての考えがあり、さらに学びを深め探究しようとしている。
	可	自らが目指す保育についての考えがある。
	不可	自らが目指す保育についての考えがない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		55	15	0	0	0	30	100
評価項目	①基本的な知識の習得	0	0	0	0	0	20	20
	②学ぶことの楽しさ	0	15	0	0	0	10	25
	③考え、学ぶ姿勢	55	0	0	0	0	0	55

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	レポートにおいて、自らの目指す保育について、考え、学ぶ姿勢が身についたかどうかを評価する。	
	②		
	③		✓
提出物	①	授業内に行う復習チェックに対して、主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。	
	②		✓
	③		
その他	①	小テストにおいて子どもの発達についての知識や心理学用語などの理解ができていたかどうか、また、授業内において発言するなど積極的に授業参加していたかどうかを評価する。	
	②		✓
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

発達の基盤が作られる重要な乳幼児期にかかわる保育者の責務の重さを認識し、真面目に取り組むこと。

教科書・参考書

教科書：『子どもとかかわる人のための心理学』 沼山博・三浦主博編著 萌文書林

参考書：『保育の心理学演習ブック』 松本峰雄監修，大野雄子他著 ミネルヴァ書房

『幼稚園教育要領』 文部科学省 フレーベル館

『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府 フレーベル館

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
発達心理学Ⅱ (E23170)	講義	2	30	2	後期	選択	保育選択必修	柳原利佳子	7号館5階 研究室
自分自身を見つめてみよう								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力・知欲・論理的思考力・省察力
授業の概要	この授業は、思春期以降からの発達に焦点をあてる。思春期からのこどもの育ちを見据えることは、小学校教員のみならず、施設の保育士にも、職務内容の対象となることもあるので大切なことである。しかしそれだけでなく、社会にでる前に、これまでの自身の心の軌跡を振り返りつつ、人の生涯発達を理解することにより、教員・保育士として求められる自己を絶えず省みる観点を提供する。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	第1次性徴と第2次性徴	【予習】 シラバス内容の熟読と胎児期の発達について振り返りしておく 【復習】 学びの確認
第2回	思春期からの身体変化	【予習】 思春期からの身体変化について自らのことを思い出しながら調べておく 【復習】 学びの確認
第3回	男性らしさ・女性らしさ	【予習】 社会の中で言われている男性らしさと女性らしさについて調べる 【復習】 学びの確認
第4回	性役割と自己意識	【予習】 性別役割分業観について調べる 【復習】 学びの確認
第5回	青年期の生活習慣の問題（小テスト1：第1回～第4回まで）	【予習】 小テスト対策と青年期の生活習慣の問題点を調べる 【復習】 学びの確認
第6回	世代を超えた発達の影響	【予習】 世代を超えた発達の影響について調べる 【復習】 学びの確認
第7回	自己の統合 - 現実自己と理想自己	【予習】 自己評価について調べる 【復習】 学びの確認
第8回	人格の発達	【予習】 ユングのパーソナリティ理論について調べる 【復習】 学びの確認
第9回	青年期以降の発達課題	【予習】 青年期以降の発達課題について調べる 【復習】 学びの確認
第10回	アイデンティティの形成とモラトリアム（小テスト2：第5回～第9回まで）	【予習】 小テスト対策と自我同一性について調べる 【復習】 学びの確認
第11回	自我同一性地位	【予習】 自我同一性地位について調べる 【復習】 学びの確認
第12回	配偶者選択	【予習】 配偶者選択の現代的傾向について調べる 【復習】 学びの確認
第13回	子どもをもつという選択	【予習】 子どもをもつという選択の現代的傾向について調べる 【復習】 学びの確認

	授業内容	授業時間外の学習
第14回	人口問題からみた個人の生き方	【予習】 少子高齢化社会における問題点について調べる 【復習】 学びの確認
第15回	補足とまとめ (小テスト3：第10回～第14回まで)	【予習】 小テスト対策をする 【復習】 学びの確認と期末試験対策をする

学修の到達目標

自分がこれまで辿ってきた道筋を振り返ると同時に、思春期以降の発達を理解することができる。また今後の人生の発達の危機やさまざまな年代の人々の心模様についてより理解を深め、より適応的に生きるための視点を構築することができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①思春期以降の発達についての基本的な必要な知識を身につけている。 (専門力)	秀	思春期以降の発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめるだけではなく、将来設計の展望にも活用できる。
	優	思春期以降の発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめて活用できる。
	良	思春期以降の発達について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	思春期以降の発達について基本的な知識を身につけている。
	不可	思春期以降の発達についての知識を身につけていない。
②学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができない。
③心理検査の結果に基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くともある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④自らの辿ってきた道筋を振り返り、今後の人生に活かすことができる。 (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	30	0	0	0	30	100
評価項目	①基本的な知識の習得	0	0	0	0	0	20	20
	②学ぶことの愉しさ	0	10	0	0	0	10	20
	③検査結果の整理・分析	0	20	0	0	0	0	20
	④振り返りと今後の活用	40	0	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	レポート試験において、論理的に分析し省察できていたかどうかを評価する。	
	②		
	③		
	④		✓
提出物	①	授業内に行う復習チェックや授業内あるいは授業外の小レポートに対して、主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。	
	②		✓
	③		✓
	④		
その他	①	小テストにおいて知識が習得できていたかどうか、また、授業内において発言するなど積極的に授業参加していたかどうかを評価する。	
	②		✓
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など
自己分析、資料の読み取り等について真摯に取り組むこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません。毎回プリントを配布します。 参考書：適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科 目 責 任 者 名	研究室
サブタイトル								担 当 形 態	
幼児理解 (E23200)	講 義	2	30	2	前 期	選 択	保 育 選 択 必 修 幼 教 免 必 修	白 山 真 知 子	7号館2階 非常勤講師 控室
子どもを多角的に理解する								単 独 担 当	
科目担当者	白山真知子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、情報力、知欲、探究力、デザイン力、傾聴力・対話力
授業の概要	幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものです。一生の中で一番発達に変化する子ども時代を種々の側面から理解し、保育の様々な要素を学んでいきます。近年、保育や幼稚園現場では様々な困難な課題をもつ子どもの理解と対処に、より高い専門性と知識が必要とされている。子どもを取り巻く様々な問題に対する援助の側面も理解すると共に、保護者対応に必要な知識と援助法を学ぶ。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	子どもを理解することの意味と、保育や教育の場は“臨床の場”であるとは	【予習】教科書序章を読んでおく 【復習】習ったことを復習しておく
第2回	「わたし」の誕生と生成。絵本や児童書にみる「わたし」の理解と「他者」。保育者が子どもの「わたし」をつくるとき	【予習】教科書1章を読んでおく 【復習】「わたしをしる」を仕上げる
第3回	カウンセリングマインドと保育臨床(1) カウンセリングマインドの実際と様々な手法について	【予習】教科書関連頁を読んでおく 【復習】習ったことを復習しておく
第4回	カウンセリングマインドと保育臨床(2) 臨床の知とは。保育の場が「臨床的である」ということ	【予習】教科書関連頁を読んでおく 【復習】習ったことを復習しておく
第5回	カウンセリングマインドと保育臨床(3) 保育臨床への発想 事例を通して	【予習】教科書関連の事例を考える 【復習】事例を考察し提出
第6回	カウンセリングマインドと保育臨床(4) 現場に活かすカウンセリング技法, ロールプレイ	【予習】「わたしをしる」を見る 【復習】習ったことを復習しておく
第7回	子どもを理解する(1) 子ども理解とその方法・行動等から読み取る	【予習】教科書関連頁を読んでおく 【復習】質問紙を書いてみる
第8回	子どもを理解する(2) 記録をとることの意味と記録の実際	【予習】教科書関連頁を読んでおく 【復習】記録を取る
第9回	子どもを理解する(3) 遊びの中の子ども理解と発達遊びの中の子ども理解と発達	【予習】遊びの発達を予習しておく 【復習】習ったことを復習しておく
第10回	子どもを理解する(4) 感覚統合障害様状態と現場で援助できること	【予習】感覚統合について調べておく 【復習】習ったことを復習しておく
第11回	子どものSOSを読み取る(1) 不安や不登園など集団状況からの発見と対処	【予習】教科書関連頁を読んでおく 【復習】習ったことを復習しておく
第12回	子どものSOSを読み取る(2) 子ども虐待:メカニズムと早期発見とケア	【予習】教科書関連頁を読んでおく 【復習】新聞記事を読み解く
第13回	子どものSOSを読み取る(3) 子ども虐待とアタッチメント	【予習】愛着についてみておく 【復習】習ったことを復習しておく
第14回	描画にみる子どもの発達と心理	【予習】子どもの絵の発達を見ておく 【復習】習ったことを復習しておく
第15回	保護者を支える。子育て不安とペアレントプログラム。子どものレジリエンスを育む。子どもの理解者としての保育者・教師。補足とまとめ	【予習】ペアトレについて調べる 【復習】習ったことを復習しておく

学修の到達目標

皆さんは幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解し、さらにその方法を具体的に理解する。

- 1) 観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる
- 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している
- 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している
- 4) 保護者の心情と基礎的な対応心情と基礎的な対応の方法を理解している

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①幼児理解に必要な知識や技能を身につけている (専門力)	秀	幼児理解についての専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。また幅広い教養に基づく高いプロフェッショナルリズムも持っている。
	優	専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナルリズムももっている。
	良	専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②必要な情報を収集、整理、分析し活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用し、文章にまとめることが高い力でできる。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用し、文章にまとめることができ、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
③物事の本質について自ら深く考え抜くことができる。 (探究力)	秀	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そして、そこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移すことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
④人や子どもを多角的に見、課題の解決策を見いだせる (デザイン力)	秀	自発的に様々な課題に対して専門知識や自らの考えを総合して、課題解決策をデザインすることが十分高いレベルで可能である。さらにその策を発信することで、他者と共有しより高めることができる。
	優	自発的に様々な課題に対して専門知識や自らの考えを総合して、課題解決策をデザインすることが十分高いレベルで可能である。
	良	ある程度自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを課題解決策をある程度デザインすることができる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	30	0	0	0	10	100
評価項目	①専門的な知識と技術	30	10	0	0	0	10	50
	②情報収集と分析、活用	10	10	0	0	0	0	20
	③自ら深く考え抜く	10	5	0	0	0	0	15
	④独創性豊かな解決力	10	5	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を、試験期間中に実施。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	次回までに取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかと内容の評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
その他	①	✓	授業への積極的参加。
	②		
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

幼児に係る様々なことを学びます。事前に教科書の関連頁を読んで予習するだけでなく、幼児理解について多様な観点を持てるよう、発達心理学など近隣の分野の本も読んでおいてください。また、幼児関連の新聞記事やニュースにも目をとめて、読み聞きしておいてください。

教科書・参考書

教科書：『子ども理解とカウンセリングマインド』青木久子・間藤侑 萌文書林
 参考書：『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房
 『私の子ども学ノート』間藤侑著 わかば社
 随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
相談援助 (E23220)	演習	1	30	2	後期	選択	保育必修	橋本好市	7号館5階 研究室
保育実践に求められるソーシャルワーク								単独担当	
科目担当者	橋本好市								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、判断力
授業の概要	保育や児童福祉実践は対人援助の場でもある。人との直接的、間接的なかかわりの上に多様なサービスが展開される。その最も基本的理論がソーシャルワークである。社会福祉の理念に基づき、対人援助の基本的理念や歴史と理論を学び、演習を通して実践的スキルを養う。

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	社会福祉援助技術（ソーシャルワーク：以下、SW）とは	【予習】 SWの意味を確認 【復習】 理論・対象・範囲等を整理
第2回	社会福祉援助技術の構造	【予習】 援助・支援の意味を確認 【復習】 理論的に支援の構造を整理
第3回	保育と保育士における社会福祉援助技術の活用	【予習】 保育士のターゲットを倫理綱領から確認 【復習】 保育士がSWに関わる意義を整理
第4回	児童福祉施設における社会福祉援助技術の活用	【予習】 児童福祉施設の専門職を確認 【復習】 児童福祉施設の業務内容を整理
第5回	社会福祉援助技術の発展と歴史	【予習】 SWの源流と発展を確認 【復習】 発展の経緯とその後の影響を整理
第6回	社会福祉援助技術の種類と意義	【予習】 SWの対象と対応を確認 【復習】 SW類型と特徴を整理
第7回	直接援助技術の枠組みと理論	【予習】 SWの類型を確認 【復習】 SWの類型と支援方法を整理
第8回	間接援助技術の枠組みと理論	【予習】 直接援助と間接援助の違いを確認 【復習】 間接援助の考え方と方法を整理
第9回	コミュニティーワークの枠組みと理論	【予習】 地域支援への保育士としての意義を確認 【復習】 保育士のターゲットから地域支援の意義を整理
第10回	ケア（ケース）マネジメントと援助	【予習】 支援の目的とゴール確認 【復習】 支援をマネジメントすることの意義を整理
第11回	SWにおける関連基礎理論	【予習】 SWに関わる周辺理論を確認 【復習】 周辺理論をSWに活用する意義を整理
第12回	事例の分析と研究視点	【予習】 保育士の関わる子どもの生活を確認 【復習】 事例検討の重要性と視点を整理
第13回	事例への取り組み	【予習】 事例から保育士に求められる専門性を確認 【復習】 事例分析から保育士のSWへの関わりを整理
第14回	自己覚知と援助者：支援の意義を踏まえて	【予習】 自己分析から自身の強み弱さを確認 【復習】 他者支援に自己覚知が重要との意義を整理

	授業内容	授業時間外の学習
第15回	援助者としての基本姿勢～まとめにかえて	【予習】 保育士の倫理綱領からその専門性を確認 【復習】 保育士がSW に関わる意義と実践を整理

学修の到達目標
対人援助技術の基礎を知り、自己の対人援助能力の向上をおこなう。児童や家族、利用者に対する援助技術のあり方についての理解ができるようになる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①専門職としての資質と職務遂行に必要な知識を習得している (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。かつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②ソーシャルワーク理論を根拠に基づく客観的・論理的思考ができる。 (論理的思考力)	秀	客観的にソーシャルワーク理論を根拠にして十分論理的に考えることができる。かつ、法的根拠の限界も理解しており、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的にソーシャルワーク理論を根拠にして十分論理的に考えることができる。
	良	客観的にソーシャルワーク理論を根拠にして論理的に考えることができる。
	可	客観的にソーシャルワーク理論を根拠が多少は薄い、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	客観的にソーシャルワーク理論を根拠にして論理的に考えることができない。
③利用者の情報を客観的 思考に基づく判断、および状況に応じた適切なサービス提供(支援)の判断をすることができる。 (判断力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。

評価方法と評価項目との関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
評価項目	①専門職としての資質と知識	50	10	0	0	0	60
	②ソーシャルワーク理論に基づく思考性	20	10	0	0	0	30
	③利用者情報の客観的理解と支援	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を実施
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	中間テストして「peer reading」を行う
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

保育士にはソーシャルワークの一部を担う場合もあることに意識をおき、保護者支援のための実践をも担う視点で保育の仕事のみておくこと。

講義への出席は当然のことであるため、出席回数等を評価対象とはしない。欠席多者は、自ずと試験等の評価に反映するであろう。

教科書・参考書

教科書：『保育実践に求められるソーシャルワーク』 橋本好市・直島正樹 編 ミネルヴァ書房

参考書：適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育課程論 (E23300)	講義	2	30	2	後期	選択	保育必修	多田琴子	7号館5階 研究室
保育者の意図が子どもの発達を促す 意図は保育課程に在る								単独担当	
科目担当者	多田琴子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力・デザイン力・論理的思考力
授業の概要	<p>乳幼児期の保育課程についての基礎的基本的な理念について学び、その上に展開される具体的な保育課程の編成、指導計画の作成から実践に至るまでを理解する。</p> <p>まず、保育という営みは、どのような計画に基づいて行っているのかについて、その意義や必要性を学ぶ。また、見学実習園で見聞した保育目標に基づいた保育内容と自らが記述した保育記録とを照らし合わせ、子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、指導計画作成の方法やポイントについて理解する。</p>

	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション・カリキュラムを考える(序)	
第2回	教育・保育に大切なことー(保育の意味世界・保育のしくみ)	【予習】保育という営みについて考察 【復習】「保育という営み」を再考察
第3回	よりよい保育の構想 (カリキュラム構造と保育改善・保育方法と技術・環境構成と活動 想定視点)	【予習】よい保育について考察 【復習】よい保育の基準を考察
第4回	教育・保育の意味と基本／教育・保育の構造	【復習】保育の構造を再確認
第5回	教育・保育課程とは(全体的計画の意義・編成の基準・編成の手順)	【予習】諸外国の保育の特徴を調べる 【復習】学びのまとめと振り返り
第6回	保育制度の変遷と展望	【予習】諸外国の保育の特徴を調べる 【復習】保育制度の変遷と展望
第7回	諸外国の保育の特徴(グループワーク)発表	【予習】諸外国の保育の特徴を調べる 【復習】諸外国の保育の特徴確認
第8回	保育課程編成(目標設定・構成要素)	【復習】目標設定・構成要素確認
第9回	指導計画作成(指導計画の必要性・生活の連続性・子どもの育ち) の基本	【復習】指導計画の必要性確認
第10回	幼稚園における指導計画作成の実際／保育所における指導計画 作成の実際	【復習】具体的指導計画図の作成
第11回	指導計画作成(具体的指導計画図)	【予習】具体的指導計画図の作成 【復習】具体的指導計画の作成
第12回	指導計画作成(設定保育指導案の作成)	【予習】具体的指導計画の作成 【復習】設定保育指導案・具体的指導計画 図発表資料作成
第13回	保育計画の実際(0～3歳)(グループワーク)発表	【予習】0～3歳具体的指導計画図作成
第14回	保育計画の実際(3～6歳)(グループワーク)発表	【予習】3～6歳具体的指導計画図作成
第15回	保育の評価と質の向上(保育評価とは・保育評価の考え方)／補足 とまとめ、理解度の確認	【予習】配布物、ノート等まとめ 【復習】学びの確認

学修の到達目標

- ・ 保育課程、指導計画の意義と目的を理解し、その編成について理解する。
- ・ 子ども一人ひとりが自分の発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活をおくることができる具体的な指導計画構造図を作成する。
- ・ 保育のねらいと内容の関係が分かり、自ら設定保育指導案の立案ができることを目指す。
- ・ 保育記録・評価反省と計画の関係を理解し、計画の改善の意義と方法について理解する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について理解し、子どもの発達を踏まえ具体的な指導計画構造図を作成する (専門力)	秀	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について十分理解し、子どもの発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活をおくることができる具体的な指導計画構造図を作成することができる。
	優	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について理解し、子どもの発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活をおくることができる具体的な指導計画構造図を作成することができる。
	良	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について理解し、子どもの発達を踏まえ具体的な指導計画構造図を作成することができる。
	可	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について理解し、指導計画構造図を作成できる。
	不可	保育課程、指導計画の意義と目的、その編成について理解できず、指導計画構造図を作成できない。
②保育のねらいと内容の関係が分かり、対象にふさわしい設定保育指導案を立案する。 (デザイン力)	秀	保育のねらいと内容の関係が十分分かり、対象にふさわしい設定保育指導案の立案ができるとともに、他者に分かりやすく説明することができる。
	優	保育のねらいと内容の関係が分かり、対象にふさわしい設定保育指導案を立案し、それを説明できる。
	良	保育のねらいと内容の関係が分かり、対象にふさわしい設定保育指導案の立案ができる。
	可	保育のねらいと内容の関係が分かり、設定保育指導案の立案ができる。
	不可	保育のねらいと内容の関係が分からず、設定保育指導案の立案ができない。
③保育記録・評価反省と計画の関係が分かり、計画の改善の意義と方法について理解する。 (論理的思考力)	秀	保育記録・評価反省と計画の関係が分かり、計画改善の意義と方法について十分理解するとともに、それを他者が分かるまで説明できる。
	優	保育記録・評価反省と計画の関係が分かり、計画改善の意義と方法について理解するとともに、それを説明できる。
	良	保育記録・評価反省と計画の関係が分かり、計画改善の意義と方法について理解し、説明しようとする。
	可	保育記録・評価反省と計画の関係、及び計画改善の意義と方法について理解する。
	不可	保育記録・評価反省と計画の関係、及び計画改善の意義と方法について、理解できていない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	0	0	0	20	100
評価項目	①学習内容の理解 (専門力)	50	10	0	0	0	0	60
	②指導案を立案 (デザイン力)	0	10	0	0	0	10	20
	③P D C A理解 (論理的思考力)	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成についての理解度で評価する。 子どもの発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活としての様々な指導計画と方法の理解度で評価する。
	②		
	③		
提出物	①	✓	諸外国の保育の特徴を捉え、その構造や内容が適切にレポートされているか否かで評価する。 子どもの発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活として構造が指導案から読み取れるか否かで評価する。 レポート課題に対して、引用参考文献が適切であるかと、自分の意見が論理的に述べられているか否かを評価する。
	②	✓	
	③	✓	
その他	①		具体的指導計画図や設定保育指導案作成において、学習した内容や情報を活用し、グループ内でデザイン力や論理的思考力を発揮することを評価する。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・ 保育者は必ず指導案を書かなければならないことを理解し、分かろうとして学ぶ。
- ・ 保育所及び幼稚園での実習で成果を出すために、この授業で指導計画を確実に学ぶ。
- ・ 指導計画（構造図と全日保育指導案）立案に向けて、様々な指導案の収集を行いファイリングしておく。
- ・ 提出物の期限は厳守すること。

教科書・参考書

教科書：子どものいまとみらいを考える『教育課程・保育課程論』田中亨胤・三宅茂夫 編著 みらい

参考書：『幼稚園教育要領』 文部科学省 フレーベル館
『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館
その他、適宜紹介・配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育内容 (健康) (E23340)	演習	2	30	2	前期	選択	保育必修 幼教免必修	多田琴子	7号館5階 研究室
学生の学修意欲を喚起するような内容を 自由に記入 (新聞記事の見出しのように)								単独担当	
科目担当者	多田琴子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力 常識力 情報力 実行力
授業の概要	健康な子どもを育てることは、単に身体を清潔にし、疾病のない状態に保つことではない。子どもなりにのびのびと安心して、自主的に生活に取り組むことができる心身の安定が必要である。保育内容領域 (健康) が目指す目標である「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」を具現化するために、保育実践の基盤となる事項を幼稚園教育要領と保育所保育指針を読み取るところからはじめる。また、実際に幼稚園や保育施設で行われている運動遊びや食育、安全教育などにも触れながら、子どもにとって健康で安全な生活環境を作り適切な援助を行うための知識や技能を身につける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス・領域「健康」の意味を考える	【予習】要領・指針の領域健康通読 【復習】領域「健康」の意味確認
第2回	領域「健康」のめざすもの	【予習】要領・指針の領域健康通読 【復習】健康領域のねらい内容確認
第3回	領域「健康」と子どもの生活	【予習】模擬保育計画 【復習】学習内容の振り返り
第4回	基本的生活習慣 ①乳児期と幼児期	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第5回	基本的生活習慣 ②定着指導	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第6回	子どもの発育・発達と運動 ①健康診断・身体測定・体力測定	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第7回	子どもの発育・発達と運動 ②遊び	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第8回	子どもの発育・発達と運動 ③計画的継続的運動	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第9回	子どもの発育・発達と運動 ④運動遊び体験	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第10回	子どもと食事 ①食物アレルギー	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第11回	子どもと食事 ②食育・食習慣	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第12回	子どもと病気 ①アレルギー・流行性疾患・欠席理由	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第13回	子どもの病気 ②ストレス反応と対応	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第14回	安全教育 ①遊具用具の安全点検	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り
第15回	安全教育 ②リスクとハザード 学びの振り返りとまとめ	【予習】模擬保育計画・準備 【復習】学習内容の振り返り

学修の到達目標

- ・乳幼児期における心身の健康が保育の基盤であることを理解する。
- ・子ども自らが主体的に健康で安全な生活をつくり出す力を養おうとするための環境構成や指導の視点を知る。
- ・具体的な保育者の援助の方法を、模擬保育を通して体得する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①子どもの心と体の健康を守り育てる知識や技術、環境構成や指導の視点が理解でき、模擬保育で発揮とする。 (専門力)	秀	保育者の視点で、子どもの心と体の健康を守り育てる知識や技術、環境構成や指導の視点が理解でき、模擬保育を通してそれらを総合的に発揮できる。
	優	子どもの心と体の健康を守り育てる知識や技術、環境構成や指導の視点が理解でき、模擬保育を通して発揮する。
	良	子どもの心と体の健康を守り育てる知識や技術、環境構成や指導の視点が理解でき、模擬保育で発揮しようとする。
	可	子どもの心と体の健康を守り育てる知識や技術、環境構成や指導の視点で模擬保育を行う。
	不可	子どもの心と体の健康を守り育てる知識や技術、環境構成や指導の視点が分からない。
②子どもの基本的な生活習慣獲得と発育・発達、環境が関係していることが分かり、子どもに指導すべき基本的な生活習慣身につけている。 (常識力)	秀	子どもの基本的な生活習慣獲得と発育・発達、環境が関係することを十分理解し、子どもに指導すべき基本的な生活習慣が身につけていると同時に指導することができる。
	優	子どもの基本的な生活習慣獲得と発育・発達、環境が関係していることが分かり、子どもに指導すべき基本的な生活習慣が身につけている。
	良	子どもに指導すべき基本的な生活習慣が身につけている。
	可	子どもに指導する基本的な生活習慣を知識として知っている。
	不可	子どもに指導する基本的な生活習慣に意識や関心がなく、知識や振る舞いが伴わない。
③子どもを取り巻く環境変化の情報を、収集・整理・分析し、子どもの心身の健康を守り育てる環境構成や指導につなげる。 (情報力)	秀	子どもを取り巻く環境の変化について、情報を収集・整理・分析し、子どもの心身の健康を守り育てる環境構成や指導につなげ、自分なりの考察で他者を納得させることができる。
	優	子どもを取り巻く環境の変化について、情報を収集・整理・分析し、子どもの心身の健康を守り育てる環境構成や指導につなげ、自分なりの考察ができる。
	良	子どもを取り巻く環境の変化について、情報を収集・整理・分析し、子どもの心身の健康を守り育てる環境構成や指導につなげて考えることができる。
	可	子どもを取り巻く環境の変化について、情報を収集・整理・分析し、子どもの心身の健康を守り育てる環境構成や指導につなげようとする。
	不可	子どもを取り巻く環境の変化についての情報収集・整理・分析が不十分で、子どもの心身の健康を守り育てる環境構成や指導につなげられない。
④積極的に役割取得をして模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して具体的な想定を行動に移す。 (実行力)	秀	積極的に役割取得をして模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して他者が納得する具体的な想定を行い、行動に移すことができると同時に、その結果を客観的に考察し改善点を析出できる。
	優	積極的に役割取得をして模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して具体的な想定を行い、行動に移すことができると同時に、その結果を客観的に考察できる。
	良	積極的に役割取得をして模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して具体的な想定を行い、行動に移すことができる。
	可	模擬保育やグループワークでは、課題に対しての思いや考えを出し、行動に移すことができる。
	不可	客体で模擬保育やグループワークに参加し、主体的な行動がとれない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	20	30	0	0	0	100
評価項目	①子どもの心と体の健康を守り育てる知識や技術（専門力）	30	0	0	0	0	0	30
	②基本的な生活習慣の獲得（常識力）	20	10	0	0	0	0	30
	③情報の収集・整理・分析（情報力）	0	10	0	0	0	0	10
	④想定を行動に移す（実行力）	0	0	30	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	領域「健康」の、知識や環境構成、指導の視点などの理解度、また、子どもの発育・発達を踏まえた、基本的な生活習慣の獲得についての知識や指導法を評価する。
	②	✓	
	③		
	④		
提出物	①		学生自身の常識力を通じた、子どもに指導すべき基本的な生活習慣を模擬保育指導案立案で評価する。また、子どもを取り巻く環境の変化について、情報を収集・整理・分析し、子どもの心身の健康を守り育てる環境構成や指導につなげて考えているか否かを評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①		模擬保育において、積極的に役割取得をし、模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して具体的な想定を行い、行動に移しているか評価する。
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・子どもの心身の健康を担う自覚と基礎学習により保育技術の向上につなげようとする意識をもつ。
- ・基本的な生活習慣定着につながる手遊びや、保育の導入に必要な環境構成について、情報収集すること。
- ・毎回30分程度健康に係る模擬保育をグループで行う。模擬保育では、積極的に役割取得する。
(準備はグループ内で時間調整し、模擬保育指導案を作成し、授業外時間で、十分な話し合いとシミュレーションを行うこと。)

教科書・参考書

教科書：「幼稚園教育要領」文部科学省 フレーベル館
「保育所保育指針」厚生労働省 フレーベル館
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館
参考書：その都度参考文献等を配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育内容(環境) (E23360)	演習	2	30	2	前期	選択	保育必修 幼教免必修	大森雅人	7号館5階 研究室
こどもが環境と関わる過程を理解する								単独担当	
科目担当者	大森雅人								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、省察力、協調性・協働力
授業の概要	<p>幼児教育において育みたい3つの資質・能力（「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」）や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解した上で、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深める。</p> <p>その際は、幼児を取り巻く現代社会の状況や幼児と環境の関わり方といった背景となる専門領域とも関連させる。</p> <p>最終的には、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びの過程を踏まえ、領域「環境」のねらい達成に繋がるような指導場面を想定した保育の構想ができる力を身につける。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス、こどもを取り巻く環境 幼稚園教育要領等の記述の確認、こどもを取り巻く環境の変化を理解する	【予習】 シラバスを見ておく 【復習】 指定のノートを準備
第2回	領域「環境」を理解する 事物・事象、ねらい、内容、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解する	【予習】 要領等の領域「環境」の記述を見ておく 【復習】 ノートの整理と見直し
第3回	領域「環境」の理解を深める ねらいをどのようにして達成させるか、領域の相互性などを理解する	【予習】 要領等で5領域の記述を確認 【復習】 ノートの整理と見直し
第4回	好奇心・探究心とは 領域「環境」が育成を目指す「こどもの好奇心・探究心」とは何かを理解する	【予習】 要領等で好奇心や探究心に関連する項目を読んでおく 【復習】 ノートの整理と見直し
第5回	こどもと「もの」の関わりを理解する体験① 「ものや道具」とこどもとの関わりを模擬保育の形式で体験する	【予習】 特になし 【復習】 ノートの整理と見直し
第6回	こどもと「もの」の関わりを理解する体験② 体験での「気づき」のフィードバックと振り返り	【予習】 前回の体験を振り返っておく 【復習】 ノートの整理と見直し
第7回	「ものや道具」とこどもの関わりを理解 体験で学んだことをもとにして、関わりの特徴を理解する	【予習】 要領等で「内容の取扱い」の関連部分を見ておく 【復習】 ノートの整理と見直し
第8回	「数量・図形・標識・文字」との関わりを理解する体験① 「数量・図形・標識・文字」とこどもの関わりを模擬保育の形式で体験する	【予習】 特になし 【復習】 ノートの整理と見直し
第9回	「数量・図形・標識・文字」との関わりを理解する体験② 体験での「気づき」のフィードバックと振り返り	【予習】 前回の体験を振り返っておく 【復習】 ノートの整理と見直し
第10回	「数量・図形・標識・文字」や「生活の情報、地域」とこどもの関わりを理解 体験で学んだことをもとにして、関わりの特徴を理解する	【予習】 要領等で「内容の取扱い」の関連部分を見ておく 【復習】 ノートの整理と見直し
第11回	「自然」との関わりを理解する体験① 「自然」とこどもとの関わりを模擬保育の形式で体験する	【予習】 特になし 【復習】 ノートの整理と見直し
第12回	「自然」との関わりを理解する体験② 体験での「気づき」のフィードバックと振り返り	【予習】 前回の体験を振り返っておく 【復習】 ノートの整理と見直し
第13回	「自然」とこどもの関わりを理解 体験で学んだことをもとにして、関わりの特徴を理解する	【予習】 要領等で「内容の取扱い」の関連部分を見ておく 【復習】 ノートの整理と見直し

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第14回	事例研究と指導計画① 事例研究を通じて「こどもが環境と関わる姿」を理解し指導計画に繋げていく	【予習】短期の指導計画について調べておく 【復習】ノートの整理と見直し
第15回	事例研究と指導計画② 事例研究を通じて「こどもの遊びの連続性」を理解し指導計画に繋げていく	【予習】長期の指導計画について調べておく 【復習】ノートの整理と見直し

学修の到達目標

- (1) 幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された幼児期の教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解すること。
- (2) 幼児が環境と関わる過程を理解し、領域「環境」に関連する具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけること。
- (3) 幼児とテクノロジーの関わりなど、幼児を取り巻く環境の現代的な課題を理解し、それに対応した保育が構想できるようになること。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①領域「環境」のねらい達成のために必要となる知識や技能を身につけている (専門力)	秀	領域「環境」のねらい達成のための知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。
	優	領域「環境」のねらい達成のための知識・技術について、一方は十分なレベルで、もう一方は一定のレベルで身につけている。
	良	領域「環境」のねらい達成のための知識・技術について、一方は一定のレベルで、もう一方は最低限のレベルで身につけている。
	可	領域「環境」のねらい達成のための知識・技術を両方とも最低限のレベルでは身につけている。
	不可	領域「環境」のねらい達成のための知識・技術を身につけていない。
②「体験」を伴う授業において、その過程での自己の思考を振り返って、より効果的な保育実践に繋がるように思考できる。 (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考について客観視し、反省し次に繋げることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考について客観視し、反省し次に繋げることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考について俯瞰することができない。
③「体験」を伴う授業において、協力して取り組むことができる。 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な体験が可能となる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	①領域「環境」の知識・技能の修得	50	20	0	0	0	0	70
	②「体験」を深く考え抜く	0	20	0	0	0	0	20
	③「体験」を協働して取り組む	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	15回の授業を受講した後に、授業の成果の確認として筆記試験を実施する。試験は記述式を中心として、授業の過程で学んだ知識が定着しているかを見る。
	②		
	③		
提出物	①	✓	15回の授業の後に、指定した形式で作成したノートを「学びの軌跡」として提出する。このノートには、授業中に配布した資料、授業中に取り組んだワークシート、授業中や授業後の復習の際に自身の考えや重要なポイントの書き込みなど、学んだことのすべてが記録されている。ノートの内容を見て、授業への取組姿勢や理解した内容等を判断する。
	②	✓	
	③		
その他	①		この授業では、模擬保育形式などで行う3回の「体験」がある。その際は、受講者が協働して取り組むことで、授業の効果を向上させることが求められる。そうした視点から、「体験」への参加態度を評価する。
	②		
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

本授業では、協働学習も取り入れた内容で行うので、積極的な授業参加が必須となる。また、各授業は、相互に関連した内容で構成されているので、欠席や遅刻があると学習成果が著しく低下するので注意してほしい。

授業終了後に配布物や筆記したノートなどを「学びの軌跡」として整理して提出する。

教科書・参考書

教科書：使用しない

参考書：「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育内容 (人間関係) (E23370)	演習	2	30	2	後期	選択	保育必修 幼教免必修	中田尚美	7号館5階 研究室
人とかかわる力を育むために								単独担当	
科目担当者	中田尚美								

関連ときわ コンピテンシー	専門力 常識力、表現力
授業の概要	子どもが自律性を身につけ、人とかかわる力を育む道筋を理解し、保育者としての援助のありようを子どもの発達に即して理解することを目指す。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	領域「人間関係」の基礎知識	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第2回	自己理解と自己概念	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第3回	乳幼児期の発達と人間関係(1) 0、1、2歳児	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第4回	乳幼児期の発達と人間関係(2) 3、4、5歳児	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第5回	遊びと子どもの育ち	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第6回	自立への道筋	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第7回	自己主張と自己抑制	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第8回	個と集団の育ち	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第9回	いざこざへの対応	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第10回	道徳性のめばえ	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第11回	子どもと保育者のかかわり	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第12回	保護者とのかかわり	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第13回	異年齢保育	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第14回	協同性を育む	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認
第15回	まとめ	【予習】教科書内容の読解 【復習】学びの確認

学修の到達目標
子どもが自律性を身につけ、人とかかわる力をつけるための援助のありかたについて説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①専門職の実務遂行に必要な知識技能を身につけている (専門力)	秀	保育・教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで持ち合わせている。なおかつ幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	保育・教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	保育・教育の専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方につちえは両方とも十分なレベルに達している。
	可	保育・教育の専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	保育・教育の専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②社会の一員として知っておくべき人間関係の基本的知識を身につけている (常識力)	秀	一般常識や礼儀などの社会性を、人間関係のあらゆる場面で十分に発揮させ、さまざまな場面で他者と深く交流できる。
	優	一般常識や礼儀などの社会性を、人間関係のあらゆる場面で十分に発揮させることができる。
	良	一般常識や礼儀などの社会性を、人間関係の多くの場面で十分に発揮させることができる。
	可	一般常識や礼儀などの社会性を、限られた人間関係の中では機能させることができる。
	不可	一般常識や礼儀などの社会性が身につけていない。
③思いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者に十分説得的に伝えることができ、さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者に説得的に伝えることができ、
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者にある程度説得的に伝えることができ、
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自分の考えを他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	10	0	0	0	100
評価項目	①専門的知識の修得	40	30	0	0	0	0	70
	②人間関係の基本的知識の修得	10	10	0	0	0	0	20
	③他者への説明	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	授業後に筆記試験を行う。
	②	
	③	
提出物	①	授業時に意見、質問票の提出を求める。
	②	
	③	
成果発表 (口頭・実技)	①	グループディスカッションおよびグループ発表の機会を設ける。
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など
提出物の期日を厳守する。
教科書・参考書
教科書：「体験する・調べる・考える 領域人間関係」田宮縁 萌文書林 参考書：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育内容(造形表現) (E23380)	演習	2	30	2	後期	選択	保育必修 幼教免必修	藤本由佳利	7号館5階 研究室
こどもにとっての造形表現とは								単独担当	
科目担当者	藤本由佳利								

関連ときわ コンピテンシー	専門性、協調性・協働性
授業の概要	子供にとっての造形表現は、心身の健やかな成長に必要であり、子供自身の生きる力の源泉となる。子供の創造的活動を援助するために必要な理論や、実践力、課題をみだし研究する態度を養い、保育内容の質を高めるための演習を行う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載される「表現」とは	【予習】シラバスの確認
第2回	領域「表現(造形)」のねらいと内容	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第3回	用具や材料の活用 教材の開発－主体的に関わること	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第4回	造形教育の広がり－プラスとマイナスの造形	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第5回	保育にいかす素材研究 いろいろな粘土	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第6回	保育にいかす素材研究 版画の表現 紙版画、デカルコマニー、ステンシルなど	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第7回	保育にいかす素材研究 絵具の表現 ウェットインウェットなど	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第8回	保育にいかす素材研究 身近な材料の活用 紙、新聞紙など	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第9回	保育にいかす素材研究 パスの表現 フロッタージュ、スクラッチなど	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第10回	造形表現からの子供の理解① 子供の絵	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第11回	造形表現からの子供の理解② 子供の造形	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第12回	保育の展開 指導計画と指導案	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第13回	保育の展開 模擬保育①	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第14回	保育の展開 模擬保育②振り返り	【予習】教科書の読解 【復習】自己評価質問票の作成・提出
第15回	発表とまとめ	【予習】教科書の読解 【復習】ワークシートの記入

学修の到達目標

乳幼児期の心身の発達と造形表現のかかわりを理解し、保育者として総合的に捉え実践する力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①幼児教育の専門職につくものとしての自覚を持って考え、行動することができる。 (専門力)	秀	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えを深め、自分の意見を述べるができる。
	優	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えることができる。
	可	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められない。
②授業のあらゆる場面で、集中しながら、協働して取り組むことができる。 (協調性・協働性)	秀	授業のあらゆる場面で、自らの役割を十分理解しながら、主体的に取り組み、他者からも評価されている。
	優	授業のあらゆる場面で、自らの役割を十分理解しながら、主体的に取り組むことができる。
	良	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たすことができる。
	可	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たそうとする努力が見られる。
	不可	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たそうとする努力が見られない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①専門力	50	15	10	0	0	0	75
	②協調性・協働力	0	15	10	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末試験（レポート）
	②		
提出物	①	✓	グループワーク課題
	②	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	グループワーク課題の発表
	②	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

身近なこどもや保育現場の活動に積極的に関わり、こどもの造形活動について理解を深める。
身近にある造形素材や用具に親しみ、教材研究を行う。

教科書・参考書

教科書：『保育内容・造形表現』 黒川健一著 相川書房

参考書：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育内容(リズム表現) (E23390)	演習	2	30	2	前期	選択	保育必修 幼教免必修	戸川晃子	7号館4階 研究室他
音楽表現力を身につける								複数担当	
科目担当者	戸川晃子、村上郁子								

関連ときわ コンピテンシー	表現力、デザイン力、協調性・協働性
授業の概要	「子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする」ことを深く受け止め、領域の考え方の変遷をたどり、保育場面で子どもの音楽表現、身体表現を豊かに展開するために必要な理論と保育技術を学ぶ。保育の場における指導法について、演習を通して実践的に身につけ、保育者としての資質をも高めていく。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 保育内容の歴史の変遷と領域「表現」について (担当者：戸川、村上)	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 領域「表現」の確認
第2回	「表現」①表現を支えるための基礎 (担当者：戸川、村上)	【復習】 学びの確認
第3回	「表現」②表現を支えるための発展 (担当者：戸川、村上)	【復習】 学びの確認
第4回	「表現」③即興と記譜法 (担当者：戸川、村上)	【復習】 記譜法の確認
第5回	音楽リズムの基礎 (担当者：戸川、村上)	【予習】 曲選び 【復習】 学びの確認
第6回	音楽リズムの発展 (担当者：戸川、村上)	【予習】 曲選び 【復習】 学びの確認
第7回	表現遊びの基礎 演奏発表 (担当者：戸川、村上)	【予習】 個人練習、グループ練習 【復習】 振り返り票作成・提出
第8回	打楽器の基礎①リズム楽器の基礎技術 (担当者：戸川、村上)	【予習】 曲選び 【復習】 学びの確認
第9回	打楽器の基礎②木琴等の基礎技術 (担当者：戸川、村上)	【予習】 曲選び 【復習】 学びの確認
第10回	打楽器の発展 (担当者：戸川、村上)	【予習】 曲選び 【復習】 学びの確認
第11回	表現遊びの応用 演奏発表 (担当者：戸川、村上)	【予習】 個人練習、グループ練習 【復習】 振り返り票作成、提出
第12回	表現遊びの発展 (担当者：戸川、村上)	【予習】 曲選び 【復習】 学びの確認
第13回	表現をはぐくむ指導立案 (担当者：戸川、村上)	【予習】 曲選び 【復習】 学びの確認
第14回	表現をはぐくむ指導法 (担当者：戸川、村上)	【予習】 曲選び 【復習】 学びの確認
第15回	表現遊びのまとめ (担当者：戸川、村上)	【予習】 個人練習、グループ練習 【復習】 振り返り票の作成・提出

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」のねらいや内容について理解する ・乳幼児期の発達と音楽リズム的表現の関係性について理解する ・音楽表現やリズム楽器の基礎技術を習得する

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①身近なものや楽曲のリズムを感じ、表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを感じることができ、他者に非常に豊かに伝えられる
	優	身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを感じることができ、他者に豊かに伝えられる
	良	身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを感じることができ、他者に伝えられる
	可	身近なものや楽曲を音楽で表現し、他者に伝えられる
	不可	身近なものや楽曲を音楽で表現し、他者に伝える意志がない
②対象にふさわしい指導立案ができる (デザイン力)	秀	対象にふさわしい指導立案ができるとともに、他者にわかりやすく説明することができる
	優	対象にふさわしい指導立案ができるとともに、説明することができる
	良	対象にふさわしい指導立案ができる
	可	指導立案ができる
	不可	対象にふさわしい指導立案ができない
③自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる (協調性・協働力)	秀	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と非常に協調・協働できる。
	優	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と協調・協働できる。
	良	グループ活動において役割を担い、周囲と協調・協働できる。
	可	グループ活動において自らの役割を担えるが、周囲と協調・協働しようとする意志が薄い。
	不可	グループ活動において自らの役割を担えるが、周囲と協調・協働しようとする意志がない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	10	30	0	0	10	100
評価項目	①表現力	20	5	10	0	0	5	40
	②デザイン力	30	5	10	0	0	0	45
	③協調性・協働力	0	0	10	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	授業の内容を踏まえ、対象にふさわしい指導立案、及び表現ができているかを評価する。
	②	✓	
	③		
提出物	①	✓	授業の振り返り、編曲楽譜の提出により、理解度を評価する。
	②	✓	
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	課題に応じた表現を個人またはグループで発表する。発表までの参加態度等も評価する。
	②	✓	
	③	✓	
その他	①	✓	求められる役割を積極的に取り組む姿勢を評価する。
	②		
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・保育内容（表現）のねらいを理解すること
- ・表現するための技能を身につける努力（練習）を行うこと

教科書・参考書

教科書：「こどもの歌 200」チャイルド本社 「やさしい弾き歌い 75」音楽之友社 適宜教材を配布

参考書：「幼稚園教育要領」文部科学省 フレーベル館

「保育所保育指針」厚生労働省 フレーベル館

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
社会的養護内容 (E23400)	演習	1	30	2	後期	選択	保育必修	杉山宗尚	7号館2階 非常勤講師 控室
施設における支援を学ぶ								単独担当	
科目担当者	杉山宗尚								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、論理的思考力、批判的思考力
授業の概要	社会的養護で教授したことをふまえ、社会的養護関連施設における子どもの生活の実際を説明し、子どもの心身の成長や発達を保障し、子どもの自立を支援するために必要な理論、知識、方法について理解できるようにしていく。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 子どもにとっての親の存在について考える。	【予習】 シラバスを熟読する 【復習】 授業内容を振り返る
第2回	社会的養護を必要とする子どもたち①生まれてくる意味について	【予習】 前期の社会的養護を復習する 【復習】 授業内容を振り返る
第3回	社会的養護を必要とする子どもたち②こうのとりのゆりかごについて	【復習】 授業内容を振り返る
第4回	社会的養護の制度と現状：子どもたちが社会的養護の施設や里親に措置されるまで	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく 【復習】 授業内容を振り返る
第5回	施設養護におけるアドミッションケア：子どもを施設に迎えるにあたっての支援	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく 【復習】 授業内容を振り返る
第6回	施設養護におけるインケア：施設における子どもへの支援	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく 【復習】 授業内容を振り返る
第7回	施設養護の実際：インケアが具体的にどのように実践されているのかを施設現場から学ぶ。	【復習】 授業内容を振り返る
第8回	施設の形態と小規模化、施設養護におけるリービングケア①：施設で暮らす子どもへの自立に向けた支援の実際	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく 【復習】 授業内容を振り返る
第9回	施設養護におけるリービングケア②：ワークを用いてリービングケアの重要性を学ぶ。	【復習】 授業内容を振り返る
第10回	施設養護におけるアフターケアと家庭・家族への支援：退所した子どもへの支援	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく 【復習】 授業内容を振り返る
第11回	施設養護のプロセスに関するまとめ	【復習】 授業内容を振り返る
第12回	事例検討に向けて：事例を用いて支援について学ぶための学習	【復習】 授業内容を振り返り、事例課題に取り組む
第13回	事例検討：社会的養護に関わる子どもの気持ちを感じる	【復習】 授業内容を振り返る
第14回	支援計画について：自立支援計画を用いて支援のあり方を学ぶ。	【予習】 テキストの該当する箇所に目を通しておく 【復習】 授業内容を振り返る
第15回	社会的養護実践に関する課題と振り返り	【復習】 授業内容を振り返る

学修の到達目標	
①社会的養護の制度について理解できる。 ②施設養護における支援について説明できる。 ③様々な環境におかれた子どもについて、自らの意見を述べるができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①社会的養護における支援について必要な知識を身につけている (専門力)	秀	社会的養護における支援について必要な知識を非常に十分なレベルで身につけ、申し分なく説明することができる。
	優	社会的養護における支援について必要な知識を非常に十分なレベルで身につけ、説明することができる。
	良	社会的養護における支援について必要な知識を十分なレベルで身につけ、説明することができる。
	可	社会的養護における支援について必要な知識を身につけ、説明することができる。
	不可	社会的養護における支援について必要な知識を身につけ、説明することが不十分である。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	法令等の根拠に基づき、非常に十分なレベルで論理的に考え、それを示すことができる。
	優	法令等の根拠に基づき、非常に十分なレベルで論理的に考えることができる。
	良	法令等の根拠に基づき、十分なレベルで論理的に考えることができる。
	可	法令等の根拠に基づき、十分ではないが論理的に考えることができる。
	不可	法令等の根拠に基づき、論理的に考えることができない。
③物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる (批判的思考力)	秀	子どもがおかれている様々な環境・状況について、非常に十分なレベルで申し分なく多角的に捉え、考えることができる。
	優	子どもがおかれている様々な環境・状況について、非常に十分なレベルで多角的に捉え、考えることができる。
	良	子どもがおかれている様々な環境・状況について、十分なレベルで多角的に捉え、考えることができる。
	可	子どもがおかれている様々な環境・状況について、十分ではないが多角的に捉え、考えることができる。
	不可	子どもがおかれている様々な環境・状況について、多角的に捉え、考えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	①専門的知識の修得	70	10	0	0	0	0	80
	②根拠に基づく思考力	0	10	0	0	0	0	10
	③多角的な思考力	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	期末定期試験を実施し、授業で学んだ社会的養護における支援の内容に関する問題により評価する。
	②	
	③	
提出物	①	授業内で課すレポートの提出状況と授業内容に沿った課題に対するその内容で評価する。
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

社会的養護と共に施設実習に大きく関わる科目です。社会的養護の内容を十分に復習しておいてください。

教科書・参考書

教科書：『演習・保育と社会的養護内容』橋本好市・原田旬哉編著、みらい。

参考書：『親なき子－北海道家庭学校ルポ』島津あき著、金曜日。他適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
乳児保育 I (E23410)	演習	1	30	2	前期	選択	保育必修	松尾寛子	7号館5階 研究室
乳児の保育について基礎的な力を培う								単独担当	
科目担当者	松尾寛子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、表現力、実行力、協調性・協働力、自己管理能力
授業の概要	保育施設や乳児院で乳児保育を担当する保育者として、必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。乳幼児一人一人の発達段階に応じた集団における個人を大切にする保育のあり方や、0・1・2歳児の発達過程について理解を深め、乳児保育の意義・目的、歴史の変遷、乳児保育に関する基本的な考え方、展開される保育内容、運営体制、保護者との連携や、職員間の連携、関係機関との連携について学習をする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	乳児保育の意義と目的、歴史の変遷、乳児保育の役割と機能	【予習】 シラバス内容の確認 【復習】 内容の振り返り
第2回	乳児保育における養護と教育①0歳前半	【予習】 テスト該当箇所の確認 【復習】 内容の振り返り
第3回	乳児保育における養護と教育②0歳後半	【予習】 テスト該当箇所の確認 【復習】 内容の振り返り
第4回	乳児保育における養護と教育③1歳	【予習】 テスト該当箇所の確認 【復習】 内容の振り返り
第5回	乳児保育における養護と教育④2歳、小テスト	【予習】 テスト該当箇所の確認 【復習】 内容の振り返り
第6回	乳児の心身の健康と安全への配慮	【予習】 発達に関する振り返り 【復習】 内容の振り返り
第7回	3歳未満児の生活と環境	【予習】 事前課題の完成 【復習】 授業内で未完成部分について
第8回	3歳未満児の遊びと環境	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 授業内で未完成部分について
第9回	乳児の保育を考える、保育の計画について	【予習】 保育の計画案について完成 【復習】 保育実施についての振り返り
第10回	保育所、認定こども園、乳児院における乳児保育や子育て支援	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 内容の振り返り
第11回	3歳以上児に移行する時期の保育	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 内容の振り返り
第12回	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育士等による援助や関わり	【予習】 保育者としての視点で考える 【復習】 保育の反省点を洗い出す
第13回	乳児の発達・発育をふまえた保育における配慮	【予習】 保育者の援助について振り返る 【復習】 保育者の視点で振り返る
第14回	保育所保育指針や認定こども園教育保育要領から見る乳児保育（養護および教育）	【予習】 指針や要領の該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り
第15回	生活を支える保育者の役割、職員間の連携（保育の計画と評価）	【予習】 指針や要領の該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り

学修の到達目標

乳児の発達の流れを知り、知識として定着させる。
 3歳未満児の保育について教材研究をし、技術の向上をはかる。
 乳児に関わる保育者の職務内容を理解する。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①保育職（特に乳児）者としての専門性（専門力）	秀	保育者としての視点を持ち、必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育者としての視点には欠けるところはあるが、学生として十分な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	保育者としての視点にはほど遠いが、学生として知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	学生として最低限の知識や技術を身につけようとしている。
	不可	保育者・学生として最低限の知識や技術を身につけようとしていない。
②保育の中での自己表現（表現力）	秀	模擬保育やレポート等で自分の考えたことをさまざまな方法で表現することができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を備えている。多くの人に理解可能な表現ができる。
	優	模擬保育やレポート等で自分の考えたことをさまざまな方法で表現することができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても能力を備えている。
	良	書き言葉、話し言葉、非言語的表現等において、努力は必要とするが、模擬保育やレポート等で自分の考えた表現をすることができる。
	可	模擬保育やレポート等で表現をしているが、子どもを対象とする者としては不適切である。
	不可	書き言葉、話し言葉、非言語的表現等において、子どもを対象とする者とした表現としては不適切であり、かつ、模擬保育やレポート等で自分の考えたことを伝えることができない。
③課題への実行力（実行力）	秀	保育者としての視点を持って、積極的に活動に取り組もうとする姿勢がある。
	優	意欲的に活動に取り組もうとする姿勢は感じられる。
	良	与えられた課題のみ、学生としてのレベルでこなそうとする。
	可	与えられた課題についてはこなそうとするが、準備をせずに臨む。
	不可	与えられた課題について、こなしていない。
④グループでの協働（協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働し、課題をこなすことができる。協同して取り組んだ作品も質の高いものが完成し、周囲にも良い影響を与えることができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。
	良	周囲の高いモチベーションに影響を受け、周囲と協調・協働しようとする姿勢がある。
	可	時々周囲と協調・協働することはできるが、ほぼ主体的な取り組みは見られない。
	不可	周囲と協調・協働することはできず、与えられた課題にも取り組もうとしない。
⑤授業への参画する態度（自己管理能力）	秀	全ての授業に健康に留意しながら授業に集中し、積極的に参加する姿勢がある。
	優	ほとんどの授業で健康に留意しながら授業に集中しようとする姿勢がみられる。
	良	ほぼ半数の授業で健康に留意しながら授業に集中しようとする姿勢がみられる。
	可	授業には参加しているが、授業に集中できる状態ではない。
	不可	着席しているが集中せず、積極的に参加する姿勢がみられない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	5	10	5	0	30	100
評価項目	①専門力	30	0	0	0	0	0	30
	②表現力	10	0	5	0	0	0	15
	③実行力	10	5	0	5	0	0	20
	④協調性・協働力	0	0	5	0	0	0	5
	⑤自己管理能力	0	0	0	0	0	30	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を行う。乳児の発達や保育について、保育者としての視点を持って知識・技術の習得をしようとする心がけがあるかを確認する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
提出物	①		与えられた課題に対し、真摯に取り組み、期日を守って提出することができるかを確認する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		保育者としての視点を持ち自覚を持って模擬保育等に取り組んでいるかを確認する。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
作品	①		与えられた課題について保育現場で活用できるレベルで作成しているかを確認する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
その他	①		授業の参画態度を確認する。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

3歳未満児へのかかわりは、自己中心的なものの見方ではできない。今までの育ちの中では「守られる存在」だったが、保育者は「守る存在」としての自覚が必要である。学ぶ姿勢とともに、その態度の育ちを期待する。

また、自らの自覚不足は、周りにもいい影響を与えるとは思えないため、受講するに際し、保育者として自覚を持った態度で臨むことができる者のみの受講を望む。

教科書・参考書

教科書：『新時代の保育双書乳児保育』 大橋喜美子編 みらい

参考書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領（原本）チャイルド本社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
乳児保育Ⅱ (E23420)	演習	1	30	2	後期	選択	保育必修	松尾寛子	7号館5階 研究室
3歳未満児への保育実践力を高める								単独担当	
科目担当者	松尾寛子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、表現力、実行力、協調性・協働性、自己管理能力
授業の概要	乳児保育Ⅰで学習した3歳未満児の発達過程や保育内容の基礎的な知識をふまえて、より具体的に乳児保育の理論や知識・技術の習得を図る。集団の中での乳児一人ひとりの発達過程に応じた保育のあり方や、乳児の特性である生活と遊びを、養護的・教育的な観点をもって考えることができるように、より具体的に考えていく。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	保育士等との関係の重要性	【予習】 シラバスの確認 【復習】 内容の振り返り
第2回	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり	【予習】 テキスト該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り
第3回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	【予習】 テキスト該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り
第4回	子どもの体験と学びの芽生え	【予習】 子ども時代の体験を思い出す 【復習】 内容の振り返り
第5回	子どもの一日の生活の流れと保育の環境	【予習】 生活の中の遊びを考える 【復習】 内容の振り返り
第6回	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	【予習】 保育の教材を考える 【復習】 内容の振り返り
第7回	3歳未満児の発育・発達をふまえた生活と援助の実際	【予習】 保育の教材を考える 【復習】 内容の振り返り
第8回	3歳未満児の発育・発達をふまえた遊びと援助の実際	【予習】 保育の教材を考える 【復習】 内容の振り返り
第9回	子ども同士のかかわりとその援助の実際	【予習】 保育の教材を考える 【復習】 内容の振り返り
第10回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	【予習】 テキスト該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り
第11回	集団での生活における配慮	【予習】 テキスト該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り
第12回	環境の変化や移行に対する配慮	【予習】 テキスト該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り
第13回	長期的な指導計画と短期的な指導計画	【予習】 テキスト該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り
第14回	個別的な指導計画と集団の指導計画	【予習】 テキスト該当箇所を確認 【復習】 内容の振り返り
第15回	全体的なまとめ	【予習】 今までの内容の振り返り 【復習】 内容の振り返り

学修の到達目標

乳児への発達理解を基礎として、乳児の生活や遊びの実際がわかる。
3歳未満児の保育について実習や保育現場で活用できる教材を作成し、その教材を使用して模擬保育ができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①保育職（特に乳児）者としての専門性（専門力）	秀	保育者としての視点を持ち、必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育者としての視点には欠けるところはあるが、学生として十分な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	保育者としての視点にはほど遠いが、学生として知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	学生として最低限の知識や技術を身につけようとしている。
	不可	保育者・学生として最低限の知識や技術を身につけていない。
②保育の中での自己表現（表現力）	秀	模擬保育やレポート等で自分の考えたことをさまざまな方法で表現することができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を備えている。多くの人に理解可能な表現ができる。
	優	模擬保育やレポート等で自分の考えたことをさまざまな方法で表現することができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても能力を備えている。
	良	書き言葉、話し言葉、非言語的表現等において、努力は必要とするが、模擬保育やレポート等で自分の考えた表現をすることができる。
	可	模擬保育やレポート等で表現をしているが、子どもを対象とする者としては不適切である。
	不可	書き言葉、話し言葉、非言語的表現等において、子どもを対象とする者とした表現としては不適切であり、かつ、模擬保育やレポート等で自分の考えたことを伝えることができない。
③課題への実行力（実行力）	秀	保育者としての視点を持って、積極的に活動に取り組もうとする姿勢がある。
	優	意欲的に活動に取り組もうとする姿勢は感じられる。
	良	与えられた課題のみ、学生としてのレベルでこなそうとする。
	可	与えられた課題についてはこなそうとするが、準備をせずに臨む。
	不可	与えられた課題について、こなしていない。
④グループでの協働（協調性・協働力）	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働し、課題をこなすことができる。協同して取り組んだ作品も質の高いものが完成し、周囲にも良い影響を与えることができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。
	良	周囲の高いモチベーションに影響を受け、周囲と協調・協働しようとする姿勢がある。
	可	時々周囲と協同・協調することはできるが、ほぼ主体的な取り組みは見られない。
	不可	周囲と協同・協調することはできず、与えられた課題にも取り組もうとしない。
⑤授業への参画する態度（自己管理能力）	秀	全ての授業に健康に留意しながら授業に集中し、積極的に参加する姿勢がある。
	優	ほとんどの授業で健康に留意しながら授業に集中しようとする姿勢がみられる。
	良	ほぼ半数の授業で健康に留意しながら授業に集中しようとする姿勢がみられる。
	可	授業には参加しているが、授業に集中できる状態ではない。
	不可	着席しているが集中せず、積極的に参加する姿勢がみられない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	5	10	5	0	30	100
評価項目	①専門力	30	0	0	0	0	0	30
	②表現力	10	0	5	0	0	0	15
	③実行力	10	5	0	5	0	0	20
	④協調性・協働力	0	0	5	0	0	0	5
	⑤自己管理能力	0	0	0	0	0	30	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓
	②	✓
	③	✓
	④	
	⑤	
提出物	①	
	②	
	③	✓
	④	
	⑤	
成果発表 (口頭・実技)	①	
	②	✓
	③	
	④	✓
	⑤	
作品	①	
	②	
	③	✓
	④	
	⑤	
その他	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	✓

履修に必要な知識・技能・態度など

自らの自覚不足は、周りにもいい影響を与えるとは思えないため、受講するに際し、保育者として自覚を持った態度で臨むことができる者を望む。さらに、今までの育ちの中では「守られる存在」だったが、保育者は「守る存在」としての自覚が必要である。学ぶ姿勢とともに、その態度の育ちを期待する。

教科書・参考書

教科書：乳児保育Ⅰで使用したテキスト

参考書：乳児保育Ⅰで使用した参考書、その他別途指示する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
障がい児の理解と支援Ⅰ (E23430)	演習	1	30	2	前期	必修	保育必修 幼教免必修 小教免必修	佐野豊	7号館2階 非常勤講師 控室
それぞれの違いを認め合い、 共に育ち合う社会を目指して								単独担当	
科目担当者	佐野豊								

関連ときわ コンピテンシー	教養、専門力、論理的思考力、探究力、省察力、判断力、継続力、責任感、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	わが国は、障害に対する理解と障害児を取り巻く環境が十分に整っているとは言い難い。「障がい児の理解と支援Ⅰ」では、それぞれの違いを理解し認め合って、共に生きる社会を目指して、個々の発達特性に応じた保育・教育の方策を身に付ける。併せて、共に育つことができる保育・教育実践を行うことができる基礎力を培う。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション及びインクルーシブ保育・教育の理論と実践について理解する	【予習】教科書の基礎編に目を通す 【復習】障害について、再考する
第2回	障害の理解、障害のとらえ方、障害の考え方、障害の概念について学ぶ	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第3回	インクルーシブ保育・教育に携わる人の実践的視点、発達に課題のある子どもについて理解する	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第4回	障害児・者を取り巻く歴史の変遷について学ぶ	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第5回	障害の特性と配慮について理解する①（知的障害）	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第6回	障害の特性と配慮について理解する②（発達障害①）	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第7回	障害の特性と配慮について理解する③（発達障害②）	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第8回	障害の特性と配慮について理解する④（身体障害①）	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第9回	障害の特性と配慮について理解する⑤（身体障害②）	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第10回	障害児保育・教育の現状、生活のしづらさについて理解する。	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第11回	保育者の視点から障害児の生活のしづらさをとらえ、支援に必要な内容を学ぶ	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第12回	障害児保育・教育の基本理念と意義及び障害児保育・教育に関する権利条約等について理解する	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第13回	障害児保育・教育に関する理念と動向、これからの保育・教育のあり方について学ぶ	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第14回	障害児保育・教育に関する法・制度・関係機関等の連携について理解する	【予習】今回の教科書該当箇所を確認 【復習】プリントと教科書を対比整理
第15回	障害児保育・教育の基本部分について整理する	【予習】プリントの整理 【復習】試験範囲の確認・整理

学修の到達目標

障害児保育・教育を支える理念や歴史の変遷を学び、障害の発生の基本的メカニズム及びその保育・教育について理解する。また、様々な障害について理解し、障害児に対する理解や援助の方法、環境構成等について学ぶと共に、他の児童と共に育ち合う保育実践について理解を深める。さらに、障害のある子どもの保護者や関係機関等との連携、障害児を取り巻く現状と課題について学び、障害のある子どもと保護者への適切な支援のあり方を理解する。障害児保育・教育の一形態であるチームティーチングも踏まえ、チームの一員として子どもたちを支援できるようになることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①多様な人と関わることのできる人間性の基礎としての教養を身につける (教養)	秀	自らの専門性に加え、障害についての考え方を学び、自らの考えを比較検討できる。さらに、障害児支援等に活かすことができる。
	優	自らの専門性に加え、障害についての考え方を学び、自らの考えを比較検討できる。
	良	自らの専門性に加え、障害についての考え方を学び、自らの考えを整理できる。
	可	自ら将来に活かせる障害についての考え方を学修できる。
	不可	障害についての考え方、見方の学修が不十分である。
②各専門職の実務遂行に必要な知識・技能の基本的知識・技能を身につける (専門力)	秀	障害についての歴史の変遷も踏まえ、障害についての十分な知識・技能を身につけ活用している。
	優	障害についての歴史の変遷も踏まえ、障害についての十分な知識・技能を身につけている。
	良	障害についての歴史の変遷も踏まえ、障害についての知識・技能を身につけている。
	可	障害について、歴史の変遷も踏まえ学修できている。
	不可	障害について、知識・技能の学修が不十分である。
③根拠に基づき、論理的に考えることができ、先入観にとらわれない (論理的思考力)	秀	障害について客観的根拠に基づき論理的により深く考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの知見のみで決して十分ではないことを認識している。
	優	障害について客観的な根拠に基づき論理的に深く考えることができる。
	良	障害について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	障害について多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	障害について根拠に基づき論理的に考えることができない。
④物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする ことができる (探究力)	秀	自発的に物事に対して探究心をもって、より深く突き詰めていくことができる。そして、一定の成果に飽き足らず、さらなる探究心をもって障害児等への支援に活用することができる。
	優	自発的に物事に対して探究心をもって、深く突き詰めていくことができる。
	良	ある程度物事に対して探究心をもって、突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、助言を受けて、ある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
⑤自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その試行・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなぎ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中での自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言等のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	5	0	10	5	100
評価項目	①多様な人と関われる人間性	0	0	5	0	0	0	5
	②実務遂行に必要な知識・技能	40	5	0	0	0	0	45
	③先入観にとらわれない論理的 考え	10	5	0	0	0	0	15
	④本質を見極める探究心	10	5	0	0	0	0	15
	⑤自己の思考や行動の振り返り	0	5	0	0	10	5	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	筆答試験を、最終定期試験時に行う。	
	②		✓
	③		✓
	④		✓
	⑤		
提出物	①	授業時間中、また、期日までに取り組んでくるように指示された課題を、指示されたとおり取組、提出されたかどうかを評価する。 配布されたプリント等の書類の整理が正しくなされているか評価する。	
	②		✓
	③		✓
	④		✓
	⑤		✓
成果発表 (口頭・実技)	①	グループ討議を踏まえ自分の考えをレポートにまとめたものとグループ発表を評価する。 評価はグループ内の学生相互の評価と教員の評価の2つとする。	
	②		
	③		
	④		
	⑤		
ポートフォリオ	①	配布プリントを整理し、講義内容を加筆しているかを評価する。また、自学自習の自筆ノートの作成状況も評価する。 ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。	
	②		
	③		
	④		
	⑤		✓
その他	①	学習態度及び積極的な発言等、主体的・能動的に取り組んだことは、加点の評価対象とする。	
	②		
	③		
	④		
	⑤		✓

履修に必要な知識・技能・態度など

障害のある子どもと保護者の思いをしっかり受け止めるとともに、共に育つことのできる保育・教育実践を行うため、演習課題を必要に応じて取り入れるので、授業への積極的な参加を求めます。特に、課題等については、自分自身の考え方に基づいた内容構成を期待します。

教科書・参考書

教科書：「ソーシャルインクルージョンのための障害児保育」堀智晴・橋本好市・直島正樹編著 ミネルヴァ書房
参考書：講義中に適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
障がい児の理解と支援Ⅱ (E23440)	演習	1	30	2	後期	選択	保育必修 幼教免選択必修	松尾寛子	7号館5階 研究室
障害のある子どもに対する考え方の 基礎を学ぶ								単独担当	
科目担当者	松尾寛子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、表現力、探求力、論理的思考力、自己管理能力
授業の概要	発達特性に応じた保育・教育的な援助や配慮とはどのようなものか、個別支援計画、個別指導計画について、具体的な方法について学ぶ。 家庭への支援について、地域との連携についての理解を深める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション、統合保育・統合教育とは保育現場・教育現場での支援体制	【予習】 シラバス内容の確認 【復習】 支援体制についての振り返り
第2回	知的能力障害の特徴と支援の具体的方法	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 知的能力障害の復習
第3回	自閉症スペクトラムの特徴と支援の具体的方法	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 授業内容の確認
第4回	自閉症スペクトラムの特徴と支援①レインマンから学ぶ	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 授業内容の確認
第5回	自閉症スペクトラムの特徴と支援②レインマンから学んだことを振り返る	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 振り返りシートの作成
第6回	さまざまな障害（肢体不自由児、視覚障害、聴覚障害、言語障害児等）の特徴と支援①具体的支援方法を理解する	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 授業内容の確認
第7回	さまざまな障害（肢体不自由児、視覚障害、聴覚障害、言語障害児等）の特徴と支援②幼児・児童に応じた教材を考える	【予習】 作成する教材をイメージする 【復習】 作成する教材を具体化する
第8回	さまざまな障害（肢体不自由児、視覚障害、聴覚障害、言語障害児等）の特徴と支援③幼児・児童に応じた教材を作成する	【予習】 作成する教材を考え準備する 【復習】 振り返りシートの作成
第9回	さまざまな障害（肢体不自由児、視覚障害、聴覚障害、言語障害児等）の特徴と支援④幼児・児童を対象とした教材から学ぶ	【予習】 作成する教材を考え準備する 【復習】 授業内容の確認
第10回	家族への支援、子ども同士の学びあい、子どもの健康と安全、保育の方法	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 授業内容の確認
第11回	家族への支援、発達支援の技法①たったひとつのたからものから学ぶ	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 授業内容の確認
第12回	家族への支援、発達支援の技法②たったひとつのたからものから学んだことを振り返る	【予習】 テキスト該当箇所の確認 【復習】 振り返りシートの作成
第13回	発達支援の技法①個人研究発表準備	【予習】 個人研究準備 【復習】 個人研究内容の確認
第14回	発達支援の技法②発表	【予習】 研究発表準備 【復習】 研究発表の確認
第15回	発達支援の技法③発表と振り返り	【予習】 研究発表の振り返り 【復習】 授業内容の確認

学修の到達目標
障害のある子どもを保育・教育するために必要な知識や技術とともに、一人ひとりを尊重するために必要な保育者・教育者としてのマインドを養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①障害児・障害児童に対する専門性 (専門力)	秀	保育者・教育者としての視点を持ち、必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育者・教育者としての視点には欠けるところはあるが、学生として十分な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	保育者・教育者としての視点にはほど遠いが、学生として知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	学生として最低限の知識や技術を身につけようとしている。
	不可	保育者や教育者・学生として最低限の知識や技術を身につけようとしていない。
②発表の中での自己表現 (表現力)	秀	発表等で自分の考えた意見を発することができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を備えている。多くの人に理解可能な表現ができる。
	優	発表等で自分の考えた意見を伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても能力を備えている。
	良	書き言葉、話し言葉、非言語的表現等において、努力は必要とするが、発表等で自分の考えたことを伝えることができる。
	可	発表等で伝えようとしているが、子ども・児童を対象とした表現としては不適切である。
	不可	書き言葉、話し言葉、非言語的表現等において、子ども・児童を対象とした表現としては不適切であり、かつ、発表等で自分の考えたことを伝えることができない。
③物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする ことができる (探求力)	秀	自発的に物事に献身し専心し、保育者・教育者としての視点を持って、物事を突き詰めていくことができる。さらなる探求心を持って、実行に移していくことができる。
	優	物事に献身し専心し、保育者・教育者としての視点を持って、物事を突き詰めていくことができる。
	良	ある程度物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を突き詰めていくことができない。
④根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づいて十分論理的に考えることができる。さらに新たな視点を示すなど豊かな構想力を持ちあわせている。また、根拠の限界もわかっており、自らの思考内容のみでは十分ではないことを認識している。
	優	授業で学んだ障害に関連する基本的知識・概念に基づき、十分に論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ障害に関連する基本的知識・概念に基づき、論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ障害に関連する基本的知識・概念に基づき、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ障害に関連する基本的知識・概念に基づき、論理的に思考することができない。
⑤授業への参画する態度 (自己管理力)	秀	全ての授業に健康に留意しながら授業に集中し、積極的に参加する姿勢がある。
	優	ほとんどの授業で健康に留意しながら授業に集中しようとする姿勢がみられる。
	良	ほぼ半数の授業で健康に留意しながら授業に集中しようとする姿勢がみられる。
	可	授業には参加しているが、授業に集中できる状態ではない。
	不可	着席しているが集中せず、積極的に参加する姿勢がみられない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	5	10	5	0	30	100
評価項目	①専門力	30	0	0	0	0	0	30
	②表現力	0	0	5	0	0	0	5
	③探求力	10	5	5	5	0	0	25
	④論理的思考力	10	0	0	0	0	0	10
	⑤自己管理能力	0	0	0	0	0	30	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート試験を行う。障害児や障害児童について、保育者・教育者としての視点を持って知識・技術の習得をしようとする心がけがあるかを確認する。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①		与えられた課題に対し、真摯に取り組み、期日を守って提出することができるかを確認する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		保育者・教育者としての視点を持ち、自覚を持って発表等に取り組んでいるかを確認する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
作品	①		与えられた課題について保育・教育現場で活用できるレベルで作成しているかを確認する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
その他	①		授業の参画態度を確認する。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

自らの自覚不足は、周りにもいい影響を与えるとは思えないため、受講するに際し、保育者・教育者として自覚を持った態度で臨むことができる者を望む。

教科書・参考書

教科書：『障がい児の理解と支援』 小川圭子 矢野正編著 嵯峨野書院

参考書：障がい児の理解と援助 I で使用したテキスト

『特別支援保育に向けて』、安藤忠 川原佐公編著 建帛社

『障害児保育の理論と実践－インクルーシブ保育の実現に向けて－』 堀智晴 橋本好市編著 ミネルヴァ書房

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科 目 責 任 者 名	研究室
サブタイトル								担 当 形 態	
特別活動の指導法 (E23470)	講 義	2	30	2	前 期	選 択	小 教 免 必 修	國 崎 大 恩	7号館5階 研究室
特別活動を指導するために								単 独 担 当	
科目担当者	國崎大恩								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、判断力、デザイン力
授業の概要	学校教育における特別活動の意義や位置づけを考察することによって、特別活動に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、学級活動・クラブ活動・児童会活動・学校行事それぞれの具体例をもとに特別活動の指導・支援について理解を深めるとともに、その実践的指導力を身につける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	イントロダクションー特別活動とは何かー	【予習】 シラバスの熟読 【復習】 本授業での目的の明確化
第2回	特別活動の意義・目標・内容	【予習】 教科書の理解 【復習】 小レポートの作成・提出
第3回	特別活動の歴史の変遷	【予習】 教科書の理解 【復習】 小レポートの作成・提出
第4回	特別活動の指導と支援①ー学級活動	【予習】 教科書の理解 【復習】 小レポートの作成・提出
第5回	特別活動の指導と支援②ー児童会活動	【予習】 教科書の理解 【復習】 小レポートの作成・提出
第6回	特別活動の指導と支援③ークラブ活動	【予習】 教科書の理解 【復習】 小レポートの作成・提出
第7回	特別活動の指導と支援④ー学校行事	【予習】 教科書の理解 【復習】 小レポートの作成・提出
第8回	特別活動と道徳教育	【予習】 教科書の理解 【復習】 小レポートの作成・提出
第9回	特別活動と総合的な学習の時間	【予習】 教科書の理解 【復習】 小レポートの作成・提出
第10回	指導案の作成と授業づくり	【予習】 学習指導要領の理解 【復習】 指導案の作成
第11回	模擬授業①ーグループAの授業とリフレクションー	【予習】 授業作り 【復習】 小レポートの作成・提出
第12回	模擬授業②ーグループBの授業とリフレクションー	【予習】 授業作り 【復習】 小レポートの作成・提出
第13回	模擬授業③ーグループCの授業とリフレクションー	【予習】 授業作り 【復習】 小レポートの作成・提出
第14回	模擬授業④ーグループDの授業とリフレクションー	【予習】 授業作り 【復習】 小レポートの作成・提出
第15回	まとめ	【予習】 全授業の振り返り 【復習】 全授業内容の理解

学修の到達目標

特別活動に関する理解を深め、実践的指導力を身につけることが目標である。具体的な到達目標は次の通りである。

- (1) 学校教育における特別活動の意義・目標及び内容について説明することができる。
- (2) 学級活動・クラブ活動・児童会活動・学校行事における指導・支援の留意点について説明することができる。
- (3) 特別活動における具体的な指導・支援のあり方について自分なりに工夫することができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学校教育における特別活動の意義・目標及び内容について説明することができる。 (専門力)	秀	学校教育における特別活動の意義・目標・内容について課題をふまえながら説明をすることができる。
	優	学校教育における特別活動の意義・目標・内容について分かりやすく説明をすることができる。
	良	学校教育における特別活動の意義・目標・内容について説明をすることができる。
	可	学校教育における特別活動の意義・目標・内容について最低限の説明をすることができる。
	不可	学校教育における特別活動の意義・目標・内容について説明することができない。
②学級活動・クラブ活動・児童会活動・学校行事における指導・支援の留意点について説明することができる。 (判断力)	秀	特別活動における指導・支援の留意点についてその具体的実践とともに説明をすることができる。
	優	特別活動における指導・支援の留意点について分かりやすく説明をすることができる。
	良	特別活動における指導・支援の留意点について説明をすることができる。
	可	特別活動における指導・支援の留意点について最低限の説明をすることができる。
	不可	特別活動における指導・支援の留意点について説明することができない。
③特別活動における具体的な指導・支援のあり方について自分なりに工夫することができる。 (デザイン力)	秀	特別活動における指導・支援を子どもや学校の状況にあわせて工夫することができる。
	優	特別活動における指導・支援を工夫することができる。
	良	特別活動における指導・支援をすることができる。
	可	特別活動における最低限の指導・支援をすることができる。
	不可	特別活動における指導・支援の方法が分からない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	20	0	30	0	100
評価項目	①特別活動に関する理解	30	0	0	0	10	0	40
	②特別活動の指導法に関する理解	20	0	0	0	10	0	30
	③特別活動の実践的指導力	0	0	20	0	10	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	特別活動に関する総合的な理解を定期試験により評価する。
	②	
	③	
成果発表 (口頭・実技)	①	模擬授業(10点)ならびに指導案(10点)を評価する。 なお、模擬授業はグループで行う。
	②	
	③	
ポートフォリオ	①	授業終了後1週間以内に、与えられたテーマに沿って授業のまとめを小レポートとしてmanabaで提出すること。 未提出は理由にかかわらず「-5点」とする。
	②	
	③	

履修に必要な知識・技能・態度など

模擬授業などを行うので、積極的に受講すること。

教科書・参考書

教科書：『新しい特別活動の指導原理』山崎英則・南本長徳、ミネルヴァ書房、2017年。

『小学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省

参考書：適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
国語 (E24000)	講義	2	30	2	後期	選択	幼教免必修 小教免必修	山下敦子	7号館5階 研究室
「ことばの力」を育成する指導力向上								単独担当	
科目担当者	山下敦子								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、専門力、表現力、論理的思考力
授業の概要	昨今の教育現場では「言語力の育成」が急務である。言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を行うためにどのような指導を行うべきか。国語科の教材や実践事例を分析したり言語活動を実際に体験したりすることによって、幼児、児童の「ことばの力」の育成について考察を深める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	主体的・対話的で深い学びとは① - PISA型読解力と国語 -	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 学修内容の確認
第2回	主体的・対話的で深い学びとは② - 21世紀型スキルと国語 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第3回	国語教育の流れ - 学習指導要領の変遷 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第4回	児童文学を読む① - 絵本の世界 子どもを読書好きにする読書指導 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第5回	児童文学を読む② - 絵本の世界 教科書教材から読み広げる読書指導 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第6回	教科書教材を読む① - 文学的文章の指導 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第7回	教科書教材を読む② - 説明的文章の指導 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第8回	国語と特別支援教育 - 子どもの困り感を体験し、指導に生かす -	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 学修内容の確認
第9回	書写指導 - 硬筆書写、毛筆書写の基礎・基本 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第10回	言葉と表現① - さまざまな「書くこと」の指導 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第11回	言葉と表現② - 対話、討論など「話すこと・聞くこと」の指導 -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第12回	言語文化に関する指導① - 伝統的な言語文化に親しむ -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第13回	言語文化に関する指導② - 語彙を豊かにし思いを伝える -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第14回	情報の扱い方 - 情報を整理し情報を活用する指導、国語とICT -	【予習】 課題に関する情報収集 【復習】 学修内容の確認
第15回	まとめ	【予習】 全回の振り返り 【復習】 自己の課題克服への実践

学修の到達目標

- ・ 幼児、児童の「ことばの力」の育成についての指導について必要な知識・技能を習得することができる。
- ・ 指導論について理解し、基礎的な指導技術や評価方法を身につけることができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知力)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度、自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他社から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。
②教員として必要な知 識・技能を身につけて いる。 (専門力)	秀	「ことば」「国語」を指導する教員として、必要な知識・技能を高いレベルで習得することができている。なおかつ幅広い教養に基づく「言葉による見方・考え方」を行うことができている。
	優	「ことば」「国語」を指導する教員として、必要な知識・技能を高いレベルで習得することができている。なおかつ「言葉による見方・考え方」を行うことができている。
	良	「ことば」「国語」を指導する教員として、必要な知識・技能を習得することができている。
	可	「ことば」「国語」を指導する教員として、必要な知識・技能のどちらか一方は習得することができている。
	不可	「ことば」「国語」を指導する教員として、必要な知識・技能を習得することができていない。
③想いや考えを表現し、 他者に伝えることが できる。 (表現力)	秀	自分の考えを積極的に他者に伝えることができる。その際目的や意図に応じた的確な言葉や表現を用いて、相手に理解されやすい表現ができる。
	優	自分の考えを他者に伝えることができる。その際目的や意図に応じた的確な言葉や表現を用いて、相手に理解されやすい表現ができる。
	良	自分の考えを他者に伝えることができる。その際相手に理解されるために表現の工夫を行う努力をすることができる。
	可	自分の考えを他者に伝えることができる。
	不可	自分の考えを他者に伝えることができない。
④根拠に基づき、論理的 に考えることができ る。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき、十分論理的に考えることができる。なおかつ、様々な意見を統合、整理し、考えを深化させることができる。
	優	客観的な根拠に基づき、十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は素薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	10	0	100
評価項目	①知力	0	10	0	0	10	0	20
	②専門力	30	10	0	0	0	0	40
	③表現力	10	10	0	0	0	0	20
	④論理的思考力	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①		筆記試験を行う。学習指導要領の理解、国語科の指導方法論について知識・技能の定着を測る。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
提出物	①	✓	毎回の講義において、ミニレポートを書いたり言語活動を行ったりする。指導者の立場、幼児・児童の立場になって、講義の内容について考えを深めていくことが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
	④	✓	
ポートフォリオ	①	✓	提出物、予習したもの、講義の資料等についてポートフォリオを作成し、学びの確認を行っていく。国語の指導について常に意識を働かせて学修に活かすことが求められる。
	②		
	③		
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

日常生活の「ことば」の役割について意識を高めておくこと。毎時間の復習を必ず行うこと。
 教員になるための資質向上の面からも、無断の欠席、遅刻は認めない。

教科書・参考書

教科書：「小学校学習指導要領解説 国語編」、「定番教材を用いた『ことばの力』を育てる国語科指導」山下敦子 ERP
 参考書：授業において適時、紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
社会 (E24010)	講義	2	30	2	後期	選択	小教免選択必修	増田進司	7号館2階 非常勤講師 控室
小学生が学ぶ社会のメガネって？何？								単独担当	
科目担当者	増田進司								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、傾聴力・対話力、論理的思、知欲、表現力
授業の概要	現行指導要領の内容をよく読みとり、調べ・まとめ・発表し・傾聴し・対話することで具体的な知識・技能を獲得するとともに、「ひと・もの・こと」などの社会的な関係を読み解く手法や力を培うことを課題・ねらいとする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション:本講義のねらいの理解・共有。発表(Persuation)グループワーク (GW) のための班を作る。 次回の予告	【予習】 シラバスを読んでおく 【復習】 グループワークの確認
第2回	身近な地域について考える。「指導要領」における子どもたちにとって「身近な地域」とはどのようなことか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第3回	身近な地域の生産や販売について考える。「指導要領」における「身近な地域の生産や販売」とはどのようなことか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第4回	身近な地域の生活環境について考える。「指導要領」における「身近な地域の生活環境」とはどのようなことか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第5回	身近な地域の安全について考える。「指導要領」における「身近な地域の安全」とはどのようなことか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第6回	身近な地域の歴史や伝統的な物・事について考える。「指導要領」における「身近な地域の歴史や伝統的な物・事」とは？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第7回	5つの国から成る、兵庫県の特色について考える。「指導要領」における「兵庫県の特色」とはどのようなことか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第8回	日本の国土の特色について考える。「指導要領」における「日本の国土の特色」とはどのようなことか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第9回	日本の農業・水産業の特色と課題について考える。「指導要領」における「日本の農業・水産業の特色と課題」とは？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第10回	日本の工業生産の特色と課題について考える。「指導要領」における「日本の工業生産の特色と課題」とはなにか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第11回	日本の情報産業・環境について現状と課題について考える。「指導要領」における「日本の情報産業・環境」とは？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第12回	「指導要領」における特色ある歴史上のひと・もの・ことを通して考える日本の歴史とはどのようなことか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第13回	日本の政治の基本理念と問題について考える。「指導要領」における「日本の政治の基本理念と問題」とはなにか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第14回	世界の中の日本の役割について考える。「指導要領」における「世界の中の日本の役割」とはなにか？発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り
第15回	まとめと補足 学習指導要領の示す「社会」のあり方を振り返りまとめる。発表・GW	【予習】 指導要領の読解・発表準備 【復習】 振り返り

※講義の履修者数・学修の進捗状況等により、実態に合わせて講義内容の変更・修正することがあります。

学修の到達目標

- 現行指導要領の内容について具体的に調べ、内容について理解できている。
- ・ 現行指導要領の学習内容に関する基礎的・発展的な知識を獲得している。
 - ・ 社会動向に目を向け、「ひと・もの・こと」の関連を意識し、発達段階を踏まえた社会科学的な視点を養っている。
 - ・ 次期指導要領も参考に取り上げ違いを意識できている。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①指導要領の社会について基本的な専門性が身に付いている。 (専門力)	秀	必要な専門性を満足できる水準を超えて習得し、さらに幅広い自主的な学修で専門性を深めている。
	優	必要な専門性を満足できる水準を超えて習得している。
	良	必要な専門性を満足できる水準まで習得している。
	可	必要な専門性をほぼ満足できる水準まで習得している。
	不可	必要な専門性を満足できる水準まで習得できていない。
②他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら討論・議論に積極的に参加している。 (傾聴力・対話力)	秀	学びとった専門性に基づき、傾聴し、知識と比較しながら討論・議論に大変積極的に参加している。
	優	学びとった専門性に基づき、傾聴し、知識と比較しながら討論・議論に積極的に参加している。
	良	学びとった専門性に基づき、傾聴し、知識と比較しながら討論・議論に参加している。
	可	他者の発言・発表を傾聴し、知識と比較しながら、なんとか討論・議論に参加できている。
	不可	他者の発言・発表を傾聴できず、知識と比較しながら討論・議論に参加できていない。
③指導要領における社会についての参考文献の読解ができている。 (論理的思考力)	秀	指導要領における社会についての参考文献の十分に読解ができおり、他の文献も参考に深い論理的思考ができている。
	優	指導要領における社会についての参考文献の十分に読解ができ、論理的思考ができている。
	良	指導要領における社会についての参考文献の読解ができ、論理的思考ができている。
	可	指導要領における社会についての参考文献の読解・論理的思考がやや浅い。
	不可	指導要領における社会についての参考文献の読解・論理的思考ができていない。
④指導要領の社会について、内容・課題をよく理解し、積極的に調べ・学び・まとめようとする姿勢がとれている。 (知欲)	秀	指導要領の社会について、内容・課題を深くよく理解し、積極的に調べ・学び・まとめようとする姿勢が顕著である。
	優	指導要領の社会について、内容・課題をよく理解し、大変積極的に調べ・学び・まとめようとする姿勢がある。
	良	指導要領の社会について、内容・課題を理解し、積極的に調べ・学び・まとめようとしている。
	可	指導要領の社会について、内容・課題の理解が浅く、調べ・学び・まとめようとする姿勢も不足がある。
	不可	指導要領の社会について、内容・課題の理解が不足し、調べ・学び・まとめようとする姿勢も見られない。
⑤発表において、他者への発表内容を豊かに的確に計画・実行でき、グループワークや討論においても表現力がある。 (表現力)	秀	発表において、他者への発表内容を極めて豊かに的確に計画・実行でき、グループワークや討論においても大変積極的に多彩な表現力がある。
	優	発表において、他者への発表内容を豊かに的確に計画・実行でき、グループワークや討論においても積極的に表現力がある。
	良	発表において、他者への発表内容を計画・実行でき、グループワークや討論に参加している。
	可	発表において、他者への発表内容をなんとか計画・実行でき、グループワークや討論に少し参加できている。
	不可	発表において、他者への発表内容をなんとか計画・実行できず、グループワークや討論にも参加できていない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	20	30	0	0	0	100
評価項目	①社会に関する専門力	20	0	0	0	0	0	20
	②傾聴力・対話力	0	0	20	0	0	0	20
	③論理的思考	10	0	10	0	0	0	20
	④知識	20	0	0	0	0	0	20
	⑤表現力	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	15回の講義後に定期試験を課す。 本講座での学びをもとに、自らの論理を展開・記述できることが求められる。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①		発表でのレジュメや資料（パワーポイント）・課された小論文など 瑣末な内容や未提出では「0」点とみなされる。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①		発表（プレゼンテーション）の内容並びに平素のグループワークでの貢献度や参加態度 真摯に準備する姿勢や資料の読解力・パワーポイントの技術・内容の深さが評価対象と なる瑣末な内容やGWでの非協力的な態度・討論・議論への怠惰な参加姿勢では「0」 点とみなされる。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		

講義の履修者数・学修の進捗状況等により、実態に合わせて評価内容の変更・修正することがあります。

履修に必要な知識・技能・態度など
社会動向に敏感な姿勢を意識することと指導要領を熟読理解し発表するので、教科書にとどまらず、広く文献に当たるなど真摯な学びの姿勢が求められる。
教科書・参考書
教科書：指導要領の解説社会科編・次期指導要領の解説社会科編 参考書：必要に応じて配布・紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
算数 (E24020)	講義	2	30	2	前期	選択	小教免選択必修	都賀純	7号館2階 非常勤講師 控室
こどもと算数をつなぐ								単独担当	
科目担当者	都賀純								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、情報力、論理的思考力、批判的思考力、知欲、探究力、継続力、自己管理力、省察力、デザイン力、表現力、判断力、実行力、責任感、貢献力、傾聴力・対話力、協調性・協働性
授業の概要	算数科の目標、内容について教師という視点を大切に学んでいきます。具体的には、「その内容のポイントは何か。」「こどものつまずきはどこにあるのか。」「どう指導したらよいか」という視点で授業を深めていきます。学生個々のこども時代の経験、学校現場でのこどもの様子、教師の工夫を織り交ぜていく中で、上記の関連ときわコンピテンシーを培っていきたくと考えます。 学生には主体的に考え、自分の考えを積極的に対話し、学びを深めていく姿勢で、楽しく学び合えることを期待します。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	こどもと算数をつなぐとはどういうことか。 算数科の目標（前学習指導要領からの改善点・強調点は何か。）	【予習】 シラバスに目を通しておく
第2回	算数科の目標を詳しく見てみよう。「学校現場で算数を学ぶこどもたち」の姿とつないでいくと、個々の文言の意味が見えてくる。	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第3回	算数科の内容の構成はどうなっているのか。また、求められる資質・能力「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」は何なのか。	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第4回	第1学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第5回	第1学年教科書を素材に、「測定」「データの活用」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第6回	第2学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第7回	第2学年教科書を素材に、「測定」「データの活用」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第8回	第3学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第9回	第3学年教科書を素材に、「測定」「データの活用」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第10回	第4学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第11回	第4学年教科書を素材に、「変化と関係」「データの活用」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第12回	第5学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまづくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第13回	第4学年教科書を素材に、「変化と関係」「データの活用」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第14回	第6学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【次回までの課題】 配布するワークシートに取り組むこと
第15回	第6学年教科書を素材に、「変化と関係」「データの活用」を詳しく見よう。 (こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【復習】授業全体を振り返り、学んだことを確認する。

学修の到達目標

- ・算数科の目標が理解できる。
- ・算数科の内容が理解できる。
- ・算数を学ぶこどもの気持ちに思いをはせることができる。
- ・具体的にどのように指導したら、こどもが理解しやすいのか考える姿勢ができる。
- ・学びを通して友達の考えを受け入れたり、自分の意見を表現したりできる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①算数科の目標及び内容についての専門的な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	算数科の目標及び内容について、学びをきっかけにして発展的に考えようとしている。
	優	算数科の目標及び内容について、理解し活用できる。
	良	算数科の目標及び内容について、理解している。
	可	算数科の目標及び内容について、知っている。
	不可	算数科の目標及び内容についての、知識理解が不十分である。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	具体的な経験、幅広い情報に基づいて、論理的に考えることができる。
	優	幅広い情報に基づいて、論理的に考えることができる。
	良	教科書の知識を総合的に考え、論理的に考えることができる。
	可	一面的な情報に基づいて、論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき、論理的に考えることができない
③教材の理解を深め、どのように指導すればわかりやすいかをデザインすることができる (デザイン力)	秀	こどものつまずきを考え、教材の特徴を見極め、最適の指導する方法をデザインすることができる。
	優	こどものつまずきを考え、教材の特徴を考え、指導する方法をデザインすることができる。
	良	こどものつまずきを考え、指導する方法をデザインすることができる。
	可	指導する方法をデザインすることができる。
	不可	指導する方法をデザインすることができない。
④想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の考えを、聞き手に分かるように板書や教具等を工夫して、筋道だって伝えることができる。
	優	自分の考えを、聞き手に分かるように、筋道だって伝えることができる。
	良	自分の考えを、聞き手に分かるように、伝えることができる。
	可	自分の考えを、伝えるようとしている。
	不可	自分の考えを、伝えることができない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
⑤他者の声に耳を傾け、創造的な対話をすることができる (傾聴力・対話力)	秀	他者の意見を理解しようとして意識して、適切な質問を織り交ぜて創造的な対話をすることができる。
	優	他者の意見を理解しようとして意識して、質問を織り交ぜて創造的な対話をすることができる。
	良	他者の意見を理解しようとして意識して、質問を織り交ぜて対話をすることができる。
	可	他者の意見を聞きながら、対話をしようとしている。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①算数科の目標及び内容理解	30	10	5	0	0	0	45
	②論理的思考力	10	10	5	0	0	0	25
	③指導方法のデザイン	10	10	0	0	0	0	20
	④積極的な発表	0	0	5	0	0	0	5
	⑤グループ討議	0	0	5	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	・試験を中間と最終に行う。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
提出物	①	✓	・次回までに取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ・提出された内容を評価する。
	②	✓	
	③	✓	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	・授業で行う発表(プレゼンテーション)を評価する。 ・評価は、学生の相互評価と教員による評価を行う。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

必要な知識は指導要領解説にあります。必要な技能は表現力、対話力です。必要な態度は主体性と誠実に学ぼうとする姿勢です。

教科書・参考書

教科書：小学校学習指導要領解説 算数編

参考書：必要に応じて紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
生活 (E24030)	講義	2	30	2	前期	選択	幼教免選択必修 小教免選択必修	山田希代子	7号館2階 非常勤講師 控室
遊びって学び?								単独担当	
科目担当者	山田希代子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考、知欲、探究力、継続力、省察力、デザイン力、判断力、責任感、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	「生活」は人間の日常的な営み・生存・生命という生物としての人間の状態や活動の広い意味をもっている。現代の子どもの実態を把握し、幼児期・児童期にふさわしい生活を探究し、子どもの豊かな生活の実現に向け、幼児教育・小学校教育とその連携のあり方について考える。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス：「生活」の基本的な概念	【予習】 シラバスをよく読んでおく。 子どもの生活への関心を高めて新聞やニュースを見る。
第2回	保育・幼稚園教育・学校教育における生活の意義	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第3回	生活習慣と子ども	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第4回	子どもと家族とのかかわり	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第5回	子どもと社会とのかかわり	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第6回	子どもと自然とのかかわり	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第7回	子どもと遊び	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第8回	遊びと学習	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第9回	保育・幼稚園教育と生活科との関連	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第10回	生活科の果たす役割と育てたい力	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第11回	子どもと地域社会のかかわり	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第12回	自然環境を生かした遊び	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第13回	社会環境を生かした遊び	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第14回	生活科と幼児教育、幼小連携のカリキュラム	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第15回	幼児教育と小学校教育の連携のあり方・まとめと確認	【復習】 ポートフォリオをもとに授業全体を振り返る。

学修の到達目標

- ①「生活」の概念を理解する。
 ②子どもたちの生活習慣・環境とのかかわりの課題を把握し、改善策を考察する。
 ③「遊び」の意義を理解し、幼児期・児童期にふさわしい教育とその連携のあり方を探る。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①教育者としての実務遂行に必要な知識・技能を身につけている。 (専門力)	秀	教育の専門領域(生活)についての基本的な知識・技能を両方とも十分なレベルで身につけ、教育への高い情熱と人間性を備えている。
	優	教育の専門領域(生活)についての基本的な知識・技能を両方とも十分なレベルで身につけている。
	良	教育の専門領域(生活)についての基本的な知識・技能を身につけ、一方は十分なレベルに達している。
	可	教育の専門領域(生活)についての基本的な知識・技能を身につけている。
	不可	教育の専門領域(生活)についての基本的な知識・技能を身につけていない。
②愉しさと喜びをもって自ら学ぼうとしている。 (知欲)	秀	物事に対して豊かな好奇心や興味・関心を持ち、それらを明らかにすることに愉しさと喜びを見出し、学び続け、達成感を得ている。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	物事に対してみずみずしい好奇心や興味・関心を持ち、愉しさと喜びをもって自ら学んでいる。
	良	愉しさと喜びをもって自ら学んでいる。
	可	自ら学んでいる。
	不可	自ら学ぼうとしていない。
③思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる。 (情報力)	秀	自ら進んで目的に応じた方法で情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果を社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自ら進んで目的に応じた方法で情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	自ら進んで多様な方法で情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
④物事のあり方について深く考え抜くことができる。 (探究力)	秀	課題に対して多面的なアプローチをして複数の考えをだし、それぞれを比較・検討して課題に最も適した考えを導き、その理由を論理的に説明できる。また、他者の価値や知を取り入れ、新しい追究をすることができる。
	優	課題に対して多面的にアプローチをして複数の考えをだし、それぞれを比較・検討し、課題によりふさわしい考えを導くことができる。また、その理由を論理的に説明できる。
	良	課題に対して多面的なアプローチをした上で一つの考えをだし、その理由を説明することができる。
	可	課題に対して自分なりの考えをだすことができる。
	不可	課題に対して他者から与えられた回答で満足している。
⑤自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長と合わせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長と合わせて説明することができる。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	15	5	5	5	30	100
評価項目	①専門力	20	0	5	5	0	10	40
	②知欲	0	10	0	0	0	0	10
	③情報力	10	0	0	0	0	10	20
	④探究力	10	5	0	0	0	5	20
	⑤省察力	0	0	0	0	5	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	試験期間中に試験を行う。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤		
提出物	①		次回までに取り組んでくるように指示された課題の提出状況とその内容で評価を行う。
	②	✓	
	③		
	④	✓	
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	体験学習・実技等を評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
作品	①	✓	授業で製作した製作物等を評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
ポートフォリオ	①		各自のワークシート・ノート整理・小レポート・課題・自らの振り返り等を学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。 その学びの成果を評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤	✓	
その他	①	✓	授業での主体的な取り組みや積極的な発言は加点の対象となる。
	②		
	③	✓	
	④	✓	
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

「生活」は「文化」といわれるほど、深く幅広い意味をもっている。「生活科」がなぜできたのかその意義を考えて、教科として果たす役割と生活文化との関連について、また、生活科が果たす幼児期教育とのつながりの意義について追究していくものである。この点を意識しながら学びを深めていくこと。

教科書・参考書

教科書：なし。適宜資料を配布

参考書：小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省 平成 29 年 6 月（東洋館出版社）
幼稚園教育要領 文部科学省 平成 29 年 3 月告示

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
理科 (E24040)	講義	2	30	2	後期	選択	小教免選択必修	笹井隆邦	7号館5階 研究室
実験にチャレンジしよう								単独担当	
科目担当者	笹井隆邦								

関連ときわ コンピテンシー	専門力・知欲・探求力
授業の概要	自然に触れ、様々な現象に興味を持って“なぜ？”を自ら解明していく。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンス	
第2回	身近な動物の飼育と観察（昆虫類・メダカ・ザリガニ等）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第3回	身近な自然の観察（自然観察マップづくり）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第4回	顕微鏡の使い方（水中の小さな生き物観察）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第5回	金属・水・空気と温度（4年）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第6回	風やゴムのはたらき（3年）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第7回	ものの溶け方Ⅰ（5年）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第8回	ものの溶け方Ⅱ（5年）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第9回	てことてんびん（6年）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第10回	電気の働きと利用（4年）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第11回	磁石・電磁石（3年・5年）	【予習】授業のテーマについて調べる 【復習】授業内容の振り返り要点のチェック
第12回	色々な実験にチャレンジ	【予習】興味がある実験方法を調べる 【復習】授業内容の振り返り 要点のチェック
第13回	教案作りのための実験準備	【予習】実験の計画 【復習】要点のチェック
第14回	教案作りのための実験	【予習】実験の計画 【復習】要点のチェック
第15回	教案作り	

学修の到達目標
小学校理科における教材研究、フィールドワークを通して自然科学に関する基礎的な知識・技能を習得し、現場で生きた授業を実践することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①小学校理科についての知識・技術を身につけている。 (専門力)	秀	小学校理科についての知識・技術を両方とも高度なレベルで身につけている。
	優	小学校理科についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。
	良	小学校理科についての知識・技術を少なくともいっぽうについては十分なレベルに達している
	可	小学校理科についての知識・技術を身につけている。
	不可	小学校理科についての知識・技術を身につけていない。
②学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びをおぼえることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、それを基に新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、達成感を得ることができる。
	可	与えられれば学ぶことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに興味を持てない
③物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする事ができる。 (探求力)	秀	実験等に自発的に取り組み、夢中になって突き詰めていくことができる。その結果からさらなる探求心が生じ、実行に移していくことができる。
	優	実験等に自発的に取り組み、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	実験等にある程度自発的に取り組み、突き詰めていくことができる。
	可	促されれば、ある程度取り組み、突き詰めていくことができる。
	不可	物事に自ら突き詰めていくことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	20	0	0	0	40	100
評価項目	①理科についての知識・技術	20	5	0	0	0	10	35
	②自発的に学修	10	5	0	0	0	10	25
	③実験等に自発的に取り組む	10	10	0	0	0	20	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	レポート課題
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	自然観察マップの作製
	②	✓	
	③	✓	
その他	①	✓	受講態度・積極性
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など
意欲を持って積極的に実験に取り組む
教科書・参考書
<p>教科書：使用しません</p> <p>参考書：『新しい小学校理科・授業づくりと教材研究』 東洋館出版社 星野昌治編著 『小学校学習指導要領解説 理科編』 文部科学省 わくわく理科 3年～6年 啓林館</p>

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
家庭 (E24050)	講義	2	30	2	後期	選択	小教免選択必修	島岡敦子	7号館2階 非常勤講師 控室
あなたの生活課題は???								単独担当	
科目担当者	島岡敦子								

関連ときわ コンピテンシー	常識力、専門力、情報力、継続力、自己管理能力、省察力、デザイン力、表現力、判断力、実行力、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	<p>皆さんは今置かれている家庭生活（一人暮らしや寮生活）を見つめて、自分の衣食住や消費生活の在りかたを振り返ったり家族の在りかたについて考えたりしたことはありますか？</p> <p>小学校の家庭科の学習では、普段当たり前のよう暮らししている家庭生活上の様々なこと（家族・衣・食・住・消費・環境など）を題材に指導していきます。</p> <p>そこで、授業では今の子どもたちの暮らし方や社会的に課題となっていることを新聞記事やニュースを基に意識しながら、その課題を解決するために子どもたちにどのような学びをさせていけばよいかということを一貫して考えていきたいと思っています。そうして、授業を通して学生の皆さん一人一人が自分の家庭生活（一人暮らしや寮生活）を見つめて生活上の課題を発見し、その課題解決のために具体的な方策を考えて実践し、その結果改善できたことを報告し合って、仲間と共有しながら学び合う楽しさを実感してほしいと思います。</p> <p>また、教育実習や初任者として学校現場に立った時、児童への指導で困ることが多いと予想される調理実習やミシンの実習指導をこの授業で体験してもらうように配慮しています。学生のみなさんが児童の立場に立って実習することで、指導のポイントや実習の楽しさをしっかりと体感してもらえるよう工夫していますので、共に頑張っていきましょう。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	小学校家庭科の役割を知ろう 指導要領改訂から見る家庭科教育の変遷を通して役割を考えよう。	【予習】 シラバスに目を通しておく
第2回	「家庭生活と家族」 家族と家庭生活の現状と課題を把握し、指導内容を知ろう。	【予習】 ニュースや新聞記事を見る 【復習】 自分の家庭生活を見つめる
第3回	「快適な衣服と住まい」① 衣生活の現状と課題を把握し、衣服の働きや手入れの仕方を理解しよう。	【予習】 家庭での洗濯観察 【復習】 家庭での洗濯実習
第4回	「快適な衣服と住まい」② 生活に役立つ物の製作の指導と、手縫いとミシン縫いの基礎を理解しよう。	【予習】 ミシンが有れば試し縫い 【復習】 衣服の点検
第5回	「快適な衣服と住まい」③ 小物を製作しながら、ミシン操作の基礎を身に付けよう。	【準備】 裁縫用具 【復習】 家庭でのミシン縫い実践
第6回	「快適な衣服と住まい」④ ボタン付けと縫い取りで小物を製作しながら、手縫いの基礎を身に付けよう。	【準備】 裁縫用具 【復習】 日常での手縫い実践
第7回	「快適な衣服と住まい」⑤ マスコット作りを通して、生活に役立つ物を製作する楽しさを味わおう。	【準備】 裁縫用具 【復習】 マスコットの仕上げ
第8回	日常の食事と調理の基礎① 食生活の現状と課題を把握し、小学校で取り扱う内容を理解しよう。	【予習】 食生活に関する記事の点検 【復習】 自分の食生活の課題把握
第9回	日常の食事と調理の基礎② 学校現場で実際に行われている食育を体験し、5大栄養素の働きを理解しよう。	【予習】 1週間の朝食をメモしておく 【復習】 食生活で実行できる改善策
第10回	日常の食事と調理の基礎③ 卵と野菜の食品価値と調理方法を知ろう。	【予習】 よく食べる卵料理 【復習】 調理実習計画表の確認
第11回	日常の食事と調理の基礎④ グループの仲間と協力して卵と野菜の調理実習をしよう。	【準備】 エプロン・三角巾等 【復習】 各自家庭で調理の実践

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第12回	快適な衣服と住まい⑥ 住まい方の工夫（採光・通風・換気等）と整理整頓の仕方を理解しよう。	【予習】部屋の明るさを意識する 【復習】自分の部屋の整理整頓
第13回	身近な消費生活と環境 消費生活の現状と課題を把握し、自分の消費生活を振り返ろう。	【予習】消費者トラブル例の点検 【復習】消費生活の改善
第14回	実践報告会 各自生活課題の中から具体的に改善策を考えて取り組んだことを報告しよう。	【予習】報告内容をまとめる 【復習】友達の報告を参考に実践
第15回	まとめ 前期に学び得たことを振り返り、互いに共有する。	【予習】作成したポートフォリオを基に授業全体を振り返る

学修の到達目標

- ・日々社会的なニュースに関心を寄せて、家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活において子どもたちの置かれている現状と課題を把握し、指導上の留意点を理解することができる。
- ・家庭・衣食住・消費生活において学生自身の生活を見つめて課題を認識し、具体的な課題解決策を考えて実践し、報告会でみんなが共有できるように伝えることができる。
- ・グループで協力してミシン実習や調理実習を行って実習の楽しさを味わいながら、児童の安全に配慮した指導のポイントをつかむことができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①自己の日常生活における思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる。 (省察力)	秀	学びを通して自分の日常生活(家族・衣・食・住・消費生活)に適切に疑問を持ち、日ごろから客観的に検証し、さらなる望ましい日常生活の行動へとつなげることができる。
	優	学びを通して自分の日常生活(家族・衣・食・住・消費生活)を振り返り、課題を把握して改善しようと具体的に行動することができる。
	良	学びを通して自分の日常生活(家族・衣・食・住・消費生活)を振り返り、課題解決策を考えて実行することができる。
	可	学んだことと自分の日常生活を結び付けて課題を把握することはできるが、具体的な解決策を考え実行に移すことが難しい。
	不可	学んだことと自分の日常生活を結び付けて課題を認識することができず、改善できない。
②学び得た知識を総合して、生活上の課題の解決策を具体的にデザインすることができる。 (デザイン力)	秀	意欲的に様々な知識や考えを総合して、課題解決策を具体的にデザインすることができる。解決策は本人にとっても他者にとっても十分高いレベルで実行可能なものである。さらにその策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	意欲的に様々な知識や考えを総合して、課題解決策を具体的にデザインすることができる。解決策は本人にとっても他者にとっても十分実行可能なものである。解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	良	学び得た知識や考えを統合して、課題解決策を具体的にデザインすることができる。解決策は本人にとっても他者にとっても実行可能なものである。
	可	学び得た知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
③思いや考えを具体的に表現し、他者に伝えることができる。 (表現力)	秀	自らの取り組みに対する思いや工夫点を示しつつ、それが生活改善にどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	自らの取り組みに対する思いや工夫点を示しつつ、それが生活改善にどのような意味があるのかも含めて、具体的に伝えることができる。
	良	自らの取り組みに対する思いや工夫点を、具体的に伝えることができる。
	可	自らの取り組みに対する思いや工夫点を、そのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの思いや取り組みを伝えることができない。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
④他者の声に耳を傾け、創造的な対話を行うことができる。 (傾聴力・対話力)	秀	他者の立場やその人の価値観を十分理解した上で、相手の考えや思いを共感的に聴くことができる。そうして、相手に分かりやすい言葉で会話することができる。
	優	他者の立場やその人の価値観を理解した上で共感的に聴くことができる。そうして、相手に分かりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に立って話を聴くことができる。そうして、相手に分かりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者の話を聞いて会話することができる。
	不可	他者の話は聞くが、会話することができない。
⑤他者と一つの課題に対して協力して取り組むことができる。 (協調性・協働性)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がり、結果として有意義な実践が可能となる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協働・協調への意識は薄いですが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協働・協調的に作業することはできる。
	不可	協働・協調する意思がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		20	20	20	20	20	0	100
評価項目	①自らの学びに対する振り返り	20	20	0	0	10	0	50
	②創造性豊かな解決策	0	0	0	10	10	0	20
	③他者に対する表現	0	0	10	0	0	0	10
	④他者の考えを聴いての対話	0	0	10	0	0	0	10
	⑤他者との協働	0	0	0	10	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験を行う。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
提出物	①	✓	次回までに取り組んでくるよう指示された課題に取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているか評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
成果発表 (口頭・実技)	①	9回、12回、特に14回の授業で行う発表(プレゼンテーション)を評価する。 評価は、学生の相互評価と教員による2つの評価がある。	
	②		
	③		✓
	④		✓
	⑤		
作品	①	実習時までに用意するよう指示されていた準備物が整っているか評価する。 作品の製作過程と出来上がった作品(ミシン縫いで製作する小物、手縫いの基本練習を兼ねて製作する小物、生活に役立つことを考えて製作したマスコット)を見て、学びのねらいが達成できているかを評価する。	
	②		✓
	③		
	④		
	⑤		✓
ポートフォリオ	①	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果として蓄積していく。 ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。 正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していたり、他者が記入したワークシートのコピーを代用したりしている場合は、減点の対象となる。	
	②		✓
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能・態度など

この授業では、一貫して家庭生活に関する今日的課題を意識しながら学んでいきます。そのために社会的なニュースに関心を持ち、情報が共有できるように心がけて欲しいと思っています。授業での学びと自分の日常生活を照らし合わせて課題を見つけ、課題解決の方策を各自で考えて実践し、14回目に実践報告会を行います。また、調理実習や裁縫の実習時はグループで活動することを基本とします。安全に留意して楽しい実習ができることを心がけてください。

教科書・参考書

教科書：わたしたちの家庭科 小学校5・6年(開隆堂)

参考書：小学校学習指導要領解説(家庭編) 文部科学省(東洋館出版社)

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
音楽Ⅲ (E24080)	演習	1	30	2	前期	選択	保育選択必修 幼教免選択必修 小教免選択必修	瀬川和子	7号館5階 研究室他
音楽的な表現力を身に付ける(応用編)								複数担当	
科目担当者	瀬川和子、戸川晃子、榎原契保、山崎祥代、木嶋宏子								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、省察力、表現力、教養
授業の概要	保育者・教員として音楽表現に必要な演奏技術(童謡・唱歌の弾き歌い・伴奏付け・移調)の習得を目標としたピアノの個人レッスンを行う。各調の主要三和音の理論的な理解と実践的に任意の調への移調奏を学ぶことにより、子どもの年齢・発達・声域等の実態に即した幅広い童謡の弾き歌いの力を身につけ、それぞれの現場で活用できるようにする。また、子どもの身近な曲を基礎的リズムに活用する方法を習得し、各自の進度に合った曲を通して豊かな表現力を磨くことで応用力をつけ、「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で習得した演奏技能をさらに高める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	各自の進度に応じた課題 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第2回	童謡の弾き歌い:春の曲マーチ・スキップ・ギャロップ① (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第3回	各自の進度に応じた課題マーチ・スキップ・ギャロップ② (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第4回	童謡の弾き歌い:春の曲マーチ・スキップ・ギャロップ③ (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第5回	各自の進度に応じた課題 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第6回	童謡の弾き歌い:夏の曲とけいのうた 大きな古時計 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第7回	各自の進度に応じた課題 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第8回	童謡の弾き歌い:夏の曲あめふりくまのこ うみにじ (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第9回	各自の進度に応じた課題 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第10回	童謡の弾き歌い:秋の曲どんぐりころころ 夕焼けこやけ (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第11回	各自の進度に応じた課題 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第12回	童謡の弾き歌い:秋の曲他 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第13回	各自の進度に応じた課題 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第14回	童謡の弾き歌い:秋の曲他 (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第15回	各自の進度に応じた楽曲のまとめ 童謡の弾き歌い (担当者:全員)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題

学修の到達目標

- ・子どもの年齢・発達・声域等の実態に即した幅広い童謡の弾き歌いの応用力の習得。
- ・各自の進度に合った曲を通して豊かな表現力の習得。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを見出すことができない。
②自らの学びに対して正 しく振り返ることがで きる。 (省察力)	秀	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えるだけでなく、大局的観点からも考えることができる。
	優	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
	良	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自ら考えることができる。
	可	自分が何を学んだかという事実を述べるができる。
	不可	自分が何を学んだかという事実を述べることすらできない。
③演奏を通して、自らの 思いや考えを表現する ことができる。 (表現力)	秀	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、他者からも評価されており、それが秀逸である。
	優	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、他者からも評価されている。
	良	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができている。
	可	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現しようと努力している。
	不可	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現しようとする努力の姿勢が見られない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	10	0	20	0	100
評価項目	①知欲	10	5	0	0	10	0	25
	②省察力	10	5	5	0	10	0	30
	③表現力	40	0	5	0	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	実技試験を行う。 授業を通して学んだ音楽理論・楽典、あるいは表現方法を活用して演奏発表することが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	楽典・音楽理論に関する課題
	②	✓	
	③		

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
成果発表 (口頭・実技)	①	演奏実技。 演奏発表の機会に相互評価する。	
	②		✓
	③		✓
ポートフォリオ	①	毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」、「習得したことと課題」などについて記述する。	
	②		✓
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

実技中心であるので予習・復習が不可欠である。ピアノおよび弾き歌いの「毎日」の練習を習慣化すること。

教科書・参考書

教科書：『標準バイエル教則本』全音出版社
『ブルクミュラー 25 の練習曲』全音出版社
『こどものうた 200』小林美実編 チャイルド本社
『やさしい弾き歌い 75』植田光子編著 音楽之友社
参考書：ソナチネ・アルバム I など随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
音楽Ⅳ (E24090)	演習	1	30	2	後期	選択	保育必修 幼教免必修 小教免必修	瀬川和子	7号館5階 研究室他
音楽的な表現力を高めよう								複数担当	
科目担当者	①ピアノ担当者：瀬川和子、戸川晃子、榎原契保、山崎祥代、木嶋宏子 ②声楽担当者：水澤節子、清水かをり								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、省察力、表現力、教養
授業の概要	声楽の集団授業とピアノの個人レッスンを行う。声楽では腹式呼吸や発声法の基礎を身に付け、正しい模範歌唱ができる力を養う。また、各自の進度に合った曲を通して豊かな表現力を磨くことで応用力をつけ、「音楽Ⅲ」で習得した保育者・教員として音楽指導に必要な歌唱に関する演奏技能（腹式呼吸・発声法・童謡・唱歌の弾き歌い・伴奏付け）をさらに高める。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション各自の進度に応じた課題 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第2回	童謡・唱歌の弾き歌い（春）前奏・後奏・伴奏の付け方 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第3回	①各自の進度に応じた課題 ②コンコーネ No.1 ※ (担当者：①②)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第4回	童謡・唱歌の弾き歌い（夏）前奏・後奏・伴奏の付け方 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第5回	①各自の進度に応じた課題 ②コンコーネ No. 2 ※ (担当者：①②)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第6回	童謡・唱歌の弾き歌い（秋）前奏・後奏・伴奏の付け方 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第7回	①各自の進度に応じた課題 ②コンコーネ No. 3 ※ (担当者：①②)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第8回	童謡・唱歌の弾き歌い（冬）前奏・後奏・伴奏の付け方 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第9回	①各自の進度に応じた課題 ②コンコーネ No. 4 ※ (担当者：①②)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第10回	童謡・唱歌の弾き歌い春・夏の曲 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第11回	①各自の進度に応じた課題 ②コンコーネ No. 5 ※ (担当者：①②)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第12回	童謡・唱歌の弾き歌い秋・冬の曲 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第13回	①各自の進度に応じた課題 ②演奏発表 ※ (担当者：①②)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第14回	各自の進度に応じた課題演奏発表 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題
第15回	各自の進度に応じた課題童謡・唱歌の弾き歌い補足 (担当者：①)	【予習】各自の課題曲 【復習】授業回の課題

学修の到達目標

保育者・教員として音楽指導に必要な歌唱に関する技術の習得を目標とする基礎編

- ・童謡・唱歌の弾き歌いと伴奏付けに必要な発声法・歌唱力の習得
- ・各自の進度に合った楽曲の音楽的な表現

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを見出すことができない。
②自らの学びに対して正 しく振り返ることがで きる。 (省察力)	秀	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えるだけでなく、大局的観点からも考えることができる。
	優	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
	良	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自ら考えることができる。
	可	自分が何を学んだかという事実を述べるができる。
	不可	自分が何を学んだかという事実を述べることすらできない。
③演奏を通して、自らの 思いや考えを表現する ことができる。 (表現力)	秀	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、他者からも評価されており、それが秀逸である。
	優	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、他者からも評価されている。
	良	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができている。
	可	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現しようと努力している。
	不可	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現しようとする努力の姿勢が見られない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	10	0	20	0	100
評価項目	①知欲	10	5	0	0	10	0	25
	②省察力	10	5	5	0	10	0	30
	③表現力	40	0	5	0	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	実技試験を行う。 授業を通して学んだ音楽理論・楽典、あるいは表現方法を活用して演奏発表することが求められる。
	②	✓	
	③	✓	
提出物	①	✓	楽典・音楽理論に関する課題
	②	✓	
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①		演奏実技。 演奏発表の機会に相互評価する。
	②	✓	
	③	✓	
ポートフォリオ	①	✓	毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」、「習得したことと課題」などについて記述する。
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

実技中心であるので、予習・復習が不可欠である。ピアノ及び弾き歌いの毎日の練習を習慣化すること。

教科書・参考書

教科書：『標準バイエル教則本』全音出版社
『ブルクミュラー 25 の練習曲』全音出版社
『こどものうた 200』小林美実編 チャイルド本社
『やさしい弾き歌い 75』植田光子編著 音楽之友社

参考書：声楽の指導曲やソナチネ・アルバム I など随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
図画工作Ⅱ (E24120)	演習	1	30	2	前期	選択	保育選択必修 幼教免選択必修 小教免選択必修	藤本由佳利	7号館5階 研究室他
こどもの創造活動を援助する能力を高める								複数担当	
科目担当者	藤本由佳利、池田圭								

関連ときわ コンピテンシー	表現力、探求力、協調性・協働力
授業の概要	色面構成・立体構成などを中心に、子供の創造活動の支援に必要な総合的能力を高めるための演習をする。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 授業の目標と計画について (担当者：藤本、池田)	【予習】 シラバスの確認
第2回	モビールの制作 構想の検討 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第3回	モビールの制作－1 紙立体の制作 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第4回	モビールの制作－2 吊るし方の工夫 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第5回	木のおもちゃの制作 構想の検討 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第6回	木のおもちゃの制作－1 電気糸鋸で切る－1 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第7回	木のおもちゃの制作－2 電気糸鋸で切る－2 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第8回	木のおもちゃの制作－3 着色 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第9回	陶芸作品 制作 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第10回	土粘土での立体制作 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第11回	グループによる指人形劇の制作① 内容の検討・目標分担 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第12回	グループによる指人形劇の制作② 紙粘土による頭部制作 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第13回	グループによる指人形劇の制作③ 背景の描画 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第14回	グループによる指人形劇の制作④ 大道具・小道具の作成 (担当者：藤本、池田)	【予習】 次回の授業内容と必要な材料・用具の確認 【復習】 個人評価記録の作成
第15回	指人形劇の発表会・まとめ (担当者：藤本、池田)	【予習】 発表会の準備 【復習】 全体の振り返り

学修の到達目標

図画工作 I で習得した基礎技術を基盤とし、子どもの様々な創造活動を援助できる技術を習得する。また、表現と鑑賞を通して豊かな感性を育み、生涯にわたって芸術に親しむ心を養う。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①制作を通して、自らを表現することができる (表現力)	秀	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現が豊かにできる。
	優	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現ができる。
	良	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝わるよう表現する。
	可	自分の内面を他者に伝わる表現をしようと努力する。
	不可	自分の内面を他者に伝えようとする努力が認められない。
②物の本質について考え抜くことができる (探求力)	秀	答えのない課題について、徹底的に追求しようとし、真摯に取り組む努力が見られる。
	優	答えのない課題について、徹底的に追求しようとし、取り組む努力が見られる。
	良	答えのない課題について、徹底的に取り組む努力が見られる。
	可	答えのない課題について、取り組む努力が見られる。
	不可	答えのない課題について、取り組む努力が見られない。
③作品の制作過程で、集中したり、協働して取り組むことができる (協調性・協働力)	秀	作品の制作過程で、自らの目標を十分理解しながら、主体的に取り組む、他者からも評価されている。
	優	作品の制作過程で、自らの目標を十分理解しながら、主体的に取り組むことができる。
	良	作品の制作過程で、自らの目標を果たすことができる。
	可	作品の制作過程で、自らの目標を果たそうとする努力が見られる。
	不可	作品の制作過程で、自らの目標を果たそうとする努力が見られない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	45	45	10	0	100
評価項目	①表現力	0	0	15	15	0	0	30
	②探求力	0	0	15	15	5	0	35
	③協調性・協働力	0	0	15	15	5	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
成果発表 (口頭・実技)	①	制作への取り組みを重視する。
	②	
	③	

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
作品	①	✓	制作した作品を評価する。
	②	✓	
	③	✓	
ポートフォリオ	①		個人評価記録への取り組みを評価する。
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

身近にある材料や廃材などから、表現に結び付けるアイデアを生み出すことを心掛ける。
美術展覧会、映画、コンサート、演劇等を積極的に鑑賞する。

教科書・参考書

教科書：使用しません
参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法(生活) (E24230)	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	山田希代子	7号館2階 非常勤講師 控室
全ての学びの基礎、生活科にあり								単独担当	
科目担当者	山田希代子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、情報力、論理的思考、知欲、探究力、継続力、省察力、デザイン力、表現力、判断力、実行力、責任感、貢献力、傾聴力・対話力、協調性・協働力
授業の概要	生活科は、子どもの実態に即し地域の特色を踏まえた教材を開発し、指導計画を立て保護者や地域の人々の理解と協力を得て進めていく教科である。全ての学びの基礎となる重要な役割を担っている教科でもある。その特性を理解し、指導するために必要な資質や技能を身につける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	ガイダンスおよび生活科設立の趣旨と経緯	【予習】 シラバスをよく読んでおく。 生活科にかかわる資料を読んでおく
第2回	生活科の目標と特質	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第3回	生活科の内容構成と授業展開	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第4回	自然素材の教材化体験	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第5回	指導計画作成上の留意点と評価のあり方	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第6回	年間指導計画作成の留意点及び単元計画作成の配慮事項	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第7回	生活科教科書で年間指導計画作成	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第8回	単元計画案づくりと発表・相互評価	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第9回	「町探検」の単元計画案づくりと発表・相互評価	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第10回	「町探検」学習指導案づくりと模擬授業準備	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第11回	模擬授業「町探検」自己評価・相互評価	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第12回	「うごくおもちゃ」「家族」の学習指導案づくりと教材準備	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第13回	「うごくおもちゃ」「家族」の模擬授業準備	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第14回	「うごくおもちゃ」「家族」の模擬授業・自己評価・相互評価	【次回までの課題】 指示された課題に取り組む。
第15回	1から14回までの「生活科」の学びの自己評価と確認	【復習】 作成したポートフォリオをもとに 授業全体を振り返る。

学修の到達目標
①生活科の特質・目標及び内容等を理解する。 ②授業づくりに必要な基礎的な知識・技能・教材開発について理解し、授業設計をすることができる。 ③模擬授業を通して生活科指導の具体的な手立てを体験する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①教育者として生活科の授業に必要な知識・技能を身につけている。 (専門力)	秀	生活科の授業に必要な基本的な知識・思考を両方とも十分なレベルで身につけ、教育への高い情熱と人間性を備えている。
	優	生活科の授業に必要な基本的な知識・技能を両方とも十分なレベルで身につけている。
	良	生活科の授業に必要な基礎的な知識・技能を身につけ、一方は十分なレベルに達している。
	可	生活科の授業に必要な基礎的な知識・技能を身につけている。
	不可	生活科の授業に必要な基礎的な知識・技能を身につけていない。
②楽しさと喜びをもって自ら学ぼうとしている。 (知欲)	秀	物事に対して豊かな好奇心や興味・関心をもち、それらを明らかにすることに楽しさと喜びを見出し、学び続け、達成感を得ている。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	物事に対してみずみずしい好奇心や興味・関心をもち、楽しさと喜びをもって自ら学んでいる。
	良	楽しさと喜びをもって自ら学んでいる。
	可	自ら学んでいる。
	不可	自ら学ぼうとしていない。
③物事のあり方について深く考え抜くことができる。 (探究力)	秀	課題に対して多面的なアプローチをして複数の考えをだし、それぞれを比較・検討して課題に最も適した考えを導き、その理由を論理的に説明できる。また、他者の価値や知を取り入れ、新しい追究をすることができる。
	優	課題に対して多面的にアプローチをして複数の考えをだし、それぞれを比較・検討し、課題によりふさわしい考えを導くことができる。また、その理由を論理的に説明できる。
	良	課題に対して多面的なアプローチをした上で一つの考えをだし、その理由を説明することができる。
	可	課題に対して自分なりの考えをだすことができる。
	不可	課題に対して他者から与えられた回答で満足している。
④他者に対して自らの考えを表現することができる。 (表現力)	秀	自分の思いや考えを相手や目的に合わせて幅広い方法で豊かに表現することができる。
	優	自分の思いや考えを相手や目的に合わせて書き言葉・話し言葉・非言語的表現等を活用して十分に伝えることができる。
	良	自分の思いや考えを書き言葉・話し言葉・非言語的表現等のいずれかで相手が分かりやすいように伝えることができる。
	可	自分の思いや考えを他者に対して伝えることができる。
	不可	自分の思いや考えを他者に対して伝えることができない。
⑤他者と一つの課題について協力して取り組むことができる。 (協調性・協働性)	秀	異なる考えや批判的な意見を取り入れながら他者と協力して指導案づくりや模擬授業等に取り組む互いに知や力を合わせることで成果が上がることを全員が実感できるように働きかけることができる。
	優	異なる考えや批判的な意見に耳を傾けながら、他者と協力して指導案づくりや模擬授業等に取り組むことができる。
	良	自分の役割を考えながら他者と協力して指導案づくりや模擬授業等に取り組むことができる。
	可	他者と協力して指導案づくりや模擬授業等に取り組むことができる。
	不可	他者と協力して指導案づくりや模擬授業等に取り組むことができない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	10	20	20	5	15	100
評価項目	①専門力	20	0	10	10	0	0	40
	②知欲	0	10	0	0	5	5	20
	③探究力	10	0	0	10	0	0	20
	④表現力	0	0	5	0	0	0	5
	⑤協調性・協働性	0	0	5	0	0	10	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	試験期間中に試験を行う。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
提出物	①		指示された課題の提出状況とその内容を評価する。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	模擬授業等を評価する。 相互評価を加味する。
	②		
	③		
	④	✓	
	⑤	✓	
作品	①	✓	年間指導計画案・単元計画案・学習指導案等の内容を評価する。
	②		
	③	✓	
	④		
	⑤		
ポートフォリオ	①		各自が授業で配布した資料や整理したノート・学びの振り返り・各計画案・振り返りを学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。 学びの成果を評価する。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤		
その他	①		授業での主体的な取り組みや積極的な発言は加点の対象となる。
	②	✓	
	③		
	④		
	⑤	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

資料や教材、授業ビデオ等を活用して生活科の根幹を分かりやすく解説し、学校現場での生活科学習活動に即した活動や体験を取り入れて授業を進める。発想豊かに、想像力を培っていく努力をすること。

教科書・参考書

教科書：「小学校学習指導要領解説 生活編」文部科学省 平成 29 年 6 月告示（東洋館出版社）

参考書：生活科教科書

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法(音楽) (E24260)	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	瀬川和子	7号館5階 研究室
音楽の楽しさを伝える授業作り								単独担当	
科目担当者	瀬川和子								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、省察力、判断力、論理的思考力、表現力、教養
授業の概要	小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された音楽科の学習内容についての背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	教科音楽科の果たす役割について	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第2回	学習指導要領(音楽)の目標と内容	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第3回	表現のための理論と基本技術の研究 低学年の歌唱共通教材と歌唱指導法の研究①	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第4回	表現のための理論と基本技術の研究 中学年の歌唱共通教材と歌唱指導法の研究②	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第5回	表現のための理論と基本技術の研究 高学年の歌唱共通教材と歌唱指導法の研究③	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第6回	鑑賞共通教材の研究① 器楽合奏指導法の研究①リズム楽器の奏法 音楽作り①歌詞	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第7回	鑑賞共通教材の研究② 器楽合奏指導法の研究②リコーダーの奏法 音楽作り②旋律	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第8回	鑑賞共通教材の研究③ 器楽合奏指導法の研究③指揮法 音楽作り③発表	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第9回	指導計画の作成①課題設定と授業展開の事例研究 ICT機器の利用	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第10回	指導計画の作成②指導案作成の実際	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第11回	指導計画の作成③学ぶ意欲を高める評価方法	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第12回	学生による模擬授業の実践①低学年と振り返り	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第13回	学生による模擬授業の実践②中学年と振り返り	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第14回	学生による模擬授業の実践③高学年と振り返り	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り
第15回	学生による模擬授業の実践④まとめ	【予習】 授業テーマについて調べる 【復習】 授業内容の振り返り

学修の到達目標

- (1) 学習指導要領に示された音楽科の目標や内容を理解すること。
- (2) 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につけること。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを見出すことができない。
②自らの学びに対して正 しく振り返ることがで きる。 (省察力)	秀	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えるだけでなく、大局的観点からも考えることができる。
	優	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
	良	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味するところを自ら考えることができる。
	可	自分が何を学んだかという事実を述べるができる。
	不可	自分が何を学んだかという事実を述べることすらできない。
③根拠に基づき、論理的 に考えることができ る。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき充分論理的に考えることができる。なおかつ、反論をよそうし、議論や技術を用いて論理を再構築することができる。
	優	客観的な根拠に基づき、充分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	可	自分なりの根拠に基づき、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	0	0	20	0	100
評価項目	①知欲	0	10	0	0	5	0	15
	②省察力	30	5	0	0	10	0	45
	③論理的思考力	30	5	0	0	5	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点	
定期試験	①	筆記試験を行う。 授業を通して学んだ知識・指導方法の活用力を確認する。	
	②		✓
	③		✓
提出物	①	作成した指導案	
	②		✓
	③		✓
ポートフォリオ	①	<ul style="list-style-type: none"> 授業の資料、収集した資料などのファイル 各回の授業で学んだこと、習得したことと課題などについて振り返り記述する。 	
	②		✓
	③		✓

履修に必要な知識・技能・態度など

毎回、問題意識を持って授業に臨むこと。課題に対する自分の意見・考えをまとめることを習慣化すること。

教科書・参考書

教科書：『最新 初等科音楽教育法 [改訂版] 小学校教員養成課程用』音楽之友社

参考書：小学校学習指導要領解説（音楽編）文部科学省

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法 (図画工作) (E24270)	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	藤本由佳利	7号館5階 研究室
小学校図画工作科の担う役割と教師の使命								単独担当	
科目担当者	藤本由佳利								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、協調性・協働性
授業の概要	小学校図画工作科の学習指導要領を概観しながら、こどもの資質や能力を高めるための指導方法を、様々な教材研究を通して教授する。 学習指導案の作成方法や指導法の研究、評価のあり方についてについて概説する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション 授業の進め方について共通理解を図る。グループ発表の班分けを行う。	【予習】 シラバスの確認
第2回	小学校学習指導要領 図画工作 解説	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第3回	平面造形 低学年の教材研究 描画、紙版画など	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第4回	平面造形 (低学年) 指導法の研究	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第5回	立体造形 低学年の教材研究 粘土など	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第6回	立体造形 (低学年) 指導法の研究	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第7回	平面造形 中学年の教材研究 水彩絵具、木切れ、板材、鋸、金槌、釘など	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第8回	平面造形 (中学年) 指導法の研究	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第9回	立体造形 中学年の教材研究 彫刻刀、小刀など	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第10回	立体造形 (中学年) 指導法の研究	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第11回	平面造形 高学年の教材研究 電動糸鋸など	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第12回	平面造形 (高学年) 指導法の研究	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第13回	立体造形 高学年の教材研究 ワイヤークなど	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第14回	立体造形 (高学年) 指導法の研究	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 自己評価質問票の作成・提出
第15回	図画工作科計画と評価・まとめ	【予習】 小学校学習指導要領の読解 【復習】 ワークシートの記入

学修の到達目標

小学校学習指導要領に基づいて図画工作科の意義や目的・内容を理解し、図画工作科学習での基礎知識・技術を身につけながら、授業作りの発想と実践力を培う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①小学校教育の専門職につくものとしての自覚を持って考え、行動することができる。 (専門力)	秀	授業で学んだ知識から、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えを深め、自分の意見を述べるができる。
	優	授業で学んだ知識から、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ知識から、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えることができる。
	可	授業で学んだ知識から、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ知識から、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められない。
②授業のあらゆる場面で、協働して取り組むことができる。 (協調性・協働性)	秀	授業のあらゆる場面で、自らの役割を十分理解しながら、主体的に取り組み、他者からも評価されている。
	優	授業のあらゆる場面で、自らの役割を十分理解しながら、主体的に取り組むことができる。
	良	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たすことができる。
	可	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たそうとする努力が見られる。
	不可	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たそうとする努力が見られない。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	30	20	0	0	0	100
評価項目	①専門力	50	15	10	0	0	0	75
	②協調性・協働性	0	15	10	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	学期末試験（レポート）
	②		
提出物	①	✓	グループワーク課題、レポート
	②	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	グループワーク課題の発表
	②	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など	
小学校現場に積極的に関わり、小学生の造形活動について理解を深める。 身近にある造形素材や用具に親しみ、小学校 図画工作科授業への教材研究をする。	
教科書・参考書	
教科書：『小学校学習指導要領解説 図画工作』 文部科学省 参考書：適宜紹介する。	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
英語教育論 (E24290)	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	脇本聡美	7号館5階 研究室
小学校外国語活動についての理解を深める								単独担当	
科目担当者	脇本聡美								

関連ときわ コンピテンシー	専門力
授業の概要	小学校における外国語活動(中学年)・外国語(高学年)の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション/学習指導要領(外国語活動)について	【復習】学習指導要領(外国語活動)
第2回	学習指導要領(外国語)/小・中・高の外国語教育における小学校英語教育	【予習】学習指導要領(外国語)に目通し 【復習】学習指導要領(外国語)
第3回	「外国語活動」DVD映像による授業観察	【予習】外国語活動の授業について情報収集 【復習】授業観察のレポート
第4回	担当教員による「外国語」授業体験	【予習】「外国語」授業体験のための観点をまとめておく 【復習】授業体験のレポート
第5回	「外国語活動」教材(Let's Try!)とデジタル教材を使った活動の年間指導計画・単元計画・指導案・評価	【予習】Let's Try! 配布誌面に目通し 【復習】「外国語活動」指導略案作成
第6回	「外国語」教材(We Can!)とデジタル教材を使った活動の年間指導計画・単元計画・指導案・評価	【予習】We Can! 配布誌面に目通し 【復習】「外国語」指導略案作成
第7回	子どもの第二言語習得と国語教育との連携等について	【予習】配布資料に目通し 【復習】子どもの第二言語習得についてレポート
第8回	Let's Try! を使用した「外国語活動」模擬授業(デジタル教材の使用と児童とのやり取り)・振り返り	【予習】模擬受領準備 【復習】模擬授業振り返り
第9回	Let's Try! を使用した「外国語活動」模擬授業(ALT等とのチーム・ティーチングと評価)・振り返り	【予習】模擬受領準備 【復習】模擬授業振り返り
第10回	We Can! を使用した「外国語」模擬授業(文字言語との合わせ方)・振り返り	【予習】模擬受領準備 【復習】模擬授業振り返り
第11回	We Can! を使用した「外国語」模擬授業(読む活動・書く活動への導き方)・振り返り	【予習】模擬授業準備 【復習】振り返り
第12回	Authentic教材を使用した「外国語活動」・「外国語」と指導略案の作成	【予習】配布資料目通し 【復習】指導略案作成
第13回	Authentic教材を使用した「外国語活動」模擬授業(タスク志向や意味のやり取りのある活動)・振り返り	【予習】模擬授業準備 【復習】模擬授業振り返り
第14回	Authentic教材を使用した「外国語」模擬授業(アウトプットの活動)振り返り	【予習】模擬授業準備 【復習】模擬授業振り返り
第15回	まとめ	【復習】テストへの準備

学修の到達目標

1. 小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。
2. 児童期の第二言語習得の特徴について理解する。
3. 授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。
4. 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する (専門力)	秀	小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について十分理解している
	優	小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解している
	良	小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境についてある程度理解している
	可	小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について最低限理解している
	不可	小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解していない
②児童期の第二言語習得の特徴について理解する (専門力)	秀	児童期の第二言語習得の特徴について十分理解している
	優	児童期の第二言語習得の特徴について理解している
	良	児童期の第二言語習得の特徴についてある程度理解している
	可	児童期の第二言語習得の特徴について最低限理解している
	不可	児童期の第二言語習得の特徴について理解していない
③授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける (専門力)	秀	授業実践に必要な基本的な指導技術を十分身に付けている
	優	授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている
	良	授業実践に必要な基本的な指導技術のある程度身に付けている
	可	授業実践に必要な基本的な指導技術を最低限身に付けている
	不可	授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付けていない
④実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける (専門力)	秀	実際の授業づくりに必要な知識・技術を十分身に付けている
	優	実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けている
	良	実際の授業づくりに必要な知識・技術のある程度身に付けている
	可	実際の授業づくりに必要な知識・技術を最低限身に付けている
	不可	実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けていない

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	35	25	0	0	0	100
評価項目	①小学校外国語教育に係る背景知識や教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境についての理解	20	5	0	0	0	0	25
	②児童期の第二言語習得の特徴についての理解	20	5	0	0	0	0	25
	③授業実践に必要な基本的な指導技術の修得	0	0	25	0	0	0	25
	④実際の授業づくりに必要な知識・技術の修得	0	25	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験
	②	✓	
	③		
	④		
提出物	①	✓	指導略案 レポート
	②	✓	
	③		
	④	✓	
成果発表 (口頭・実技)	①		模擬授業
	②		
	③	✓	
	④		

履修に必要な知識・技能・態度など

初等英語教育についての理解を深め、実践力をつけるために、何をどのように学ばよいかについて、主体的に学ぶ意欲と態度が求められる。

教科書・参考書

教科書：小学校学習指導要領解説(外国語活動)・(外国語)平成29年10月告示 文部科学省

参考書：『小学校英語の教育法』アレン玉井光江著 大修館書店

『小学校英語教育法入門』樋口忠彦他 研究者

『小学校外国語活動 基本の「き」』酒井英樹

『アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている—英語が話せない子どものための英語習得プログラムライミング編』リーパーすみ子著 径書房

『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』東野裕子 高島英幸著 高陵社

『[小学校]英語活動ネタのタネ』小泉清裕著 アルク

『はじめてのジョリーフォニックス—ティーチャーズブック』ジョリーフォニックス社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
カウンセリングの技法 (E25060)	演習	1	30	2	前期	選択必修	保育選択必修 幼教免選択必修 小教免選択	柳原利佳子	7号館5階 研究室
集まれ!ピアヘルパー資格希望者								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

関連ときわ コンピテンシー	専門力、知欲、傾聴力・対話力
授業の概要	本科目はピアヘルパー資格取得を目指すための必修科目であるが、資格取得のみならず、カウンセリングの諸理論を概説する。また、カウンセリングマインドを実践的に体得するための演習を実施する。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	構成的グループエンカウンター (SGE) とは	【予習】 シラバス内容の熟読 【復習】 学びの確認
第2回	カウンセリングとは?	【予習】 カウンセリングについて調べる 【復習】 学びの確認
第3回	カウンセリングを支える理論① (自己理論・精神分析理論)	【予習】 自己理論・精神分析理論について調べる 【復習】 学びの確認
第4回	カウンセリングを支える理論② (行動理論・論理療法の理論)	【予習】 行動理論・論理療法の理論について調べる 【復習】 学びの確認
第5回	ピアヘルピングのプロセス	【予習】 ピアヘルピングのプロセスについて調べる 【復習】 学びの確認
第6回	ピアヘルピングの言語的技法 (小テスト1: 第1回~第5回まで)	【予習】 小テスト対策とピアヘルピングの言語的技法について調べる 【復習】 学びの確認
第7回	ピアヘルピングの非言語的技法	【予習】 ピアヘルピングの非言語的技法について調べる 【復習】 学びの確認
第8回	対話上の諸問題への対処法	【予習】 対話上の諸問題への対処法について調べる 【復習】 学びの確認
第9回	ピアヘルパーの心がまえ	【予習】 ピアヘルパーの心がまえについて調べる 【復習】 学びの確認
第10回	ピアヘルパーの倫理綱領 (小テスト2: 第6回~第9回まで)	【予習】 小テスト対策とピアヘルパーの倫理綱領について調べる 【復習】 学びの確認
第11回	活動領域上の問題への対処 (学業・進路)	【予習】 学業・進路の問題への対処について調べる 【復習】 学びの確認
第12回	活動領域上の問題への対処 (友人・グループ)	【予習】 友人・グループの問題への対処について調べる 【復習】 学びの確認
第13回	活動領域上の問題への対処 (関係修復・心理)	【予習】 関係修復・心理の問題への対処について調べる 【復習】 学びの確認

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第14回	ピアヘルパー試験の傾向と対策(小テスト3:第10回~第13回まで)	【予習】小テスト対策とピアヘルパー資格について調べる 【復習】学びの確認
第15回	補足とまとめ	【予習】全範囲の総復習をする 【復習】期末試験対策をする

学修の到達目標

ピアヘルピングやその基盤となっているカウンセリングの基礎的な知識と技法を修得することができる。そして、ピアヘルピングの具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解することができる。また、人間関係を良好に維持する力をつけ、将来、職業人として、一個人として生きていく上で、より良い人間関係を築く力を身につけることができる。

ルーブリック

評価項目	評点	評価基準
①ピアヘルピングに必要な基本的な知識・技法を身につけている (専門力)	秀	ピアヘルピングに必要な知識や技法の活用を身につけていて、十分なレベルに達している。
	優	ピアヘルピングに必要な十分な知識を身につけているだけではなく、その技法の活用もできる。
	良	ピアヘルピングに必要な知識を身につけていて、十分なレベルに達している。
	可	ピアヘルピングに必要な基本的な知識を身につけている。
	不可	ピアヘルピングに必要な基本的な知識を身につけていない。
②学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚 えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、楽しさと喜びを覚えることができない。
③他者の声に耳を傾け、 対話することができる (傾聴力・対話力)	秀	習得したピアヘルピングの技法を用いて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手を感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。
	優	習得したピアヘルピングの技法を用いて、他者の立場に身を置いて共感的に話を聴くことができる。
	良	習得したピアヘルピングの技法を用いて、他者の話を聴くことができる。
	可	習得したピアヘルピングの技法を用いることはできていないが、他者の話を聴くことができる。
	不可	他者の話を聴くことができない。

評価方法と評価項目との関係

評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	15	10	0	0	25	100
評価項目	①基本的な知識・技法の習得	50	0	0	0	0	20	70
	②学ぶことの楽しさ	0	15	0	0	0	5	20
	③傾聴・対話	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	✓	筆記試験において、ピアヘルピングに必要な知識や技法についての理解ができていたかどうかを評価する。
	②		
	③		
提出物	①		授業内に行う復習チェックに対して、主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。
	②	✓	
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①		授業内のピアヘルピングの演習に対して、主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。
	②		
	③	✓	
その他	①	✓	小テストにおいて知識が習得できていたかどうか、また、授業内において発言するなど積極的に授業参加していたかどうかを評価する。
	②	✓	
	③		

履修に必要な知識・技能・態度など

ピアヘルピングに関する専門用語がたくさん出てくるので、その都度用語の整理をしておくこと。

教科書・参考書

教科書：『ピアヘルパーハンドブック』 日本教育カウンセラー協会編 図書文化

参考書：『ピアヘルパーワークブック』 日本教育カウンセラー協会編 図書文化

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育・教育課題研究 I (E25200)	演習	1	30	2	後期	選択	—	脇本聡美	7号館5階 研究室他
保育者・教育者としての基礎力を高める								複数担当	
科目担当者	脇本聡美、國崎大恩、大城亜水、山下敦子、大森雅人、橋本好、笹井隆邦、中田尚美								

関連ときわ コンピテンシー	知欲、専門力
授業の概要	これからの保育・教育に携わる者に必要な知識・技能を修得することにより、教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践することができる力の基礎を身につける。

授業回	授業内容	授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション、政治と保育・教育の関係を知る (担当者：國崎・大城)	【復習】保育・教育と関わる行政について
第2回	経済と保育・教育の関係を知る (担当者：國崎・大城)	【復習】保育・教育と関わる経済について
第3回	生活に生きる語彙・語句・文法の理解 (担当者：山下)	【復習】語彙・語句・文法の練習問題
第4回	文学的文章読解(小説の読み方) (担当者：山下)	【復習】小説の読解
第5回	論説文的文章読解(論理的な文章の読み方) (担当者：山下)	【復習】論理的文章読解
第6回	英語の日常表現 (担当者：脇本)	【復習】英語の日常表現の練習問題
第7回	英語文章読解・英語絵本を読む (担当者：脇本)	【復習】英語絵本をテーマにしたレポート
第8回	保育・教育を支える福祉の法律を知る (担当者：橋本・山下)	【復習】福祉の法律について
第9回	保育・教育を支える教育の法律を知る (担当者：橋本・山下)	【復習】教育の法律について
第10回	資料読解(資料の分析、比較、関連付け) (担当者：大森・國崎)	【復習】資料読解の練習
第11回	情報整理読解(情報を整理、分析し、内容を把握する) (担当者：大森・國崎)	【復習】情報整理読解の練習
第12回	数学的思考の基礎① (担当者：笹井・大城)	【復習】数学の練習問題
第13回	数学的思考の基礎② (担当者：笹井・大城)	【復習】数学の練習問題
第14回	保育士・教師における自己の適性把握①(SPI等) (担当者：中田・國崎)	【復習】採用試験問題
第15回	保育士・教師における自己の適性把握②(SPI等) (担当者：中田・大城)	【復習】採用試験問題

学修の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・言語力(国語、英語)、数学的思考力などの論理的思考力の基礎を定着させる。 ・教育実践課題における判断力、表現力の基礎を身につける。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①保育・教育についての知識・技能を修得している (知欲)	秀	保育・教育についての知識・技能を十分修得している
	優	保育・教育についての知識・技能を修得している
	良	保育・教育についての知識・技能をある程度修得している
	可	保育・教育についての知識・技能を最低限修得している
	不可	保育・教育についての知識・技能を修得できていない
②教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力を身につけている (専門力)	秀	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力を十分身につけている
	優	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力を身につけている
	良	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力をある程度身につけている
	可	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力を最低限身につけている
	不可	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力が身につけていない

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	40	0	0	0	60	100
評価項目	①保育・教育についての知識・技能	0	20	0	0	0	30	50
	②教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力	0	20	0	0	0	30	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
提出物	①	課題の提出
	②	
その他	①	小テスト
	②	

履修に必要な知識・技能・態度など
毎時間振り返りの小テストを行う 学習内容の定借度を測るための模擬試験を数回実施する
教科書・参考書
教科書：授業での配布物 参考書：必要に応じて紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育実践演習 (E25230)	演習	2	30	2	前期	選択	保育必修	戸川晃子	7号館4階 研究室他
保育者としての実践力を高める								複数担当	
科目担当者	戸川晃子、多田琴子、松尾寛子、小山通子、荻野尚子、大城亜水								

関連ときわ コンピテンシー	自己管理能力、表現力、協調性・協働性
授業の概要	これまでに履修した保育士資格関連科目の学びと経験を踏まえ、保育者として必要な知識技能の習得及び、保育実習に対応できる保育実践力の向上を目的とする。

授業回	授業内容		授業時間外の学習
第1回	オリエンテーション・昔遊び体験①集団遊び (担当者：戸川・多田)		【予習】 シラバスの熟読 【復習】 学びの振り返り
第2回	A	昔遊び体験②個人遊び (担当者：多田)	【予習】 指定部分までの準備 【復習】 学びの確認
	B	保育教材の作成①パネルシアター題材選び—実習初日をイメージして— (担当者：松尾)	
第3回	A	昔遊び体験③指導法の研究 (担当者：多田)	【予習】 指定部分までの準備 【復習】 学びの振り返り
	B	保育教材の作成②パネルシアター制作 (担当者：松尾)	
第4回	A	保育展開に必要な基礎技術①折り紙 (担当者：多田)	【予習】 指定部分までの準備 【復習】 学びの振り返り
	B	保育教材の作成③パネルシアターで自己紹介 (担当者：松尾)	
第5回	A	保育展開に必要な基礎技術②手作り楽器 (担当者：戸川)	【予習】 指定部分までの準備 【復習】 学びの振り返り
	B	保育展開に必要な基礎技術④絵本選び (担当者：松尾)	
第6回	A	保育展開に必要な基礎技術③手作り楽器による演奏発表 (担当者：戸川)	【予習】 自己課題の練習、保育準備 【復習】 学びの振り返り
	B	保育展開に必要な基礎技術⑤絵本の読み聞かせ実践 (担当者：松尾)	
第7回	A	保育教材の作成①パネルシアター題材選び—実習初日をイメージして— (担当者：松尾)	【予習】 指定部分までの準備 【復習】 学びの確認
	B	昔遊び体験②個人遊び (担当者：多田)	
第8回	A	保育教材の作成②パネルシアター制作 (担当者：松尾)	【予習】 指定部分までの準備 【復習】 学びの確認
	B	昔遊び体験③指導法の研究 (担当者：多田)	
第9回	A	保育教材の作成③パネルシアターで自己紹介 (担当者：松尾)	【予習】 指定部分までの準備 【復習】 学びの確認
	B	保育展開に必要な基礎技術①折り紙 (担当者：多田)	
第10回	A	保育展開に必要な基礎技術④絵本選び (担当者：松尾)	【予習】 教材準備 【復習】 学びの振り返り
	B	保育展開に必要な基礎技術②手作り楽器 (担当者：戸川)	
第11回	A	保育展開に必要な基礎技術⑤絵本の読み聞かせ実践 (担当者：松尾)	【予習】 自己課題の練習、保育準備 【復習】 学びの振り返り
	B	保育展開に必要な基礎技術③手作り楽器による演奏発表 (担当者：戸川)	
第12回	自然遊び①レクチャー (担当者：小山・荻野・大城)		【復習】 学びの振り返り
第13回	自然遊び②散策 (担当者：小山・荻野・大城)		【復習】 学びの振り返り
第14回	自然遊び③振り返り (担当者：小山・荻野・大城)		【復習】 学びの振り返り
第15回	まとめ～保育実習に本講座を活かすための学びの振り返り (担当者：戸川)		【予習】 本授業の振り返り

学修の到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習で活用できる保育教材を作成する知識と技術・理念を、個々又はグループワークを通して身につける。 ・調査及び実践を通して、保育士資格関連科目の学びを結びつけて表現する保育実践力を身につける。 	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①自ら、心身の健康を適切に管理し、授業に取り組むことができる (自己管理能力)	秀	自らの健康に非常に留意し、授業に積極的かつ集中して取り組むことができる
	優	自らの健康に留意し、授業に積極的に取り組むことができる
	良	自らの健康に留意し、授業に取り組むことができる
	可	自らの健康に留意する意識を持って、授業に取り組もうとしている
	不可	自らの健康に留意する意識も持たず、授業に取り組んでいる
②想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	実技、作品、発表を通して、自らの想いや考えを他者に非常にわかりやすく表現することができる
	優	実技、作品、発表を通して、自らの想いや考えを他者にわかりやすく表現することができる
	良	実技、作品、発表を通して、自らの想いや考えを表現することができる
	可	実技、作品、発表を通して、自らの想いや考えを表現しようとしている
	不可	実技、作品、発表を通して、自らの想いや考えを表現しようとする努力が認められない
③自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる (協調性・協働性)	秀	授業において、自らの役割を積極的に見出し、他者と協力して物事に取り組むことができる
	優	授業において、自らの役割を見出し、他者と協力して物事に取り組むことができる
	良	授業において、与えられた役割を、他者と協力して物事に取り組むことができる
	可	授業において、他者と協力して物事に取り組もうとしている
	不可	授業において、他者と協力して物事に取り組む姿勢が見られない

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	30	30	20	0	30	100
評価項目	①自己管理能力	0	20	10	10	0	10	50
	②表現力	0	10	10	10	0	10	40
	③協調性・協働性	0	0	10	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	✓	授業内のレポート、調査記録において、授業の理解度、自分の想いや考えを論理的に述べられているかを評価する
	②	✓	
	③		
成果発表 (口頭・実技)	①	✓	個人またはグループでの発表、それまでの過程において、他者にわかりやすく表現し、伝えることができるか、また、役割に責任を持ち、協調性を持って取り組んでいるかを評価する
	②	✓	
	③	✓	

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
作品	①	✓	制作の意図を理解し、作品で表現できているかを評価する
	②	✓	
	③		
その他	①	✓	受講態度、グループにおける取り組み方を評価する
	②	✓	
	③	✓	

履修に必要な知識・技能・態度など

- ・保育教材や指導案作成のための準備をして授業に臨むこと。
- ・詳細は初回の授業でアナウンスする。天気、気候により計画の順序が異なることがある。
- ・保育現場で子どもと接する自分の姿をイメージし、真面目に取り組むこと。教材作り等の材料費は自己負担とする。
- ・自然遊び①～③は、集中講義にて行う。

教科書・参考書

教科書：適宜配布する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
野外あそび実践 (E21180)	演習	1	30	3	後期	選択必修	—	清水勲夫	7号館2階 非常勤講師 控室
野外活動、自然体験活動の 指導者・援助者の基本を学ぶ								単独担当	
科目担当者	清水勲夫								

① 授業の概要・ねらい

子どもの健やかな心身の成長、発達、日々の暮らしの中で養われる。とりわけ「あそび」は多様な栄養素となって心身の基盤を形成していく。今日、その実際や環境は乏しく、やせ細ってきている傾向は顕著である。

都市化の暮らしや文明社会の最大の犠牲者はおそらく子どもたちだろう。時間、空間、仲間の「三間」の欠如の状況下、安全教育にも関心を持ちながら、関わっていくあそびの援助者としてのスキルを実践的に学ぶ。

② 学習の到達目標

子どものあそびと成長について、特に幼児期から学童期にかけて、関連する心身の成長について学習、合わせて多様なあそびのメニューを体験学習する。特に、野外あそびについては自然との関わり、安全管理（リスクマネジメント）の実際についても習得し、あそびの指導者・支援者としてのスキルを習得する。

③ 授業の内容・計画

第1回	はじめに 科目、授業のねらいと授業計画について
第2回	今日の社会、子どもの成長と「あそび」 ～あそびとは何か～
第3回	心身の成長と「あそび」の発達 ～機能あそびから役割あそびへ～
第4回	指導援助の実際① ～子どもの発達課題の理解と援助～
第5回	指導援助の実際② ～安全管理、安全教育、リスクマネジメントについて～
第6回	第6回～14回は学外野外演習（野外施設宿泊） 9講時分 内容：野外・自然あそびの実際、クラフト、五感あそび 野外炊事（飯盒すいさん）、指導法・援助の実際 グループワークの実際、基本救急法
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	指導者・支援者としてのこれから、全体まとめ レポート提出

④ 授業時間外の学習

社会や街中、あるいは自然の中で、さらには身近な近隣、地域において、今日の「子どもとあそび」の実際と実態について、意識した観察を心がけて欲しい。さらに、それらに対する問題意識や問題提起、さらにはどうあるべきなのか、などについて意識を深めておいてもらいたい。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	0%	50%

「定期試験」：宿泊演習終了後、テーマレポートの提出を求める。

「その他」：宿泊実習は必ず参加すること。部分参加も不可。

⑥ 履修上の注意など

第5回の授業時に宿泊実習の参加費（一泊三食等実費）の徴収を予定。初回の授業時に説明します。キャンプインストラクター資格等、関心のある学生には、別途認定講習の紹介、案内をします。

⑦ 教科書・参考書

教科書：指定はなし、その都度、必要な資料を配布します。

参考書：指定はなし、その都度、必要な資料を配布します。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
海外研修 (E21190)	演習	1	30	3	後期	選択必修	—	牛頭哲宏	7号館5階 研究室他
ニュージーランドで異文化体験								複数担当	
科目担当者	牛頭哲宏、脇本聡美、多田琴子、國崎大恩								

① 授業の概要・ねらい

ニュージーランドの教育制度について学び、教育現場を訪れることによって、教育者や保育士としての視野を広げ、教育を多面的かつ柔軟に捉える観点を育成することを目的とする。ニュージーランドの教育制度について事前に学習し、現地の幼稚園や小学校の見学実習を行う。また、海外研修を通して、国際的な感覚を備えることも目的とする。

② 学習の到達目標

- 1) 「異文化に触れ肌で感じる」経験を通して、日本とニュージーランドとの共通点と相違点とを相対的に見つけ、きちんと受け止める国際感覚を育てる。
- 2) ニュージーランドの幼稚園や小学校にて英語によるプレゼンテーションを行う。
- 3) 日本とニュージーランドにおける教育制度や教育内容の普遍性と特殊性を理解する。

③ 授業の内容・計画

第1回	イントロダクション（他国と教育制度を比較する意義について）（ゲストスピーカー）
第2回	ニュージーランドの教育事情（基礎的な情報と教育制度の現状）（ゲストスピーカー）
第3回	プレゼンテーションリハーサル
第4回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第5回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第6回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第7回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第8回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第9回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第10回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第11回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第12回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第13回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第14回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第15回	海外研修成果の報告及び討論会

④ 授業時間外の学習

各自が研修目標を設定し、研修期間中にその目標を達成できるよう調べ学習などの準備をする。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	70%	30%	0%

「平常点」：事前・事後学習や現地での受講態度

「製作物・実技など」：研修目標ならびに研修後のレポート

⑥ 履修上の注意など

英語でのコミュニケーションが基本であるため、英語コミュニケーションⅠ～Ⅲを履修していることが望ましい。

渡航時期は2月の第3週目の1週間を計画している。ニュージーランドの教育事情を理解することが中心課題であるが、研修を通してニュージーランドの産業や文化など国家としての成り立ちも理解すること。往復の交通費・宿泊費等の実費は自己負担とする（約30万円）

⑦ 教科書・参考書

教科書：特に設定しない

参考書：特に設定しない

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育心理学 (E23100)	講義	2	30	3	前期	必修	保育必修 幼教免必修 小教免必修	柳原利佳子	7号館5階 研究室
心理学を教育の視点から活用しよう								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

① 授業の概要・ねらい

教育心理学は、教育や保育に携わろうとする者にとって欠かせない乳幼児・児童・生徒理解の基礎となる学問である。本講義では、教育現場・保育現場において教育者・保育者と子どもが相互に影響し合いながら、学び育っていく過程のなかで織り成されるさまざまな心理活動の理解を進める。特に、教育心理学の4領域「発達」「学習」「人格」「測定・評価」の内容を中心に講義を行う。広い範囲にわたっているので、各人が教育心理学の専門用語や理論などの基礎的知識を習得すると同時に、教育者・保育者としての子ども観を構築してほしい。

② 学習の到達目標

教育や保育を展開する際にはさまざまな問題が発生することが予想される。それらを解決するために活用できるような幅広い教育心理学の知識と心理学的な捉え方を理解することができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	教育心理学とは
第2回	発達課題
第3回	思考の発達
第4回	遺伝と環境
第5回	発達と教育
第6回	知能(小テスト1)
第7回	パーソナリティの構造
第8回	パーソナリティの測定
第9回	学習理論
第10回	動機づけ
第11回	教育評価(小テスト2)
第12回	集団としての子ども
第13回	不適応行動
第14回	発達援助の理解
第15回	補足とまとめ(小テスト3)

④ 授業時間外の学習

授業計画を参照し、事前に教科書を読んで授業に臨んでください。また、毎回復習チェックもしくは小テストを実施するので、授業の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
55%	45%	0%	0%

「定期試験」：筆記試験

「その他」：小テスト・小レポート・受講態度など

⑥ 履修上の注意など

私語厳禁。講義内容を適宜ノートにとるなど、積極的な授業参加を期待します。

⑦ 教科書・参考書

教科書：「教育心理学ルック・アラウンド わかりたいあなたのための教育心理学」山崎史郎編著 おうふう

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもの食と栄養 I (E23110)	演習	1	30	3	前期	選択	保育必修	進藤容子	7号館2階 非常勤講師 控室
こどもの食の実際								単独担当	
科目担当者	進藤容子								

① 授業の概要・ねらい

こどもの食と栄養は健全な発育だけでなく、生涯にわたる食生活の基礎となる点でも重要である。したがって保育者には、乳児期、幼児期、学童期の食の体験が心身の健康と発達を促すことをふまえて適切な食の援助を行うことが求められる。この授業は、「こどもの食」を養護と教育とを一体的に展開する保育として正しく理解し、実践的に応用できる力の修得を目標とする。授業では保育現場でみられるこどもの食の実際や課題を考えることを通し、必要な力の修得をめざす。

② 学習の到達目標

- ・食生活の意義とあり方を考えられる。
- ・乳幼児の食生活の特徴がわかる。
- ・乳幼児の食支援に、身につけた知識をいかすことができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	授業ガイダンス
第2回	こどもの食の現状と課題
第3回	生活リズムからみたこどもの食
第4回	幼児の食事① 食品群と食事バランスガイド
第5回	幼児の食事② 1日の食事を考える
第6回	味覚と嗜好の発達
第7回	食育の理論と実際
第8回	こどもとできる調理の基本
第9回	こども主体の調理活動① 計画
第10回	こども主体の調理活動② 実施
第11回	乳児の食事① 咀嚼の発達と離乳の進行
第12回	乳児の食事② 離乳食調理
第13回	乳児の食事③ 乳汁栄養
第14回	乳児の食事④ 調乳
第15回	まとめと振り返り

④ 授業時間外の学習

テキストを事前に読んでおき、理解しにくいところを確認しておく。
授業後、事前学習で不明だったところを解決する。その際、こどもの保健の関連箇所も確認する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	50%	0%	0%

「定期試験」：筆記試験（テキスト・資料参照可）（観点：知識や考え方の理解）

「その他」：毎時の小レポート（観点：授業内容への関心・理解）

⑥ 履修上の注意など

事前・事後の学習にテキストを有効に活用し、使いこなせるようにする。学習に主体的に取り組む。

⑦ 教科書・参考書

教科書：新しい時代の保育者養成「こどもの食と栄養」進藤容子編著、あいり出版、2012（第4刷/2017）

参考書：「授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き」、母子衛生研究会、柳沢正義編・著、母子保健事業団、2008他、適宜紹介

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもの食と栄養Ⅱ (E23120)	演習	1	30	3	後期	選択	保育必修	進藤容子	7号館2階 非常勤講師 控室
こどもの食への対応								単独担当	
科目担当者	進藤容子								

① 授業の概要・ねらい

こどもの食と栄養は健全な発育だけでなく、生涯にわたる食生活の基礎となる点でも重要である。したがって保育者には、乳児期、幼児期、学童期の食の体験が心身の健康と発達を促すことをふまえて適切な食の援助を行うことが求められる。この授業は、「こどもの食」を養護と教育とを一体的に展開する保育として正しく理解し、実践的に応用できる力の修得を目標とする。「こどもの食と栄養Ⅱ」では、栄養・食品の基礎知識を確認し、「Ⅰ」で学んだこどもの食の実際からさらに、こどもの食の課題に対応できる力の修得をめざす。

② 学習の到達目標

- ・消化・吸収・代謝の基本を説明できる。
- ・栄養素と食品の関係が説明できる。
- ・食品の安全な取り扱いができる。
- ・食物アレルギー児など配慮が必要な子への対応を考えられる。

③ 授業の内容・計画

第1回	授業ガイダンス 食育の場面の確認
第2回	からだのしくみ
第3回	栄養素の種類と働き① エネルギーのもとになる栄養素
第4回	栄養素の種類と働き② からだをつくるもとになる栄養素
第5回	栄養素の種類と働き③ からだの調子を整える栄養素
第6回	栄養評価の方法と活用
第7回	食品と栄養素の関係
第8回	栄養・食品に関する理解度の確認
第9回	食の安全 食品表示 食品の扱い
第10回	食物アレルギー① 基本事項
第11回	食物アレルギー② 対応食を考える
第12回	食物アレルギー③ 対応食の発表
第13回	先天性代謝異常症、感染症児等の食の対応
第14回	障がい児への食事支援を考える
第15回	まとめと振り返り

④ 授業時間外の学習

テキストを事前に読んでおき、理解しにくいところを確認しておく。
授業後、事前学習で不明だったところを解決する。その際、こどもの保健の関連箇所も確認する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	30%	0%	20%

「定期試験」：レポート試験（観点：学んだ知識を活用したこどもの食の課題対応への考察力）

「平常点」：毎時の小レポート（観点：授業内容への関心・理解）

「その他」：小テスト（観点：栄養・食品に関する基礎知識）

⑥ 履修上の注意など

事前・事後の学習にテキストを有効に活用し、使いこなせるようにする。学習に主体的に取り組む。

⑦ 教科書・参考書

教科書：新しい時代の保育者養成「こどもの食と栄養」進藤容子編著、あいり出版、2012（第4刷/2017）

参考書：「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」厚生労働省、2011
他、適宜紹介

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもの保健Ⅲ (E23150)	演習	1	30	3	前期	選択	保育必修	江上芳子	7号館2階 非常勤講師 控室
子どもたちが健やかに育つために								単独担当	
科目担当者	江上芳子*								

① 授業の概要・ねらい

「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」の学修を前提に、保育所や施設における保健活動や環境について考え、子どもの健康増進および子どもの成長・発達を促す保健活動計画、その評価について学修します。また、演習を通して子どもの発達の観察・評価および子どもの日常生活の世話（養護）、病気の予防やケア（世話）、救急時の対応、事故防止と安全管理等、子どもの健康と安全を守るための技術について学修します。

② 学習の到達目標

1. 子どもの健康・安全にかかわる保健活動の計画・評価について理解できる。
2. 子どもの健康増進および成長・発達を促す保健活動 / 保育環境について考えを述べることができる。
3. 子どもの成長・発達を観察 / 計測し評価できる。
4. 子どもの病気の予防対策について述べるができる。
5. 子どもの主な症状・病気について適切な処置・対応ができる。
6. 子ども事故防止や事故時の応急手当について述べるができる。
7. 子どもの救急時における救急蘇生および救急処置ができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	I. 子どもの健康状態の観察と計測、評価 1. 身体発育の観察・測定（体重、身長、頭囲・大泉門、胸囲）
第2回	2. 身体発育の（計測結果）の評価
第3回	3. 生理的機能の観察・測定（呼吸、脈拍、体温）及び評価
第4回	4. 精神・運動機能の観察、発達評価
第5回	II. 日常における乳幼児の養護（世話） 1. 乳児の抱き方、おんぶの仕方、寝かせ方 2. 食事の世話（授乳、離乳食）
第6回	3. 乳幼児の身体の清潔 ①衣服の着脱 ②乳児の沐浴 ③排泄の世話（おむつ交換、坐浴、臀部浴）
第7回	④顔・手・足のなどの清潔、 ⑤乳幼児の入浴
第8回	III. 乳幼児の歯の健康とケア 1. 子どもの歯の発達 2. 子どもの歯のケア方法
第9回	IV. 乳幼児の病気と適切な対応 1. 乳幼児がよくかかる病気と対応 2. 主な症状と手当（発熱、嘔吐、下痢、咳、発疹、けいれん）
第10回	3. 感染症の予防と対策 4. 与薬（散薬、錠剤、座薬、塗布薬、点眼薬、貼り薬）
第11回	V. 乳幼児の事故と応急手当 1. 擦り傷、切り傷、打撲、捻挫、骨折、捻挫、鼻出血 誤飲・誤嚥、熱傷、熱中症、 2. 罨法（冷罨法、温罨法、ハップ剤の貼用）
第12回	VI. 乳幼児の救急蘇生 1. 心肺蘇生法
第14回	VII. 子どもの保育環境作り
第15回	VIII. 子どもの健康及び安全にかかわる保健活動の計画と評価

④ 授業時間外の学習

1. グループ学習を行いますので、グループ担当項目についてはとくに事前の学習、発表準備等、時間外に行ってください。
2. 発表グループでなくても、演習の前後に討議を行ったりしますので、事前の予習を行ってください。
3. 子どもの事故や成長・発達等に関する情報に関心をもって、新聞など読んでください。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	10%	20%	10%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：授業やグループ学習への参加の積極度、

「製作物・実技など」：演習時のとり組み姿勢、内容

「その他」：感想文など

⑥ 履修上の注意など

1. 主体的・意欲的に演習に参加すること。
2. わからないことはまず自分で調べる。そのうえでわからないときは質問すること。わからないままにしておかないこと。
3. その日のうちに復習をすること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：心とからだを育む「こどもの保健Ⅱ（演習）」、高内正子編著、保育出版

参考書：今日から役立つ「保育園の保健のしごと」東社協保育士保健婦部会編、赤ちゃんとママ社
ナーシング・グラフィカ 小児看護学②「小児看護技術」、中野綾美編、メディカ出版
保育所保育指針 解説書、厚生労働省編 フレーベル館

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育相談 (E23210)	講義	2	30	3	前期	選択	保育選択必修 幼教免必修 小教免必修	永島聡	7号館4階 研究室
児童生徒のこころを支えるとは？								単独担当	
科目担当者	永島聡								

① 授業の概要・ねらい

我が国における教育相談研究および実践の経過を振り返り、現状を認識し、今後のあるべき姿を展望する。事例検討やグループワーク等を取り入れつつ授業を進める。

② 学習の到達目標

教育相談活動における教師の働きのある方を学ぶ。加えて、教育相談の技法論・組織論のみならず、児童・生徒の人間形成に関する哲学的理解をも深める。

③ 授業の内容・計画

第1回	「はじめに」教育相談とは何か - 授業に関するオリエンテーション
第2回	「教育相談研究の経過」我が国における教育相談の歴史の変遷（1950～1980年代）
第3回	「クライアント中心療法の再検討」ロジャーズ理論とその学校現場への導入について
第4回	「1990年代以降の動向」学校現場から生まれた教育相談理論
第5回	「教育相談の現状」スクールカウンセラー導入後における教師主体の教育相談のあり方
第6回	「教育相談に用いられる主な心理療法理論」クライアント中心療法、コラージュ等々
第7回	「ロゴセラピー理論の可能性」教育相談を基礎づける思想的背景の必要性
第8回	「現在のスクールカウンセリングの動向」カウンセリングの理論と方法について
第9回	「発達障がい」発達障がいについての概論
第10回	「最近の傾向」LGBTについて、家族のあり方について等
第11回	「グループワークから学ぶ」自己理解および他者理解のためのグループワーク
第12回	「事例から学ぶ①」保健室を訪れた児童生徒からの何気ない相談
第13回	「事例から学ぶ②」学校外の相談機関・医療機関との連携
第14回	「事例から学ぶ③」保健室登校と校内連携
第15回	「まとめ」教育相談における課題 - 授業内容のまとめおよび質疑応答等

④ 授業時間外の学習

- ・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。
- ・社会情勢に興味を持ち続ける。
- ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
80%	16%	0%	4%

「定期試験」：筆記試験を実施。試験についてのルーブリックは別途提示する。

「平常点」：毎回授業終了時に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。

「その他」：グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。

⑥ 履修上の注意など

特になし

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しません。随時資料を配布します。

参考書：『それでも人生にイエスと言う』V・E・フランクル、山田邦男・松田美佳訳、春秋社、1993
その他、随時紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
家庭支援論 (E23230)	講義	2	30	3	後期	選択	保育必修	大城亜水	7号館4階
地域に開かれた子育て支援								単独担当	
科目担当者	大城亜水								

① 授業の概要・ねらい

現代のわが国は少子化や無縁社会の渦中にあり、親の育児不安・負担による子育て機能の低下が問題視され、改めて「家庭支援」のあり方が問われています。また、家庭支援は将来保育士に着任した時、多様な保護者（家族）とかわり、そのニーズに合わせて柔軟に支援するために必要不可欠な知識でもあります。そこで、本講義は制度論を中心に以下の項目に沿って、家庭支援の基礎的な枠組みを学習します。

② 学習の到達目標

本講義を通して、次の3点を到達目標とします。

- (1) まず、「家庭支援」が求められる背景やその意義と、わが国の支援体制の現状について理解する。
- (2) そして、具体的に(1)が「家庭支援」の各論(第7～11回)とどのように関わっているのかについて把握する。
- (3) 最後に、将来保育士となる時、どのようなスタイルで家庭支援を行うのか、自分自身の考えをまとめる。

③ 授業の内容・計画

第1回	ガイダンス - 家庭支援とは何か
第2回	「家族」支援から「家庭」支援、そして「子育て」支援へ
第3回	子育て支援の意義と役割
第4回	子育て支援の技術とその形態、および子育て支援に有効な社会資源
第5回	子育て支援に関わる法・制度 - 家庭、保護者(家族)、子ども、など各々の有効な法制度とは
第6回	子育て支援に関わる法・制度 - わが国の子育て支援政策を中心に
第7回	保育士による子育て支援
第8回	保育所・幼稚園における子育て支援
第9回	地域における子育て支援
第10回	要保護児童およびその家庭への支援
第11回	障がいをもつ子どもがいる家庭への支援
第12回	諸外国の子育て支援 - 欧米と北欧を中心に
第13回	諸外国の子育て支援 - 東アジアを中心に
第14回	ワークで学ぶ子育て支援 - 「母親との会話」でロールプレイ、「子どものけんか」など
第15回	まとめ

④ 授業時間外の学習

毎回、講義の復習を行い、その箇所に関連する文献などを見つけ、より問題の視野を広げてほしい。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	40%	0%	0%

「定期試験」：レポート試験

「平常点」：小テスト(20%)、グループワーク(20%)

⑥ 履修上の注意など

私語は厳禁です。また、授業で生じた疑問等はそのまま放置せず、必ず消化させること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しません。毎回こちらで作成したハンドアウトを配布します。

参考書：適宜紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育相談支援 (E23240)	演習	1	30	3	前期	選択	保育必修 幼教免選択必修	渡邊恵梨佳	7号館2階 非常勤講師 控室
保育士に求められる相談スキル								単独担当	
科目担当者	渡邊恵梨佳								

① 授業の概要・ねらい

保育相談支援の基本となる保育者と保護者が互いに関係を作るための技術、及び知識について学びを深める。理論的な援助技術をもとに、実践的なコミュニケーションのあり方等を身に付ける。また、専門家がこなう相談との共通点と相違点を知ると共に、専門機関との連携・協働について理解を深める。

② 学習の到達目標

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力を養う。
3. 自己理解を深め、保育者としての自分自身のあり方を考える。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーションと保育と保護者への支援
第2回	保育の専門性と保育相談援助
第3回	保育相談支援における保育者の倫理と展開過程
第4回	子どもの最善の利益と保育相談支援
第5回	保護者との信頼関係の構築
第6回	保護者の養育力向上
第7回	地域資源の活用と関係機関との連携・協同
第8回	保育相談支援の計画・記録・評価
第9回	保育所の特性を生かした保護者への支援
第10回	特別な支援を必要とする保護者への支援
第11回	問題・課題のある保護者への支援
第12回	保育所における保育相談支援
第13回	児童養護施設における保育相談支援
第14回	児童発達支援センターにおける保育相談支援
第15回	母子生活支援施設における保育相談支援

④ 授業時間外の学習

予習のあり方：教科書を事前に読み、学びを深める。日頃から、授業に関する情報収集を意識しておくこと。
復習のあり方：ノートや教科書を振り返る。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
70%	30%	0%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：受講態度、積極性、レポートなどの提出物で総合的に評価

⑥ 履修上の注意など

保育の領域では、子どもの支援のみならず家庭・地域等との連携が求められてきている。支援する立場になる意識を持ち、積極的に授業に参加すること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：「演習・保育と保護者への支援」小原敏郎・橋本好一・三浦主博

参考書：適宜紹介

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育課程総論 (E23310)	講義	2	30	3	前期	選択	幼教免必修 小教免必修	西本望 単独担当	7号館2階 非常勤講師 控室
科目担当者	西本望*								

① 授業の概要・ねらい

人格の完成の実現を保障するために、教育課程や指導計画について意義や編成の方法について理解する。さらに各学校種の実情に応じた教育課程や指導計画の評価および省察と改善（カリキュラム・マネジメント）を学ぶ。具体的には、歴史の変遷にともなう社会的背景や要請、編成の方策と類型、評価と省察および改善、近年の動向について理解する。さらに家庭教育や地域の教育との連携および学校園や施設間との教育課程や保育の計画との接続などについて知識や技術を身につける。

② 学習の到達目標

- (1) 教育課程や指導計画の役割や機能を把握するとともに、それまでの変遷やその時代の社会的背景や要請について理解している。
- (2) 教育課程の編成や指導計画を編成するときの観点や方法などについて理解している。
- (3) 編成の背景となる子どもの心身の成長・発達や社会的状況等について理解している。
- (4) 教育課程や指導計画を省察し、評価および省察と改善（カリキュラム・マネジメント）についての意義や重要性を理解している。

③ 授業の内容・計画

第1回	教育課程とは
第2回	教育課程の意義
第3回	家庭・地域社会のもつ教育機能
第4回	インフォーマルな教育課程とフォーマルな教育課程
第5回	教育課程の歴史的経緯Ⅰ：カリキュラム成立以前の教育方法
第6回	教育課程の歴史的経緯Ⅱ：カリキュラムの黎明期
第7回	教育課程の類型Ⅰ：カリキュラム編成の観点と思想（スコープとシークエンス）
第8回	教育課程の類型Ⅱ：教科カリキュラムと経験カリキュラム
第9回	教育課程の類型Ⅲ：種々のカリキュラムと改善と方策（カリキュラム・マネジメントを含む）
第10回	教育課程編成の背景Ⅰ：こどもの成長・発達とターニングポイント：シークエンス、ヒドゥンカリキュラムの立場から
第11回	教育課程編成の背景Ⅱ：法および学習指導要領との関連：文科省、学校、教師の役割
第12回	評価の意義と解釈および改善（カリキュラム・マネジメントを含む）
第13回	教育課程・学習指導計画の編成と展開Ⅰ：長期指導計画の概念と行事の意味
第14回	教育課程・学習指導計画の編成と展開Ⅱ：校種間の円滑な接続
第15回	まとめ

④ 授業時間外の学習

教科書や配付資料を熟読するとともに、そこにかわる必要な専門用語については理解して授業に臨むこと。既習の教職課程関連科目の講義演習内容等については、すでに理解済みであるとみなすので、本授業内容とともに復習をしておくこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	50%	0%	0%

「定期試験」：定期試験期間中に筆記試験を実施する。知識・技術にかかわる理解度を問う。

「平常点」：積極的な参加や受講マナーとともに授業内レポートなどの課題を総合して行う。

⑥ 履修上の注意など

A4判レポート用紙を持参すること。その他持参物を指示することがある。特別な配慮が必要なときは申し出ること（自己都合は不可）。Syllabusの本来の意味から、進行具合等によっては、授業計画を変更することがある。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『教育のアイデア』昭和堂 2018、『指導の手引き—幼児期と児童期の学びをつなぐ—』兵庫県教育委員会 2017（※兵庫県教育委員会 HP からダウンロードすること）

参考書：『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』『中学校学習指導要領』など各学校種指導要領

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育指導法 (E23330)	演習	1	30	3	前期	選択	保育選択必修 幼教免必修	多田琴子	7号館5階 研究室
理論に裏付けされた保育力の養成								単独担当	
科目担当者	多田琴子								

① 授業の概要・ねらい

子どもの生活は遊びを中心に展開される。乳幼児期の教育の有り様は、子どもの発達を把握した上で、「子ども自身の主体性発揮」と「生活する状況」をつくる保育者の役割の上に成り立つ。本授業は、保育者の立場から、子ども期にふさわしい生活や遊びがもたらす意味を理解し、保育者として必要な知識と指導技術を高める事を目的とする。

保育を計画実施する際の基礎的事項の学習、並びに保育指導案を立案し実践的演習を行う。

② 学習の到達目標

- ・「何故この活動を行うのか」「何故この活動が子どもに必要なのか」等の、保育を行う意味を理解し、保育指導案の立案から実践において必要な基礎的知識と基本的保育指導法の修得を目指す。
- ・幼児の実態を想定して立案する指導案には「活動への導入部分・活動の展開・活動の振り返り」という流れがあることを知り、模擬保育を通して具体的な保育指導方法を体得する。
- ・グループワークで行う模擬保育終了後、学びの共有を図り多様な保育展開の方法を知る。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション 保育所・幼稚園の一日の流れ、保育形態と保育指導の構造
第2回	保育課程・教育課程・指導計画について 模擬保育グループ分け
第3回	乳幼児の遊び① 遊びの意味と必要性・遊びと発達と学び
第4回	乳幼児の遊び② 他者とのかかわりと葛藤体験・保育者の援助
第5回	子どものくらしと園行事 構造的指導計画立案 3歳未満児・幼児
第6回	指導案作成と模擬保育① 基本的生活習慣の定着
第7回	指導案作成と模擬保育② 体を使った遊び
第8回	指導案作成と模擬保育③ 集団遊び
第9回	指導案作成と模擬保育④ 自然物での遊び
第10回	指導案作成と模擬保育⑤ 言葉を使った遊び
第11回	指導案作成と模擬保育⑥ リズム遊び
第12回	指導案作成と模擬保育⑦ 絵画
第13回	指導案作成と模擬保育⑧ 制作
第14回	指導案作成と模擬保育⑨ お別れ会
第15回	補足とまとめ

④ 授業時間外の学習

- ・幼児の実態を詳しく想定し、実態にふさわしい活動を立案する必要があるため、これまでの実習日誌を読み直しておく。
- ・「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」は通読しておく。
- ・模擬保育指導案作り、教材研究については、グループで事前協議を十分に行う。
- ・模擬保育指導案は、事前に何度か科目担当者に提出し、事前検討を十分に行う。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
30%	30%	30%	10%

「定期試験」：レポート試験

「平常点」：授業への参加意欲、教材準備、指導案等の事前検討貢献度及び提出物

「製作物・実技など」：具体的保育技術、模擬保育での役割取得、グループワークの協同性

「その他」：自己評価の内容

⑥ 履修上の注意など

- ・積極的授業参加のこと。保育者にふさわしい言動と身だしなみ、学習準備で臨むこと。
- ・模擬保育はグループワークであるため、計画的に集まり、主体的・協同的に行うこと。
- ・純粋な幼子の前に立つ保育者であることを自覚し、真摯な態度で授業に臨むこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない。

参考書：『保育所保育指針』 厚生労働省 編 フレーベル館

『幼稚園教育要領』 文部科学省 編 フレーベル館 その他、適宜紹介、配布する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育方法・技術論 (E23450)	講義	2	30	3	後期	選択	幼教免必修 小教免必修	光成研一郎	7号館5階 研究室
対象者に応じた教育方法を考える								単独担当	
科目担当者	光成研一郎								

① 授業の概要・ねらい

教育目的、目標の達成のために必要な手段として、教育の方法および技術が重要となる。学校教育においては、発達段階や個性に応じた様々な教育方法、技術が求められる。具体的には授業の目標・内容・指導・評価などに関する理論的知識に裏打ちされた実践力が必要となる。さらに現代において、教育方法および技術を新しい視点で捉え、最新のマルチメディア機器や教材を活用する方法や技術を修得する必要が生じている。本講義においては、教育方法、技術に関する理論および、情報機器・教材の活用について学ぶ。

② 学習の到達目標

教育方法、技術に関する理論を修得し、情報機器や教材の適切な活用方法を修得する。

③ 授業の内容・計画

第1回	教育方法の意味
第2回	教育方法の歴史的展開
第3回	教育方法の類型
第4回	教育課程の歴史的展開
第5回	教育課程の類型
第6回	教育方法と学習指導（1）学習指導の原理 中間試験の実施
第7回	教育方法と学習指導（2）学習指導の過程
第8回	学習指導要領の変遷と新学習指導要領の特色
第9回	授業設計（教育内容について）
第10回	授業設計（教育方法について）
第11回	授業設計（教育実践について）
第12回	授業設計（教育評価について）
第13回	授業設計に関する発表
第14回	授業実施後のリフレクションおよび改善
第15回	補足とまとめ

④ 授業時間外の学習

10回にわたる課題の作成および提出が評価に含まれる。基本的に第9回から第14回まではグループワークを中心に授業を進めるので、グループ毎の授業外学習は必要となる。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	10%	10%	30%

「定期試験」：定期試験を実施する。

「平常点」：課題の提出状況。

「製作物・実技など」：第13回目に実施する発表における評価。

「その他」：第6回目に中間試験を実施する。

⑥ 履修上の注意など

第9回から14回まではグループワークを中心に授業が展開されるので、保育者・教員を目指す者として積極的に課題に取り組む態度が求められる。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『教育のアイデア』武安宥 昭和堂

参考書：適宜紹介する

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
道徳教育の理論と実践 (E23460)	講義	2	30	3	後期	選択	小教免必修	國崎大恩	7号館5階 研究室
道徳教育の指導力向上								単独担当	
科目担当者		國崎大恩							

① 授業の概要・ねらい

道徳教育に関する理論的・実践的事柄を多面的に考察することによって、道徳教育に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、それらの知識を応用しながら道徳科の指導案作りと模擬授業を行うことで、道徳に関する実践的な指導力を身につけるとともに反省的実践家として教師に求められる基礎的反省力を身につける。

② 学習の到達目標

道徳教育及び道徳科について理論的・実践的理解を深めるとともに、道徳科の授業を行うことができるようになることが目標である。具体的な到達目標は次の通りである。

- (1) 道徳教育に関する理論を説明することができる。
- (2) 先進的事例を踏まえ、道徳教育の実践的課題について説明することができる。
- (3) 道徳科の授業を計画し、指導案を書くことができる。
- (4) 道徳科の授業を振り返り、実践の改善にむけた反省をすることができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	イントロダクション—現在の道徳教育をめぐる問題
第2回	西洋倫理・道徳思想(1)—古代～近代黎明期までの道徳思想
第3回	西洋倫理・道徳思想(2)—近代黎明期～現代までの道徳思想
第4回	日本における道徳教育の歴史(1)—明治～昭和初期までの道徳教育の歴史
第5回	日本における道徳教育の歴史(2)—昭和初期～現在までの道徳教育の歴史
第6回	道徳教育と道徳科の目標・内容
第7回	指導計画の作成と内容の取扱い
第8回	道徳科の学習指導案の書き方
第9回	道徳教育の実践的課題(1)—道徳教育に関するケーススタディ
第10回	道徳教育の実践的課題(2)—道徳科に関するケーススタディ
第11回	模擬授業(1)—内容領域Aに関する道徳科の模擬授業と授業研究
第12回	模擬授業(2)—内容領域Bに関する道徳科の模擬授業と授業研究
第13回	模擬授業(3)—内容領域Cに関する道徳科の模擬授業と授業研究
第14回	模擬授業(4)—内容領域Dに関する道徳科の模擬授業と授業研究
第15回	まとめ-道徳教育と道徳科の課題と展望

④ 授業時間外の学習

授業中に配布されたプリント等を見直し、重要事項についてはしっかりと理解しておいてください。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	30%	20%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：manabaでのレポート提出

「製作物・実技など」：模擬授業・指導案

⑥ 履修上の注意など

模擬授業や授業研究などには積極的に取り組むようにしてください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』文部科学省

『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省

参考書：『道徳教育を考える』岡部美香・谷村千絵編 法律文化社 2012年

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
音楽V (E24100)	演習	1	30	3	前期	選択	保育選択必修 幼教免選択必修 小教免選択必修	瀬川和子	7号館5階 研究室他
豊かな表現をするために								複数担当	
科目担当者	①ピアノ担当：瀬川和子、戸川晃子 ②声楽担当：水澤節子、清水かをり								

① 授業の概要・ねらい

本授業は、①ピアノの指導回と②声楽の指導回がある。
いずれの授業も、保育者・教員としての音楽表現を高めることを目的とする。

② 学習の到達目標

- ・ 幼児・児童の音楽表現の理解
- ・ 保育者・教員としての音楽表現のための基本的な技能の応用
- ・ 保育・教育現場で応用できる指導方法の習得

③ 授業の内容・計画

第1回	ブルグミュラー 25 の練習曲 No.1、	(担当者：①)
第2回	童謡・唱歌の弾き歌い (かたつむり うみ 虫の声)	(担当者：①)
第3回	発声法 コンコーネ 50 番 No. 1～5 花	(担当者：②)
第4回	ブルグミュラー 25 の練習曲 No. 3	(担当者：①)
第5回	発声法 コンコーネ 50 番 No. 6 朧月夜	(担当者：②)
第6回	童謡・唱歌の弾き歌い (春の小川 茶摘み)	(担当者：①)
第7回	発声法 コンコーネ 50 番 No. 7 もみじ (二部合唱)	(担当者：②)
第8回	ブルグミュラー 25 の練習曲 NO.7	(担当者：①)
第9回	発声法 コンコーネ 50 番 No. 8 もみじ (二部合唱)	(担当者：②)
第10回	童謡・唱歌の弾き歌い (夕焼け小焼け もみじ)	(担当者：①)
第11回	発声法 コンコーネ 50 番 No. 9 まっかな秋 (二部合唱)	(担当者：②)
第12回	ブルグミュラー 25 の練習曲 No.12	(担当者：①)
第13回	発声法 コンコーネ 50 番 No.10 まっかな秋 (二部合唱)	(担当者：②)
第14回	発声法 コンコーネ 50 番 声楽のまとめ	(担当者：②)
第15回	ブルグミュラー 25 の練習曲 ピアノのまとめ	(担当者：①)

④ 授業時間外の学習

授業時間外の学習 実技中心であるので、予習・復習が不可欠である。
ピアノ及び弾き歌いの毎日の練習を、習慣化すること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	30%	20%	0%

「定期試験」：声楽実技 ピアノ実技

「平常点」：受講態度・授業参加度

「製作物・実技など」：童謡・唱歌の弾き歌い。各自の進度に応じた楽曲演奏

⑥ 履修上の注意など

- ・ 前回授業曲の復習および予習として授業回の課題曲を練習し、積極的に授業に取り組むこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：ブルグミュラー 25 の練習曲 (全音)

参考書：声楽の指導曲など随時紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法(国語) (E24200)	講 義	2	30	3	前 期	選 択	小 教 免 必 修	牛頭哲宏	7号館5階 研究室
現場で役立つ国語科指導法								単 独 担 当	
科目担当者	牛頭哲宏								

① 授業の概要・ねらい

小学校における国語の授業について、実際の教育現場で役立つ指導法について具体的に考える。

② 学習の到達目標

教育実習はもちろん、将来、教壇に立ったときに役立つ指導法を身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	国語って何を教える教科？
第2回	授業時間の45分をどう生かす？
第3回	子どもが食いつく発問のテクニックとトレーニング
第4回	子どもの発言を目に見える形にする板書メモのテクニックとトレーニング
第5回	場面の読み取りを大切にする物語の授業
第6回	理科や社会科にならないための説明文の授業
第7回	書けない子でも書けるようにする作文の授業
第8回	声に出して味わう古典の授業(教職課程基礎知識確認テストの実施)
第9回	討論や発表を楽しむ授業
第10回	漢字指導は国語指導のイロハのい
第11回	字形と書く速さを意識する書写の授業
第12回	個人差への対応と机間巡視
第13回	先生の話し方(教育話法)
第14回	学んだ実感を味わわせるポートフォリオ評価
第15回	まとめ：ふたたび「国語って何を教える教科？」

④ 授業時間外の学習

小学校教材の音読練習を行うこと。

毎時間の復習を行うこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	20%	30%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：授業への取り組み

「製作物・実技など」：提出物等

⑥ 履修上の注意など

講義形式をとるが、毎時間テーマを決めて活動を行う。それを契機とした参加者同士の討論によって考えを深めることを目指す。

⑦ 教科書・参考書

教科書：牛頭哲宏・森篤嗣『現場で役立つ小学校国語科教育法』ココ出版

『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省

参考書：授業中に提示する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法(社会) (E24210)	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	増田進司	7号館2階 非常勤講師 控室
								単独担当	
科目担当者	増田進司								

① 授業の概要・ねらい

小学校社会科の指導要領を概観し、小学校社会科の学習指導案の書き方を調べ、指導案の意義や配慮事項や形式について理解を深める。具体的な単元を決め学習指導案づくりに取り組む。

② 学習の到達目標

- 目標① 小学校社会科の目標や内容を理解する。
 目標② 小学校社会科の教材研究を実践し、学習指導案が書ける。

③ 授業の内容・計画

第1回	本講座の概要・グループ編成・自己紹介カード作成・自己紹介	目標①②
第2回	社会科指導のねらい(問題解決的能力の育成)	目標①
第3回	学習指導要領と社会科の目標について	目標①
第4回	3,4年生の社会科の目標と内容	目標①
第5回	5年生・6年生の社会科の目標と内容	目標①
第6回	社会科授業の基本構想(問題解決的な展開)	目標①
第7回	学習指導案の意義・配慮事項(指導案の様式と書き方)	目標②
第8回	社会科授業の授業事例の研究(指導案を読み取り、評価する)	目標②
第9回	社会科の年間指導計画と授業(単元の分担)	目標①②
第10回	教材研究・資料収集・学習指導案を構想(教材研究・資料収集等相談会開催)	目標②
第11回	第1回グループ検討会(単元目標・児童教材指導観・評価規準・指導計画の提案と検討)	目標②
第12回	第2回グループ検討会(本時の学習の提案と検討)	目標②
第13回	第3回グループ検討会(板書計画検討と指導案最終検討)	目標②
第14回	学習指導案検討と指導案提出	目標②
第15回	まとめと補足(学習指導案集完成)	目標①②

④ 授業時間外の学習

指導案作成のため教材研究を行うことと、そのために必要な資料の収集・取材などに取り組むこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	20%	30%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：参加態度

「製作物・実技など」：小学校社会科学習指導案提出

⑥ 履修上の注意など

3～6年生の単元を各自分担し社会科指導案を1部作成し必ず提出すること。作成に当たっては、図書館等を利用し、資料・参考文献の収集などに取り組むこと。受講者作成の指導案集を最後に印刷配布する。

講義の進捗状況により、講義内容の修正を行うこともある。

⑦ 教科書・参考書

教科書：小学校指導要領解説 社会編 文部科学省
 次期小学校指導要領解説 社会編 文部科学省

参考書：小学社会教科書 3,4,5,6年生 日本文教出版
 小学社会 教師用指導書 3,4,5,6年 日本文教出版
 社会科全時間の授業プラン 3,4,5,6年 日本標準
 その他 必要に応じて文献を配布・紹介する

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法(算数) (E24220)	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	都賀純	7号館2階 非常勤講師 控室
算数の授業をデザインする (気づく・わかる・できる)								単独担当	
科目担当者	都賀純								

① 授業の概要・ねらい

- ・新学習指導要領のポイントを理解し、こどもの心身の発達を支えるための専門知識と技能を身に着ける。
- ・学習指導案の作成や模擬授業を通して、理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力を養う。
- ・学校現場でのこどもの姿を学ぶことで、自らの課題を見出し教育の質を高める態度と共に豊かな人間性と高い倫理観を養う。

② 学習の到達目標

こどもの育ちと、学習指導要領に示された学習内容をつなぐ授業構成について理解することができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション・算数科の目標(新学習指導要領)
第2回	授業をつくる①(体験授業、授業のPDCA、授業の組み立て・問題解決学習)
第3回	授業をつくる②(体験授業、模擬授業に向けて授業テーマの決定)
第4回	授業をつくる③(体験授業、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善)
第5回	授業をつくる④(体験授業、数学的活動の指導に当たっての配慮事項)
第6回	指導案をデザインする①(学習指導案の書き方)
第7回	指導案をデザインする②(学習指導案を書いてみよう)
第8回	指導案をデザインする③(板書計画、その他留意点)
第9回	模擬授業と批評会①(第1学年の教材から)
第10回	模擬授業と批評会②(第2学年の教材から)
第11回	模擬授業と批評会③(第3学年の教材から)
第12回	模擬授業と批評会④(第4学年の教材から)
第13回	模擬授業と批評会⑤(第5学年の教材から)
第14回	模擬授業と批評会⑥(第6学年の教材から)
第15回	学びの振り返りとまとめ

④ 授業時間外の学習

示された課題についてレポートを準備すること。そうでない場合もしっかり予習し、自分の考えを持って授業に臨むこと。模擬授業に際しては示す視点についてしっかり準備すること。

他の学生が模擬授業をする場合でも、自分が授業をするつもりで教材研究をすること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
40%	60%	0%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：模擬授業、学習指導案、レポート、授業態度等

⑥ 履修上の注意など

受け身にならず積極的に学び取ろうとする姿勢を期待する。常に疑問を持ち、積極的に質問や論述をしようとする姿勢を期待する。授業の対象であるこどもの意識、興味、反応を常に意識する姿勢を期待する。

⑦ 教科書・参考書

教科書：小学校学習指導要領解説 算数編 文部科学省

参考書：必要に応じて適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法(理科) (E24240)	講 義	2	30	3	前 期	選 択	小教免必修	田村壽秀	7号館2階 非常勤講師 控室
								単独担当	
科目担当者	田村壽秀								

① 授業の概要・ねらい

小学校理科の指導方法の変遷、現在の理科教育の理念や目標、法的位置づけや内容構成などの理論的背景を明らかにし、小学校理科の学習指導法を明らかにする。

② 学習の到達目標

小学校で理科を学ぶ意義について理解し、小学校理科教育の全体像を把握する。その上で、小学校理科教育の目的や方法について理解し、理科授業構想・授業実践できる幅広い基礎を培う。

③ 授業の内容・計画

第1回	理科教育Ⅰ	理科教育とは
第2回	理科教育Ⅱ	理科教育の目標と内容
第3回	理科指導方法	理科指導法と問題解決学習
第4回	実験器具の扱い方	安全で正しい器具の使用方法
第5回	単元構想	3年生の教材での単元構想
第6回	指導案作成	4年生の教材での指導案作成
第7回	教材研究Ⅰ	5年生の教材での実験方法の工夫
第8回	教材研究Ⅱ	6年生の教材での教材研究
第9回	指導技術	理科の授業ビデオによる指導技術の実際
第10回	模擬授業	3年生「昆虫の観察」・・・相互評価と自己評価(1)
第11回	模擬授業	4年生「月や星」・・・相互評価と自己評価(2)
第12回	模擬授業	5年生「種子が発芽する条件」・・・相互評価と自己評価(3)
第13回	他学習との関連	生活科、理科、総合的な学習との関連
第14回	理科学習のものづくり教材や発展教材(クリップモーターづくり)	
第15回	指導と評価	理科学習の指導と評価基準

④ 授業時間外の学習

必要に応じて、レポート等の提出を求める。
模擬授業の指導案の作成

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	30%	20%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：講義中の意欲、受講態度

「製作物・実技など」：課題レポート、学習指導案の作成

⑥ 履修上の注意など

原則として、遅刻・欠席は認めない。
欠席した場合、プリント等、自己責任としてコピー等をし、授業の補充を行うこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『小学校学習指導要領解説 理科編』 文部科学省

参考書：『理科教科書「わくわく理科」3年～6年』 啓林館

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法(家庭) (E24250)	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	島岡敦子	7号館2階 非常勤講師 控室
								単独担当	
科目担当者	島岡敦子								

① 授業の概要・ねらい

小学校家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について理解を深める。さらに具体的な学習場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

② 学習の到達目標

- ・学習指導要領に示された小学校家庭科の目標や内容を理解する。
- ・基礎的な家庭科学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業計画を行う方法を身に付ける。
- ・小学校家庭科の教育的意義を理解し、児童の実態を踏まえた家庭科の授業計画を基に、実践的指導に必要な資質を養う。

③ 授業の内容・計画

第1回	学習指導要領(家庭)の目標と内容	—内容構成の全体と各内容の関連の理解—
第2回	家庭科の学習指導と評価の一体化	—PDCA(計画・実行・評価・改善)を見通した学習指導—
第3回	A「家庭生活と家族」の指導	—ガイダンスの実践例を基に教材の工夫と活用の仕方—
第4回	B「日常の食事と調理の基礎」の指導	—基礎的・基本的な知識技能の習得と安全指導—
第5回	C「快適な衣服と住まい」の指導	—基礎的・基本的な知識技能の習得と課題解決学習指導—
第6回	D「身近な消費生活と環境」の指導	—消費者教育の視点を取り入れた指導—
第7回	学習指導計画の立て方	—題材・目標・全体指導計画・本時の指導の作成方法—
第8回	指導案の作成と相互検討	—班に分かれて題材を決定し、指導案作成—
第9回	指導案の決定と資料作成	—班毎に本時の学習指導略案・板書と発問計画・指導教材作成—
第10回	模擬授業①と相互評価	—20分授業・評価カードを基に20分話し合いを2回実施—
第11回	模擬授業②と相互評価	—20分授業・評価カードを基に20分話し合いを2回実施—
第12回	模擬授業③と相互評価	—20分授業・評価カードを基に20分話し合いを2回実施—
第13回	模擬授業④と相互評価	—20分授業・評価カードを基に20分話し合いを2回実施—
第14回	模擬授業⑤と相互評価	—20分授業・評価カードを基に20分話し合いを2回実施—
第15回	これからの家庭科教育	—新指導要領で求められること—

④ 授業時間外の学習

- ・授業前には小学校学習指導要領解説(家庭編)の本時の学習に関連する部分に目を通して確認する。
- ・指導案作成に関する資料調査や教材準備と指導案の仕上げ。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	30%	20%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：授業への積極的な参加態度、授業後の小レポート

「製作物・実技など」：模擬授業に向けての指導案・板書と発問計画・作成教材、模擬授業への取り組み

⑥ 履修上の注意など

現行の指導要録解説(家庭編)と新指導要領解説(家庭編)を比較しながら進める。

⑦ 教科書・参考書

教科書：小学校学習指導要領解説(家庭編)文部科学省(東洋館出版社)

参考書：わたしたちの家庭科 小学校5・6 開隆堂

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法(体育) (E24280)	講 義	2	30	3	前 期	選 択	小教免必修	田中稔	7号館2階 非常勤講師 控室
								単独担当	
科目担当者	田中稔								

① 授業の概要・ねらい

学習指導要領に基づき、小学校体育科指導に必要な目標設定から授業計画及び具体的な指導実践法を学ぶ。各領域の運動の特性を理解し、児童の発達段階のまとまりに応じた適切な指導ができるようになる。

② 学習の到達目標

- ・学習指導要領を正しく解釈し、発達段階や児童の実態に応じた授業を構成することができる。
- ・運動の特性や授業のめあてに応じた計画を設定し、模擬授業を実施することができる。
- ・模擬授業の成果や課題を基に、ディスカッションを通じて現場で活用することのできる知見を得ることができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	ガイダンス・講義1 「これから求められる学校体育の在り方」
第2回	講義2 「学習指導要領体育科の目標と内容」
第3回	講義3 「体育学習の進め方と評価」
第4回	講義4 「運動の特性と楽しさの関係」
第5回	講義5 「水泳学習の進め方・水難事故防止と安全教育」
第6回	講義6 「低学年の学習内容と学習指導案作成」
第7回	講義7 「中学年の学習内容と学習指導案作成」
第8回	講義8 「高学年の学習内容と学習指導案作成」
第9回	講義9 「運動領域に応じた学習指導案作成」
第10回	模擬授業1 「体づくり運動」
第11回	模擬授業2 「器械運動系」
第12回	模擬授業3 「ボール運動系」
第13回	模擬授業4 「陸上運動系」「表現運動系」
第14回	講義10 模擬授業の総括と研究討議
第15回	講義11 全体の振り返りと総括 「今後の現場実践に向けて」

④ 授業時間外の学習

- ・学習指導要領の解釈
- ・授業計画の作成及び模擬授業の準備

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
45%	25%	25%	5%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：授業内の課題に対する関心・意欲・態度と知識の定着及び理解の深まり

「製作物・実技など」：学指導案作成の理解的到達度と模擬授業実施の技能到達度

「その他」：授業全般における関心・意欲・態度

⑥ 履修上の注意など

教職員を目指していることを前提で講義を展開します。言動・身なり・振る舞い・取り組み方等の態度全般も教職員に求められるものとして学ぶ姿勢をもって授業に臨んでください。模擬授業では体育実技を実施するため、安全面に十分に配慮し、運動を実施するのにふさわしい服装と態度（アクセサリ等々の着用は認めない）、体調管理に気を使って授業に参加するようにしてください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：「小学校学習指導要領解説 体育編 平成29年7月」 文部科学省 東洋館出版

参考書：「新しい体育授業の運動学」 三木四郎 明和出版

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育実習指導 I (E24300)	演習	2	30	3	通 年	選 択	保育必修	橋本好市	7号館5階研 究室他
辛い所に手が届く保育実習指導								複数担当	
科目担当者	橋本好市、松尾寛子								

① 授業の概要・ねらい

保育実習 I には、「保育所又は認定こども園」及び「社会福祉施設」における実習を指定期間取り組まなければならない。それら実習を意義ある内容とするためには、実践に活用できる知識・技術の習得が求められる。

本講座では、「保育所又は認定こども園」及び「社会福祉施設」実習の意義目的を理解するとともに、プライバシーの保護や守秘義務等実習の基本的な心構えを習得した上で、各々業務内容や社会的役割の理解を図る。

実習で活用できる実践力養成のための模擬保育・保育計画策定・グループディスカッション等を通して、各自の課題を明確化し、実際の子ども・利用者への関わり方を理解する。

また、実習記録等の書類関係作成のスキルも涵養し、保育を総合的に理解し、保育士・保育教諭としての専門性を確立する。事後指導では、各実習で判明した各自の課題を克服し、次の保育実習 II・III への有意義なつながりを目指す。

② 学習の到達目標

保育実習の目的、内容、方法を理解し、実習への心構えを構築し、各自の実習課題を明確化する。

各実習先の概要と社会的意義・役割を理解するとともに、保育実習計画、指導計画の考え方・立て方を理解することで、実践の重要性を学ぶ。

事後指導からは、各実習及び全体を振り返り、自己課題と進路との関係性を明確化する。

③ 授業の内容・計画

第 1 回	保育実習の構成を理解するために～オリエンテーション	(担当者：橋本・松尾)
第 2 回	保育所実習の意義目的の理解・実習の流れ・具体的内容	(担当者：松尾)
第 3 回	保育の実際①保育専門職者からの学び	(担当者：松尾)
第 4 回	保育の実際②保育所保育のデイリープログラムと保育の計画	(担当者：松尾)
第 5 回	実習記録の書き方①実習記録の構成要素と留意点	(担当者：松尾)
第 6 回	実習記録の書き方②所見及び振り返りと課題（テーマ）設定	(担当者：松尾)
第 7 回	実習指導案の作成方法について	(担当者：松尾)
第 8 回	実習指導案を作成する	(担当者：松尾)
第 9 回	実習指導案の振り返り	(担当者：松尾)
第 10 回	実習直前指導①日誌・提出書類等の配布と指導、事前オリエンテーションについて	(担当者：松尾)
第 11 回	実習指導案の作成と展開①指導案作成	(担当者：松尾)
第 12 回	実習指導案の作成と展開②模擬保育	(担当者：松尾)
第 13 回	実習指導案の作成と展開③自己紹介の保育	(担当者：松尾)
第 14 回	実習直前指導②日誌、提出書類の配布・実習の心得の確認及び質疑応答	(担当者：松尾)
第 15 回	保育実習 I（保育所）実習の振り返り及び施設実習の意義	(担当者：松尾)
第 16 回	オリエンテーション：保育実習指導 I～施設実習について	(担当者：橋本)
第 17 回	施設実習先配当ガイダンス	(担当者：橋本)
第 18 回	社会福祉施設の類型・役割と意義	(担当者：橋本)
第 19 回	社会福祉施設の実際と業務	(担当者：橋本)
第 20 回	利用者の理解児童・障害児者について	(担当者：橋本)
第 21 回	社会福祉施設における援助のあり方	(担当者：橋本)
第 22 回	施設実習先配当調整及び実習先事前学習	(担当者：橋本)
第 23 回	施設実習先事前学習シート作成	(担当者：橋本)
第 24 回	施設実習自己紹介書作成・指導	(担当者：橋本)
第 25 回	施設実習計画書指導・作成	(担当者：橋本)
第 26 回	施設実習日誌の書き方	(担当者：橋本)
第 27 回	施設実習開始に当たっての最終確認指導～実習に臨んで～	(担当者：橋本)
第 28 回	施設実習事後指導～施設実習への振り返りと課題～	(担当者：橋本)
第 29 回	保育実習 I を終えるにあたり～保育実習 I から保育実習 II・III への繋がりを理解	(担当者：橋本・松尾)
第 30 回	保育実習 I を終えるにあたり～保育実習 II・III の希望調査・配当調整について	(担当者：橋本・松尾)

④ 授業時間外の学習

これまで学んだ講義及び見学先を振り返り、それらの役割を理解するとともに、子どもの成長過程や保育の技術、保育所・施設の意義と役割、法制度についての理解も深めておく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	50%	0%

「平常点」：受講態度・課題への取り組み態度

「その他」：指導案作成・実技や小レポート・準備物・書類等提出物への取り組み状況

⑥ 履修上の注意など

正当な理由の無い遅刻・欠席は認めない（全回出席を旨とし、実習を中止とすることもある）。

外部機関との関連で取り組む作業も多いことから、指導事項と期限を守り、授業内で与えられた課題などに対して、誠実・積極的に取り組むこと。

保育実践力（手遊びや絵本の読み聞かせ等）を向上させるために模擬保育の要素を取り入れることが多く、グループ活動の成果を発表することもある。

当該科目は定期試験を実施しないため、追再試験も実施しない。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『本当に知りたいことがわかる！保育所・施設実習ハンドブック』橋本好市・小原敏郎・直島正樹編著、ミネルヴァ書房

『保育のマナーと言葉』長島和代 編、わかば社

『保育所保育指針』『認定こども園教育保育要領』（他の講義で使用している場合それを用いる）

参考書：その都度、紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育実習 I (保育所) (E 2 4 3 1 0)	実 習	2	80	3	前 期	選 択	保 育 必 修	松尾寛子	7号館5階 研究室
保育現場からの学びを得る								単 独 担 当	
科目担当者	松尾寛子								

① 授業の概要・ねらい

保育所・幼保連携型認定こども園での実習を行い、乳幼児の発達や発育への理解を深め、保育所や幼保連携型認定こども園の機能等を実地の体験を通して理解するとともに、保育者の職務内容と役割を理解し、技術及び態度を身につけ、その任務と使命を自覚することを目的とする。既習の理論と、保育所や幼保連携型認定こども園での実践をつなぎ、課題をもって実習に臨むことにより、子どもを見る目や保育者の具体的な保育について理解を深めていく。

また、実際に保育の一部分を担当したりしながら、保育者の言葉かけや職務に対して総合的に理解・実践するための応用力を身につける。また、実習を通して今後の新しい学習目標を見つける契機をつくる。

② 学習の到達目標

- ・ 保育所や幼保連携型認定こども園の概要を理解する。
- ・ 乳幼児との関わりを通して、乳幼児への理解を深める。
- ・ 保育内容を理解し、実践を通して保育技術を習得する。
- ・ 保育計画、指導計画への考え方、立て方と、実践の必要性を学ぶ。
- ・ 保育所や幼保連携型認定こども園における保育全般における理解を深め、以後の学習への自己課題を明確にする。

③ 授業の内容・計画

3年次前期に2週間の実習を実施する。実習内容は、観察実習、参加実習、部分実習とする。子どもと活動をともにしながら、保育所や幼保連携型認定こども園の一日の生活の流れを理解し、クラスの保育を知る。子どもとの関わりを通して、育ちや個性に気付き、子どもの成長についての理解を深める。保育者の子どもへの関わり方や、保育内容の発展方法について実践的に学ぶ。保育者の指導の下で立案した指導計画に基づき、保育実践を試みることもある。日々の実習実施内容は、実習日誌に整理し記録するとともに、実習全体としての学びを自分のものにまとめ、次への課題を明確にする。

④ 授業時間外の学習

保育所や幼保連携型認定こども園の役割や、他の科目で学んだ子どもの成長過程についても理解を深めるとともに、保育現場で活用したい保育技術面（音・図・体なども含めて）の強化を積極的に求める。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	0%	50%

「平常点」：実習参加態度など、実習先からの評価

「その他」：実習日誌の提出等

⑥ 履修上の注意など

保育実習指導 I 授業内にて指導した事項を遵守し、真摯な態度で実習に臨むこと。保育士倫理綱領に基づいた行動を求める。

⑦ 教科書・参考書

教科書：保育実習指導 I と同様

参考書：随時紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育実習 I (社会福祉施設) (E 2 4 3 2 0)	実 習	2	80	3	後 期	選 択	保 育 必 修	橋本好市	7号館5階 研究室
保育士の専門性と施設の意義を理解								単 独 担 当	
科目担当者	橋本好市								

① 授業の概要・ねらい

実習施設における実際の業務へ直接参加することにより、施設の役割や職員の専門性を学ぶ。また児童・利用者に対する基礎的な理解と共に、専門的な関わり方、援助方法について、直接的な体験を通じて学ぶ。

社会福祉施設にボランティアやお手伝いとは異なり、保育士資格取得実習生として福祉施設に臨む。したがって、社会福祉に対する専門性や倫理などを習得しておく必要がある。また同時に社会人としての自覚や態度が求められる。その点を踏まえて理論的学びに加え、実体験に基づく貴重な体験学習の場となる。

② 学習の到達目標

社会福祉施設の現状と役割について理解し、利用者への援助の基礎的な能力を身につける。

③ 授業の内容・計画

- ・知的障害児・者施設（入・通所）のいずれかの施設における実習とする
- ・施設実習は3年後期2～3月に、10日間程度実施する
- ・期間中は施設の指導のもと実習を行い、日々の実習記録を提出する。
- ・実習期間中には、教員が巡回に訪れて学生・施設担当者と話し合いを行い、実習生に指導を行う。
- ・実習先からの評価及び実習事後指導に応じた対応を図る。

④ 授業時間外の学習

実習に関しては手続きが多くあるので、一つ一つを正確に理解し、準備しておく。社会的なマナーとはどのような事かについても理解をしておく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	0%	20%	80%

「製作物・実技など」：提出書類、実習日誌等への取り組み内容

「その他」：実習参加態度・成果など、実習先からの評価に基づく判断

⑥ 履修上の注意など

実習の性質上、実習先からの評価がウエイトを占める。そのため、追・再試等を行うことができない。再実習の場合は、次年度再履修として参加することとなる。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しない

参考書： 実習先からの指定図書等その都度紹介

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育実習指導 (E24370)	演習	1	30	3	前期	選択	幼教免必修 小教免必修	多田琴子	7号館5階 研究室他
教員免許の重み・実習者としての自覚								複数担当	
科目担当者	多田琴子、牛頭哲宏、山下敦子								

① 授業の概要・ねらい

教育実習の意義や目的を整理し、実習特有の学び方を理解し、教育実習への意欲を高め、自己課題を発見し設定する。設定した教育実習における「自己課題に対するアプローチ」と、「教員免許の重みの把握と実習者としての自覚」を図る。

実習先の教育理念や教育方法を様々な方法で調べ、教育対象者やその背景を具体的にイメージして教材研究を行い、実習に向けた万全の準備を行う。

② 学習の到達目標

- ・教育実習に臨む自覚並びに教育者となる使命感と職務の全体を学習する。
- ・学生自身の職業選択に向けた教育実習の位置づけと自己課題に対するアプローチを明確にする。
- ・実習者としての自覚と、教育者という職業の任務や使命等、職業倫理をもつ。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション 教育実習の内容、意義、心得、態度	(担当者：牛頭・山下・多田)
第2回	小学校の一日・職務内容など (担当者：牛頭・山下)	実習ハンドブック解説 (担当者：多田)
第3回	子ども達の発達の様子とその指導 (低学年)	幼稚園の一日・職務内容
第4回	子ども達の発達の様子とその指導 (中学年)	実習生プロフィール作成
第5回	子ども達の発達の様子とその指導 (高学年)	実習園把握
第6回	特別支援教育と発達障害	保育展開の技術－教材研究 (生活)－
第7回	授業展開の技術－各教科の教材研究－	保育展開の技術－教材研究 (遊び)－
第8回	授業展開の技術－各教科の学習指導案－	保育展開の技術－教材研究 (毎日行う活動)－
第9回	授業展開の技術－各教科の授業の実際－	実習生に求めるもの－現場教員からの講話－
第10回	模擬授業と授業記録の取り方－板書－	保育展開の技術－保育指導案 (部分)－
第11回	模擬授業と授業記録の取り方－発問と指示－	保育展開の技術－保育指導案 (設定)－
第12回	模擬授業と授業記録の取り方－評価－	保育展開の技術－保育展開－
第13回	実習日誌の記入例	実習日誌の記入例
第14回	実習日誌の相互点検	実習日誌の相互点検
第15回	提出書類・提出期日確認、挨拶文・礼状の書き方	(担当者：牛頭・山下・多田)

④ 授業時間外の学習

- ・教職、学校教育の意義等について、これまでの実習やインターシップ等からまとめ、自己課題を析出しておく。
- ・多様な学習及び保育形態について調べ、実習実践に活かせるよう、情報収集をする。
- ・学びを効果的に進めるための基礎となる集団作り (学級経営) のあり方を、これまでの実習やインターシップ等からまとめしておく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	0%	50%

「定期試験」：なし

「平常点」：教育実習に臨む意識と態度

「その他」：レポート・関係書類内容・提出期日

⑥ 履修上の注意など

- ・教育実習指導は、小学校又は幼稚園実習に向けての基本的な事項を学習するものである。

⑦ 教科書・参考書

教科書：小学校実習『小学校教育実習ガイド』石橋裕子・梅澤実・林幸範編著 萌文書林

幼稚園実習『考え、実践する教育・保育実習』上野恭裕・大橋喜美子・浦田雅夫編著 保育出版社

参考書：適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育実習 (E24380)	実習	4	120	3	後期	選択	幼教免必修 小教免必修	多田琴子	7号館5階 研究室他
教育理論を踏まえた実践の具現化								複数担当	
科目担当者	多田琴子、牛頭哲宏、山下敦子								

① 授業の概要・ねらい

教育の実際を体験学習する。教育理論と教育実践の統合を図り、実践力を養うことを目的とする。教育者としての使命感と自覚をもって資質向上を目指し、児童又は幼児の前に立つにふさわしい教師像を把握する。さらに教育の実際から、実践的技術と自己評価力及び教員としての職務全般を身につけることをねらいとする。特に今回の実習の場では、指導案を立案し、教育全般の流れを把握し、教育の内容と方法の総括的な把握と実践を行う。

② 学習の到達目標

- 小学校教育又は幼稚園教育の概要を理解し、今まで学習した教職・教科、保育・領域に関する科目の実践と統合を図る。
- 教育対象との関わりを通して、子ども（幼児・児童）理解を深める。
- 教育者としての専門的知識と基本的な実践的指導技術を習得する。
- 教育者という職業の任務や使命を体得する。

③ 授業の内容・計画

第1回	実習直前指導 教育実習内容・意義・心得・態度等、最終確認	(担当者：牛頭・山下・多田)
第2回)	小学校又は幼稚園において教育実習（4週間）	(担当者：牛頭・山下・多田)
第19回		
第20回	実習事後指導 教育実習の振り返りとまとめ	(担当者：牛頭・山下・多田)

※第2回～第19回の教育実習期間は10月を基本とする。

④ 授業時間外の学習

- ・教科書を事前熟読し自分の考えや疑問点などを持てるようにしておく。
- ・実習学校園の情報を収集し、教育理念や学習指導法・保育指導法の理解を深めておく。
- ・配属学級が決まった時点で、研究授業・研究保育についての事前準備を行うこと。
- ・実習最終日に行うお別れ会のプログラムや作品作りについても計画に準備する（幼稚園実習のみ）こと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	0%	50%

「定期試験」：なし

「平常点」：実習参加態度、実習先評価等

「その他」：実習日誌・レポート

⑥ 履修上の注意など

- ・実習期間は、学校園の教職員に準じ、綱紀粛正につとめ、職務規程や教職員としての倫理観をもつ。
- ・実習学校園の教育方針に沿い、「実習させていただく」という謙虚で真摯な気持ちと態度で臨む。
- ・教育業務に直接つながらない仕事や役割でも積極的に取り組む姿勢をもつ。
- ・原則として遅刻・欠席は認めない。

⑦ 教科書・参考書

教科書：小学校実習『小学校教育実習ガイド』石橋裕子・梅澤実・林幸範編著 萌文書林

幼稚園実習『考え、実践する教育・保育実習』上野恭裕・大橋喜美子・浦田雅夫編著 保育出版社

参考書：適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
玩具と文化 (E25000)	講義	2	30	3	後期	選択必修	保育選択必修	尾崎織女 単独担当	7号館2階 非常勤講師 控室
科目担当者	尾崎織女*								

① 授業の概要・ねらい

「玩具」は、人間の心身の成長において大切な「遊び」をより楽しく発展させてくれるものである。

この授業では、古代、中世、近世、近代と日本の玩具の歴史を概観し、文献の記述や実物に触れることによって、また世界の玩具との比較を通して、色や形、素材、仕掛け、玩具のもつ意味を考察し、玩具にこめられた日本人のこども観や自然観、美意識などをさぐる。

② 学習の到達目標

- ・玩具の歴史や季節の行事に関わる子ども文化について理解を深め、保育や教育の現場で、子どもたちの発達課題に玩具をどのように生かしていくかについての視点を獲得する。
- ・商品玩具が氾濫する中で忘れられがちな“作って遊ぶ楽しさ”を体験し、玩具にこめられた知恵と工夫を考察する。

③ 授業の内容・計画

第1回	玩具学事始め ～ Toys with Nine Lives (おもちゃは死なない) ～
第2回	玩具のはじまり ～呪具から玩具へ～
第3回	文献にみる日本の玩具の姿 ～古代から中世～
第4回	近世庶民が愛した玩具 ～『江都二色』にみる「手あそび」の特徴～
第5回	『江都二色』のおもちゃを作る・その1 (実技)
第6回	『江都二色』のおもちゃを作る・その2 (実技)
第7回	近世の玩具と子育ての習俗 ～病魔を払い健康を祈る玩具～
第8回	節句行事と子ども文化・その1～桃の節句～
第9回	節句行事と子ども文化・その2～端午の節句～
第10回	節句行事と子ども文化・その2～七夕～
第11回	日本のクリスマスの歴史とおもちゃ文化
第12回	近代玩具の百年・その1 ～明治・大正時代の商品玩具～
第13回	近代玩具の百年・その2 ～昭和時代の商品玩具～
第14回	世界のおもちゃとの比較を通して・その1～コマ・ヨーヨー・けん玉～
第15回	世界のおもちゃとの比較を通して・その2～人形・発音玩具・ままごと道具～

④ 授業時間外の学習

自らの子ども時代、かたわらにあった玩具や夢中になった遊びについて、その体験をふり返っておくこと。また、現代社会に流通する玩具について関心を持ち、よく観察しておくこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
40%	40%	20%	0%

「定期試験」：筆記試験（レポート）

「平常点」：毎回、授業内容に関するミニレポートを提出

「製作物・実技など」：製作物（伝承玩具）の提出

⑥ 履修上の注意など

授業は可能な限り対話形式で行いたいのので積極的に意見を述べて下さい。配布資料にはきちんと目を通し、大切に保管して下さい。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『日本と世界 おもしろ玩具図鑑』／日本玩具博物館編（井上重義・尾崎織女著）／神戸新聞総合出版センター刊

参考書： 各回、適宜資料を配布し、また参考図書を紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもの歯と健康 (E25040)	講義	2	30	3	後期	選択必修	保育選択必修	吉田幸恵	5号館3階 研究室他
輝く白い歯は健康の証								複数担当	
科目担当者	吉田幸恵、御代出三津子								

① 授業の概要・ねらい

乳幼児期や学童期は咀嚼や嚥下・発音といった口腔機能の獲得・発達の時期であり、正常な歯の萌出はそれら口腔機能の発達に重要な役割を果たす。本講義では咀嚼や嚥下の仕組みを学び、口腔機能における歯の重要性を理解する。さらにう蝕や歯周病などの歯科疾患の原因や病態および予防方法を学習し、こどもの口腔機能の発達を支援する保育者・教員の関わり方を学ぶ。加えて歯科保健健康教育の実際を学ぶ。

② 学習の到達目標

- 1) 咀嚼や嚥下などの口腔機能と歯の役割について説明ができる。
- 2) こどもの歯科疾患やその他の異常を発見し対応できる能力を身に付ける。
- 3) 歯科疾患の予防を実践する技術を身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション 歯の健康についての知識とは	(担当者：吉田)
第2回	咀嚼と嚥下の仕組みの理解	(担当者：吉田)
第3回	咀嚼と嚥下の獲得と発達について	(担当者：吉田)
第4回	学校歯科検診表の見方 - 歯式について -	(担当者：吉田)
第5回	学校歯科検診表の見方 - 歯の状態について -	(担当者：吉田)
第6回	う蝕の原因と病態について	(担当者：吉田)
第7回	学校歯科検診表の見方 - 歯列・咬合・顎関節について -	(担当者：吉田)
第8回	学校歯科検診表の見方 - 歯垢・歯肉の状態について -	(担当者：吉田)
第9回	学校歯科検診表の見方 - その他の疾病および異常について -	(担当者：吉田)
第10回	歯科疾患の予防方法について	(担当者：吉田)
第11回	歯と口の健康教育の指導案作り原稿作成	(担当者：御代出)
第12回	歯と口の健康教育の指導案作り原稿作成	(担当者：御代出)
第13回	歯と口の健康教育の指導案作り練習	(担当者：御代出)
第14回	指導案の発表前半	(担当者：御代出)
第15回	指導案の発表後半・まとめ	(担当者：御代出)

④ 授業時間外の学習

配付する資料や紹介する参考書等で復習をすること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	10%	30%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：授業態度

「製作物・実技など」：指導案の原稿、媒体、発表態度

⑥ 履修上の注意など

自らの口腔に興味を持って授業に臨んで下さい。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない

参考書：適宜紹介する

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもの障がいと医療 (E25050)	講義	2	30	3	後期	選択必修	保育選択必修	辻井善弘	7号館2階 非常勤講師 控室
障がいを生活と医療から知る！								複数担当	
科目担当者	辻井善弘、垣下貞子								

① 授業の概要・ねらい

近年、保育所や児童養護施設では、障がいを持つ子どもの数は増加している。保育実践において、子どもの日常でみられる疾病及び障がいについて学ぶとともに、発達障がいに関する生活上の困難への対処方法と取り組みを知る。

② 学習の到達目標

- ・子どもの障がいや疾病の基礎知識を習得する。
- ・保育中に起きる様々な事故への対処方法と、疾病を予防するための取り組みが分かる。
- ・発達障がいについて具体的に学び、保育者としてその支援方法を習得する。

③ 授業の内容・計画

第1回	障がいを持つ子どもの暮らし	(担当者：辻井善弘)
第2回	障がいと医療（健康とはどういうことか）	(担当者：垣下貞子)
第3回	障がいの理解（種類と定義）	(担当者：辻井善弘)
第4回	子どもの発育と発達 ①（疾病と適切な対応）	(担当者：垣下貞子)
第5回	子どもの発育と発達 ②（外傷と適切な対応）	(担当者：垣下貞子)
第6回	発達障がい（概念の分類と整理）	(担当者：辻井善弘)
第7回	発達障がいの種類 ①（広汎性発達障）	(担当者：辻井善弘)
第8回	発達障がいの種類 ②（ADHDとLD）	(担当者：辻井善弘)
第9回	保育中に起きる事故への対応とその予防	(担当者：垣下貞子)
第10回	発達障がい児への支援方法 ①（行動療法）	(担当者：辻井善弘)
第11回	発達障がい児への支援方法 ②（構造化）	(担当者：辻井善弘)
第12回	発達障がい児への支援方法 ③（シンボルコミュニケーション）	(担当者：辻井善弘)
第13回	小児心因性疾患（精神と健康）	(担当者：垣下貞子)
第14回	保育者が持つ支援の価値	(担当者：辻井善弘)
第15回	補足まとめ・理解度の確認	(担当者：辻井善弘)

④ 授業時間外の学習

各自がこれまで罹患した疾病について調べておくことで、子どもの疾病について身近な意識にしておいてください。障がい児者については、保育実践のみならず皆さんの身近で生活しています。興味をもって受講してください。また、ノート学習をお勧めします。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	50%	0%	0%

「定期試験」：レポート

「平常点」：受講中の態度

⑥ 履修上の注意など

起こりうる疾病や障がいについて興味を持ち受講してください。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しません。

参考書：『「子どもの障がいと医療」 みんなのねがい編集部 全国障害者問題研究会出版部』を中心にその他複数使用し、随時紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
施設運営・防災と危機管理 (E25080)	講義	2	30	3	前期	選択必修	—	辻井善弘	7号館2階 非常勤講師 控室
ソーシャルアドミニストレーションを学ぶ!								単独担当	
科目担当者	辻井善弘								

① 授業の概要・ねらい

大きな震災を経験した神戸市に位置する神戸常盤大学の学生として、様々な災害に関する知識を学ぶ。また、施設運営における危機管理をリスクマネジメントの観点から学ぶことにより、実践現場に入ったときに危機に対する感受性を高めることを目的とする。

② 学習の到達目標

- ・災害の知識及び配慮を習得する。
- ・保育者として子どもたちに安全な保育を提供するため、リスクマネジメントを理解する。
- ・保育者として危険に対する気づきの感性を高める。
- ・KYT（危険・予知・訓練）技法を習得し、保育実践での導入することで施設運営の活性化に寄与する。

③ 授業の内容・計画

第1回	施設運営・防災と危機管理の意義・目的	(担当者：辻井善弘)
第2回	歴史から見る日本の災害事情	(担当者：辻井善弘)
第3回	災害対策基本法から学ぶ	(担当者：辻井善弘)
第4回	地震の知識と備え	(担当者：辻井善弘)
第5回	災害対応シミュレーション ①（導入・トレーニング）	(担当者：辻井善弘)
第6回	災害対応シミュレーション ②（グループワーク）	(担当者：辻井善弘)
第7回	安全管理 ①（役割と職務）	(担当者：辻井善弘)
第8回	安全管理 ②（活動と対策）	(担当者：辻井善弘)
第9回	リスクマネジメントの導入 ①（目的と概要）	(担当者：辻井善弘)
第10回	リスクマネジメントの導入 ②（リスクアセスメント）	(担当者：辻井善弘)
第11回	施設運営におけるKYT ①（理論と方法）	(担当者：辻井善弘)
第12回	施設運営におけるKYT ②（個人訓練）	(担当者：辻井善弘)
第13回	施設運営におけるKYT ③（集団訓練）	(担当者：辻井善弘)
第14回	施設運営におけるKYT ④（学内に潜む危険）	(担当者：辻井善弘)
第15回	授業内容の補足とまとめ	(担当者：辻井善弘)

④ 授業時間外の学習

保育実践及び施設運営における危機管理は、自身の生活の中に潜在する危険への意識から始まる。そこで、各自が生活の中で感じる危険を意識し、ノート等に文字化しておく。また授業において発表の機会を設け、他者との共有を図る。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
40%	30%	30%	0%

「定期試験」：レポート

「平常点」：受講中の態度

「製作物・実技など」：グループワークの取り組み姿勢と発表

⑥ 履修上の注意など

基本は講義形式で進めるが、随時グループワークを行うことで危機管理についての意識共有を図ります。積極的な姿勢を求めます。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しません。

参考書：随時紹介いたします。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
リトミック I (E25090)	演習	1	30	3	後期	選択必修	—	古木登紀子 単独担当	7号館2階 非常勤講師 控室
科目担当者	古木登紀子								

① 授業の概要・ねらい

エミール・ジャック＝ダルクローズが創設した、音楽基礎教育の具体的な実践教育である『リトミック』の技術的習得と指導法学習を行う。リトミックを指導する上で基礎的なリズム・ピアノ演奏法・3歳児の指導法を習得する。

② 学習の到達目標

- ・リズムを表現する基礎的な動きができるようになること。
- ・リズム指導における基礎的なピアノ演奏法ができること。
- ・3歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できること。

③ 授業の内容・計画

第1回	リトミックの指導と説明
第2回	3歳児1学期の指導法
第3回	3歳児1学期のティーチング
第4回	3歳児1学期の実践およびピアノ演奏法(前)
第5回	3歳児1学期の実践およびピアノ演奏法(後)
第6回	3歳児2学期の指導法
第7回	3歳児2学期のティーチング
第8回	3歳児2学期の実践およびピアノ演奏法(前)
第9回	3歳児2学期の実践およびピアノ演奏法(後)
第10回	*園児とリトミック演習
第11回	3歳児3学期の指導法
第12回	*学生同士での指導案実習
第13回	3歳児3学期のティーチング
第14回	3歳児3学期の実践およびピアノ演奏法
第15回	まとめ

*園児とリトミック演習と学生同士での指導案実習は、回が変わることもあります。

④ 授業時間外の学習

授業前 教科書に記載されている指導におけるピアノ課題(譜例)を各自練習をしておくこと。

授業後 授業内でしたピアノ課題、リズム運動、活動を復習しておく。実習など実践できる時に積極的に取り入れること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	40%	0%	0%

「定期試験」：実技試験 リトミック研究センターによる「幼稚園・保育園における指導者資格2級」と兼ねています。

「平常点」：授業参加・授業態度

⑥ 履修上の注意など

身体を動かす授業です。動きやすい服装で、裸足または底の薄いバレエシューズや室内履きなどを用意して出席してください。B5サイズのファイルを準備してください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：「幼稚園・保育園のためのリトミック 3歳児」リトミック研究センター(1990)

リトミック教具：カラーボード、スティック、練習用CDなど。

プリント、楽譜：適宜配布する

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教科指導法特論 I (E25140)	講義	2	30	3	後期	選択必修	—	國崎大恩	7号館5階 研究室他
実践的指導力の向上にむけて								複数担当	
科目担当者	國崎大恩、牛頭哲宏、山下敦子								

① 授業の概要・ねらい

本授業のねらいは、講義や模擬授業等を通して、小学校教員として身につけておくべき最低限の教科指導力を養成することにある。したがって、小学校教員を目指す者は積極的な姿勢で本授業に臨むことを期待する。

なお、本授業は教職支援センターと連携しておこない、小学校教員を目指す者の総合的な資質・能力の向上を図る。

② 学習の到達目標

本授業の目標は、小学校教員に必要な最低限の教科指導力を身につけることにある。具体的な到達目標は以下の通りである。

- (1) 国語・算数・理科・社会の内容について十分に理解している。
- (2) 国語・算数・理科・社会の内容を他者に分かりやすく説明することができる。
- (3) 国語・算数・理科・社会それぞれの基本的な授業方法を理解している。
- (4) 国語・算数・理科・社会それぞれの授業方法を工夫することができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	イントロダクション-教員に求められる資質・能力の自己分析	(担当者：國崎)
第2回	教科内容(社会)の理解①-小学校中学年	(担当者：國崎)
第3回	教科内容(社会)の理解②-小学校中・高学年	(担当者：國崎)
第4回	教科内容(社会)の理解③-小学校高学年	(担当者：國崎)
第5回	教科内容(算数)の理解①-小学校低学年	(担当者：國崎)
第6回	教科内容(算数)の理解②-小学校中学年	(担当者：國崎)
第7回	教科内容(算数)の理解③-小学校高学年	(担当者：國崎)
第8回	教科内容(理科)の理解①-小学校中学年	(担当者：國崎)
第9回	教科内容(理科)の理解②-小学校中・高学年	(担当者：國崎)
第10回	教科内容(理科)の理解③-小学校高学年	(担当者：國崎)
第11回	教科指導法の理解と実践①-授業のい・ろ・は	(担当者：牛頭・山下)
第12回	教科指導法の理解と実践②-授業の導入・展開・まとめ	(担当者：牛頭・山下)
第13回	教科指導法の理解と実践③-子どもを引きつける授業	(担当者：牛頭・山下)
第14回	教科指導法の理解と実践④-授業と「主体的・対話的で深い学び」	(担当者：牛頭・山下)
第15回	まとめ-教科指導力に関する自己分析	(担当者：國崎)

④ 授業時間外の学習

教科内容の理解については問題演習などを自主的におこない、自分なりに理解を深めておくこと。

教科指導法の理解と実践についてはしっかりと復習をおこない、授業における基本的な技術を確実に身につけておくこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
20%	40%	40%	0%

「定期試験」：教員に求められる資質・能力がどの程度身につけているのかを試験により評価する。

「平常点」：授業中に行う小テスト、授業での態度を総合的に評価する。

「製作物・実技など」：模擬授業やグループワークなどでの活動を総合的に評価する。

⑥ 履修上の注意など

特別な理由がない限り、本授業の欠席は小学校教員になる意志がないものとみなします。欠席の際は、事前に必ず授業担当の教員へ連絡すること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：授業中にプリントを配布します。

参考書：適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育・教育課題研究Ⅱ (E25210)	演習	1	30	3	前期	選択	—	松尾寛子	7号館5階 研究室他
保育者・教員としての資質向上のために								複数担当	
科目担当者	松尾寛子、山下敦子、多田琴子、橋本好市、中田尚美、笹井隆邦、脇本聡美、國崎大恩、大城亜水、高松邦彦								

① 授業の概要・ねらい

既習の知識・技術を応用しながら、保育・教育に携わる者として課題に立ち向かう力を培う。

② 学習の到達目標

保育・教育現場で役立つ知識と技術について、細部にも目を向け習得する。

園外保育の行程表、指導案の作成、授業研究など、遊びや各教科における配慮等を考え身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション～保育者としての倫理を踏まえて (担当者:松尾)	オリエンテーション、教職につくために必要な知識・技能とは (担当者:山下)
第2回	保育の歴史をたどり現代の保育に繋ぐ(担当者:中田)	社会科「我が国の国土」の教材研究 (担当者:國崎)
第3回	保育者に必要な一般教養(理系)の確認(数的推理・判断推理・資料解釈) (担当者:多田・大城)	社会科「我が国の国土」の指導方法 (担当者:國崎)
第4回	保育者に必要な一般教養(人文・社会系)の確認(文章理解・社会・人文・自然科学) (担当者:中田)	社会科「我が国の歴史」の教材研究 (担当者:國崎)
第5回	保育者に必要な専門教養の確認(保育・教育原理・児童家庭福祉・保育の心理学・子どもの保健・食と栄養・乳児・障害児保育、他) (担当者:笹井)	社会科「我が国の歴史」の教材研究と指導方法 (担当者:國崎)
第6回	保育者に必要な文章理解・作成能力の確認(論作文) (担当者:大城)	外国語「聞くこと」「話すこと」の教材研究と指導方法 (担当者:脇本)
第7回	保育現場における課外活動事例からの課題発見 【①水族館・動物園引率事例】(担当者:松尾・多田)	外国語「読むこと」「書くこと」の教材研究と指導方法 (担当者:脇本)
第8回	保育現場における課外活動事例からの課題発見 【②公園引率事例】(担当者:松尾・多田)	算数科「A数と計算」の教材研究 (担当者:高松)
第9回	保育現場における課外活動事例からの課題発見 【③学習型施設引率事例】(担当者:松尾・多田)	算数科「A数と計算」の指導方法 (担当者:高松)
第10回	保育現場における課外活動事例からの課題発見 【④交通機関利用事例】(担当者:松尾・多田)	算数科「B量と測定」の教材研究 (担当者:高松)
第11回	課外活動事例を踏まえ保育者としての留意点・精査と振り返り (担当者:松尾・多田)	算数科「B量と測定」の指導方法 (担当者:高松)
第12回	保育者が知っておきたい季節毎の催事(年中行事) (担当者:中田・多田)	算数科「C図形」の教材研究 (担当者:高松)
第13回	保育者が知っておきたい専門用語(標記・漢字) (担当者:中田・松尾)	算数科「C図形」の指導方法 (担当者:高松)
第14回	保育者に必要な保育・福祉関係法制度(担当者:橋本)	算数科「D数量関係」の教材研究 (担当者:高松)
第15回	保育者としての倫理と指針・要領(担当者:多田・松尾)	算数科「D数量関係」の指導方法、学びのふりかえり (担当者:高松)

※保育者養成コース第3回～第6回については、模擬試験によって知識レベルを確認するため、模擬試験受験を必須とする。

④ 授業時間外の学習

授業時間内に指示する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	50%	0%

「定期試験」：実施しない

「平常点」：授業中の提出物、受講態度等

「制作物・実技など」：課題等

⑥ 履修上の注意など

- ・ 保育者養成コースの履修者は、第3回～第6回は模擬試験によって知識レベルを確認するため、実務教育出版保育士就職模擬試験受験を必須とする（実費負担は各自）。模擬試験日程：5月上旬（大学にて実施）、模擬試験受験料：3200円程度（平成28年度実績）
- ・ 教員養成コースの学生は、毎時間の振り返りのミニテスト等を行う。
- ・ 授業の復習を必ず行い、知識・技能の定着に努めること。
- ・ 保育者や教員をめざす者として、ワンランク上を目指す講座のため、真摯な態度で授業等に臨むこと。
- ・ 無断欠席は認めない。
- ・ 追再試験は行わない。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しない。

参考書： 資料等は随時配付または紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育・教育課題研究Ⅲ (E25220)	演習	1	30	3	後期	選択	—	山下敦子	7号館5階 研究室他
保育者・教育者としての資質を高める								複数担当	
科目担当者	山下敦子、松尾寛子、多田琴子、橋本好市、中田尚美、笹井隆邦、戸川晃子、大城亜水、牛頭哲宏、脇本聡美、國崎大恩、高松邦彦								

① 授業の概要・ねらい

- ・保育・教育に携わる者に必要な知識・技能を習得し、実践力を養う。
- ・保育・教育に関わる事象、時事問題等への意識を高め、自己の実践に反映する思考力、判断力、表現力等を養う。

② 学習の到達目標

- ・保育・教育に必要な知識・技能を習得する。
- ・保育・教育実践に必要な思考力、判断力、表現力を身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション～保育者としての自覚を高めるために (担当者：松尾)	オリエンテーション～教職に必要な言語力を身につける (担当者：山下)
第2回	保育者に必要な自然科学の習得（数学系） (担当者：笹井)	理科「A物質・エネルギー」の教材研究 (担当者：高松)
第3回	保育者に必要な自然科学の習得（理科系） (担当者：笹井)	理科「A物質・エネルギー」の指導方法 (担当者：高松)
第4回	保育者に必要な人文科学の習得 (担当者：大城)	理科「B生命と地球」の教材研究 (担当者：高松)
第5回	保育者に必要な社会科学の習得 (担当者：大城)	理科「B生命と地球」の指導方法 (担当者：高松)
第6回	保育者に必要な音楽的要素の習得（器楽演奏・表現） (担当者：戸川)	理科「観察・実験」の教材研究と指導方法 (担当者：高松)
第7回	保育者に必要な音楽的要素の習得（表現遊び） (担当者：戸川)	社会科「国際社会の在り方と公民的資質」の教材研究 (担当者：國崎)
第8回	保育者に必要な英語基礎知識の習得 (担当者：脇本)	社会科「国際社会の在り方と公民的資質」の指導方法 (担当者：國崎)
第9回	保育者に必要な英文読解能力の習得 (担当者：脇本)	国語科「読むこと」の教材研究と指導方法 (担当者：牛頭)
第10回	保育者に必要な文章表現（論作文）の基本 (担当者：中田・大城)	国語科「伝統的な言語文化」の教材研究と指導方法 (担当者：山下)
第11回	保育者に必要な文章表現（論作文）の実践・校正 (担当者：中田・大城)	教職をめぐる今日的な課題について考える (担当者：山下)
第12回	保育者に求められる経済・社会保障・社会政策に関する動向と知識 (担当者：大城)	教職をめぐる今日的な課題について教育論文を書く (担当者：牛頭、山下)
第13回	保育者を目指した面接の基本と実践 (担当者：多田・橋本・松尾・中田・大城)	教職をめぐる今日的な課題についてディスカッションする (担当者：牛頭、山下)
第14回	保育者になるための自己分析「自身の売り（ストレングス）」と自己覚知 (担当者：多田・松尾・大城)	教職に必要な法規について知る (担当者：山下)
第15回	保育者として求められる資質について振り返り (担当者：多田・松尾・大城)	学びの振り返り、教職をめざすための計画立案 (担当者：山下)

④ 授業時間外の学習

授業時間内に指示する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	50%	0%

「定期試験」：なし

「平常点」：授業中の提出物、受講態度等

「製作物・実技など」：課題

⑥ 履修上の注意など

- ・教員養成コースの学生は、毎時間振り返りのミニテスト等を行う
- ・授業の復習を必ず行い、知識・技能の定着に努めること
- ・保育者や教員をめざす者として、ワンランク上を目指す講座のため、真摯な態度で授業等に臨むこと。
- ・無断欠席は認めない。
- ・追再試験は行わない。

⑦ 教科書・参考書

教科書： なし

参考書： 適宜、配布または紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
卒業研究 I (E 2 5 2 5 0)	演 習	1	30	3	前 期	必 修	—	大森雅人	7 号館 5 階 研究室他
研究的態度を育てる								複数担当	
科目担当者	大森雅人、E 科専任（講師以上）								

① 授業の概要・ねらい

卒業研究 I～IV は、研究的態度をもって二年間自身が関心をもつテーマに取り組み、主体的に自身の専門性と資質を高め、またさまざまな課題に対応する力を育成することをねらいとする。原則として、I～IV を通じて同じ指導教員の指導を受けることとする。

その中で、卒業研究 I では、指導教員の専門性に基づいて、ゼミ形式での学びを重ねながら、研究課題を設定することや設定した課題の研究方法を定めることについての理解を深めていく。

② 学習の到達目標

資料や他者の意見を検討した上で、研究課題の設定と研究方法を定めることができるようになること。

③ 授業の内容・計画

各教員のゼミテーマ

- ・大森：保育・教育の方法を探究する
- ・多田：「実践の知と学問の知」の探究～子どもの前に立つにふさわしい保育者を目指す～
- ・瀬川：音楽的表現力を高めたい人へ～ピアノ作品を通して～
- ・藤本：美術表現の研究
- ・中田：子育て支援について考える
- ・牛頭：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（1）
- ・橋本：社会福祉をさらに深く学びたい君へ！～社会福祉専門職としての知識・資質向上にむけて～
- ・光成：保育・教育方法について考える
- ・笹井：自然環境調査
- ・山下：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（2）
- ・松尾：子育て支援・障がいのある子どもの保育について
- ・脇本：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（3）
- ・柳原：人間発達の理解と研究
- ・近藤：運動指導・援助について考える
- ・戸川：音楽表現についての研究
- ・國崎：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（4）
- ・大城：幼児教育の経済的効果について

④ 授業時間外の学習

- ・各指導教員と相談し、各自必要な学習を行うこと。
- ・参考文献などの資料について、図書館やインターネット等で積極的に収集すること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	0%	50%

「平常点」：研究に取り組む姿勢などを総合的に評価する。

「その他」：設定した研究テーマや定めた研究方法の内容を総合的に評価する。

⑥ 履修上の注意など

この科目が設定されている目的から、ゼミに参加する際は受け身ではなく主体的であることが求められる。

⑦ 教科書・参考書

教科書：各ゼミにおいて適宜紹介する。

参考書：各ゼミにおいて適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
卒業研究Ⅱ (E25260)	演 習	1	30	3	後 期	必 修	—	大森雅人	7号館5階 研究室他
研究の楽しさを知る								複数担当	
科目担当者	大森雅人、E科専任（講師以上）								

① 授業の概要・ねらい

卒業研究Ⅰ～Ⅳは、研究的態度をもって二年間自身が関心をもつテーマに取り組み、主体的に自身の専門性と資質を高め、またさまざまな課題に対応する力を育成することをねらいとする。原則として、Ⅰ～Ⅳを通じて同じ指導教員の指導を受けることとする。

その中で、卒業研究Ⅱでは、指導教員の専門性に基づいて、ゼミ形式での学びを重ねながら、Ⅰで設定した研究課題とその研究方法により研究を行い、成果を論文にまとめて提出する。なお、この段階での研究は、4年生で履修する卒業研究Ⅲ～Ⅳで取り組む研究の基礎となるものであり、提出する論文は1600字程度とする。

② 学習の到達目標

資料や他者の意見を参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を進められるようになること。

③ 授業の内容・計画

各教員のゼミテーマ

- ・大森：保育・教育の方法を探究する
- ・多田：「実践の知と学問の知」の探究～子どもの前に立つにふさわしい保育者を目指す～
- ・瀬川：音楽的表現力を高めたい人へ～ピアノ作品を通して～
- ・藤本：美術表現の研究
- ・中田：子育て支援について考える
- ・牛頭：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（１）
- ・橋本：社会福祉をさらに深く学びたい君へ！～社会福祉専門職としての知識・資質向上にむけて～
- ・光成：保育・教育方法について考える
- ・笹井：自然環境調査
- ・山下：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（２）
- ・松尾：子育て支援・障がいのある子どもの保育について
- ・脇本：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（３）
- ・柳原：人間発達の理解と研究
- ・近藤：運動指導・援助について考える
- ・戸川：音楽表現についての研究
- ・國崎：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（４）
- ・大城：幼児教育の経済的効果について

④ 授業時間外の学習

- ・各指導教員と相談し、各自必要な学習を行うこと。
- ・参考文献などの資料について、図書館やインターネット等で積極的に収集すること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	50%	0%

「平常点」：研究に取り組む姿勢などを総合的に評価する。

「製作物・実技など」：論文、作品等の研究成果を評価する。

⑥ 履修上の注意など

取り組んだ成果については、論文にまとめて提出する。なお、作品の場合はその作品とその概要を提出する。ともに、字数は1600字程度とする。

⑦ 教科書・参考書

教科書：各ゼミにおいて適宜紹介する。

参考書：各ゼミにおいて適宜紹介する。

MEMO

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
いのちの理解 (E11000)	講義	2	30	4	前期	必修	保育選択必修	光成研一郎	7号館5階 研究室他
こどもたちにいのちの大切さを伝えるために								複数担当	
科目担当者	光成研一郎、濱田道夫、足立了平、上田國寛、関本雅子*								

① 授業の概要・ねらい

生命（いのち）は地球46億年の歴史の中で奇跡的に生み出された分子の集まりである。そのいのちがどのようなものか、いのちがなぜ大切かについては、広く理解されているとは言い難い。事実、国際的な争いの火種は消えず、わが国の教育現場においても近年虐待やいじめ、自殺などの問題が噴出し、いのち軽視の風潮が蔓延している。本講義では、医学的見地から「いのち」と「いのちの営み」に関する科学的知識を与えると同時に、倫理的・教育的見地からこどもたちにいのちの大切さと生きる意味をどのように伝えていくことができるかを考える。

② 学習の到達目標

医学的・倫理的・教育的見地から「いのち」について理解を深め、教員・保育者としてのいのちの大切さと生きる意味について理解し、こどもたちに伝える力を身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション 生と死について	(担当者：光成)
第2回	戦争地域の子どものいのち	(担当者：光成)
第3回	いのちの共生と持続可能な社会①	(担当者：濱田)
第4回	いのちの共生と持続可能な社会②	(担当者：濱田)
第5回	いのちの共生と持続可能な社会③	(担当者：濱田)
第6回	災害といのち	(担当者：足立)
第7回	健康格差と経済格差	(担当者：足立)
第8回	いのちのはじまり— いのちを育んだ十の奇跡 —	(担当者：上田)
第9回	病児保育と子どものいのち	(担当者：光成、ゲストスピーカー)
第10回	終末医療と緩和ケアについて	(担当者：関本)
第11回	死について考える	(担当者：関本)
第12回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために—教育内容の検討—	(担当者：光成)
第13回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために—教育方法の検討—	(担当者：光成)
第14回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために—教育実践の検討—	(担当者：光成)
第15回	補足とまとめ	(担当者：光成)

④ 授業時間外の学習

講義終了後に適宜課題を提示する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	50%	0%	0%

「定期試験」：レポート試験

「平常点」：授業に臨む態度、課題の提出状況などを総合的に評価する。

⑥ 履修上の注意など

課題提出の期限は厳守すること。期限を過ぎた場合は受理しない。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない。

参考書：適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こころの理解 (E11020)	講義	2	30	4	前期	選択必修	—	柳原利佳子	7号館5階 研究室
これも心理学なの？								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

① 授業の概要・ねらい

人は日常生活の中で、いろいろな「心」の働きや状態をあらわしている。心理学は目に見えない人間の心やその結果として表れる行動を、科学的方法を用いて、論理的に理解することを主とする学問である。本講義では、知覚、学習、人格、社会、健康などの広範囲に及ぶ心理学の領域からトピックスを扱い、人間の心の働きや状態、行動の仕組みや行動の予測、制御のメカニズムなどに関する基礎的な理論について概説する。心理学的な考え方を身につけ、自分自身をより良く理解し、人との関わりを考えることで人間をより深く理解できるようになることを目的とする。

② 学習の到達目標

「こころ」を理解するための心理的研究の手法と成果について学習することを通して、自分自身の行動の意味を探り、自己理解・他者理解に役立つ心理学の基礎的な理論を理解することができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	心理学とは
第2回	日常体験の不思議を心理学しよう1 見えの不思議・図形の認知
第3回	日常体験の不思議を心理学しよう2 見えの不思議・錯視図形
第4回	日常体験の不思議を心理学しよう3 記憶の不思議・系列位置効果
第5回	日常体験の不思議を心理学しよう4 思考の不思議・構え
第6回	パーソナリティを心理学しよう1 パーソナリティの測定・20 答法 (小テスト1)
第7回	パーソナリティを心理学しよう2 パーソナリティの測定・Y-G 性格検査
第8回	対人関係を心理学しよう1 印象形成
第9回	対人関係を心理学しよう2 対人魅力
第10回	人を動かす心理学しよう1 説得 (小テスト2)
第11回	人を動かす心理学しよう2 集団圧力への同調
第12回	人を動かす心理学しよう3 権威への服従
第13回	援助と攻撃を心理学しよう 援助行動
第14回	心の健康を心理学しよう1 ストレス
第15回	心の健康を心理学しよう2 エゴグラム (小テスト3)

④ 授業時間外の学習

授業計画を事前に読んで、テキストのワークショップなどを各自で実施しておくこと。また、毎回復習チェックもしくは小テストを実施するので、授業の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
45%	55%	0%	0%

「定期試験」：レポート試験

「平常点」：小テスト・小レポート・受講態度など

⑥ 履修上の注意など

私語厳禁。積極的な授業参加を期待します。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『ワークショップ心理学』 藤本忠明他著 ナカニシヤ出版

参考書：随時紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
医療と文化 (E11030)	講義	2	30	4	後期	選択必修	—	鎌田美智子 オムニバス	7号館3階 研究室
科目担当者	鎌田美智子、長尾厚子、森松伸一、柳本有二、生島祥江、尾崎雅子、庄司靖枝、島内敦子								

① 授業の概要・ねらい

文化は一般的に、古代エジプト、ギリシア文明といった「文明」と並んで、人間の活動及びその成果の中で、特に知的であったり精神的であったりするもの、あるいは「すぐれている、美しい、高度な」と評価されるものを意味する。つまり人間の生活様式全体を構成する精神に重点を置く文化固有の活動と、その蓄積の複合的全体の産物ということになる。このうち医療は、人間のいのちに立ち向かい、この文化の「時間的・空間的、さらに精神活動の場の延長と拡大」を最大限に活用し、生活の質(QOL)の向上を目指している。

本授業では、「人間を人間たらしめている」文化について理解し、かつ医療の発展との関係を明らかにする。

② 学習の到達目標

- * 人間であることと文化について理解する。
- * 医療の発展と文化の関係を理解する。
- * 医療の果たすべき役割について、具体的テーマを通して考察する。

③ 授業の内容・計画

第1回	文化とは何か 人間と文化	医療の変遷と文化	(担当者：鎌田)
第2回	いのちと文化		(担当者：長尾)
第3回	癒しと文化		(担当者：長尾)
第4回	国際保健医療活動と文化		(担当者：森松)
第5回	発展途上国の保健医療事情		(担当者：森松)
第6回	認知症医療と文化		(担当者：柳本)
第7回	幼少期の身体活動と文化		(担当者：柳本)
第8回	生活習慣病と文化		(担当者：生島)
第9回	終末期医療と文化		(担当者：生島)
第10回	人間の生活と文化 (1)		(担当者：尾崎)
第11回	人間の生活と文化 (2)		(担当者：尾崎)
第12回	文化の変遷とこども観 (1)		(担当者：庄司)
第13回	文化の変遷とこども観 (2)		(担当者：庄司)
第14回	生殖医療と生命倫理		(担当者：島内)
第15回	お産の変遷と文化		(担当者：島内)

④ 授業時間外の学習

新聞、雑誌、テレビ等を通して様々な文化的事実や医療に関する動向を把握し、また関連する授業の内容と対比するなど、十分な準備をもって授業に臨むこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	0%	0%	40%

「定期試験」：論述を中心とした筆記試験

「その他」：レポート提出

⑥ 履修上の注意など

本授業は、直ちに答えを得る内容とは異なり、自らの考えを構築し追及していけるよう、討議や課題学習等により進められる。関連する他の授業内容の確認や、新聞・テレビ等で社会の動き等に関する情報を得ておくこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：指定なし

参考書：『医療と文化』 リン・ペイヤー著、丸山誓信訳 世界思想社
『文化人類学』 波平恵美子編著 医学書院 その他授業時に随時紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
生涯学習論 (E11100)	講義	2	30	4	前期	必修	保育選択必修	國崎大恩	7号館5階 研究室他
生涯学習という視点からみる社会								複数担当	
科目担当者	國崎大恩、林芳樹*、宮田英和*								

① 授業の概要・ねらい

生涯学習について理論と実践の両面から理解を深めることにより、生涯学習社会の構築にむけた基本的な考え方や態度を身につける。

② 学習の到達目標

生涯学習のあり方と考え方について理解し、生涯学習社会の実現にむけた課題を見通すことが本授業の目標である。具体的な到達目標は次の通りである。

- (1) 生涯学習の意義や理念について説明することができる。
- (2) 多様な学習理論の観点から生涯学習のあり方について考えることができる。
- (3) 生涯学習の多様な実践を知り、それぞれの可能性と課題について述べるすることができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	イントロダクション—生涯学習社会の構築にむけて	(担当者：國崎)
第2回	生涯学習の意義と理念	(担当者：國崎)
第3回	生涯学習を理解する①—M. ノールズの理論と成人教育学	(担当者：國崎)
第4回	生涯学習を理解する②—J. メロジエの理論と変容的学習	(担当者：國崎)
第5回	生涯学習を理解する③—D.A. コルプの理論と経験学習	(担当者：國崎)
第6回	生涯学習を理解する④—レイヴとヴェンガの理論と状況に埋め込まれた学習	(担当者：國崎)
第7回	生涯学習を理解する⑤—エンゲストロームの理論と拡張的学習	(担当者：國崎)
第8回	生涯学習を理解する⑥—学習組織論と知識を創る学習	(担当者：國崎)
第9回	生涯学習の実践①—様々な社会教育施設と多様な生涯学習	(担当者：國崎)
第10回	生涯学習の実践②—生涯学習の今後	(担当者：國崎)
第11回	生涯学習の実践③—マスメディアと生涯学習	(担当者：宮田)
第12回	生涯学習の実践④—新聞の意義と役割	(担当者：林)
第13回	海外の生涯学習①—ヨーロッパ	(担当者：國崎)
第14回	海外の生涯学習②—アメリカ	(担当者：國崎)
第15回	まとめ—生涯学習社会における教育者の役割	(担当者：國崎)

④ 授業時間外の学習

毎回 manaba で授業のまとめを提出すること（400字以内でまとめること）。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	40%	0%	0%

「定期試験」：レポート

「平常点」：manaba での小レポートや受講態度を総合的に評価する

⑥ 履修上の注意など

学外の先生が担当される授業日・時間は通常時間割と異なる場合があります。その場合は授業内で連絡をします。

⑦ 教科書・参考書

教科書：授業中にプリントを配布します

参考書：適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
国際社会の理解 (E11130)	講義	2	30	4	後期	選択必修	—	谷口弘行	7号館2階 非常勤講師 控室
いま世界では何が起きているか								単独担当	
科目担当者	谷口弘行*								

① 授業の概要・ねらい

世界で起きている具体的な出来事の考察をとおして、国際社会の現状と将来を考える。

② 学習の到達目標

世界で起きている問題に対して、自らの考えや判断がもてるようになる。

それをとおして、自らの未来の世界を考えることができるようになる。

③ 授業の内容・計画

第1回	世界の資本主義、民主主義のあり方の変容 トランプ米国大統領がつくろうとしている社会
第2回	英国のEU(欧州連合)離脱の国民投票と新しい欧州
第3回	フランスやドイツにおける「極右」政党の進出とその背景
第4回	少子高齢化社会日本の世界における立ち位置
第5回	武力紛争(戦争)への道 北朝鮮の核・ミサイル開発がもたらしている問題
第6回	国連の安全保障政策の現状と今後の方向
第7回	日本の安全保障政策と安全保障法制
第8回	アジア地域の現状と将来図 TPP(環太平洋経済連携協定)とアジア太平洋経済圏の出現
第9回	中国の超大国化と日中関係
第10回	韓国内政と日韓関係
第11回	中東地域の紛争の行方 シリア内戦と難民問題
第12回	アルカイダ(イスラム原理主義集団)とIS(イスラム国)の現状と今後
第13回	文明史の中でのイスラム社会の未来図
第14回	2030年の未来社会 国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)
第15回	世界の現状と未来に関するまとめ

④ 授業時間外の学習

世界や日本に関して、知りたいことや疑問に思ったことがあれば、そのたびに書き留める習慣をつける。

毎日の時事ニュースに接するようにする。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	50%	0%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：毎時間の受講票を使って、疑問やコメントを書く。

⑥ 履修上の注意など

講義と対話によって授業を進める。積極的に参加してほしい。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない。毎時間用に、講義レジメと資料を配布する。

参考書：適時紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
海外研修 (E11190)	演習	1	30	4	後期	選択必修	—	牛頭哲宏	7号館5階 研究室他
ニュージーランドで異文化体験								複数担当	
科目担当者	牛頭哲宏、脇本聡美、多田琴子、國崎大恩								

① 授業の概要・ねらい

ニュージーランドの教育制度について学び、教育現場を訪れることによって、教育者や保育士としての視野を広げ、教育を多面的かつ柔軟に捉える観点を育成することを目的とする。ニュージーランドの教育制度について事前に学習し、現地の幼稚園や小学校の見学実習を行う。また、海外研修を通して、国際的な感覚を備えることも目的とする。

② 学習の到達目標

- 1) 「異文化に触れ肌で感じる」経験を通して、日本とニュージーランドとの共通点と相違点とを相対的に見つけ、きちんと受け止める国際感覚を育てる。
- 2) ニュージーランドの幼稚園や小学校にて英語によるプレゼンテーションを行う。
- 3) 日本とニュージーランドにおける教育制度や教育内容の普遍性と特殊性を理解する。

③ 授業の内容・計画

第1回	イントロダクション（他国と教育制度を比較する意義について）（ゲストスピーカー）
第2回	ニュージーランドの教育事情（基礎的な情報と教育制度の現状）（ゲストスピーカー）
第3回	プレゼンテーションリハーサル
第4回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第5回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第6回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第7回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第8回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第9回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第10回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第11回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第12回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第13回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第14回	ニュージーランドでの海外研修（幼小等教育施設にて研修）
第15回	海外研修成果の報告及び討論会

④ 授業時間外の学習

各自が研修目標を設定し、研修期間中にその目標を達成できるよう調べ学習などの準備をする。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	70%	30%	0%

「平常点」：事前・事後学習や現地での受講態度

「製作物・実技など」：研修目標ならびに研修後のレポート

⑥ 履修上の注意など

英語でのコミュニケーションが基本であるため、英語コミュニケーションⅠ～Ⅲを履修していることが望ましい。

渡航時期は2月の第3週目の1週間を計画している。ニュージーランドの教育事情を理解することが中心課題であるが、研修を通してニュージーランドの産業や文化など国家としての成り立ちも理解すること。往復の交通費・宿泊費等の実費は自己負担とする（約30万円）

⑦ 教科書・参考書

教科書：特に設定しない

参考書：特に設定しない

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
手話コミュニケーション (E11280)	演習	1	30	4	前期	選択必修	—	浅野京子	7号館2階 非常勤講師 控室
聴覚障害者の理解								単独担当	
科目担当者	浅野京子								

① 授業の概要・ねらい

「手話」を知る機会をふえています。でも、聴覚障害者の気持ちや思いを理解するには、手話言語を学ぶだけでは充分ではありません。特に、初めて手話や聴覚障害者の接する子どもたちには、教育に携わる人の見方・考え方が大きく影響します。手話とともに聴覚障害者を取りまく様々な出来事や問題を学習します。

② 学習の到達目標

聴覚障害の理解、聴覚障害者の社会・生活について理解。手話の習得

③ 授業の内容・計画

第1回	手話の起源
第2回	聴覚障害児・者の歴史（昔の社会の中で・・・）
第3回	聴覚障害児・者の歴史（ろう教育の変化の中で・・・）
第4回	手話の発展と広がり
第5回	聴覚障害者と社会（聞こえないことへの理解）
第6回	聴覚障害者と社会（聴覚障害のいろいろ）
第7回	聴覚障害者と社会（手話と手話通訳者）
第8回	手話コミュニケーションとは
第9回	手話の実習① あいさつ
第10回	手話の実習② 自己紹介
第11回	手話の実習③ 相手への質問のしかた
第12回	手話の実習④ 2人で会話
第13回	手話の実習⑤ グループで会話
第14回	手話の実習⑥ 場面を想定しての会話
第15回	全体のまとめ

④ 授業時間外の学習

講義終了後に適宜課題を提示する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
80%	20%	0%	0%

「定期試験」：手話の実技試験

「平常点」：授業での積極性

⑥ 履修上の注意など

真摯な気持ちで学んでください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：プリントを配布します。

参考書：資料などを随時紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
キャリアプロデュース (E11330)	講義	1	15	4	通年	必修	—	中田尚美 複数担当	7号館5階 研究室他
科目担当者	中田尚美、牛頭哲宏、橋本好市、光成研一郎、池田安寿奈								

① 授業の概要・ねらい

専門職従業者として、高い意識と誇りをもって社会に貢献するために、最終学年としての総合的な力を養う。入学以来培ってきた専門的知識・技能及び自己の個性を総合的に把握し、主体的な進路選択に結び付ける。また、キャリア教育の仕上げとして、職業観、勤労観のブラッシュアップを図り、大学から社会への良好な接続を目指す。

② 学習の到達目標

自己を総合的に把握し、他者に効果的に伝える態度を養う。また社会で専門職業人として生きていくために、有識者先輩などから、社会で求められる基本的な知識と技能及び態度について具体的に学び、実際に活用する力を身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション	(担当者:中田)
第2回	採用試験対策講座1 面節に向けての自己PR文の作成	(担当者:全員)
第3回	採用試験対策講座2 個人面接	(担当者:全員)
第4回	採用試験対策講座3 集団面接	(担当者:全員)
第5回	ライフデザイン入門1 社会人のための法的知識	(担当者:池田)
第6回	ライフデザイン入門2 先輩からのアドバイス ゲストスピーカー(保・幼・小・施設・一般・大学院)	(担当者:全員)
第7回	ライフデザイン入門3 社会人としての自覚を高める	(担当者:全員)
第8回	ライフデザイン入門4 まとめ	(担当者:全員)

④ 授業時間外の学習

授業内容はノートにまとめ、授業時間外に練習に励み、実際の採用試験に生かせるようにする。日頃から新聞や書籍に目を通して社会の出来事や課題に関心を払い、考えを深めるようにする。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	50%	0%	0%

「定期試験」：レポート試験

「平常点」：受講態度、小レポート、口頭発表

⑥ 履修上の注意など

通年科目で計8コマの授業ため、開講日時などの連絡に注意すること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：資料を配布する。

参考書：随時紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教育行政学 (E13020)	講義	2	30	4	前期	選択	幼教免必修 小教免必修	西川潤	7号館2階 非常勤講師 控室
日本の教育を支える仕組みを知る								単独担当	
科目担当者	西川潤								

① 授業の概要・ねらい

教育について考える時、学校あるいは教室の中での取り組みに目が行きがちですが、そこには何らかの制度的根拠が存在しており、さらには、「ヒト・モノ・カネ」等の適切な条件整備がなければ、日々の教育実践は成り立たなくなります。

本授業では、そうした教育の「土台づくり」を行う教育行政の基本原則、組織、役割、課題、関連する法規・財政の基礎的な事項について、説明・考察を行います。

また、変化の激しい時代における教育政策の動向や、学校と地域の連携、学校における危機管理・防災といった現代的な課題についても検討します

② 学習の到達目標

- (1) 日本の教育行政に関する基礎的な事項について、説明することができる。
- (2) 複雑化する学校教育の課題を認識し、それに対応する教育政策の動向について、自らの見解を述べることができる。
- (3) 自らの経験だけにとらわれず、授業の内容をもとに、教育問題について主体的に考えることができる。
- (4) 学校と地域の連携、学校における安全管理と防災の現状と課題について、身近な例をもとに説明することができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション —現代日本の教育を取り巻く課題—
第2回	教育行政の基本原則 —「教育行政」とはどのような理念で、どのような特徴を持っているか?—
第3回	教育法規 —教育を支える法制度のあり方と重要法規の内容—
第4回	中央の教育行政組織 —文部科学省とはどのような機関なのか?—
第5回	地方の教育行政組織 —教育委員会の役割と近年の改革動向—
第6回	教育財政 —教育とお金の問題について考える—
第7回	就学前教育行政 —幼稚園、保育所、認定こども園の違い—
第8回	教育課程行政 —学校が教える内容はどのように決められているのか?—
第9回	私学行政 —学校教育における「私学」の存在意義について考える—
第10回	多様な教育機会の確保 —多様性と質保証：行政はどこまで介入すべきか?—
第11回	教育行政と教育政策① —教育政策ができあがるまで：理論編—
第12回	教育行政と教育政策② —教育政策ができあがるまで：事例分析編—
第13回	学校と地域の連携 —コミュニティ・スクールの現状と課題—
第14回	学校安全への対応 —学校の安全管理と防災—
第15回	全体のまとめ

④ 授業時間外の学習

【予習】事前に配布する資料を読んでくる。

【復習】毎回の授業後に「振り返りシート」を作成する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	40%	0%	0%

「定期試験」：15回の授業終了後に、定期試験を実施する。

試験は100点満点で実施し、成績評価時には60点に換算する。

「平常点」：2回目から14回目にかけては、授業後に「振り返りシート」を作成してもらい、次の回で提出する（3点×13回＝39点）。

第15回目は、個人によるコメントシートを提出（1点）。

⑥ 履修上の注意など

事前に必要な知識・技能は特にありませんが、教員からの発問やディスカッションなどに対して前向きに参加する姿勢を求めます。

⑦ 教科書・参考書

教科書：特定の教科書は使用しません。毎回の授業で資料を配布します。

参考書：より深い学習を希望する方には、以下の図書を推薦します。

高見茂・服部憲児（編）『教育行政提要（平成版）』協同出版、2017年

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
家庭支援論 (E13230)	講 義	2	30	4	前 期	選 択	保 育 必 修	大城亜水	7号館4階 研究室
地域に開かれた子育て支援								単 独 担 当	
科目担当者	大城亜水								

① 授業の概要・ねらい

現代のわが国は少子化や無縁社会の渦中にあり、親の育児不安・負担による子育て機能の低下が問題視され、改めて「家庭支援」のあり方が問われています。また、家庭支援は将来保育士に着任した時、多様な保護者（家族）とかわり、そのニーズに合わせて柔軟に支援するために必要不可欠な知識でもあります。そこで、本講義は制度論を中心に以下の項目に沿って、家庭支援の基礎的な枠組みを学習します。

② 学習の到達目標

本講義を通して、次の3点を到達目標とします。

- (1) まず、「家庭支援」が求められる背景やその意義と、わが国の支援体制の現状について理解する。
- (2) そして、具体的に(1)が「家庭支援」の各論(第7～11回)とどのように関わっているのかについて把握する。
- (3) 最後に、将来保育士となる時、どのようなスタイルで家庭支援を行うのか、自分自身の考えをまとめる。

③ 授業の内容・計画

第1回	ガイダンス - 家庭支援とは何か
第2回	「家族」支援から「家庭」支援、そして「子育て」支援へ
第3回	子育て支援の意義と役割
第4回	子育て支援の技術とその形態、および子育て支援に有効な社会資源
第5回	子育て支援に関わる法・制度 - 家庭、保護者(家族)、子ども、など各々の有効な法制度とは
第6回	子育て支援に関わる法・制度 - わが国の子育て支援政策を中心に
第7回	保育士による子育て支援
第8回	保育所・幼稚園における子育て支援
第9回	地域における子育て支援
第10回	要保護児童およびその家庭への支援
第11回	障がいをもつ子どもがいる家庭への支援
第12回	諸外国の子育て支援 - 欧米と北欧を中心に
第13回	諸外国の子育て支援 - 東アジアを中心に
第14回	ワークで学ぶ子育て支援 - 「母親との会話」でロールプレイ、「子どものけんか」など
第15回	まとめ

④ 授業時間外の学習

毎回、講義の復習を行い、その箇所に関連する文献などを見つけ、より問題の視野を広げてほしい。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	40%	0%	0%

「定期試験」：レポート試験

「平常点」：小テスト(20%)、グループワーク(20%)

⑥ 履修上の注意など

私語は厳禁です。また、授業で生じた疑問等はそのまま放置せず、必ず消化させること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しません。毎回こちらで作成したハンドアウトを配布します。

参考書：適宜紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育相談支援 (E13240)	演習	1	30	4	前期	選択	保育必修	渡邊恵梨佳	7号館2階 非常勤講師 控室
保育士に求められる相談スキル								単独担当	
科目担当者	渡邊恵梨佳								

① 授業の概要・ねらい

保育相談支援の基本となる保育者と保護者が互いに関係を作るための技術、及び知識について学びを深める。理論的な援助技術をもとに、実践的なコミュニケーションのあり方を身に付ける。また、専門家が行なう相談との共通点と相違点を知ると共に、専門機関との連携・協働について理解を深める。

② 学習の到達目標

1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。
2. 保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力を養う。
3. 自己理解を深め、保育者としての自分自身のあり方を考える。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーションと保育と保護者への支援
第2回	保育の専門性と保育相談援助
第3回	保育相談支援における保育者の倫理と展開過程
第4回	子どもの最善の利益と保育相談支援
第5回	保護者との信頼関係の構築
第6回	保護者の養育力向上
第7回	地域資源の活用と関係機関との連携・協同
第8回	保育相談支援の計画・記録・評価
第9回	保育所の特性を生かした保護者への支援
第10回	特別な支援を必要とする保護者への支援
第11回	問題・課題のある保護者への支援
第12回	保育所における保育相談支援
第13回	児童養護施設における保育相談支援
第14回	児童発達支援センターにおける保育相談支援
第15回	母子生活支援施設における保育相談支援

④ 授業時間外の学習

予習のあり方：教科書を事前に読み、学びを深める。日頃から、授業に関する情報収集を意識しておくこと。
復習のあり方：ノートや教科書を振り返る。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
70%	30%	0%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：受講態度、積極性、レポートなどの提出物で総合的に評価

⑥ 履修上の注意など

保育の領域では、子どもの支援のみならず家庭・地域等との連携が求められてきている。支援する立場になる意識を持ち、積極的に授業に参加すること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：「演習・保育と保護者への支援」小原敏郎・橋本好一・三浦主博

参考書：適宜紹介

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
生徒・進路指導論 (E13250)	講義	2	30	4	前期	選択	小教免必修	永島聡	7号館4階 研究室
「指導する」とは何か?								単独担当	
科目担当者	永島聡								

① 授業の概要・ねらい

生徒指導の歴史、職務の内容、学校での位置付け等に関する知識を習得し、さらにそれを踏まえた上で、非行、不登校、いじめ等具体的問題への対処のあり方、他職種との連携等について学んでいく。

② 学習の到達目標

生徒指導の方法論とその実際に関して、昨今の教育現場における児童生徒・保護者と教員との間で繰り広げられる人間関係の現状に即した理解を目指す。

③ 授業の内容・計画

第1回	「はじめに」授業に関するオリエンテーション
第2回	「生徒指導とは」生徒指導の歴史と課題
第3回	「生徒指導の内容」生徒指導の職務の内容と領域
第4回	「生徒指導の体制と組織」学校内における生徒指導の位置付け
第5回	「学級経営・学年経営・危機管理」担任の役割、保護者・地域との連携
第6回	「児童生徒―教師関係」近年の児童生徒と教員との関係性
第7回	「集団活動の意味と意義」集団活動の意義と集団活動の指導
第8回	「不登校・いじめ問題」不登校・いじめ問題への生徒指導的アプローチ、関係機関との連携
第9回	「非行問題」非行事例への生徒指導的アプローチ、関係機関との連携
第10回	「進路指導」進路指導の基本的概念、学校内における位置付け等について
第11回	「学校給食指導」学校給食の役割、給食指導についての基本的な考え方
第12回	「人権教育」生徒指導と人権問題、学校内における人権教育のあり方等について
第13回	「特別支援教育」特別支援教育、特別支援学校、発達障がい等について
第14回	「福祉教育」福祉教育のあり方について、関係機関との連携
第15回	「まとめ」授業内容のまとめおよび質疑応答等

④ 授業時間外の学習

- ・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。
- ・社会情勢に興味を持ち続ける。
- ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
80%	0%	16%	4%

「定期試験」：レポート試験を実施。生徒指導に関するテーマで論述。ルーブリックは別途提示する。
「製作物・実技など」：生徒指導に関するテーマでプレゼンテーション。ルーブリックは別途提示する。
「その他」：グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。

⑥ 履修上の注意など

特になし

⑦ 教科書・参考書

教科書：『生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育』西岡正子・桶谷守編 教育出版 2013

参考書：随時紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
社会的養護内容 (E13400)	演習	1	30	4	後期	選択	保育必修	津田克己	7号館2階 非常勤講師 控室
社会的養護の実際が分かる								単独担当	
科目担当者	津田克己								

① 授業の概要・ねらい

様々な状況により家庭から離れ、里親や児童養護施設などの社会的養護の環境で生活しているこどもたちの状況や課題を知り、こどもや支援者の視点に立って日々の生活の意味や支援のあり方について学ぶ。

② 学習の到達目標

社会的養護の現状、家庭養護や施設養護の内容を理解し、こどもとその家庭への支援方法について考える。そして、保育士など支援を実践する立場になった時により良い支援ができる力を身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション、社会的養護の基本理念と原理、法制度と枠組み
第2回	愛着形成、個別支援の重要性
第3回	入力の重要性、感覚の過敏と鈍麻
第4回	発達障がい理解と対応
第5回	里親委託①
第6回	里親委託②
第7回	施設養護のプロセス①アドミッションケア
第8回	施設養護のプロセス②インケア 職員間のコミュニケーションの重要性
第9回	施設養護のプロセス③インケア 家庭への支援、関係機関との連携
第10回	施設養護のプロセス④インケア 自立支援計画の作成I
第11回	施設養護のプロセス⑤インケア 自立支援計画の作成II
第12回	施設養護のプロセス⑥インケア 自立支援計画の作成III
第13回	施設養護のプロセス⑦インケア 自立支援計画の作成IV
第14回	施設養護のプロセス⑧リービングケア、アフターケア
第15回	まとめ

④ 授業時間外の学習

社会的養護に関する情報に関心を持ち、自分なりの考えをまとめる。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	40%	10%	0%

「定期試験」：レポート試験

「平常点」：授業参加、授業態度

「製作物・実技など」：提出物、演習内容での授業への貢献度

⑥ 履修上の注意など

こどもたちの人権と生活、自立に深くかかわる講義内容である。そのため、保育者としての自覚を持った上で臨んでほしい。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない

参考書：『学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 演習・保育と社会的養護内容』
橋本好市・原田旬哉編 みらい

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
教職実践演習 (幼稚園・小学校) (E13480)	演習	2	30	4	後期	選択	幼教免必修 小教免必修	多田琴子	7号館5階 研究室他
教育の専門家として自覚をもつ								複数担当	
科目担当者	多田琴子、大森雅人、牛頭哲宏、山下敦子、柳原利佳子、國崎大恩								

① 授業の概要・ねらい

教職課程を締めくくる最終段階として位置づく実践的授業科目である。

教員として求められる「教職員としての使命感と責任感」の自己覚知を行い、「対人関係力」を伸長し、「実践的指導力」の向上を目指すものである。さらには、教職に携わる者として「教育諸科学における知見」を深め、「教育の専門家としての確かな力量」と「総合的な人間力」を伸長し続ける自覚をもつ。

② 学習の到達目標

- ・4年間積み上げてきた履修カルテで教職課程の履修と修得状況を振り返り、自己課題の自覚化を図る。
- ・教育の構造とその裏付けとなる法律や教育行政を把握する。
- ・教育対象者や協働者との対人関係力を形成する。
- ・保育・教育内容の焦点化と指導力を修得する。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション・履修カルテ・グループ分け	(担当者：多田・柳原)
第2回	教職の構造 ①教職の基礎	(担当者：山下)
第3回	教職の構造 ②授業実践・学級経営	(担当者：國崎)
第4回	「実習」を伝える①幼小別体験のまとめ以降⑦まで同一グループワーク	(担当者：多田・牛頭・山下)
第5回	②幼小別伝達資料作成(シンポジウム・プレゼンテーション等)	(担当者：多田・牛頭・山下)
第6回	「実習」を伝える③グループごとの発表	(担当者：多田・大森・牛頭・山下・國崎・柳原)
第7回	④グループごとの発表 発表グループの選出	(担当者：同上)
第8回	「実習」を伝える⑤シンポジウム及びプレゼンテーション (二年生と合同授業)	(担当者：同上)
第9回	⑥各グループブースで伝達 (二年生と合同授業)	(担当者：同上)
第10回	「実習」を伝える⑦振り返りと学びの共有	(担当者：多田)
第11回	職場での人間関係 話し合いとまとめ	(担当者：牛頭)
第12回	学びの共有	(担当者：牛頭)
第13回	教職概念の拡大 (小学校授業参観・幼稚園保育参観)	(担当者：多田・牛頭・山下)
第14回	教職概念の共有 (小学校授業参観・幼稚園保育参観)	(担当者：多田・牛頭・山下)
第15回	振り返り(自己評価と学びの共有)・履修カルテ	(担当者：多田・柳原)

【注意】授業内容により、A・B合同授業など変則スケジュールになる。詳細は初回授業で説明する。

④ 授業時間外の学習

- ・履修カルテで設定した課題の解決にむけ、計画的に取り組むこと。
- ・実習を伝える①～⑦においては、効果的な情報提供のための工夫や準備を協働で進める。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	45%	45%	10%

「定期試験」：なし

「平常点」：プレゼンテーション作り・グループディスカッションなどへの役割取得や参加態度

「製作物・実技など」：レポート

「その他」：履修カルテ

⑥ 履修上の注意など

- ・過年度分の履修カルテは記入済みのこと。
- ・グループワークをはじめとする協同作業を行う実践的科目であるため、必ず出席のこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない。

参考書：適宜配布する。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
課題別実習 (E14410)	実 習	2	60	4	通 年	選 択	幼 教 免 選 択 小 教 免 選 択	牛頭哲宏	7号館5階 研究室他
実践力のさらなる向上を目指して								複数担当	
科目担当者	牛頭哲宏、多田琴子、山下敦子、松尾寛子、橋本好市								

① 授業の概要・ねらい

課題別実習は、これまでの実習体験を生かし、教師や保育士として職務を把握し、さらなる実践力の向上を目指すものである。将来、幼稚園・小学校教諭や保育士、施設職員に携わるものとして、幼稚園、保育所、小学校、施設等において指導者として教育活動を体験する。そして、幼稚園・小学校教諭や保育士、施設職員としての資質や能力をさらに向上させ、自己研鑽に励む。さらに、今後、進むべき自分の進路を見据え、指導者としての指導技術はもとより、任務と使命のさらなる自覚を高める。

② 学習の到達目標

- ・幼稚園・小学校教諭、保育士、施設職員にふさわしい資質と能力をより一層高める。
- ・保育技術や指導技術の実践的指導力を身につける。
- ・指導者の一員として、他の指導者との協調的、協力的指導を体得する。
- ・教師、保育士などの指導者としての任務や使命を体得する。

③ 授業の内容・計画

第1回	課題別実習のねらい・意義
第2回	実習に向けての諸注意
第3回	実習日誌、出席表について
第4回	第3回の事前学習の後に、課題別実習を行う。 方法：9月の連続した2週間、または、10月～12月にかけて週1回の実習を幼稚園、保育所、小学校、施設において行う。8時間×10回 内容：保育や学習の補助、配慮を要する園児・児童の補助など実習先学校園、施設の指示に従い活動する。
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	課題別実習終了後の振り返り・実習校園への礼状
第15回	

④ 授業時間外の学習

実習先学校園、施設の地域の特徴などを把握しておくとともに、実習先学校園や施設の特色ある教育活動を理解しておく。事前に受け入れ先学校園、施設と打ち合わせをしておく。
毎回、活動報告書を実習先学校園、施設、または、大学の担当教員へ提出する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	0%	50%

「平常点」：巡回指導や実習先学校園、施設からの聞き取りなどの実習参加態度
「その他」：毎回の活動記録

⑥ 履修上の注意など

- ・履修者は、事前・事後指導を必ず受講すること。原則として遅刻・欠席は認めない
- ・次年度教育・福祉現場につくという最終の実習であることを自覚し、積極的に活動する。
- ・小学校教諭免許と幼稚園教諭免許の両方を取得する人は必ず受講すること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない

参考書：資料などを配付する

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育・教育内容研究F(ピアノ実践奏法) (E15050)	演習	1	30	4	前期	選択必修	—	瀬川和子	7号館5階 研究室他
子どもと一緒に表現するために								複数担当	
科目担当者	瀬川和子、戸川晃子								

① 授業の概要・ねらい

保育士・教員として音楽を通して子どもや児童の感性や能力を高めていくためには、指導者本人が常に表現力を磨くことが求められる。そのために童謡や唱歌などさまざまな教材をより深く理解し研究することや、個人の能力と進度に応じた楽曲を通してピアノの技術をさらに磨き音楽的表現法を高めていくことで、音楽的な演奏ができるようになる力を身に付けることを目標とする。

② 学習の到達目標

童謡・唱歌およびピアノ楽曲それぞれにふさわしい演奏表現を考えながら、保育士・教員に求められる音楽表現力を習得する。

③ 授業の内容・計画

第1回	ハ長調・ト長調の楽曲	童謡の弾き歌い：アイアイ	(担当者：瀬川・戸川)
第2回	ト長調・ニ長調の楽曲	童謡の弾き歌い：おんまはみんな	(担当者：瀬川・戸川)
第3回	ニ長調・イ長調の楽曲	各自の進度に応じた課題 マーチ・駆け足・ワルツ	(担当者：瀬川・戸川)
第4回	イ長調・ホ長調の楽曲	童謡の弾き歌い：とんでったバナナ	(担当者：瀬川・戸川)
第5回	ホ長調・イ短調の楽曲	童謡の弾き歌い：コンコンクシャンのうた	(担当者：瀬川・戸川)
第6回	イ短調・ヘ長調の楽曲	各自の進度に応じた課題 スキップ・ギャロップ・ワルツ	(担当者：瀬川・戸川)
第7回	ヘ長調・半音階の楽曲	童謡の弾き歌い：クラリネットこわしちゃった	(担当者：瀬川・戸川)
第8回	ヘ長調・半音階の楽曲	童謡の弾き歌い：こんぺいとう	(担当者：瀬川・戸川)
第9回	各自の進度に応じた課題	スキップ・ギャロップ・ワルツ	(担当者：瀬川・戸川)
第10回	各自の進度に応じた課題	童謡の弾き歌い：おどろうたのしいポーレチケ	(担当者：瀬川・戸川)
第11回	各自の進度に応じた課題	童謡の弾き歌い：いちねんせいになったら	(担当者：瀬川・戸川)
第12回	各自の進度に応じた課題	スキップ・ギャロップ・ワルツ	(担当者：瀬川・戸川)
第13回	各自の進度に応じた課題	童謡の弾き歌い：はたけのポルカ	(担当者：瀬川・戸川)
第14回	各自の進度に応じた課題	童謡の弾き歌い：あわてんぼうのサンタクロース	(担当者：瀬川・戸川)
第15回	補足とまとめ	各自の進度に応じた課題 童謡の弾き歌い	(担当者：瀬川・戸川)

④ 授業時間外の学習

授業時間外の学習 実技中心であるので、前回授業の復習、および予習として授業回課題の練習をして授業に臨むこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	30%	20%	0%

「定期試験」：ピアノ実技

「平常点」：受講態度・授業参加度・演奏発表

「製作物・実技など」：各自の進度に応じた楽曲の演奏・童謡の弾き歌い

⑥ 履修上の注意など

履修上の注意など 今まで音楽関連の授業で習得してきた多様な楽曲・童謡を繰り返し練習し、また新たな童謡・楽曲に取り組むことでレパートリーを増やす努力を続けること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：『標準バイエル教則本』全音出版社

『こどものうた 200 小林美実編』チャイルド本社

『やさしい弾き歌い 75』植田光子編著 音楽之友社

参考書：随時紹介する

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
リトミックⅡ (E15080)	演習	1	30	4	前期	選択	—	古木登紀子 単独担当	7号館2階 非常勤講師 控室
科目担当者	古木登紀子								

① 授業の概要・ねらい

エミール・ジャック＝ダルクローズが創設した、音楽基礎教育の具体的な実践教育である『リトミック』の技術的習得と指導法学習を行う。リトミックⅠで習得した技術を基盤とし、リズム・ピアノ演奏法・4歳児と5歳児の指導法を習得する。また自身のリズムや感性のレベルアップを図る。

② 学習の到達目標

- ・リズムを表現する応用的な動きができるようになること。
- ・リズム指導における発展的なピアノ演奏法ができること。
- ・4歳児と5歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できること。

③ 授業の内容・計画

第1回	4歳児1学期の指導法
第2回	4歳児1学期のティーチング
第3回	4歳児2学期の指導法
第4回	4歳児2学期のティーチング
第5回	4歳児3学期の指導法
第6回	4歳児3学期のティーチング
第7回	5歳児1学期の指導法
第8回	5歳児1学期のティーチング
第9回	*学生同士での指導案実習
第10回	*園児とリトミック演習
第11回	5歳児2学期の指導法
第12回	5歳児2学期のティーチング
第13回	5歳児3学期の指導法
第14回	5歳児3学期のティーチング
第15回	まとめ

*学生同士での指導案実習と園児とのリトミック演習は、回が変わることもあります。

④ 授業時間外の学習

授業前 教科書に記載されている指導におけるピアノ課題（譜例）を各自練習しておくこと。

授業後 授業内でしたピアノ課題、リズム運動、活動を復習しておく。実習など実践できる時に積極的に取り入れること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	40%	0%	0%

「定期試験」：実技試験 リトミック研究センターによる「幼稚園・保育園における指導者資格1級」と兼ねています。

「平常点」：授業参加・授業態度

⑥ 履修上の注意など

身体を動かす授業です。動きやすい服装で、裸足または底の薄いバレエシューズや室内履きなどを着用して出席してください。B5サイズのファイルを準備してください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：「幼稚園・保育園のためのリトミック4歳児」「幼稚園・保育園のためのリトミック5歳児」
リトミック研究センター（1990）
リトミック教具：リズムカード、リトミックⅠで使用した教具は引き続き使います。
プリント、楽譜：適宜配布する

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
保育・教育メソッドの探究 (E15090)	講義	2	30	4	後期	選択必修	—	中田尚美 複数担当	7号館5階 研究室他
科目担当者	中田尚美、小林純子、村上郁子								

① 授業の概要・ねらい

今日、世界では多様なメソッドが継承され、保育の実践に生かされている。その中でも日本の保育界に時代を経て受け入れられている代表的な保育メソッドについて深く学ぶことを通して、保育課題の解決の糸口を見出し、自信をもって社会に巣立つことを目指す。

② 学習の到達目標

コダーイ、オルフ、モンテッソーリの3者を取り上げ、彼らの保育理念を学び、彼らのメソッドの具体的な展開と実践の在り方を身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション	(担当者：中田)
第2回	モンテッソーリ・メソッド1 歴史的背景	(担当者：中田)
第3回	モンテッソーリ・メソッド2 理論	(担当者：中田)
第4回	オルフ音感教育1 歴史的背景	(担当者：村上)
第5回	オルフ音感教育2 理論	(担当者：村上)
第6回	オルフ音感教育3 実践	(担当者：村上)
第7回	オルフ音感教育4 展開	(担当者：村上)
第8回	オルフ音感教育5 まとめ	(担当者：村上)
第9回	コダーイ芸術教育とわらべうた1 歴史的背景	(担当者：小林)
第10回	コダーイ芸術教育とわらべうた2 理論	(担当者：小林)
第11回	コダーイ芸術教育とわらべうた3 実践	(担当者：小林)
第12回	コダーイ芸術教育とわらべうた4 展開	(担当者：小林)
第13回	コダーイ芸術教育とわらべうた5 まとめ	(担当者：小林)
第14回	モンテッソーリ・メソッド3 展開	(担当者：中田)
第15回	保育・教育メソッドを探求して	(担当者：中田)

④ 授業時間外の学習

予習復習時間を十分にとること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
40%	60%	0%	0%

「定期試験」：レポート試験

「平常点」：受講態度や授業内の課題

⑥ 履修上の注意など

保育実践園への見学を実施することもあり、そのため、補講や交通費が発生することもある。見学の際は、実習に準じる態度で臨むこと。

⑦ 教科書・参考書

教科書：資料を配布する。

参考書：適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
現代子ども教育論 (E15100)	講義	2	30	4	前期	選択必修	—	國崎大恩	7号館5階 研究室
子どもと教育を斜めから見る								単独担当	
科目担当者	國崎大恩								

① 授業の概要・ねらい

私たちが思い描く「子ども」の姿は歴史的産物にすぎない。すなわち、年長的に幼く、「かわいい」や「わんぱく」といったイメージが付与される「子ども」像は普遍的なものではなく、近代社会の多様な変化のなかでつくられてきたものなのである。そうした「子ども」なるものは、近代社会において重要な戦略的価値を担うものとして位置づけられる。

本授業では「子ども」をめぐる現代の様々な問題・課題の中から学生が関心を持つ4つのテーマを取り上げ、文献講読とディスカッションを通して現代社会における「子ども」の戦略的価値について考察を行っていく。

② 学習の到達目標

子どもの存在について理論的・歴史的・体系的に捉え、子どもと教育に対して経験則によらない理解を深めることが本授業の目標である。具体的な到達目標は次の通りである。

(1) 近代的観念としての「子ども」について説明することができる。

(2) 現在の教育問題について現代社会における「子ども」の戦略的価値という観点から考えることができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション—テーマとレジュメ担当者の決定
第2回	インファンス／子ども—近代的観念としての「子ども」
第3回	テーマ①に関する文献講読
第4回	テーマ①に関する文献講読
第5回	テーマ①に関するディスカッション
第6回	テーマ②に関する文献講読
第7回	テーマ②に関する文献講読
第8回	テーマ②に関するディスカッション
第9回	テーマ③に関する文献講読
第10回	テーマ③に関する文献講読
第11回	テーマ③に関するディスカッション
第12回	テーマ④に関する文献講読
第13回	テーマ④に関する文献講読
第14回	テーマ④に関するディスカッション
第15回	総括

④ 授業時間外の学習

事前に配布される文献テキストを読み、それに対する自分の考えをまとめておくこと（全員が文献テキストを読んできていることを前提として授業をすすめる）。また、レジュメ作成担当者は授業前日までにレジュメ國崎まで提出すること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	50%	0%	0%

「定期試験」：レポート

「平常点」：ディスカッションやレジュメなどを総合的に評価する

⑥ 履修上の注意など

文献講読においてはレジュメ担当者を決め、文献の要約とそれに対する自分の考えを公表してもらう予定である。批判的精神をもって文献読解をおこなうようにすること。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しません。文献テキストを配布します。

参考書：適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
多文化教育論 (E15110)	講義	2	30	4	前期	選択必修	—	内橋一恵 単独担当	7号館2階 非常勤講師 控室
科目担当者	内橋一恵								

① 授業の概要・ねらい

数多くの文化慣習を個別具体的に知ることを通じ、世界の多様性を確認するとともに自文化の相対化へと繋げ、多面的な視野を獲得する。また、多文化的な状況が身近に迫る問題となった場合、こういったアプローチでそれを乗り越えるのか、教育にできることは何か、理論やすでに行われている実践などを紹介する。

② 学習の到達目標

互いを尊重するには、知ることから。今日の多文化的状況とそれによる困難さを理解し、対立や排除ではなく平和的な共存のために何ができるのか、考えるための想像力を養う。

③ 授業の内容・計画

第1回	導入	: 授業の進め方、担当の割り振り、調べ物ガイド
第2回	食	: 食べることは生きること
第3回	衣	: 何のために装うのか
第4回	住・環境	: 住まうこととコスモロジー
第5回	ことば・ジェスチャー	: 洗練を続けるコミュニケーションツール
第6回	芸術・娯楽・スポーツ	: 美・楽しみの追求
第7回	仕事・産業	: 何をナリワイとして生きていくか
第8回	教育	: 生活に埋め込まれた教育
第9回	再び、食	: 長田のうまいもん探訪
第10回	家族・子育て・結婚・ジェンダー	: 変わりゆく伝統的家族観、ジェンダー観
第11回	体・病気	: 病をどう捉えるか、どのように癒すか
第12回	死・宗教	: 死を受け止め、再生へと繋ぐ
第13回	昔話・神話	: 世界観、思考の枠組み
第14回	祭り	: ハレの日今昔
第15回	かさなり合う世界・多文化共生・平和の実現のための多文化教育	

④ 授業時間外の学習

各自担当地域・民族を決め、各回ごとのテーマがその地域・民族ではどのように行われているか、図書館やインターネットでごく簡単な調べものをしてきてもらいます。

例) ことば・ジェスチャーの回 親指と人差し指で丸を作る→アメリカ「OK」日本「お金」フランス「ゼロ」

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
30%	70%	0%	0%

「定期試験」: 期末までに調べた担当エリア・民族の文化をまとめてレポート作成

「平常点」: 授業への取り組み状況

⑥ 履修上の注意など

第1回目の授業で、担当地域・民族を決め、調べ物の仕方を解説します。

⑦ 教科書・参考書

教科書: なし

参考書: その都度紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
法と教育 (E15120)	講義	2	30	4	前期	選択必修	—	國崎大恩	7号館5階 研究室他
法の境界にある教育という事象								複数担当	
科目担当者	國崎大恩、池田安寿奈								

① 授業の概要・ねらい

保育や教育の場においてどのような法がどのように関わってくるのか。また、保育士や教員といった職業はどういった法によって守られているのか。本授業では保育や教育の場における具体的事例を通して、法という観点から保育実践や教育実践について、またそこで働く保育士や教員の立場について考察を行う。

② 学習の到達目標

保育や教育を具体的な到達目標は次の通りである。

- (1) 子どもの権利や保育士・教員を守る法について説明することができる。
- (2) 保育実践や教育実践における諸問題を判例・データ等をもとにして説明することができる。
- (3) 法的根拠等を視野に入れながら、保育士・教員として現場で遭遇する諸問題について具体的に議論できる。

③ 授業の内容・計画

第1回	イントロダクション—法と教育の関係とは	(担当者：國崎)
第2回	園・学校における労働の実態—先生の超過勤務をどう考えるか—	(担当者：國崎)
第3回	「指導死」とは何か	(担当者：國崎)
第4回	学校事事件の現実—そのとき当事者に何が起こるのか?—	(担当者：池田)
第5回	学校事事件裁判の現実—そこに救いはあるのか?—	(担当者：池田)
第6回	学校事故はなぜ起こるのか—「学校事故」を引き起こす教育構造—	(担当者：國崎)
第7回	組体操の巨大化と負傷事故	(担当者：國崎)
第8回	スポーツ指導における体罰と事故	(担当者：國崎)
第9回	子どもの権利と裁判	(担当者：國崎)
第10回	家永教科書裁判と教育の自由	(担当者：國崎)
第11回	児童虐待防止と親権制度	(担当者：國崎)
第12回	少年法と非行問題	(担当者：國崎)
第13回	教育・福祉と貧困の連鎖	(担当者：國崎)
第14回	保護者・地域からのクレームとその対応	(担当者：國崎)
第15回	まとめ	(担当者：國崎)

④ 授業時間外の学習

毎回、テーマに沿った事前配布プリントを渡す。それを読み、課題に対する自分の考えを manaba 上で提出すること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	50%	0%	0%

「定期試験」：レポート

「平常点」：manaba の提出課題及びディスカッションを総合的に評価する

⑥ 履修上の注意など

学外の先生が担当される授業日・時間は通常時間割と異なる場合があります。その場合は授業内で連絡をします。事前課題は必ず提出してください。授業はそれを踏まえてディスカッションを中心にすすめます。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しません。授業中にプリントを配布します。

参考書：適宜紹介します。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもと病気 (E15130)	講義	2	30	4	後期	選択必修	—	岩越美恵	7号館2階 非常勤講師 控室
最低限必要な病気の知識								複数担当	
科目担当者	岩越美恵、永島聡								

① 授業の概要・ねらい

子ども達が、日中の主な時間を健康で安全に過ごす中で、子どもの成長発達を促すことができる。従って子どもの成長発達過程において、遭遇することの多い病気の特徴を理解し、早期にその症状に気づき、それに適切に対応することが保育・教育者に求められる。本教科ではその力をつける。また、危機管理、事故対応、保護者や他職種、地域の関連機関などとの連携のあり方について学ぶ。

② 学習の到達目標

- 1) 子どもの心身の病気の初期症状に気づき、適切に対応する実践力を身に付ける。
- 2) 保育者、教育者として保護者に対応できる実践力を身に付ける。
- 3) 他職種や地域の関連機関との連携の重要性を知り、子どもを中心とした支援の一員としての保育・教育職の役割を考えることができる。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション、保育・教育職に必要なこどもの健康・病気の知識	(担当者：岩越)
第2回	身体の病気と主な症状、見分け方と対応の仕方(被虐待児を含む)	(担当者：岩越)
第3回	子どもの感染症(前編)	(担当者：岩越)
第4回	子どもの感染症(後編)	(担当者：岩越)
第5回	子どものアレルギー(アトピー性皮膚炎と喘息)	(担当者：岩越)
第6回	子どものアレルギー(食物アレルギーとアナフィラキシーショックの予防・対応)	(担当者：岩越)
第7回	その他の慢性疾患の子どもへのケア(腎臓病、糖尿病)	(担当者：岩越)
第8回	その他の慢性疾患の子どもへのケア(心臓病、悪性腫瘍)	(担当者：岩越)
第9回	よくある子どもの心の健康問題とその気づき	(担当者：永島)
第10回	子どもの心のケアの仕方	(担当者：永島)
第11回	スクールカウンセラーとの連携について	(担当者：永島)
第12回	子どもの事故と応急手当て	(担当者：岩越)
第13回	障害についての考え方	(担当者：岩越)
第14回	発達障害について	(担当者：岩越)
第15回	保護者、他職種、地域機関との連携について	(担当者：岩越)

④ 授業時間外の学習

授業出配布する資料の復讐と日ごろから新聞記事などに関心を持ち目を通すこと。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
70%	30%	0%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：受講態度、発表内容、レポートなど

⑥ 履修上の注意など

次年度からの職業人になりきって参加してください。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない。

参考書：「園・学校でみられる子どもの病気百科」 内海裕美監修 少年写真新聞社

「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児維持出版社

他、適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもの歯と健康 (E15150)	講義	2	30	4	後期	選択必修	—	吉田幸恵	5号館3階 研究室他
輝く白い歯は健康の証								複数担当	
科目担当者	吉田幸恵、御代出三津子								

① 授業の概要・ねらい

乳幼児期や学童期は咀嚼や嚥下・発音といった口腔機能の獲得・発達の時期であり、正常な歯の萌出はそれら口腔機能の発達に重要な役割を果たす。本講義では咀嚼や嚥下の仕組みを学び、口腔機能における歯の重要性を理解する。さらにう蝕や歯周病などの歯科疾患の原因や病態および予防方法を学習し、こどもの口腔機能の発達を支援する保育者・教員の関わり方を学ぶ。加えて歯科保健健康教育の実際を学ぶ。

② 学習の到達目標

- 1) 咀嚼や嚥下などの口腔機能と歯の役割について説明ができる。
- 2) こどもの歯科疾患やその他の異常を発見し対応できる能力を身に付ける。
- 3) 歯科疾患の予防を実践する技術を身につける。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション 歯の健康についての知識とは	(担当者：吉田)
第2回	咀嚼と嚥下の仕組みの理解	(担当者：吉田)
第3回	咀嚼と嚥下の獲得と発達について	(担当者：吉田)
第4回	学校歯科検診表の見方 - 歯式について -	(担当者：吉田)
第5回	学校歯科検診表の見方 - 歯の状態について -	(担当者：吉田)
第6回	う蝕の原因と病態について	(担当者：吉田)
第7回	学校歯科検診表の見方 - 歯列・咬合・顎関節について -	(担当者：吉田)
第8回	学校歯科検診表の見方 - 歯垢・歯肉の状態について -	(担当者：吉田)
第9回	学校歯科検診表の見方 - その他の疾病および異常について -	(担当者：吉田)
第10回	歯科疾患の予防方法について	(担当者：吉田)
第11回	歯と口の健康教育の指導案作り原稿作成	(担当者：御代出)
第12回	歯と口の健康教育の指導案作り原稿作成	(担当者：御代出)
第13回	歯と口の健康教育の指導案作り練習	(担当者：御代出)
第14回	指導案の発表前半	(担当者：御代出)
第15回	指導案の発表後半・まとめ	(担当者：御代出)

④ 授業時間外の学習

配付する資料や紹介する参考書等で復習をすること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
60%	10%	30%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：授業態度

「製作物・実技など」：指導案の原稿、媒体、発表態度

⑥ 履修上の注意など

自らの口腔に興味を持って授業に臨んで下さい。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しない

参考書： 適宜紹介する

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
こどもとレジリエンス (E15160)	講義	2	30	4	前期	選択必修	—	白山真知子	7号館2階 非常勤講師 控室
逆境を乗り越え生きる力を育む方法								単独担当	
科目担当者	白山真知子								

① 授業の概要・ねらい

現代の子ども達が直面するプレッシャーとストレスの大きさはその前の世代と比べてはるかに増していると言われている。困難な状態に出会った時「レジリエンス：回復力」を幼児期から身に付けると、その後の子どもの社会・情緒・行動面に長期的によい変化をもたらすことが研究で示されている。そのレジリエンスを育成する方法について理解を深め、就学前からこどもの保育・教育に携わる立場でこどもを支援し、子どものレジリエンスを高める力を育成する。

② 学習の到達目標

子どもにレジリエンスを育み「生きる力」を養うためには、指導者もその方法を知る必要がある。思考・行動・感覚に働きかける心理教育について理論を学ぶと共にワークをとおして、自らのレジリエンスを高めることを身に付け、子どものレジリエンスを育てる方法について学ぶ。

③ 授業の内容・計画

第1回	レジリエンスとは 理論と歴史	ワーク①	グループアクティビティについて
第2回	マインドフルネス	ワーク②	リラックス
第3回	レジリエンスのある人とは	ワーク③	私をしる 自分の気持ち
第4回	レジリエンスと災害	ワーク③	色々な気持ち 感情を理解する
第5回	子どもの不安と鬱	ワーク④	相手の気持ち
第6回	自尊感情と自己肯定感	ワーク⑤	共感スキルの練習
第7回	どうして、子どもの心を育てる必要があるのか	ワーク⑥	コミュニケーションスキルの練習
第8回	社会的スキル	ワーク⑧	社会的スキル
第9回	情動的適応力	ワーク⑨	頭のなかの声-1
第10回	予防教育とは	ワーク⑩	頭のなかの声-2
第11回	世界の予防教育	ワーク⑪	レジリエンスを引き出すパステルアート
第12回	困難な課題に挑戦する-1	ワーク⑫	困難な課題に挑戦する-1
第13回	困難な課題に挑戦する-2	ワーク⑬	困難な課題に挑戦する-2
第14回	先生のカ-1	ワーク⑭	全てを使って実践発表-1
第15回	先生のカ-2	ワーク⑮	実践発表-2とロールプレイ

④ 授業時間外の学習

授業で習ったワークを実践する。授業で出された課題の提出。授業で紹介された文献を読み、知見を広め、レジリエンスについて深く学ぶ。ワークに関連する絵本や物語についても探究する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
50%	20%	30%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：授業への積極的参加度

「製作物・実技など」：レポートやロールプレイなどの実技

⑥ 履修上の注意など

こどもに上手に伝えるには、ことばの指示の仕方で大きく変わります。指示の出し方など色々想定して、考えながらの積極的な授業の参加を望みます。

⑦ 教科書・参考書

教科書：プリントを配布する

参考書：『子どもの「こころの力」を育てる—レジリエンス—』 深谷和子・上島博他著 明治図書
授業内で適宜紹介する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
児童虐待対応実践 (E15170)	演習	1	30	4	後期	選択必修	—	松野敬子 単独担当	7号館2階 非常勤講師 控室
科目担当者	松野敬子								

① 授業の概要・ねらい

児童虐待は、児童相談所への児童虐待に関する相談件数が増加の一途をたどり、また重大な児童虐待事件もあとを絶たないなど、子どもの健全な育成にとって深刻な社会問題である。それを受け、児童虐待防止に関連する各種法制度の整備が行われ、これら法令に基づき、保育者・教育者に対し、児童虐待の防止等のために適切な役割を果たすよう、早期発見の努力義務や関係機関への通告義務などの役割が課されている。

子どもの権利・発達、子ども家庭福祉・保育者としてのなどの学びを踏まえ、それら理論を確認、子どもにもっとも身近な生活集団としての家族、身近な環境としての地域社会の現状と、児童虐待の実態と虐待を取り巻く背景、その対応等について深く理解する。そのうえで、実際に児童虐待対応への考え方と判断力を磨き、実践力・応用力を身につけ、保育者に必要とされる専門スキルについて学ぶことを目標とする。

② 学習の到達目標

本演習の到達目標は以下の5点である。

- (1) 子どもに関わる諸理論について理解を深める。
- (2) 子どもを取り巻く家庭や地域、現代社会の状況について理解する。
- (3) 児童虐待問題の実態と、その背景課題について深く理解する。
- (4) 児童虐待に対応するための法律と制度についての知識を得る。
- (5) 児童虐待対応に必要な専門スキルを学び、実践力を修得する。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション～児童虐待＝マルトリートメントを理解する
第2回	児童虐待の防止対策の変遷 国の施策と自治体の対応
第3回	虐待の背景と防止対策としての子育て支援
第4回	子育て支援実践プログラム 親学習プログラム体験
第5回	児童虐待問題への保育所・幼稚園・学校の役割
第6回	児童虐待対応 虐待児の学校等での現れと心理学的知識
第7回	児童虐待対応 疑いから通告へ
第8回	児童虐待対応 「聴く」ための技術 子どもが「話す」とことの意味と受け止め方 / 支援者としての自分の特性を知る WS
第9回	児童虐待防止教育プログラム (CAP) 体験
第10回	児童虐待対応 関係機関との連携・被虐待児への対応
第11回	児童虐待対応 家庭への対応
第12回	事例検討 ネグレクト
第13回	事例検討 DV (Domestic Violence ドメスティック・バイオレンス)
第14回	リスクマネジメント論から考える児童虐待
第15回	リスクマネジメント論から考える児童虐待、その他のリスク

④ 授業時間外の学習

毎日の如く児童虐待ニュースが後を絶たない。保育者としての視点からそれらニュースを把握し、自身として何ができるかを常に考えておくこと。それを演習内に活かすことができるように意識づけしておく。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
70%	30%	0%	0%

「定期試験」：レポート試験。

「平常点」：授業参加・毎回の授業で提出するコメントペーパーの記述内容。

⑥ 履修上の注意など

授業内容理解のための事前学習をした上で、積極的な態度で授業に出席すること。

⑦ 教科書・参考書

教科書： 使用しない。

参考書： 授業内に必要に応じて提示する。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
医療から見た特別支援 (E15180)	講義	2	30	4	後期	選択必修	—	岩越美恵	7号館3階 研究室
障害児医療との連携								単独担当	
科目担当者	岩越美恵								

① 授業の概要・ねらい

最近の障害児の疫学的動向では、周産期医療の進歩に伴い超低出生体重児の脳性マヒの頻度が高く、また自閉症スペクトラム障害を含めた発達障害児も通常のクラスで6.5/100人と言われ、増加傾向にある。このような中で、教育現場では、それぞれの障害の特性を正しく理解し、医学的な見地からの知見とも連携し、障害児個人に対してのみならず、インクルーシブ教育の実現のため、クラスのいわゆる健常児たちにも支援が必要とされる。それらの合理的配慮とはどのようなものがあるか、様々な障がいのある子どもや成人の暮らしを実際に見て聞いて考える。

② 学習の到達目標

- ・ 障害とは何かを、社会との関係において理解することができる。
- ・ 様々な障害に関する必要な医療的知識や現場で役立つ支援技術を身に付けている。
- ・ インクルーシブ教育について理解している。合理的援助とはどういうものであるかを理解している。
- ・ 障害児を支える社会制度を知っている。
- ・ 保護者との連携の大切さを知っている。

③ 授業の内容・計画

第1回	オリエンテーション
第2回	地域における児童発達支援センターの役割と連携
第3回	障害とは何か
第4回	障害者権利条約
第5回	運動発達の障害の理解と支援（脳性マヒを中心に）
第6回	運動発達の障害の理解と支援（脳性マヒ以外のマヒ性疾患）
第7回	知的障がいの理解と支援（全般）
第8回	知的障がいの理解と支援（ダウン症を中心に）
第9回	発達障害の理解と支援（AD/HDと発達性協調運動障害）（自閉症スペクトラム障害）
第10回	発達障害の理解と支援（学習障害：LDの理解と支援）
第11回	重症心身障害児の理解と支援（学外授業）
第12回	医療的ケアの教育にける取り組みの歴史
第13回	重症心身障害児の地域生活・学校生活における課題（ゲストスピーカー）
第14回	合併症としてのてんかんについて
第15回	障害児と家族を支える社会制度

④ 授業時間外の学習

教育実習の経験を各授業の内容と結び付けて考察する。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
80%	20%	0%	0%

「定期試験」：筆記試験

「平常点」：授業態度、発表内容など

⑥ 履修上の注意など

④に同じ

⑦ 教科書・参考書

教科書：特になし

参考書： そうだったのか！発達障害の世界—子どもの育ちを支えるヒント 石川道子 著 中央法規

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
卒業研究 (E15210)	演習	2	60	4	通年	必修	—	大森雅人	7号館5階 研究室他
課題に対応する力を育てる								複数担当	
科目担当者	大森雅人、多田琴子、瀬川和子、藤本由佳利、中田尚美、牛頭哲宏、橋本好市、光成研一郎、笹井隆邦、山下敦子、松尾寛子、脇本聡美、柳原利佳子、近藤みづき、戸川晃子、國崎大恩、大城亜水								

① 授業の概要・ねらい

研究的態度をもって一年間1つのテーマに取り組み、主体的に自身の専門性と資質を高め、またさまざまな課題に対応する力を育成することをねらいとする。指導教員の専門性に基づいて、自らの関心のある内容について検討を重ね、自身のテーマを設定し、研究方法を定め、データ収集・分析・検討・実践研究等を行う。最終的には大学教育の集大成として、論文や作品にまとめ、各々の専門性に応じた形での発表を行う。

② 学習の到達目標

教育や社会、子どもにかかわるテーマなどについて、問題の把握・解決方法の検討・実施・振り返りや専門性に沿った発表等を効果的に進める力を習得し、新たな課題に取り組む態度を身につける。

③ 授業の内容・計画

各教員のゼミテーマ

- ・大森：保育・教育の方法を探究する
- ・多田：子ども前に立つにふさわしい保育者を目指す
- ・瀬川：音楽的表現力を高めたい人へ～ピアノ作品を通して～
- ・藤本：美術表現の研究
- ・中田：子育て支援について考える
- ・牛頭：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（1）
- ・橋本：社会福祉をさらに深く学びたい君へ！～社会福祉の専門的知識と資質向上にむけて～
- ・光成：保育・教育方法について考える
- ・笹井：自然環境調査
- ・山下：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（2）
- ・松尾：子育て支援・障がいのある子どもの保育について
- ・脇本：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（3）
- ・柳原：人間発達の理解と研究
- ・近藤：運動指導・援助について考える
- ・戸川：ピアノ演奏表現についての研究
- ・國崎：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（4）
- ・大城：幼児教育の経済的効果について

→なお、研究を開始する前に、全員に対して「研究倫理」に関する講義を実施する

④ 授業時間外の学習

- ・各指導教員と相談し、各自必要な学習を行うこと。
- ・参考文献などの資料について、図書館やインターネット等で積極的に収集すること。

⑤ 成績評価の方法・基準

定期試験	平常点	製作物・実技など	その他
0%	50%	50%	0%

「平常点」：卒業研究に対する取り組み・態度。

「製作物・実技など」：卒業研究の成果物（報告書、制作物など）およびプレゼンテーション。

⑥ 履修上の注意など

- ・学ぶ喜び、知る愉しさを実践できるよう自ら考え取り組む主体的な態度を求める。
- ・指導教員が学外に研究の場を整えるときには、学生にふさわしい態度で赴くこと。
- ・本学生による卒業研究に関する倫理審査は本学「研究倫理委員会規程」に従い、学科内審査および当該委員会の判断・結果によるものとする。

⑦ 教科書・参考書

教科書：使用しない。

参考書：適宜各指導教員より紹介する。